

ひ み ず 遺 跡 第 3 次 調 査

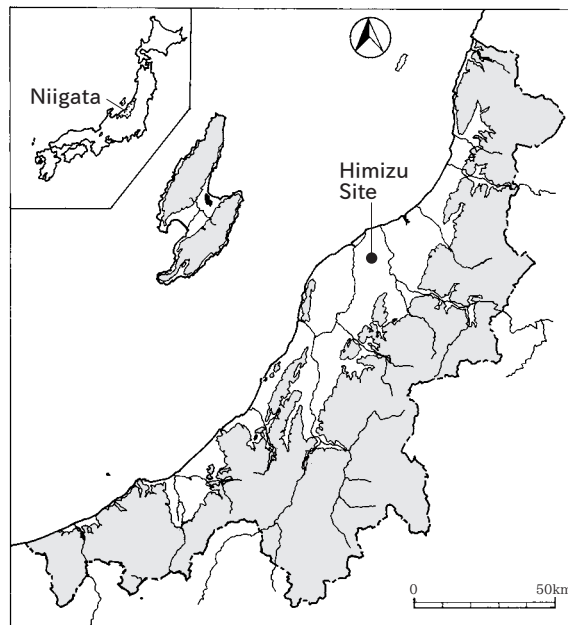
— 鍋田土地区画整理事業に伴う日水遺跡第3次発掘調査報告書 —

2 0 0 7

新 潟 市 教 育 委 員 会

ひみず 遺跡 第3次調査

— 鍋田土地区画整理事業に伴う日水遺跡第3次発掘調査報告書 —



2007

新潟市教育委員会

例 言

- 1 本書は新潟県新潟市大字茅野山^{ちのやま}字日水浦^{ひみず} 2911 番地ほかに所在する日水遺跡の発掘調査の報告書である。1 次調査は平成 13 年 11 月 5 日から 11 月 13 日、2 次調査は平成 17 年 1 月 24 日から 1 月 27 日、3 次調査は平成 17 年 5 月 16 日から 8 月 31 日に行った。
- 2 調査は鍋田土地区画整理事業に伴い、鍋田土地区画整理組合から新潟市が受託した。調査は新潟市教育委員会（以下、市教委という。）が調査主体となり、新潟市総務局国際文化部歴史文化課埋蔵文化財センター（以下、市埋蔵文化財センターという。）が補助執行した。
- 3 平成 17 年度に発掘調査と整理作業を行い、平成 18 年度に報告書刊行を行った。発掘調査と整理作業の体制は第三章に記した。
- 4 出土遺物及び発掘調査・整理作業に係る記録類は、一括して市埋蔵文化財センターが保管・管理している。
- 5 本書の執筆（第VI章を除く）・編集は今井さやか（市埋蔵文化財センター 主事）が行った。ただし第VII章第 2 節内日水遺跡の墨書土器については、相沢 央（歴史文化課嘱託）が執筆した。
- 6 自然科学分析については（株）古環境研究所に委託した。分析のうち、珪藻分析については、結果を本文中に引用するに留めた。
- 7 本書で用いた写真は、遺跡写真は今井・遠藤恭雄（市埋蔵文化財センター 主事）が撮影し、遺物写真は佐藤俊英氏（ビッグヘッド）に、X 線写真は（財）新潟県埋蔵文化財調査事業団に撮影を依頼した。ただし写真図版 1 は国土地理院、写真図版 2 は鍋田土地区画整理組合の提供による。
- 8 各種図版作成・編集に関しては、（株）セビアスに委託してデジタル図化及びデータ編集を実施し、完成データを印刷業者へ入稿して印刷した。
- 9 調査から本書の作成に至るまで下記の方々・機関よりご指導・ご協力を賜った。
岡本郁栄・春日真実・酒井和男・笹沢正史・三ツ井朋子・南 憲一・亀田郷土地改良区
（財）新潟県埋蔵文化財調査事業団・新潟県教育庁文化行政課・鍋田土地区画整理組合

（所属・敬称略、五十音順）

凡 例

- 1 本書は本文・別表と巻末図版(図面図版・写真図版)からなる。
- 2 本書で示す方位は全て真北である。磁北は真北から西偏約7度である。掲載図面のうち、既存の地形図等を使用したものは、原図の作成者・作成年を示した。
- 3 本文中の注は各章の末尾に記した。引用文献は著者と発行年(西暦)を[]中に示し、巻末に一括して掲載した(ただし第VI章は章の末尾に記した)。
- 4 遺構番号は現場で付したものをを用いた。番号は遺構の種類毎に付さず、通し番号とした。
- 5 土層観察の色調は『新版 標準土色帖』[農林水産省農林水産技術会議事務局 1967]を用いその記号を本書に掲載した。
- 6 土器実測図の断面は、須恵器を黒塗り、須恵器以外を白抜きとした。また、土器に付着する炭化物は、不定形の濃い網目で表し、砥石の研磨面も同様とした。
- 7 土器実測図で全周の1/12以下のような遺存率の低いものについては、誤差があるため中軸線の両側に空白を設けた。
- 8 遺物の注記は「日水」とし、出土年度・出土地点を続けて記した。
- 9 掲載遺物は通し番号とし、本文および観察表・写真図版の番号は同一番号とした。

目 次

第I章 序 章

第1節 遺跡概観	1
第2節 発掘調査に至る経緯	1

第II章 遺跡の位置と環境

第1節 遺跡の位置と地理的環境	2
第2節 周辺の遺跡	2
第3節 歴史的環境	5

第III章 調査の概要

第1節 確認調査	6
第2節 発掘調査	6
A 調査方法	6
B 調査経過	8
C 調査体制	8
第3節 整理作業	9
A 整理方法	9
B 整理経過	9
C 整理体制	9

第IV章 遺 跡

第1節 概 要	10
第2節 層 序	10
第3節 遺 構	10
A 古代の遺構	11
B 中世の遺構	21
C 近世の遺構	22

第V章 遺 物

第1節 古代の遺物	24
A 土器の分類と記述	24
B 出土土器等各説	27

第VI章 自然科学分析

第1節 日水遺跡の土層	35
A はじめに	35
B 土層の層序	35

第2節 植物珪酸体分析	36
A はじめに	36
B 試料と分析方法	36
C 分析結果	37
D 植物珪酸体分析から推定される植生と環境	39
第3節 花粉分析	39
A はじめに	39
B 試料と分析方法	39
C 分析結果	41
D 花粉分析から推定される植生と環境	41
第4節 樹種同定	42
A はじめに	42
B 試料と分析方法	44
C 分析結果	44
D 所見	44

第Ⅶ章 総括

第1節 遺構	47
A 住居	47
B 井戸	48
第2節 日水遺跡出土の古代土器	48
A 出土土器の編年的位置づけ	48
B 墨書土器	51
第3節 遺跡の性格	51
引用・参考文献	53
報告書抄録・奥付	巻末

挿図目次

第1図	日水遺跡周辺地形分類図(1/150,000) ……………	3	第10図	12HグリッドSI386覆土における植物珪酸体 分析結果 ……………	37
第2図	日水遺跡周辺の遺跡分布図(1/50,000) ……………	4	第11図	植物珪酸体(プラント・オパール)の顕微鏡写真・38	
第3図	日水遺跡試掘確認調査位置図(1/4,000) ……………	7	第12図	8Iグリッドにおける花粉ダイアグラム ……………	42
第4図	日水遺跡試掘確認調査土層柱状図(1/40) ……………	8	第13図	SE133における花粉ダイアグラム ……………	42
第5図	タタキメ・あて具痕の細分類図 ……………	25	第14図	日水遺跡の花粉 ……………	43
第6図	日水遺跡須恵器分類図(1/6) ……………	25	第15図	日水遺跡の木材 ……………	45
第7図	日水遺跡土師器分類図(1/6) ……………	26	第16図	日水遺跡遺構構成図(1/1,000) ……………	47
第8図	分析地点土層柱状図 ……………	35	第17図	日水遺跡主要遺構別器種組成図 ……………	50
第9図	8Iグリッドにおける植物珪酸体分析結果 ……………	37	第18図	日水遺跡主要遺構別食膳具の法量分布図 ……………	51

表目次

第1表	日水遺跡における植物珪酸体分析結果 ……………	37	第3表	日水遺跡における樹種同定結果 ……………	44
第2表	日水遺跡における花粉分析結果 ……………	40			

別表目次

別表1	主要遺構計測表 ……………	55	別表4	鉄製品・鍛冶関連遺物観察表 ……………	61
別表2	遺物観察表 ……………	57	別表5	木製品観察表 ……………	61
別表3	土製品・石製品観察表 ……………	61	別表6	主要遺構出土古代土器器種構成率 ……………	62

図版目次

図版1	周辺の旧地形図(1/25,000)	(1/40)	図版23	包含層の小グリッド別古代土器出土重量分布図 (1/600)	
図版2	遺跡周辺の旧土地利用図(1/4,000)		図版24	出土遺物1 SE126・SX110・SI451・SE29・ SE9・SK47	
図版3	日水遺跡と周辺遺跡(1/10,000)		図版25	出土遺物2 SK88	
図版4	グリッド設定図(1/2,500)		図版26	出土遺物3 SD34・SE58・SD15・SD16・ SD17・SD74・SD93・SD404・SD227	
図版5	遺構全体図(1/600)		図版27	出土遺物4 SD476・SK197・Pit4・Pit480・ Pit95・SE218・SE230・SK210・SK253・ SK290・SK484	
図版6	遺構平面部分図1(1/150)		図版28	出土遺物5 SE245・SD175・SD291・SD231	
図版7	遺構平面部分図2(1/150)		図版29	出土遺物6 SD264(1)	
図版8	遺構平面部分図3(1/150)		図版30	出土遺物7 SD264(2)	
図版9	遺構平面部分図4(1/150)		図版31	出土遺物8 SD264(3)・SE298・SD315・ SD329・SD331	
図版10	遺構平面部分図5(1/150)		図版32	出土遺物9 SK314・SD307・Pit338・SE281・ SX274・SK279・SD268・SD272・SX287・ SE387・SK362	
図版11	基本層序実測図(1/40・1/1,000)		図版33	出土遺物10 SK366・SK373・SK377・ SK382・SK384・SK492・SI385(1)	
図版12	遺構実測図1(1/40)		図版34	出土遺物11 SI385(2)	
図版13	遺構実測図2(1/40)				
図版14	遺構実測図3(1/80・1/40)				
図版15	遺構実測図4(1/40)				
図版16	遺構実測図5(1/40)				
図版17	遺構実測図6(1/40)				
図版18	遺構実測図7(1/40)				
図版19	遺構実測図8(1/40)				
図版20	遺構実測図9(1/80)				
図版21	遺構実測図10(1/80)				
図版22	時代別遺構配置図(1/800)、近世遺構実測図				

図版35 出土遺物12 SI385 (3)
図版36 出土遺物13 SI385 (4)・SI386 (1)
図版37 出土遺物14 SI386 (2)
図版38 出土遺物15 SD358・SD490・包含層

図版39 出土遺物16 土製品・石製品・鉄製品・古銭
図版40 出土遺物17 木製品1
図版41 出土遺物18 木製品2
図版42 出土遺物19 木製品3

写真図版目次

写真図版1 日水遺跡周辺空中写真1
写真図版2 日水遺跡周辺空中写真2
写真図版3 日水遺跡周辺空中写真3、
日水遺跡全景空中写真
写真図版4 完掘状況5Dグリッド付近、
SE133曲物出土状況
写真図版5 完掘状況2Gグリッド付近、
完掘状況5Dグリッド付近
写真図版6 完掘状況6Lグリッド付近、
完掘状況8Oグリッド付近
写真図版7 完掘状況8Nグリッド付近、
完掘状況12Hグリッド付近
写真図版8 調査前現況、表土掘削、基本層序1～6
写真図版9 SE126・133・139土層断面・完掘、
SE133曲物出土状況
写真図版10 SE144、SK152・156、SE157、SX110、
SI451土層断面・完掘
写真図版11 SE9・29、SK30、SE58土層断面・完掘、
SK47遺物出土状況・完掘
写真図版12 SK88、SD15・16・17・74・93、
SE230土層断面・完掘
写真図版13 SE245、SD175・176・231・233・264・
315、SK314土層断面、SE245、SD263・
264完掘、SD264遺物出土状況
写真図版14 SE298・281、SX287、SD268・272土層断
面、SD268・272完掘、SE298曲物検出状況
写真図版15 SD273・288、SX274、SE387、SK366・
377、SD358土層断面、SK366・377、
SD358完掘
写真図版16 SI385・386土層断面、SI385・386、SE387、
SB493・494完掘、SI386遺物出土状況

写真図版17 出土遺物 SE29・SD476・SK88・SX110・
SD74・SE245・SD175・SK197
写真図版18 出土遺物 SD264・SE298・SD315・
SD268・SK366・SD358・SK279・包含層
写真図版19 出土遺物 SI385・SI386
写真図版20 出土遺物 SE126・SX110・SI451・SE29・
SE9・SK47・SK88・SD34・SE58・
SD15・SD16・SD17・SD74
写真図版21 出土遺物 SK88・SD93・SD404・SD227・
SD476・Pit4・Pit480・Pit95・SE218・
SE230・SK210・SK253・SK290
写真図版22 出土遺物 SK484・SE245・SD175・
SD291・SD231・SD264
写真図版23 出土遺物 SD264
写真図版24 出土遺物 SD264・SE298・SD315・
SD329・SD331・SK314・SD307・
Pit338・SE281・SX274・SD268
写真図版25 出土遺物 SD272・SX287・SE387・
SK362・SK373・SK377・SK382・
SK384・SK492・SI385
写真図版26 出土遺物 SI385
写真図版27 出土遺物 SI385・SI386
写真図版28 出土遺物 SI386
写真図版29 出土遺物 SI386・SD358・SD490・包含層
写真図版30 出土遺物 土製品・石製品・鉄製品・鍛冶関
連遺物・古銭・鉄製品(X線写真)・粉痕跡土
器・墨書土器拡大
写真図版31 出土遺物 木製品1 SE133・Pit135・
SE298
写真図版32 出土遺物 木製品2 SE298

第 I 章 序 章

第 1 節 遺 跡 概 観

日水遺跡は新潟市大字茅野山字日水浦 2911 番地ほかに所在する。新潟県埋蔵文化財包蔵地カードによると、昭和 41 年に防火井戸掘削の際、灰色粘土混じり砂層から須恵器・土師器が出土したことにより遺跡とされた。昭和 60 年に県による亀田町内の詳細分布調査が行われた際にも土師器が採集され、砂丘の北斜面の比較的水田に近い所に遺跡が見られるという所見が記されている。その後平成 9 年には水道工事、平成 15 年には水道・下水道工事に伴う工事立会が行われているが、遺物は出土していない。

第 2 節 発掘調査に至る経緯

平成 6 年に亀田町教育委員会（当時。以下、町教委という。）は、亀田町農業協同組合（以下、亀田農協という。）が大字茅野山、大字城所地内の 96,388 ㎡を宅地造成する計画があることを知る。当該地に隣接して日水遺跡が存在するため、町教委はその対応について新潟県教育庁文化行政課（以下、県文化行政課という。）から指導を受けた。指導内容は事前の分布調査・確認調査についてであり、調査を行うため町教委は亀田農協と協議を開始する。

平成 10 年 10 月 27 日に、町教委は県文化行政課の指導の下、開発対象地域の分布調査を行った。この結果梨畑として利用されている南東部において、奈良・平安時代の須恵器・土師器が採集され、遺跡の存在が予想された。県文化行政課は、試掘調査を提案したが、耕作中であったことから実現せず、開発計画もしばらく停滞していた。

平成 13 年、町教委は亀田農協と鍋田土地区画整理組合設立準備委員から、作付けを行っていない空き畑での試掘調査を依頼される。町教委は平成 13 年 11 月 5 日から 11 月 13 日の 7 日間にわたり、試掘調査を県文化行政課の指導の下に実施した。空き畑に限られた調査であったため実質調査面積が 312 ㎡と狭かったものの、計画地の一部に遺跡が存在することが判明した（第 1 次調査）。

平成 16 年、鍋田土地区画整理組合（以下、組合という。）が認可され、鍋組 21-1 号で文化財保護法第 57 条の 2 第 1 項の規定に基づく埋蔵文化財の届出が出され、町教委は平成 17 年 1 月 24 日から 1 月 27 日の 4 日間、255 ㎡の確認調査を行い、宅地造成予定地のうち南東側の約 8,000 ㎡が奈良・平安時代の遺跡であるという結果を得た。合わせて遺跡範囲が広がったため、平成 17 年 2 月 22 日付け生第 80 号で「周知の遺跡範囲変更等について（通知）」を提出した。町教委は遺跡の取り扱いについて、県文化行政課・組合と協議した結果、遺跡範囲内の道路予定地約 2,000 ㎡について開発前に本調査を実施し、宅地部分については 30cm の保護層を盛土によって確保することとなった（第 2 次調査）。

平成 17 年 3 月 21 日に亀田町が新潟市と合併し、協議を新潟市歴史文化課が引き継ぐことになった。新潟市と組合とで協議を重ね、新たに保護層の確保が見込めない約 500 ㎡の宅地部分を本調査に加えること、本調査に係る経費を組合が負担することで合意した。新潟市は平成 17 年 5 月 2 日付けで組合と協定書・契約書を取り交わし、平成 17 年 5 月 9 日付け新歴第 109-3 号で新潟県教育委員会教育長宛に文化財保護法第 99 条の規定による埋蔵文化財発掘調査の通知を行い、5 月 16 日から 8 月 31 日までの予定で本調査を実施することとなった（第 3 次調査）。

第Ⅱ章 遺跡の位置と環境

第1節 遺跡の位置と地理的環境（第1図、図版1・2）

新潟市は信濃川と阿賀野川の運ぶ土砂により形成された越後平野にあり、西に角田山塊、南に新津丘陵を控えている。遺跡の所在する地域は、信濃川・阿賀野川・小阿賀野川に囲まれた輪中地帯であり、江戸時代には横越島、近年においては亀田郷と呼ばれている。亀田郷の地形は北東から南西にかけて海岸線に平行して走る数列の砂丘と、自然堤防などの微高地、砂丘間の後背湿地、潟湖から成っている。

砂丘列は内陸側から新砂丘Ⅰ・新砂丘Ⅱ・新砂丘Ⅲと3群に大別され、さらに内陸側からそれぞれに枝番が付けられている。この中でも亀田地域をのせた亀田砂丘は、現在の海岸線からおよそ10kmと最も内陸に位置する新砂丘Ⅰに相当する。亀田砂丘は内陸側から亀田前列砂丘と亀田後列砂丘に大きく分けられる。この2つの砂丘がどの枝番に相当するかは議論のなされるところであるが、前列砂丘がⅠ-1・2、後列砂丘がⅠ-3・4に相当すると考えられている〔田中ほか1996、鴨井ほか2006〕。

さて、今回調査を行った日水遺跡は、亀田前列砂丘（新砂丘Ⅰ-1・2）の北斜面と、旧河道の自然堤防上に位置している。今でこそ美田地帯であるが、昭和23年（1948）の栗ノ木排水機場稼働などの一連の治水対策事業が行われる前は、自然排水が困難な水害常習地帯であり、亀田郷のおよそ70%が湛水田であった。人々はわずかな微高地と砂丘上に宅地や畑地を求めた〔亀田町史編さん委員会1988、三村2005〕。亀田郷土地改良区作成の耕地整理前現形図（昭和20年代）によると、日水遺跡の北東を流れる河川（現亀田排水路）の自然堤防が、畑地として利用されていた様子が窺える（図版2）。この自然堤防上には、日水遺跡と同時期の古代の遺跡が多く見られ、古代においても貴重な微高地であったと推察する。

第2節 周辺の遺跡（第2図、図版3）

日水遺跡周辺の遺跡の立地は、砂丘上の遺跡と自然堤防上の遺跡の大きく2つに分かれる。時代別に見ると、縄文・弥生の遺跡は砂丘上のみ分布し、古墳時代になるとようやく自然堤防上にも遺跡の分布が見られるようになる。そして、日水遺跡は砂丘と自然堤防の両方にまたがる平安時代の遺跡であると周知されていた。

縄文時代の遺跡は亀田前列砂丘（新砂丘Ⅰ-1・2）上に分布が見られる。亀田郷最古の縄文時代前期前葉の土器を出土した笹山前遺跡のほか、亀田城山^{じょうやま} A遺跡、山ん家^{やま}遺跡でも前期の土器を出土している。中期には拠点集落であると考えられる砂崩遺跡がある。後期及び晩期の遺跡は少ないが、日水南遺跡、前郷^{まえごう}遺跡で出土例がある。

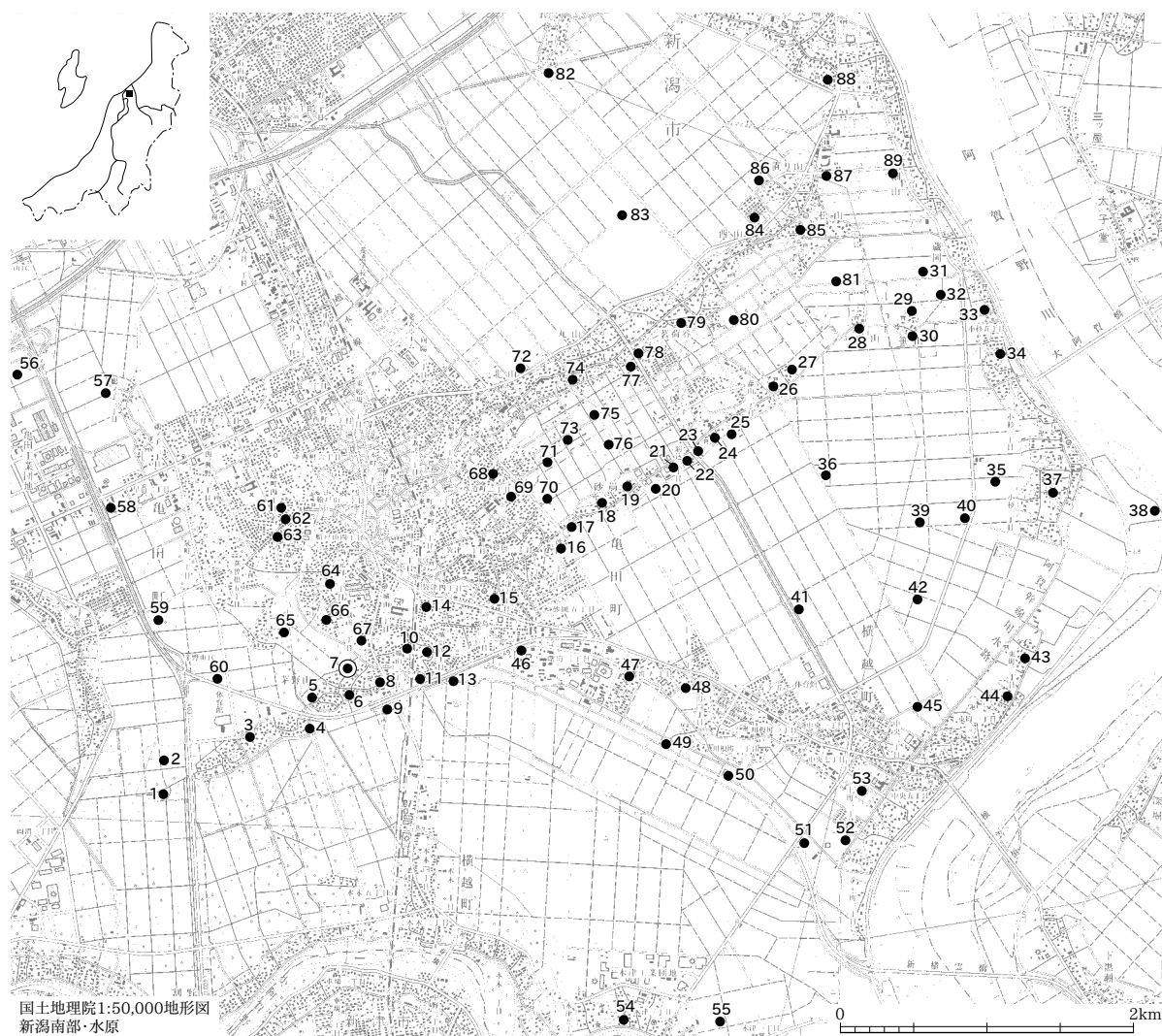
弥生時代の遺跡も同じく亀田前列砂丘（新砂丘Ⅰ-1・2）上に分布が見られる。日水遺跡に近い砂丘の北側縁辺部では、近年沖積地下に埋没していた砂丘の遺跡が多く発見されている。縄文時代晩期から弥生時代中期にかけての土器・石器を多く出土した養海山^{ようかいざん}遺跡のほか同じく地下3mから弥生時代前期～中期の土器・石器を出土した西郷^{にしごう}遺跡がある。また砂丘上では、弥生時代中期の日水南遺跡、山ん家^{やま}遺跡がある。

古墳時代になると、ようやく沖積地への開発が始まる。古墳時代前期には、砂丘の沿岸砂洲上の微高地に集落を形成した東^{ひがしかい} 田遺跡が登場する〔朝岡2003〕。また、自然堤防上に立地する上郷^{かみごう}遺跡では古墳時代前期の土器が出土し、下西遺跡では古墳時代後期の土器が採集されている。砂丘上でも数は少ないながらも引き続き集落が営まれており、新砂丘Ⅰ上では武左衛門裏^{ぶざえもんうら}遺跡、新砂丘Ⅱ上には石動^{いするぎ}遺跡がある。



第1図 日水遺跡周辺地形分類図

第2節 周辺の遺跡



No.	名称	時代	No.	名称	時代	No.	名称	時代
1	西前郷遺跡	縄文後期・奈良・平安	31	中山遺跡	縄文後期・奈良・平安	61	市助裏遺跡	平安・中世
2	早通前遺跡	平安	32	城山遺跡	縄文・古墳・平安・中世	62	川西遺跡	平安・中世
3	養海山遺跡	縄文・弥生・古墳・平安	33	居附B遺跡	平安	63	狐山遺跡	奈良・平安
4	八幡前遺跡	平安	34	居附C遺跡	平安	64	貝塚遺跡	奈良・平安
5	武左衛門裏遺跡	古墳	35	居附A遺跡	平安・中世	65	手代山遺跡	中世
6	日水前遺跡	縄文・弥生・平安	36	江尻遺跡	平安	66	中の山遺跡	奈良・平安・中世
7	日水遺跡	奈良・平安	37	松韻寺遺跡	平安	67	荒木前遺跡	中世
8	日水南遺跡	縄文後期・奈良・平安・中世	38	小杉中州遺跡	古墳	68	袋津向山遺跡	縄文
9	城所道下遺跡	平安	39	上田遺跡	縄文晩期・奈良・平安	69	塚ノ山遺跡	平安・近世
10	亀田城山B遺跡	中世	40	山のハサバ遺跡	平安	70	三條岡遺跡	奈良・平安・中世
11	亀田城山A遺跡	縄文中期・弥生中期・奈良・平安	41	新田郷遺跡	奈良・平安	71	前山遺跡	奈良・平安
12	齊助山遺跡	縄文・弥生・奈良・平安	42	宮尻郷遺跡	奈良・平安	72	北山遺跡	平安
13	牛道遺跡	平安	43	下郷遺跡	平安	73	金塚山遺跡	縄文・奈良・平安
14	三王山遺跡	古墳・平安・中世	44	下郷経塚	近世	74	大道外遺跡	平安
15	茨島遺跡	平安	45	曾我墓跡	平安	75	彦七山遺跡	奈良・平安
16	砂岡遺跡	平安	46	岡田遺跡	平安	76	浦ノ山遺跡	平安
17	砂崩上ノ山遺跡	奈良・平安	47	上沼遺跡	奈良・平安	77	清水が丘遺跡	平安
18	砂崩前郷遺跡	縄文・平安・江戸	48	川根谷内遺跡	平安	78	丸山遺跡	平安
19	砂崩遺跡	縄文中期・奈良・平安	49	川根谷内墓所遺跡	平安・中世	79	茗荷谷墓地遺跡	平安
20	迎山遺跡	縄文中期・晩期・奈良・平安	50	上郷C遺跡	平安	80	茗荷谷遺跡	縄文中期・平安・中世
21	前郷遺跡	縄文中期・平安・近世	51	上郷遺跡	古墳・平安	81	松山向山遺跡	平安
22	山ノ家遺跡	縄文前期・中期・弥生・奈良	52	上郷B遺跡	奈良・平安	82	西野遺跡	平安
23	駒込居浦郷遺跡	奈良・平安	53	横越館跡	中世	83	東園遺跡	縄文・弥生・古墳
24	駒込墓所遺跡	奈良・平安	54	円通寺石仏	中世	84	小丸山遺跡	縄文中期・晩期・弥生中期・後期・奈良・平安
25	駒込小丸山遺跡	縄文・弥生・奈良・平安	55	天王杉遺跡	平安	85	松山遺跡	縄文・中世
26	上の山遺跡	弥生中期・平安	56	駒首湯遺跡	平安	86	直ノ山B遺跡	平安
27	藤山遺跡	平安・中世	57	鶴ノ子遺跡	平安	87	直ノ山A遺跡	平安
28	平山遺跡	平安	58	下西遺跡	古墳	88	大淵遺跡	平安・中世
29	神明社裏遺跡	平安	59	泥湯遺跡	平安・中世	89	細山石仏	中世
30	笹山前遺跡	縄文前期～晩期・弥生後期・古墳・平安	60	西郷遺跡	弥生			

第2図 日水遺跡周辺の遺跡分布図

奈良・平安時代は遺跡数が最も多い時代である。特に平安時代9世紀中頃からは、遺跡数が爆発的に増加し、その立地も日水遺跡と同じく沖積地の微高地が多いのが特徴である。自然堤防上に位置する奈良・平安時代の遺跡には、日水遺跡の北東に位置する中の山遺跡がある。中の山遺跡では、平安時代の井戸・建物跡・鍛冶遺構が検出されたほか、奈良時代・中世の遺物も少量出土している〔川上1982〕。同じく自然堤防上に位置する牛道遺跡は、9世紀末～10世紀にかけての畝状遺構・井戸・溝が検出された。建物跡は無かったものの、墨書土器の文字の分布が遺構間接合の範囲と一致するなど、集落内祭祀について興味深い結果が出ている〔土橋1999〕。砂丘上に立地する奈良・平安時代の遺跡には、荒木前遺跡があげられる。荒木前遺跡は日水遺跡の北わずか100mの所に位置する平安時代・中世を主体とする遺跡である。掘立柱建物・井戸・土坑が検出されている〔渡邊1991・川上1996〕。小丸山遺跡は新砂丘I-4上の平安時代の遺跡である。掘立柱建物・井戸・畝状遺構が検出されており、100点を超える墨書土器や緑釉陶器が出土したことから、富裕層の居宅域と想定されている〔小池・本間1995〕。このほかにも多数の平安時代の遺跡が出現するが、ほとんどの遺跡が10世紀中頃には途絶してしまう。13世紀には再び砂丘上の荒木前遺跡が在地領主層の居住域と推察される遺構が確認される。また、13～15世紀末の集落と考えられる三王山遺跡が島状になった砂丘の上に立地している。三王山遺跡では青磁・白磁をはじめとする貿易陶磁が出土するほか、青銅香炉、鉄鉢等の存在から寺院との関係が予想されている〔酒井1980〕。

第3節 歴史的環境

7世紀後半、それまで越を一括して区分されていた北陸地方は、越前・越中・越後に三分割された。この時点での越後国の領域は阿賀野川以北の沼垂郡と磐船郡のみであったが、大宝2年(702)に越中国より、頸城・古志・魚沼・蒲原の4郡が越後国に編入された。この頃の行政区分として日水遺跡のあった亀田地域は、蒲原郡に所属すると考えられている〔小林ほか1995〕。

中世の亀田地域については、史料がないため詳細が不明である。しかし、明治20年代に刊行された『温古之栞』には「金津荘城所手代山に古城跡あり、孤立せし小山の頂上凡二千坪平坦にして井壺空壕の痕幽に見ゆ、元享年中(1321～1323)国の守護職北条家に於て蒲原沖日水手代山に柵を構ふと古書に見ゆるは此処なるべし、近辺に日水の地名もあり永禄年中(1558～1569)より上杉家の一将荒木五郎左衛門為久の居城とす。…略」との記述がある。残念ながら城所や手代山には古城跡らしきものは見当たらないが、城所には「荒木浦」「荒木前」といった字があることと、前述したように荒木前遺跡では在地領主層の居住域を想定させる遺物が出土していることから、14世紀頃に在地領主層の拠点があったと考えられる。

さて、「日水」の地名が具体的に文献に登場するのは江戸時代に入ってからである。寛永16年(1639)横越島絵図は現存する最古の亀田郷絵図であるが、そこには「ひみず」として登場する。地名のみの記載で、村・新田等の記載がないことから茅野山村の一部であった可能性が考えられる。また、この集落の栄徳寺の開基が寛永3年(1626)と言われるので、村の開発はそれより少しさかのぼるであろう。日水を含む茅野山村は当初新発田藩領であったが、元禄年間とされる横越島絵図においては、幕府領として記載されている。

明治時代、廃藩置県後は茅野山村・手代山村と合併し茅野山村となり、さらに明治22年には城所村を加えて茅野城村に、明治34年には早通村と合併することになった。大正14年に早通村は亀田町と合併し、その亀田町も周辺13市町村とともに平成17年に新潟市と合併をして現在に至る〔亀田町史編さん委員会1988、南ほか2003〕。

第Ⅲ章 調査の概要

第1節 確認調査

鍋田土地区画整理事業に伴う試掘・確認調査は、平成13年度に試掘調査として休耕地と水田部分を（1次調査）、平成16年度には確認調査として畑部分を行っている（2次調査）。開発予定面積は96,388㎡である（第3図）。平成13年度には、平成13年11月5日から7日間にわたり試掘調査を行った。試掘調査はバックホウで表土から徐々に掘削した後、人力により精査を行い、遺構・遺物の有無、土層堆積状況を記録した。バックホウの進入できないところについては、人力で表土掘削を行った。試掘調査面積は312㎡である。試掘調査では、21・22トレンチ以東で、安定した遺物包含層が確認されたほか、13・16・18・23の各トレンチで遺構が検出された。この結果、開発予定地の南東部の標高が2.0～2.4mの地域に、奈良・平安時代の遺跡があることが確認された。平成16年度には、この開発地南東部において遺跡の範囲確認調査を平成17年1月24日から3日間行った。確認調査面積は225.36㎡である。確認調査では、全48トレンチの内27のトレンチで古代の遺物が出土し、11のトレンチで遺構が確認された。また、この時点で確認された基本層序は、Ⅰ層表土、Ⅱ層灰褐色シルト、Ⅲ層灰黄褐色シルト、Ⅳ層褐灰色シルト（遺物包含層）、Ⅵ層灰黄色シルト（遺構確認面）であり、本調査におけるⅤ層にぶい黄褐色シルトは確認できなかった（第4図）。この結果、畑部分を中心に遺跡が広がることが確認され、日水遺跡の範囲変更の手続きがとられた。

以上の結果をふまえて開発者と協議を行い、道路部分と保護層の見込めない宅地部分併せて約2,600㎡について本調査を実施することとなった。また、それ以外の宅地部分と公園予定地約6,300㎡については、盛土により保護層を確保することとした。

第2節 発掘調査

A 調査方法

1) 現況

現況は標高2.0～2.4mの畑地である。古くから梨の果樹栽培が行われていた。南東には亀田砂丘があり、標高は高いところで8.2mで、集落となっている。また、調査区の北西は標高1.2mと一段低くなっており、水田として利用されているほか、亀田排水路が水田に沿って北西に流れている。

2) グリッドの設定（図版4）

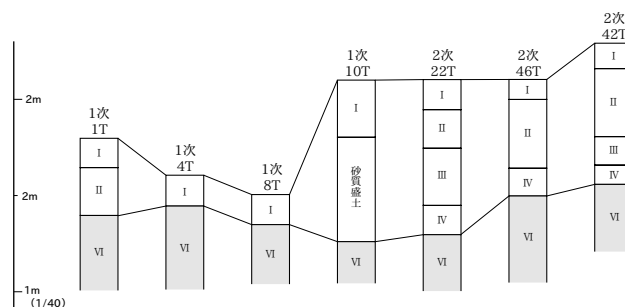
グリッドを設定するにあたっては、グリッドの基点をX座標206620.000、Y座標53330.000（世界測地系、平面直角座標第8系）、緯度37°51'37"67031、経度139°06'21"92401を1A杭とした。基点に対し10mの方眼を組み、これを大グリッドとした。大グリッドの名称は北西隅の杭を基点として短軸（南北）をアラビア数字、長軸（東西）をアルファベットとし、この組み合わせによって表示した。大グリッドをさらに2m方眼に区分して1から25の小グリッドに分割し、「5B15」のように呼称した。基準杭の打設は測量業者に委託した。

発掘調査区の2点の座標は次の通りである。5D（X座標206580.000、Y座標53360.000、杭頭高1.545m）、6D（X座標206570.000、Y座標53360.000、杭頭高1.444m）6D杭で座標北は真北に対し22分20秒東偏し、磁北

第2節 発掘調査

ーションを用いて作成し、併せて俯瞰写真を撮影した。写真撮影は35mm版・6×7版のカメラを用い、白黒フィルム・カラーポジフィルムを適宜併用した。

④遺物取り上げ 包含層出土遺物は小グリッド単位として取り上げた。遺構出土遺物は遺構単位・小グリッド単位ごとを一括で取り上げた。



第4図 日水遺跡試掘確認調査土層柱状図

⑤自然科学分析 古環境復元のために、植物珪酸体分析・花粉分析・珪藻分析・樹種同定を行った。

B 調査経過

平成17年5月9日から諸準備を開始し、5月18日から5月25日まで重機により表土掘削を行った。表土掘削と平行して作業員6名で土側溝掘削、法面仕上げを行った。5月24日から測量業者による杭打ちが行われた。5月30日に発掘現場の開所式を行い、作業員全員での作業を開始した。6月から遺構検出・掘削作業を開始した。6月17日と24日には地元の亀田中学校1学年総合学習で約70名が見学および発掘作業・整理作業体験を行った。8月2日にラジコンヘリコプターによる空中写真撮影を行った。8月7日に現地説明会が行われ、110名の参加があった。その後下層の確認調査を行い、下層が存在しないことが判明したために8月31日に機材撤収を含め全ての調査が終了した。

最終的な発掘調査面積は上端2416.3㎡、下端2183.6㎡である。

C 調査体制

【平成13年度1次調査】

調査主体	亀田町教育委員会（教育長 網干稔）
調査指導	新潟県教育庁 文化行政課 係長 藤巻正信
調査担当	生涯学習課 主事補 今井さやか
事務局	生涯学習課（課長 川嶋岩吉 係長 中林俊樹）

【平成16年度2次調査】

調査主体	亀田町教育委員会（教育長 網干稔）
調査担当	生涯学習課 主事 今井さやか
事務局	生涯学習課（課長 石澤正明 課長補佐 中林俊樹）

【平成17年度3次調査】

調査主体	新潟市教育委員会（教育長 佐藤満夫）
所管課	新潟市歴史文化課（課長 渡辺ユキ子 課長補佐兼文化財係長 倉地一則）
事務局	新潟市埋蔵文化財センター（所長 手島勇平）
調査担当	新潟市埋蔵文化財センター 主事 今井さやか
調査員	遠藤恭雄（同上）、立木宏明（同上）5月18日～6月18日
整理補助員	青野満穂子 五十嵐智子 池田登喜子 小柳勢伊子 神田ハル子 桑野多真美 斎藤明子 斎藤忠敏 佐藤則子 須貝律子 田村由実子 土佐静子 遠山直美 沼沢綾子 波多野裕美 森岡綾子 帆苺奈緒子 渡辺絵理（短期臨時職員）

第3節 整理作業

A 整理方法

1) 遺物

遺物量はコンテナ（内径 54.5 × 33.6 × 10.0cm）にして 36 箱である。古代の土器が中心であるが、井戸枠などの木製品・石製品など各種に及ぶ遺物がある。

遺物の整理作業は次の手順で行った。①洗浄。②注記。③グリッド別、種別の重量計測。④遺構出土遺物の器種ごとの重量・個体数計測。⑤接合。⑥報告書掲載遺物の抽出。⑦実測図、観察表作成。⑧トレース図作成。⑨版下作成。

実測図は整理補助員が原寸で作成し、トレース図と版下作成は、業者に委託しデジタルトレースで行った。

2) 遺構

平面図を作成するにあたっては、まず測量業者に委託した 1/40 の遺構平面図と手取り断面図との校正作業を行った。報告書の 1/150、1/80、1/40 の遺構平面図は測量業者が作成し、デジタルデータとした。その他の図面は整理補助員が作成した。

B 整理経過

発掘調査作業中に、出土遺物の水洗・注記を行った。調査終了後出土遺物の計測・接合・実測と写真・図面整理を行い、併せて測量業者に委託した遺構平面図の校正作業を行った。遺構平・断面図は測量業者作成のデジタルデータを用いた。この間職員は原稿執筆、遺物写真の撮影、図版のレイアウト、報告書の編集にあたった。平成 17 年度の調査終了後の整理体制については、第 2 節の調査体制に併せて記した。

C 整理体制

【平成 18 年度】

調査主体	新潟市教育委員会（教育長 佐藤満夫）
所管課	新潟市歴史文化課（課長 渡辺ユキ子 課長補佐 倉地一則 埋蔵文化財係長 渡邊朋和）
事務局	新潟市埋蔵文化財センター（所長 山田光行）
調査担当	新潟市埋蔵文化財センター 主事 今井さやか



現地説明会 風景



亀田中学校 総合学習風景

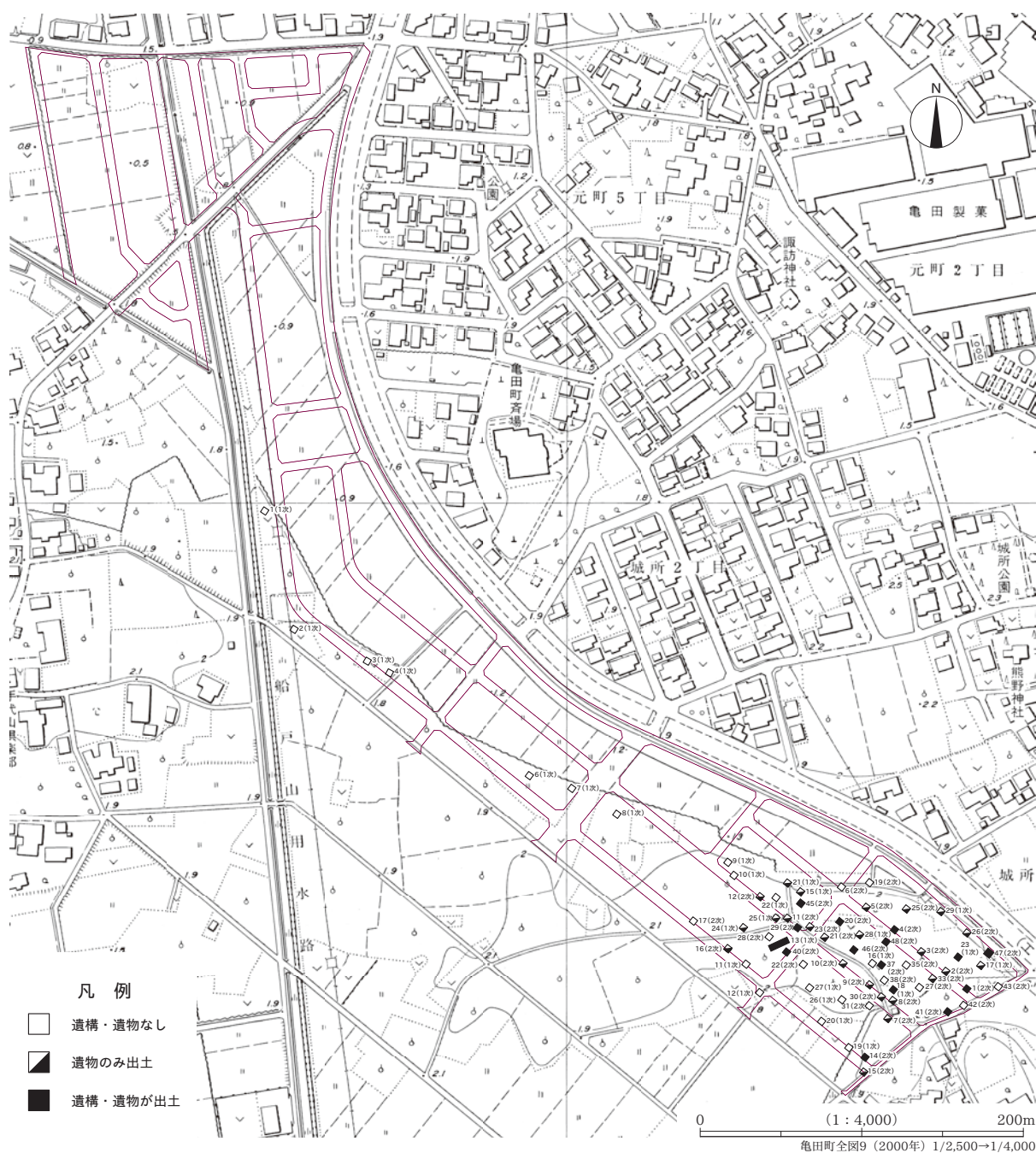
は真北に対し7度46分西偏する。

3) 調査方法

①表土剥ぎ 確認調査によって遺物の出土が少量であると予想されたことから、遺物包含層（IV層）上面まで、遺物の出土に注意しながら重機（バックホウ）により除去した。法面は安全面を考慮して一分の勾配とした。また、湛水防止のために表土剥ぎと平行して調査区の周囲に土側溝を掘り、2時のポンプで強制排水を行った。土側溝は人力で掘削し、幅20cm、深さ20cm程度の溝で、壁面を垂直に掘ると崩壊する恐れがあるために緩く傾斜をつけたV字の溝とした。

②包含層掘削・遺構検出・発掘 重機で掘削後、人力で精査を行い、包含層の掘削・遺構の検出にあたった。排土は人力で調査区外へ搬出した。

③実測・写真 実測図は断面図を1/20で作成した。平面図や各種測量は測量業者に委託してトータルステ



第3図 日水遺跡試掘確認調査位置図

第Ⅳ章 遺 跡

第 1 節 概 要

日水遺跡は亀田砂丘の内陸側に形成された沖積地の自然堤防上に立地し、一部が砂丘の北裾にかかる。標高が 2.0m 以上ある場所については遺跡がよく残っていたが、それより低い場所では、確認されなかった。

検出した遺構は、井戸 14 基、土坑 58 基、性格不明遺構 4 基、溝 33 本、竪穴遺構 3 基、掘立柱建物 2 棟が確認されている。出土遺物から遺構の大部分が古代に属すると考えられるが、中世や近世の遺構も若干みられる。

遺物量はコンテナ（内径 54.5 × 33.6 × 10.0cm）にして 36 箱である。ほとんどが平安時代（9 世紀後半）の須恵器・土師器であり、中世・近世の遺物も若干認められる。また、石製品・鉄製品・鍛冶関連遺物・木製品が存在する。

第 2 節 層 序

基本層序を図版 11 に示す。下記のとおり、大きく 8 層に分けられ、9 層に細分される。Ⅰ～Ⅲ層は果樹耕作土である。この層からも少量の近世陶磁器・古代土器が出土する。Ⅳ層中からは古代の遺物のみが出土する。遺構検出面はⅤ層中およびⅥ層上面である。遺構確認面の標高は砂丘に最も近い基本層序 5 付近で 1.8m、最も遠い基本層序 2 付近で 1.3m と北西に行くにつれて低くなっている。これは現況とも一致する状況である。

Ⅶ・Ⅷ層は砂丘に近い基本層序 4 と基本層序 5 付近でのみ検出される。特にⅦ層は通称「砂丘の黒砂」といわれ、亀田砂丘一帯では、縄文から中世まで幅広い時代の遺物を含むことで有名であるが、本遺跡の黒砂層では遺構・遺物は確認されなかった。

- Ⅰ 層 黒褐色シルト（7.5YR3/2）現在の果樹耕作土。
- Ⅱ 層 灰褐色シルト（7.5YR4/2）近代・現代の果樹耕作によって攪乱された土層。
- Ⅲ 層 灰黄褐色シルト（10YR5/2）近代の耕作によって攪乱された土層。
- Ⅳ 層 褐灰色シルト（10YR5/1）遺物包含層。
- Ⅳ b 層 褐灰色シルト（10YR4/1）遺物包含層。Ⅳ層が湛水したもの。近世水田跡の下から確認できる。
- Ⅴ 層 にぶい黄褐色シルト（10YR7/2）中世の遺構確認面。調査区内で確認できない箇所もあり、やや不安定な層である。
- Ⅵ 層 灰黄色シルト（2.5YR7/2）古代の遺構確認面。下層に行くにつれ灰白色の砂質土になる。
- Ⅶ 層 黒色砂層（10YR7/1）砂丘の黒砂。調査区内でも東の砂丘に近いところでのみⅥ層下に確認できる。
- Ⅷ 層 黄褐色砂層。砂丘の基盤層。Ⅶ層と同じく調査区内でも東の砂丘に近いところでのみ確認できる。

第 3 節 遺 構

遺構番号は、遺構の種類に係らず検出順に付した。説明は時代別に井戸、土坑・性格不明遺構、溝、竪穴遺構、掘立柱建物の順に平面図図版ごとに記す。

詳しい遺構の計測値等は別表1に示した。遺構の形態分類はおおまかに平面形を円形・楕円形・不整形・長方形の4種類に、断面を皿形・半円形・箱形・台形状の4種類に分類した。

遺構の所属時期はVI層上面の遺構が古代、V層上面の遺構が中世である。覆土による違いでは、褐灰色シルトの覆土が古代、灰色シルトの覆土が中世であるが、判別がつきにくい。

A 古代の遺構

古代の遺構はVI層上面で確認されている。一部奈良時代の遺物が確認できる遺構があるが、すべて平安時代(9世紀後半)の遺構である。井戸12基、土坑54基、性格不明遺構4基、溝48本、竪穴遺構3基、掘立柱建物2棟、その他小穴が多数確認されている。以下概要を述べる。

1) 井 戸 (SE)

SE126 (図版6・12、写真図版9)

2G21・22、3G1・2に位置する。平面形は楕円形、断面は半円形ですり鉢状の素掘り井戸である。覆土は7層に分かれる。3層の炭化物層からは刀子(351・352)が出土しており、井戸廃棄の際の祭祀行為に伴う遺物の可能性が高い。また、6層からは須恵器長頸壺(1)が出土している。その他須恵器無台杯、土師器長甕、砥石が出土している(図版24・39)。

SE133 (図版6・13、写真図版9)

2G17・18・22・23に位置する。平面形は円形、断面は台形状で水溜に円形曲物(356)をもつ井戸である。覆土は14層に分かれる。円形曲物を支えるようにして、曲物底板(357)と考えられる木材が設置されていた。なお、この円形曲物は樹種同定によってスギ材と判明した。覆土中から須恵器杯蓋・大甕・長頸壺、土師器無台椀・長甕が出土している(図版40)。

SE139 (図版6・13、写真図版9)

2G13に位置する。平面形は円形、断面は箱形で素掘りの井戸である。覆土は5層に分かれる。覆土中から土師器無台椀・長甕が出土している。

SE144 (図版6・12、写真図版10)

2G8・13に位置する。平面形は円形、断面は台形状で素掘りの井戸である。覆土は4層に分かれる。覆土中から須恵器有台杯、土師器長甕が出土している。

SE157 (図版6・12、写真図版10)

2G2・3・7・8に位置する。平面形は円形、断面は台形状で素掘りの井戸である。覆土は5層に分かれる。湧水はなかったものの、その深さから井戸とした。覆土中から土師器長甕が出土している。

SE9 (図版7・14、写真図版11)

6B12に位置する。平面形は円形、断面は箱形で素掘りの井戸である。覆土は5層に分かれる。5層の粘質土からは植物種子・昆虫遺体が出土している。覆土中から須恵器無台杯・大甕、土師器長甕が出土している(図版24)。

SE29 (図版7・14、写真図版11)

5B25、5C21、6B5、6C1に位置する。平面形は円形、断面は箱形で素掘りの井戸である。覆土は4層に分かれ、3層の黄灰色シルトからは古代の遺物がまとまって出土した。須恵器無台杯・有台杯・大甕、土師器無台椀・小甕・長甕が出土している(図版24)。

SE218 (図版8・16)

4J22・23に位置する。平面形は円形、断面は箱形で素掘りの井戸である。覆土は3層に分かれる。2層からは炭化木材が多く出土した。覆土中から須恵器無台杯・大甕、土師器無台椀・長甕が出土している(図版27)。

SE230 (図版8・16、写真図版12)

5K11・12・16・17に位置する。平面形は円形、断面は半円形で水溜に円形曲物をもつ井戸である。曲物は腐食が著しく、樹皮と綴じ紐を残すのみであった。覆土は4層に分かれ、曲物内にはやや粗い砂が堆積していた。覆土中から須恵器無台杯、土師器小甕・長甕が出土している(図版27)。

SE245 (図版8・16、写真図版13)

5K24・25、6K4・5に位置する。平面形は円形、断面は箱形で素掘りの井戸である。覆土は5層に分かれる。覆土中から須恵器無台杯・杯蓋・無台皿・大甕、土師器無台椀・小甕・長甕・鍋、筒形土器が出土している(図版28)。

SE298 (図版7・8・18、写真図版14)

5E14・15・20、5F11・16に位置する。遺構の半分が攪乱を受けており平面形は定かでないが、円形であったと考えられる。断面は台形状で井戸側と水溜をもつ井戸である。湧水による崩落が激しく掘り方を確認できなかったが、井戸の底を漏斗状に掘り込み、曲物を設置したものと考えられる。水溜には円形曲物(359・360・361)を3段重ねたもの、隅丸長方形の曲物(363)が重なって出土し、やや下層からさらに円形曲物(362)が出土した。その他井戸側と考えられる加工板が6枚、木材が1点出土している。覆土は8層に分かれ、最下層の8層から土師器無台椀(155)が出土しているほか、1層・2層において須恵器無台杯・有台杯・大甕、土師器長甕・鍋が出土している(図版31・40～42)。

SE387 (図版10・19、写真図版15・16)

12H1に位置する。平面形は円形、断面は箱形で素掘りの井戸である。覆土は6層に分かれ、いずれの層にも未加工の木片や植物遺体を混じる。SI385の底面から掘り込まれている。覆土中から須恵器無台杯、土師器長甕が出土している(図版32)。

2) 土坑(SK)・性格不明遺構(SX)

SK96 (図版6・7)

4E20・25、4F16に位置する。平面形は楕円形、断面は皿形である。覆土は単層で、覆土中から須恵器長頸壺、土師器長甕が出土している。

SK97 (図版6・7)

4F16に位置する。平面形は不整形、断面は皿形である。覆土は単層で、覆土中から土師器長甕が出土している。

SK142 (図版6・12)

2G8・9・13・14に位置する。平面形は楕円形、断面は皿形で、SK163を切っている。覆土は単層で、覆土中から土師器長甕が出土している。

SK152 (図版6・12、写真図版10)

2G3・4に位置する。平面形は楕円形、断面は皿形で、SK156を切っている。覆土は2層に分かれる。覆土中から土師器長甕が出土している。

SK156 (図版6・12、写真図版10)

2G3・8に位置する。平面形は楕円形、断面は半円形で、SE157を切っている。覆土は4層に分かれる。覆土中から土師器長甕が出土している。

SK163 (図版6・12)

2G8・9に位置する。平面形は長方形、断面は皿形で、SK142を切っている。覆土は単層で、覆土中から土師器長甕が出土している。

SK463 (図版6)

4F7・8に位置する。平面形は円形、断面は箱形である。覆土は単層で、覆土中から土師器長甕が出土してい

る。

SK489 (図版 6)

4E20 に位置する。平面形は長方形、断面は箱形である。覆土は単層で、覆土中から須恵器無台杯が出土している。

SX110 (図版 6・7・13、写真図版 10)

3E25、3F21、4E5、4F1 に位置する。遺構の約半分が調査区外へ延びているため、正確ではないが長方形の平面形であると予想される。断面は皿形で浅く、遺構の一部が攪乱を受けている。覆土は 2 層に分かれ、覆土中から土師器長甕が出土した (図版 24)。

SK25 (図版 7)

5B18・19 に位置する。平面形は円形、断面は箱形である。覆土は 5 層に分かれる。覆土中から須恵器無台杯、土師器長甕が出土している。

SK30 (図版 7・14、写真図版 11)

5C21・22 に位置する。平面形は円形、断面は皿形で、SE29 を切っている。覆土は 2 層に分かれる。覆土中から土師器長甕が出土している。

SK42 (図版 7)

6C12・13 に位置する。平面形は楕円形、断面は半円形である。覆土は単層で、覆土中から土師器長甕が出土している。

SK47 (図版 7・15、写真図版 11)

5C1 に位置する。平面形は長方形、断面は皿形で深度 0.08m と非常に浅い。底面に炭化物があり、剥離した土師器長甕の小破片が大量に出土した。中には二次被熱を受けているものも多くある。土師器焼成遺構の可能性を考えたが、深さが浅いことや底面や壁面の被熱が顕著でないことから、焚き火等の跡と判断した。土師器長甕が出土しているが、いずれも小片で器種の判別がつかないものが多い。須恵器は出土していない (図版 24)。

SK65 (図版 7・15)

4C22 に位置する。平面形は楕円形、断面は皿形で、SK66 に切られている。覆土は 4 層に分かれる。覆土中から須恵器無台杯、土師器無台椀・長甕が出土している。

SK66 (図版 7・15)

4C22・23 に位置する。平面形は円形、断面は皿形で、SK65 を切っている。覆土は 3 層に分かれる。覆土中から須恵器大甕、土師器長甕が出土している。

SK88 (図版 7・15、写真図版 12)

5D8・13 に位置する。平面形は楕円形、断面は台形状で、長軸方向は N - 12° - E を測る。遺構の東端を近世遺構に切られる。覆土は 4 層に分かれ、最下層は黒色炭化物層である。覆土中から須恵器無台杯・杯蓋、土師器無台椀・小甕・長甕・鍋が出土した。特に下層からの煮炊具の出土が多い (図版 25)。

SK197 (図版 7・15)

5B7・12 に位置する。平面形は楕円形、断面は皿形で、SD17 に切られる。覆土は 2 層に分かれ、遺構底面から須恵器長頸壺 (68) がほぼ完形で出土しているほか、覆土中から土師器長甕が出土している (図版 27)。

SK443 (図版 7)

6B18・19・23・24 に位置する。平面形は楕円形、断面は皿形である。覆土は 2 層に分かれる。覆土中から土師器長甕が出土している。

SK474 (図版 7)

5C15・20 に位置する。平面形は楕円形、断面は皿形である。覆土は単層で、覆土中から土師器長甕が出土している。

SK178 (図版 8)

3H4・5・9・10 に位置する。平面形は円形、断面は皿形である。覆土は 2 層に分かれる。覆土中から須恵器無台杯、土師器無台椀・長甕が出土している。

SK182 (図版 8・17)

3I6・11 に位置する。平面形は円形、断面は箱形である。覆土は 5 層に分かれる。覆土中から須恵器無台杯、土師器長甕が出土している。

SK184 (図版 8)

3H14・15 に位置する。平面形は楕円形、断面は皿形である。覆土は 2 層に分かれる。覆土中から須恵器無台杯、土師器長甕が出土している。

SK187 (図版 8・17)

3I11・16 に位置する。平面形は不整形、断面は箱形である。覆土は 3 層に分かれる。覆土中から須恵器無台杯・大甕、土師器無台椀・小甕・長甕が出土している。

SK191 (図版 8・17)

3I16・21 に位置する。平面形は円形、断面は台形状である。覆土は 3 層に分かれる。覆土中から須恵器無台杯、土師器無台椀・小甕・長甕が出土している。

SK195 (図版 8)

3I18・23 に位置する。平面形は不整形、断面は台形状である。覆土は単層で、覆土中から土師器長甕が出土している。

SK201 (図版 8)

4I9 に位置する。平面形は円形、断面は箱形である。覆土は 3 層に分かれる。覆土中から須恵器無台杯、土師器無台椀・長甕が出土している。

SK202 (図版 8)

4I8 に位置する。遺構の一部が調査区外に延びる。平面形は不整形で、断面は半円形である。覆土は単層で、覆土中から土師器長甕が出土している。

SK210 (図版 8・16)

4J16 に位置する。平面形は楕円形、断面は皿形である。覆土は 2 層に分かれる。2 層からは日水遺跡ではあまり出土しなかった黒色土器無台椀が出土したほか、須恵器無台杯・大甕、土師器無台椀・長甕、礫が出土している (図版 27)。

SK212 (図版 8)

4J17 に位置する。平面形は円形で、断面は箱形である。覆土は単層で、覆土中から土師器長甕が出土している。

SK219 (図版 8・16)

4J23、5J3 に位置する。平面形は不整形、断面は皿形で、SE218 を切っている。覆土は単層で非常に浅い。覆土中から須恵器無台杯、土師器長甕が出土している。

SK234 (図版 8)

2H23、3H3 に位置する。平面形は楕円形、断面は皿形で、SD175 に切られ、SD176 を切っている。覆土は単層で、覆土中から須恵器無台杯、土師器無台椀・長甕が出土している。

SK239 (図版 8)

5K20 に位置する。平面形は楕円形、断面は台形状である。覆土は単層で、覆土中から土師器長甕が出土している。

SK241 (図版 8)

5L16 に位置する。遺構の一部が調査区外に延びるため、平面形は不明である。断面は皿形で浅い。覆土は単層で、覆土中から土師器長甕が出土している。

SK251 (図版 8)

6L1 に位置する。平面形は楕円形、断面は箱形である。覆土は 2 層に分かれる。覆土中から土師器長甕が出土している。

SK253 (図版 8・16)

5L22、6L2 に位置する。平面形は円形、断面は半円形である。覆土は 2 層に分かれる。覆土中から須恵器無台杯、土師器長甕が出土している (図版 27)。

SK290 (図版 8・16)

6L19 に位置する。平面形は楕円形、断面は皿形で、SD291 を切っている。覆土は 2 層に分かれる。覆土中から須恵器無台杯・杯蓋、土師器無台椀・長甕が出土している (図版 27)。

SK295 (図版 8)

3H20・25 に位置する。平面形は円形、断面は箱形である。覆土は単層で、覆土中から須恵器無台杯、土師器長甕が出土している。

SK309 (図版 8)

7G8 に位置する。遺構の一部が調査区外に延びる。平面形は不整形、断面は半円形である。覆土は単層で、覆土中から遺物は出土していない。

SK314 (図版 8・17、写真図版 13)

7G5・10、7H1・6 に位置する。平面形は長方形、断面は皿形である。覆土は 2 層に分かれる。覆土中から須恵器無台杯・杯蓋・大甕、土師器無台椀・長甕が出土している (図版 32)。

SK456 (図版 8)

6L8・9 に位置する。平面形は円形、断面は皿形である。覆土は単層で、覆土中から遺物は出土していない。

SK457 (図版 8)

6L9・14 に位置する。平面形は円形、断面は半円形である。覆土は単層で、覆土中から土師器長甕が出土している。

SK483 (図版 8)

6L8・13 に位置する。平面形は円形、断面は箱形である。覆土は単層で、覆土中から遺物は出土していない。

SK484 (図版 8)

6L14・15・19・20 に位置する。平面形は楕円形、断面は半円形で、SD291 に切られる。覆土は単層で、覆土中から須恵器無台杯、土師器長甕・鍋が出土している (図版 27)。

SX452 (図版 8)

6K5・10、6L1・2・6・7 に位置する。平面形は不整形、断面は箱形である。覆土は単層で、覆土中から須恵器無台杯・大甕、土師器長甕が出土している。

SK279 (図版 9)

9M8・13 に位置する。遺構の一部が調査区外に延びる。平面形は円形、断面は皿形である。覆土は単層で、須恵器無台杯・長頸壺、土師器長甕が出土している (図版 32)。

SK280 (図版 9)

9M12 に位置する。平面形は楕円形、断面は箱形である。覆土は単層で、土師器長甕が出土している。

SK282 (図版 9)

9L14・15・19・20 に位置する。平面形は長方形、断面は皿形である。覆土は 2 層に分かれる。覆土中から

遺物は出土していない。

SX274 (図版9・18、写真図版15)

8N19・23～25に位置する。遺構のほとんどが調査区外に延びるため、平面形は不明である。断面は皿形で浅く、SD288に切られている。覆土は単層で、覆土中から須恵器無台杯・有台杯、土師器無台椀・長甕が出土している(図版32)。

SX287 (図版9・18、写真図版14)

9L15・20、9M11・16に位置する。遺構のほとんどが調査区外に延びるため、平面形は不明である。断面は皿形で浅く、遺構の中央をSE281に切られている。SE281の遺物と接合関係にあるものが多い。覆土は単層で、覆土中から土師器無台椀・長甕・鍋が出土している(図版32)。

SK362 (図版10)

12H13に位置する。平面形は円形、断面は皿形で非常に浅い。SD358に切られ、SI386を切る。覆土は単層で、覆土中から須恵器杯蓋・大甕、土師器無台椀・長甕が出土している(図版32)。

SK363 (図版10・20)

12H12・13・17・18に位置する。平面形は楕円形、断面は皿形である。SI386を切っている。覆土は2層に分かれる。覆土中から遺物は出土していない。

SK366 (図版10・19、写真図版15)

12H16・17・21・22に位置する。平面形は楕円形、断面は皿形で、遺構上面を攪乱されている。SK377を切り、SD348に切られている。覆土は3層に分かれる。覆土中からは須恵器無台杯・杯蓋・大甕、土師器無台椀・長甕が出土している(図版33)。

SK373 (図版10・19)

12I3に位置する。平面形は円形、断面は皿形である。覆土は2層に分かれる。覆土中から須恵器無台杯、土師器無台椀・長甕が出土している(図版33)。

SK377 (図版10・19、写真図版15)

12H16に位置する。平面形は楕円形、断面は皿形で、SK366とSD348に切られている。覆土は2層に分かれる。覆土中から須恵器無台杯・有台杯・杯蓋・大甕、土師器無台椀・長甕が出土している(図版33)。

SK379 (図版10)

11J6・7・11・12に位置する。遺構の半分が調査区外に延びる。平面形は円形、断面は台形状である。覆土は単層で、覆土中から土師器長甕が出土している。

SK382 (図版10・19)

10J24、11J3・4に位置する。平面形は円形、断面は台形状であり一部攪乱を受けている。覆土は2層に分かれる。覆土中から土師器無台椀・小甕が出土している(図版33)。

SK384 (図版10・19)

12G10・15、12H6・11に位置する。平面形は楕円形、断面は皿形である。SI385と切り合っているが、切りあい関係は不明である。覆土は単層であり、覆土中から土師器無台椀・鉢が出土している(図版33)。

SK492 (図版10)

12G4・5・9・10に位置する。遺構の一部が調査区外に延びる。平面形は長方形、断面は皿形である。覆土は単層で、覆土中から須恵器無台杯、土師器無台椀・鍋が出土している(図版33)。

3) 溝 (SD)

SD109 (図版6)

3F17・22、4F2・7・12に位置する。南北方向(N-3°-W)に走行し、SD113と合流する。断面は皿形で非常に浅い。覆土は単層で、覆土中から土師器長甕が出土している。

SD113 (図版 6)

3F17・18 に位置する。東西方向 (N - 72° - W) に走行し、SD109 に合流する。断面は皿形で非常に浅い。覆土は単層で、覆土中から遺物は出土していない。

SD132 (図版 6)

3F15、3G11 に位置する。東西方向 (N - 84° - W)、に走行し、東端は調査区外に延びる。断面は半円形である。覆土は単層で、覆土中から遺物は出土していない。

SD15 (図版 7・14、写真図版 12)

6B2・7・8・13・18 に位置する。北西から南東方向に延び (N - 28° - W)、SD16・17 と平行に走る。断面は台形状である。覆土は3層に分かれ、覆土中からは須恵器無台杯・杯蓋、土師器無台椀・長甕、砥石が出土している (図版 26・39)。

SD18 (図版 7)

5A14・15、5B11・12・13・14・19 に位置する。東西方向 (N - 85° - W) に走行し、西端は調査区外に延びる。SD16 と SD17 に切られる。断面は半円形である。覆土は単層で非常に浅い。覆土中から須恵器無台杯、土師器無台椀・長甕が出土している。

SD19 (図版 7)

6B15・19・20 に位置する。南西から北東方向に延び (N - 63° - E)、SD16 と SD17 に切られる。断面は皿形である。覆土は単層で、覆土中から遺物は出土していない。

SD23 (図版 7)

6B20・25、6C16・21、7C1・2・7・12・13・18 に位置する。北西から南東方向に延び (N - 27° - W)、SD17 に切られている。また、南東端は近世水田遺構による削平を受けており、底面がかるうじて残っている程度である。断面は皿形である。覆土は単層で、覆土中から須恵器大甕、土師器長甕が出土している。

SD74 (図版 7・15、写真図版 12)

4B20、4C10・13 ~ 18、4D6 ~ 8・13・18・23、5D3・8・13・18・19・23・24、6D3・4・8・13 に位置する。東西方向 (N - 87° - E) に走り、南へ (N - 2° - W) 直角に屈曲する。両端は調査区外に延びている。SK88 を切っている。断面は皿形で、覆土は4層に分かれる。覆土中からは須恵器無台杯・杯蓋・短頸壺・大甕、土師器無台椀・小甕・長甕・鍋、黒色土器無台椀が出土している (図版 26)。

SD94 (図版 7)

4D13・18 に位置する。北東から南西方向に延び (N - 55° - E)、SD74 と SD93 に両端を切られる。断面は皿形である。覆土は単層で、覆土中から遺物は出土していない。

SD158 (図版 7)

5E8・13 に位置する。南東から北西方向に延び (N - 72° - E)、両端を近世水田遺構に切られる。断面は皿形である。覆土は単層で、覆土中から須恵器無台杯、土師器無台椀・長甕が出土している。

SD159 (図版 7)

5E7・8 に位置する。北東から南西方向に延び (N - 35° - E)、両端を近世水田遺構に切られる。断面は皿形で、覆土は2層に分かれる。覆土中から須恵器無台杯・大甕、土師器長甕、軽石が出土している。

SD161 (図版 7)

4E21、5E1 に位置する。北東から南西方向に延び (N - 40° - E)、両端を近世水田遺構に切られる。断面は皿形である。覆土は単層で、覆土中から須恵器無台杯、土師器長甕が出土している。

SD164 (図版 7)

5E3・7・8 に位置する。北東から南西方向に延び (N - 33° - E)、両端を近世水田遺構に切られる。断面は箱形である。覆土は単層で、覆土中から遺物は出土していない。

SD227 (図版7・15)

5B18・19・24に位置する。北西から南東方向に延び(N-63°-W)、南東端は試掘坑によって切られる。断面は台形状で、覆土は2層に分かれる。覆土中から須恵器無台杯、土師器無台椀・長甕・鍋が出土している(図版26)。

SD404 (図版7・15)

4D14・15・18～20に位置する。東西方向(N-67°-E)に走行し、東端は調査区外に延びる。SD93に切られる。断面は台形状で、覆土は2層に分かれる。覆土中から須恵器無台杯・大甕、土師器小甕・長甕が出土している(図版26)。

SD423 (図版7)

5C20・25、5D16・21に位置する。北西から南東方向に延び(N-27°-W)、南東端をSD34に切られる。断面は皿形である。覆土は単層で、覆土中から遺物は出土していない。

SD433 (図版7)

5C24、6C4・5、6D1に位置する。北西から南東方向に延び(N-54°-W)、SD34に切られ、SD476を切る。断面は半円形である。覆土は単層で、覆土中から須恵器大甕、土師器長甕が出土している。

SD476 (図版7・15)

5C19・20・24・25、6C5に位置する。北西から南東方向に延び(N-30°-W)、SD34とSD433に切られる。断面は箱形で、覆土は2層に分かれる。覆土中から須恵器無台杯・長頸壺、土師器無台椀・長甕が出土している。長頸壺はSD34の遺物と接合関係にある(図版27)。

SD175 (図版8・17、写真図版13)

2H23・24、3H3・4に位置する。東西方向(N-80°-W)に走行し、東端は調査区外に延びる。SK234とSD176を切る。断面は皿形で、覆土は2層に分かれる。覆土中から須恵器無台杯・長頸壺・大甕、土師器無台椀・小甕・長甕・鍋が出土している。出土遺物はSD176の遺物と接合関係にある(図版28)。

SD176 (図版8・17、写真図版13)

2H23・24、3H3・4・8・9・13・14・19に位置する。南北方向(N-3°-E)に走行し、両端は調査区外に延びる。SK234とSD175に切られる。断面は台形状で、覆土は4層に分かれる。覆土中から須恵器無台杯・長頸壺、土師器無台椀・長甕が出土している。

SD220 (図版8)

5J3・4・5に位置する。南西から北東方向に延びる(N-71°-W)。断面は半円形である。覆土は単層で、覆土中から土師器長甕が出土している。

SD231 (図版8・17、写真図版13)

5K2・7・12・17・22に位置する。南北方向(N-8°-E)に走行し、両端は調査区外に延びる。SD233と平行に走る。断面は台形状で、覆土は4層に分かれる。覆土中から須恵器無台杯・杯蓋・長頸壺・大甕、土師器無台椀・小甕・長甕が出土している(図版28)。

SD233 (図版8・17、写真図版13)

5K8・9・13・18・23に位置する。南北方向(N-7°-E)に走行し、両端は調査区外に延びる。遺構の一部を攪乱に切られる。断面は皿形で、覆土は3層に分かれる。覆土中から須恵器無台杯・有台杯・杯蓋・大甕、土師器無台椀・長甕が出土している。

SD236 (図版8)

5K24・25、5L21に位置する。北東から南西方向に延び(N-81°-W)、北東端は削平のため失われている。断面は半円形である。覆土は単層で、覆土中から須恵器無台杯、土師器長甕が出土している。

SD264 (図版8・17、写真図版13)

6M21・22、7M1～4に位置する。北西から南東方向に延び(N-65°-W)、北西端はSD263に切れ、南東端は調査区外に延びる。断面は皿形で、覆土は4層に分かれる。遺物は3・4層から底面に沿う形で須恵器無台杯・有台杯・杯蓋・大甕、土師器無台碗・鉢・小甕・長甕・鍋、黒色土器無台碗、土錘、小礫が一括して出土している。SD263と攪乱の遺物と接合関係にある(図版29～31・39)。

SD291 (図版8・16)

6L12～15・18～20に位置する。東西方向(N-82°-W)に走行し、両端は調査区外に延びる。SK290に切れ、SK484を切る。断面は台形状で、覆土は3層に分かれる。覆土中から須恵器無台杯・有台杯・大甕、土師器小甕・長甕・鍋が出土している。SK290・SK484の遺物と接合関係にある遺物も多い(図版28)。

SD302 (図版8)

5F23、6F3に位置する。東西方向(N-11°-E)に走行する。西端は調査区外に延びるが、延長線上にSD109があることから同遺構の可能性はある。断面は皿形である。覆土は単層で、覆土中から須恵器無台杯、土師器無台碗・長甕が出土している。

SD305 (図版8)

5F23、6F3・8に位置する。東西方向(N-4°-E)に走行する。西端は調査区外に延びるが、延長線上にSD118があることから同遺構の可能性はある。断面は半円形である。覆土は単層で、覆土中から須恵器無台杯、土師器長甕が出土している。

SD307 (図版8)

6F13・14・15に位置する。南北方向(N-87°-E)に走行し、南端は調査区外に延びる。SD308を切っている。断面は皿形である。覆土は単層で、覆土中から須恵器無台杯、土師器長甕が出土している(図版32)。

SD308 (図版8)

6F9・10・14・15に位置する。北西から南東方向に延び(N-20°-E)、南東端はSD307に切られる。断面は皿形である。覆土は単層で、覆土中から須恵器無台杯、土師器長甕が出土している。

SD315 (図版8・17、写真図版13)

7G9・10、7H6・7に位置する。東西方向(N-87°-W)に走行し、東端は調査区外に延びる。SK314と接している。断面は台形状で、覆土は3層に分かれる。一部、2層と3層の間に炭化物層を含む箇所がある。覆土中から須恵器無台杯・有台杯・杯蓋・長頸壺・大甕、土師器無台碗・小甕・長甕が出土している(図版31)。

SD268 (図版9・18、写真図版14)

8N2～4・7～10、8O6～8・12・13に位置する。東西方向(N-80°-W)に走行し、両端は調査区外に延びる。SD272・SD273と平行している。断面は台形状で覆土は3層に分かれる。覆土中から須恵器無台杯・杯蓋・長頸壺・大甕、土師器無台碗・小甕・長甕、磨製石斧が出土している(図版32・39)。

SD272 (図版9・18、写真図版14)

8N14・15・20、8O11・12・16・17に位置する。東西方向(N-79°-W)に走行し、両端は調査区外に延びる。断面は台形状で、覆土は3層に分かれる。覆土中から須恵器無台杯・有台杯・杯蓋・長頸壺、土師器無台碗・小甕・長甕が出土している(図版32)。

SD273 (図版9・18、写真図版15)

8N19・20、8O16に位置する。東西方向(N-85°-W)に走行し、両端は調査区外に延びる。SD288を切っている。断面は台形状で、覆土は3層に分かれる。覆土中から須恵器無台杯・杯蓋・大甕、土師器無台碗・長甕が出土している。

SD276 (図版9)

9N1・6に位置する。南北方向(N-0°-E)に走行し、両端は調査区外に延びる。断面は皿形である。覆土

は単層で、覆土中から須恵器無台杯、土師器無台碗・小甕・長甕が出土している。

SD283 (図版9)

9L14・19に位置する。南北方向(N-16°-W)に走行し、両端は調査区外に延びる。断面は半円形である。覆土は単層で、覆土中から遺物は出土していない。

SD288 (図版9・18、写真図版15)

8N19・20・24・25に位置する。東西方向(N-69°-W)に走行し、両端は調査区外に延びる。SD273に切られ、SX274を切っている。断面は台形状で、覆土は3層に分かれる。覆土中から須恵器大甕が出土している。

SD348 (図版10・19)

12G25、12H16・21、13G5・10・14・15・19・20、13H1に位置する。南北方向(N-22°-E)に走行し、両端が調査区外に延びる。SK366とSK377を切る。断面は皿形である。覆土は単層で、覆土中から須恵器無台杯・大甕、土師器無台碗・小甕が出土している。

SD354 (図版10)

12H21、13H1・6に位置する。南北方向(N-10°-E)に走行する。断面は皿形である。覆土は単層で、覆土中から遺物は出土していない。

SD358 (図版10・19、写真図版15)

12H13～15・18・19・23・24に位置する。南北方向(N-12°-E)に走行し、両端は調査区外に延びる。SI386を切っている。断面は皿形で、覆土は2層に分かれる。覆土中から須恵器無台杯・有台杯・長頸壺・大甕、土師器無台碗・長甕、筒形土器、砥石、鍛冶関連遺物が出土している(図版38・39)。

SD367 (図版10)

12H15・20に位置する。南北方向(N-26°-W)に走行し、両端は調査区外に延びる。断面は半円形である。覆土は単層で、覆土中から須恵器無台杯が出土している。

SD368 (図版10)

12H15に位置する。南北方向(N-17°-W)に走行し、両端は調査区外に延びる。断面は皿形である。覆土は単層で、覆土中から須恵器無台杯、土師器無台碗・長甕が出土している。

SD376 (図版10)

11I23・24・25に位置する。東西方向(N-84°-E)に走行し、両端は調査区外に延びる。SK378に切られる。断面は台形状である。覆土は単層で、覆土中から遺物は出土していない。

SD490 (図版10・19)

12G9・14に位置する。南北方向(N-13°-E)に走行し、南端は調査区外に延びる。SK492に切られ、SI385を切っている。断面は皿形で、覆土は2層に分かれる。覆土中から須恵器無台杯・長頸壺、土師器無台碗・小甕が出土している(図版38)。

畝状遺構 (図版8)

7H、7I、8H、8IグリッドにまたがるSD321・323・328・329・331の5条の畝状遺構である。南北方向(N-8～10°-W)に走行している。覆土はSD328を除き2層に分かれる。上層が炭化物を含む褐色シルトであり、下層は灰黄色シルトである。SD329・SD331の覆土中から須恵器無台杯・有台杯・大甕、土師器小甕・長甕・鍋が出土している(図版31)。なお、8Iグリッドで行われた自然科学分析結果によると、イネの生育には適さない環境であったと推察されるほか、栽培植物に由来する種類が検出されていないことから、本遺跡の畝状遺構が田畑地であったとは考えにくい。

4) 竪 穴 遺 構 (SI)

SI451 (図版 6・14、写真図版 10)

3F14・15・18～20・22～24、4F3・4に位置する。遺構の半分は調査区外に延びるため正確な平面形は不明であるが、円形と考えられる。断面は皿形で、覆土は2層に分かれる。遺構の中心と予想される場所では、底面に炭化物が固着した跡が3箇所確認できた。覆土中から須恵器無台杯、土師器無台碗・小甕・長甕が出土している(図版 24)。

SI385 (図版 10・20、写真図版 16)

11G24・25、11H21、12G4・5・9・10、12H1・2・6・7・11・12に位置する。遺構の半分は調査区外に延びるため正確な平面形は不明であるが、長方形であると予想される。断面は皿形で、覆土は4層に分かれる。カマドや住居に付随するピットは確認できなかったが、広く平坦な底面と約40cmある深さから住居とした。覆土中から須恵器無台杯・有台杯・杯蓋・長頸壺・大甕、土師器無台碗・無台皿・鉢・小甕・長甕・鍋、黒色土器無台碗、小礫が出土している。遺物の出土量は全遺構中最も多い。SI386を切っており、接合関係にある遺物も多いが、両遺構の出土遺物に明確な時期差は認められない(図版 33～36・39)。

SI386 (図版 10・20、写真図版 16)

12H7・8・12・13・17に位置する。遺構の西半分はSI385に切られ、北半分は調査区外に延びるため、正確な平面形は不明であるが、SI385の下にわずかに残る底面から円形であったと予想される。断面は皿形で、覆土は5層に分かれる。カマドや住居に付随するピットは確認できなかったが、平坦な底面と約30cmある深さから住居とした。また、自然科学分析において多量のイネの植物珪酸体が確認されたことから、稲藁を用いた小屋等の建物跡が想定されている。覆土中から須恵器無台杯・有台杯・杯蓋・長頸壺・大甕、土師器無台碗・皿・鉢・小甕・長甕・鍋、羽口、砥石が出土している。遺物の多くは底面に沿う形で出土している(図版 36・37・39)。

5) 掘 立 柱 建 物 (SB)

SB493 (図版 7・21、写真図版 16)

4C24、5C1・2・4・11・12に位置する。Pit38・46・52・72・422で構成される2間×4間の方形の掘立柱建物である。東端が試掘坑で切られており、確認できない。主軸方位はN-82°-Eである。雨落溝は確認されていない。柱穴覆土からは須恵器無台杯、土師器無台碗・小甕・長甕が出土している。

SB494 (図版 8・21、写真図版 16)

7H18・23・25、7I21、8H10、8I1・6に位置する。Pit320・325・333・335・343・344で構成される推定4間×4間以上の方形の掘立柱建物である。北東端・南西端が調査区外のため、柱穴が確認できない。8Iグリッドの畝状遺構に切られている。主軸方位はN-86°-Eである。雨落溝は確認されていない。柱穴覆土から土師器無台碗・小甕・長甕が出土している。

B 中 世 の 遺 構

中世の遺構としたものは、V層上面で確認されている。出土遺物から14世紀後半の遺構と考えられるが、中世の出土遺物が非常に少なく、いずれも古代の遺物を多く含む。井戸2基、土坑2基、溝4本が確認されている。以下概要を述べる。

SE58 (図版 7・14、写真図版 11)

5C14・15に位置する。平面形は円形、断面は半円形で底が漏斗状にすぼまる素掘り井戸である。遺構の一部を試掘坑に切られる。覆土は7層に分かれる。覆土中から珠洲焼甕、須恵器無台杯・杯蓋・大甕、土師器無台碗・小甕・長甕、砥石が出土している(図版 26・39)。

SE281 (図版9・18、写真図版14)

9L15・20、9M11・16に位置する。遺構の半分が調査区外に延びており正確な平面形は定かでないが、円形であったと考えられる。断面は箱形で素掘りの井戸である。覆土は6層に分かれ、覆土中から須恵器無台杯、土師器無台碗・鉢・小甕・長甕・鍋が出土している。SX287を切っており、接合関係にある遺物も多くある(図版32)。

SK131 (図版7)

4D3・8に位置する。平面形は不整形で遺構の半分が調査区外に延びている。断面は皿形である。SD93に切られている。覆土は2層に分かれ、覆土中から遺物は出土していない。

SK334 (図版8)

7H16・21に位置する。遺構の半分が調査区外に延びている。平面形は円形、断面は箱形である。覆土は単層で、覆土中から遺物は出土していない。

SD16 (図版7・14、写真図版12)

5B6・7・11・12・17・22、6B2・3・8・9・13・14・19・20・24・25、7B5、7C1・6・11・12・16・17・22に位置する。北西から南東方向に延び(N-28°-W)、両端は調査区外に延びる。SD15・SD17と平行に走り、SD18・SD19を切っている。断面は箱形である。覆土は3層に分かれるが、一部2層と3層の間に炭化物層を含む箇所がある。覆土中から須恵器無台杯・有台杯・大甕、土師器無台碗・小甕・長甕、鍛冶関連遺物等、古代の遺物が出土している(図版26・39)。

SD17 (図版7・14、写真図版12)

5B2・7・12・13・17・18・23、6B3・4・9・14・15・20、6C16～20、6D16に位置する。北西から南東に延び(N-28°-W)、途中で東に屈曲する。北西端は調査区外に延び、東端は近世遺構によって削平を受けている。SD18・SD19を切っている。断面は皿形で、覆土は4層に分かれる。覆土中から須恵器大甕、土師器小甕・長甕・鍋等、古代の遺物が出土している(図版26)。

SD34 (図版7・15)

5C24・25、5D11～13・16・21、6C1・2・4・6～9に位置する。北西から南東方向に蛇行しながら延び(N-44°-E)、南東端は近世水田遺構に切られる。SD433・SD476を切っている。断面は皿形で、覆土は2層に分かれるが、場所によっては3層となる。覆土中から珠洲焼甕、須恵器無台杯・長頸壺、土師器無台碗・小甕・長甕・鍋が出土している(図版26)。

SD93 (図版7・15、写真図版12)

4D8・9・13・14・19・24、5D14・19・24、6D4・9に位置する。南北方向(N-0°-E)に走行し、両端は調査区外に延びる。SK131、SD404を切り、近世遺構に切られる。断面はV字に近い台形状で、覆土は4層に分かれる。覆土中から珠洲焼甕、須恵器無台杯・有台杯・長頸壺・大甕、土師器無台碗・長甕・鍋、黒色土器無台碗が出土している(図版26)。

C 近世の遺構

近世の遺構としたものは、Ⅲ層もしくはⅣ層から掘り込まれている。出土遺物から18世紀以降と考えられる。以下概要を述べる。

近世水田遺構 (図版6・7・22)

7B、6C、7C、5D、6D、5E、1F、1Gに広範囲に位置する。平面形は方形で、断面は箱形であるが、いずれも調査区外に延びており、全形が分かるものはない。Ⅳ層から掘り込まれており、覆土は2層に分かれる。1層目は砂で水田を畑に転用した時のものと考えられる。2層目は田んぼの床土と考えられる粘性の強いシルトが堆積する。いずれの層からも近世陶磁器が出土する。亀田郷土資料館所蔵の明治28年更正図では、当該地は既

に畑になっているため、近世における転用と考える。この遺構の下からは、わずかに残った古代遺構が検出できる。

SD118 (図版 6・22)

1F25、1G21、2F5・10・25、3F5・10・14・15・19・20・24・25 に位置する。南北方向 (N - 7° - E) に走行し、両端は調査区外に延びる。IV層から掘り込まれており、断面は皿形で、覆土は2層に分かれる。覆土中から近世陶磁器が出土している。

SD262 (図版 8・22)

6K10、6L3・4・6～9 に位置する。東西方向 (N - 74° - E) に走行し、両端は調査区外に延びる。SX452 を切っている。III層から掘り込まれており、断面は台形状で、覆土は3層に分かれる。覆土中から近世陶磁器が出土している。

SD263 (図版 8・22、写真図版 13)

6L18～20・24・25、6M16・17・21～23 に位置する。東西方向 (N - 88° - W) に走行し、両端は調査区外に延びる。SK290、SD264 を切っている。III層から掘り込まれており、断面は半円形で、覆土は6層に分かれる。覆土中から近世陶磁器が出土するほか、図示していないが古代の遺物も出土している。

第V章 遺物

遺物量はコンテナ（内径 54.5 × 33.6 × 10.0cm）にして 36 箱である。ほとんどが平安時代（9 世紀）の須恵器・土師器であり、奈良時代（8 世紀）、中世・近世の遺物も若干認められる。また、石製品・鉄製品・鍛冶関連遺物・木製品が存在する。

第1節 古代の遺物

古代の土器類は土師器・須恵器と黒色土器がある。全体の重量比は土師器 68,389g（73.55%）、黒色土器 58g（0.06%）、須恵器 24,534g（26.39%）で、点数比は土師器 12,928 点（82.80%）、黒色土器 14 点（0.09%）、須恵器 2,672 点（17.11%）であり、土師器の占める割合が高い。土器以外には土製品・石製品・鉄製品・軽石・礫・鍛冶関連遺物・木製品が確認されている。

包含層遺物の出土状況を見ると、5D・5E・8H・12H グリッド周辺で多く、遺構密度に対応すると言える。特に多いのは SI385・SI386 周辺である（図版 23）。

本遺跡で出土した古代の土器は後述するとおり、一部 8 世紀代の遺物が混じるものの、9 世紀後半を中心とする年代のものと考えている。県内の同時期の遺跡と同じく土師器が優勢であるのが特徴である。また、黒色土器の出土がわずかであったことも特徴と言えよう。

A 土器の分類と記述（第 5～7 図）

1) 用語の説明

記述は最初に土器分類を行い、次に遺構別・包含層出土土器を須恵器・土師器の順に記した。遺構の順序は「第四章 第 3 節遺構」の記述順序に準じる。なお、黒色土器の出土があるが、いずれも小片で図示できなかった。

分類は、法量による分類はローマ数字で（Ⅰ・Ⅱ…）と表した。手法による分類はアルファベットで（A・B…）と表した。

成形・調整の表現・名称は、山三賀Ⅱ遺跡の報告書〔坂井^{ほか} 1989〕の記載を参考に以下のとおりとした。

1. 「ロクロナデ」-ロクロ・回転台使用、「ナデ」-ロクロ・回転台未使用。
2. 「ロクロケズリ」-ロクロ・回転台使用、「ケズリ」-ロクロ・回転台未使用。
3. 「カキメ」-ロクロ・回転台使用、「ハケメ」-ロクロ・回転台未使用。
4. 「ロクロミガキ」-ロクロ・回転台使用、「ミガキ」-ロクロ・回転台未使用。
5. 「タタキメ」-外面、「あて具痕」-内面。
6. 底部の「ヘラ切り」・「糸切り」はいずれもロクロの回転を利用したものである。回転ヘラ切り・回転糸切りとすべきものであるが、「回転」を省略した。

このほか、法量・胎土・出土地点などの詳細については、巻末の別表 2 遺物観察表を参照されたい。貯蔵具に見られる「タタキメ」「あて具痕」の細分類は、内堀信雄氏の分類〔内堀 1988〕、柿田祐司氏の分類〔柿田 2001〕を基本に第 5 図のようにした。なお、須恵器の胎土は山三賀Ⅱ遺跡〔坂井^{ほか} 1989〕、古代阿賀北地域の土器様相〔春日^{ほか} 2004〕などを参考に、A～D 群に分類した。

A 群：胎土そのものが相対的に粗く、石英・長石・金雲母を多く含む。器面はざらついたものが一般的で、小

礫が露出する。笹神丘陵の笹神・真木山窯跡群を中心とする阿賀北地方の須恵器と推定される一群である。

B群：胎土そのものが精良で、白色小粒子を多く含む。器面に黒色の斑点、吹き出しが見られる。佐渡の小泊窯跡群の須恵器と推定される一群である。

C群：胎土そのものは比較的精良であり、石英・長石の小粒子を少量含む。器面は滑らかである。新津丘陵窯跡群の須恵器と推定される。

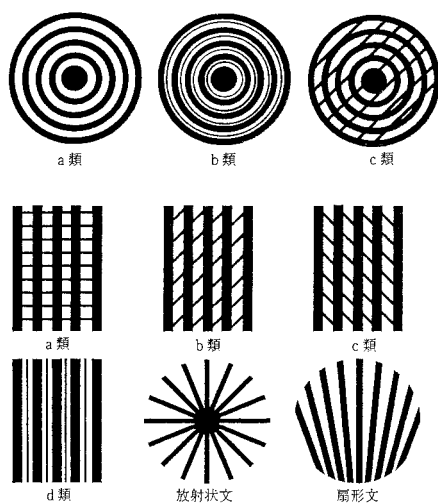
D群：A～C以外のものを一括した。高田平野西部丘陵産と推定されるものも含む。

次に本遺跡の遺物器種分類を行う。須恵器・土師器の順に概説する。

2) 分類

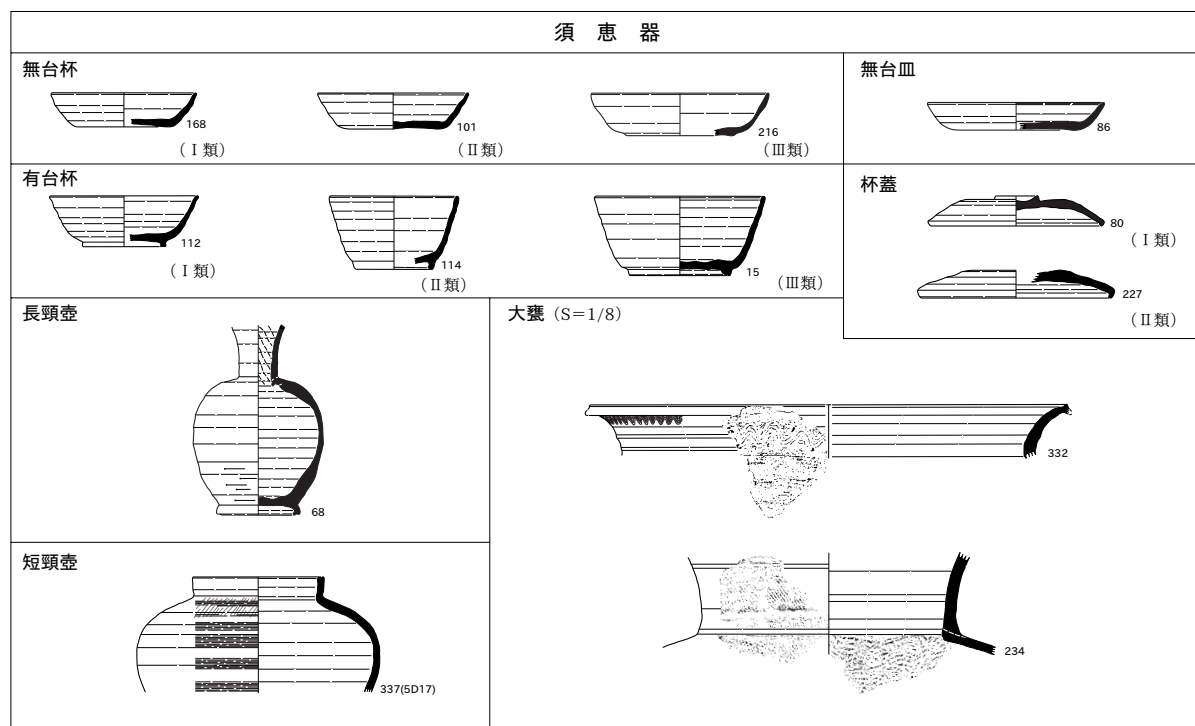
須恵器 (第6図)

食膳具と貯蔵具がある。食膳具には無台杯・有台杯・無台皿・杯蓋があり、貯蔵具には長頸壺・短頸壺・大



名称	分類基準	略号
同心円文 a 類	木目のみられないもの	D a
同心円文 b 類	年輪状の木目のみられるもの	D b
同心円文 c 類	柁目状の木目のみられるもの	D c
平行線文 a 類	木目が彫り込みに対し直交するもの	H a
平行線文 b 類	木目が右上がりに斜交するもの	H b
平行線文 c 類	木目が左上がりに斜交するもの	H c
平行線文 d 類	木目が平行するもの	H d

第5図 タタキメ・あて具痕の細分類図 (柿田 2001 をもとに再トレース)

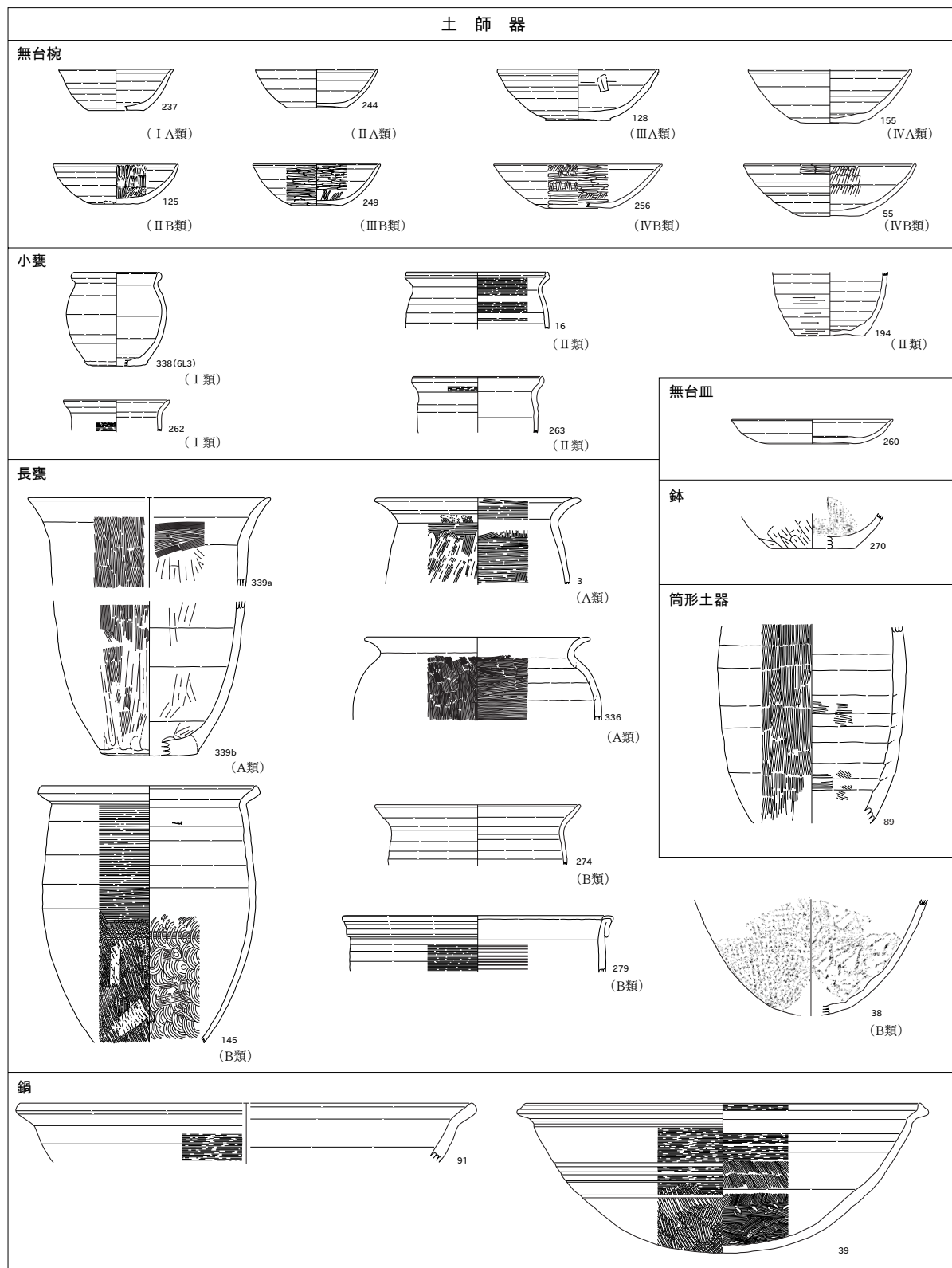


第6図 日水遺跡須恵器分類図 (S=1/6)

甕がある。

無台杯 杯のうち高台を持たないもの。法量により口径11cm前後のⅠ類、12～13cm前後のⅡ類、14cm以上のⅢ類とした。底部はヘラ切りがほとんどだが、糸切りも1点ある。

有台杯 杯のうち高台を持つもの。法量によりⅠ類・Ⅱ類・Ⅲ類とする。Ⅰ類は口径が12cm前後で身の



第7図 日水遺跡土師器分類図 (S=1/6)

浅いもの。Ⅱ類は口径が11cm前後で身の深いもの。Ⅲ類は口径が13cm以上で身の深いもの。底部はヘラ切りがほとんどだが、糸切りも1点ある。

無台皿 1点のみ出土した。口径が大きく身が浅い。

杯蓋 有台杯に伴う蓋である。法量により口径13～14cm前後のⅠ類と、口径15～16cm前後のⅡ類とがある。

長頸壺 長い頸部を持つ瓶あるいは壺を一括した。破片が多く体部・高台の形態から判断したものもある。

短頸壺 頸部が短く直立し、球胴体の体部を持つ壺。高台がつく。

大甕 大型の丸底の甕を一括した。全形がわかるものはない。頸部に波状文を持つものともたないものがある。

土師器 (第7図)

食膳具と煮炊具がある。食膳具には無台椀・無台皿・鉢、煮炊具には小甕・長甕・鍋がある。

無台椀 法量によって4分類される。Ⅰ類は口径10～11cmのもの。Ⅱ類は12～13cmのもの。Ⅲ類は14cm前後のもの。Ⅳ類は16cmを超えるものとした。また、調整によってさらに2分類される。A類は内外面がロクロナデで成形されるものであり、B類はさらにミガキ調整が施されるものである。B類の中には内面のみがミガキ調整されるものと、内外面及び底部をミガキ調整するものがあるが、細分類は行っていない。

無台皿 口径が大きく身の浅いもの。底部は糸切りである。

鉢 底部から体部が大きく開いて立ち上がるもの。底部外面と体部外面下半が板状工具によってケズリ調整される。口縁部形態は不明である。

小甕 口縁部から体部下半までロクロナデで調整される小型の甕。法量により2分類される。口径が10cm前後の小型のものをⅠ類、口径が14～15cmのものをⅡ類とした。

長甕 口径が20cm以上の甕を一括した。成形方法によって2分類される。ロクロを使用しない平底のA類と、ロクロを使用し体部下半をタタキ出して成形したB類がある。B類は口縁部が「く」の字状になるものがほとんどだが、口縁端部を外側に折り返すものもある。口縁形態の細分類は行っていない。

鍋 胴上半部をロクロ成形し、体部下半をタタキ出して成形している。完形品はないが、口径は40cm前後のものが多い。内面をさらにハケメ調整するものもあるが、細分類は行っていない。

筒形土器 非ロクロで製作された土管状の土製品。用途は不明であるが、カマド関連遺物との説がある。

B 出土土器等各説

1) 古代遺構出土土器

a) 井戸 (SE)

SE126 (図版24、写真図版20)

須恵器長頸壺(1)が出土している。底部破片のみであるが、体部の立ち上がりから長頸壺と判断した。胎土はB群である。

SE9 (図版24、写真図版20)

須恵器大甕(18)が出土している。外面は平行タタキメa類、内面は同心円文c類のあて具痕が残る。胎土はD群である。

SE29 (図版24、写真図版17・20)

須恵器無台杯(13・14)・有台杯(15)、土師器小甕(16)・長甕(17)が出土している。13～15の胎土はいずれもB群である。15は身の深い有台杯Ⅲ類に分類される。16の外面はロクロナデのあとカキメ調整されている。17は丸底の長甕と考えられる。

SE218 (図版 27、写真図版 21)

須恵器無台杯 (73)、土師器長甕 (74) が出土している。73 は底部が回転糸切りで切り離され、胎土は A 群である。

SE230 (図版 27、写真図版 21)

須恵器無台杯 (75)、土師器小甕 (76)・長甕 (77) が出土している。75 の胎土は A 群である。77 は内外面にカキメがうすく残る。

SE245 (図版 28、写真図版 17・22)

須恵器無台杯 (82～84)・杯蓋 (85)・無台皿 (86)・大甕 (87)、土師器無台椀 (88)・筒形土器 (89)・鍋 (90・91) が出土している。無台杯 (82～84) はいずれも胎土 B 群である。85 は内面が磨耗し、墨が付着することから転用硯であろう。胎土は C 群である。86 は底径が広く身が浅いことから無台皿と考えられる。88 は焼きのしっかりした無台椀である。89 は筒形土器で内外面がハケメ調整されている。内面には輪積み痕が残る。

SE298 (図版 31、写真図版 18・24)

須恵器無台杯 (149～153)、土師器無台椀 (154・155)・長甕 (156・157) が出土している。149 の胎土は B 群である。150 は口縁内面端部と底部が摩滅している。150・151 はいずれも胎土 C 群の新津丘陵産でやや古手のものである。152・153 は酸化炎焼成の須恵器無台杯である。産地は特定できないが、胎土に海面骨針が混じっているのが特徴である。152 には口縁部内外面に炭化物・ススが付着している。154 は内面ミガキ調整、外面ロクロケズリ調整を施す B 類の無台椀である。155 は大ぶりの無台椀である。井戸枠内から出土したため、外面には錆砂が付着している。156・157 は長甕 A 類である。157 は内面を横位のハケメ、外面を縦位のハケメで調整し、口縁部分はナデ調整を施している。口縁部は直線的に立ちあがり、わずかに外反する。

SE387 (図版 32、写真図版 25)

須恵器無台杯 (185・186)、土師器長甕 (187) が出土している。須恵器はいずれも胎土が B 群である。187 は口縁端部が玉縁状の長甕である。

b) 土坑 (SK)・性格不明遺構 (SX)

SX110 (図版 24、写真図版 17・20)

非ロクロの土師器長甕 A 類 (2～8) が出土している。体部が残っているものは全て外面が縦位のハケメ、内面は横位のハケメで調整されている。口縁部は 2・4 が垂直に伸びやや外反するが、3 は「く」の字に開く。底部は 6・7 で木葉痕が認められるが、8 では明瞭な調整はみられない。いずれの土器もハケメの特徴から 8 世紀代と推定される。

SK47 (図版 24、写真図版 20)

土師器長甕 (19・20) が出土している。いずれも小片で調整等が不明瞭だが、20 はわずかにハケメが残る。この他にも図示できなかったが、小片で剥離した長甕が大量に出土している。

SK88 (図版 25、写真図版 17・20・21)

須恵器無台杯 (21～23)、土師器無台椀 (24～27)・小甕 (28～31)・長甕 (32～38)・鍋 (39) が出土している。21～23 はいずれも胎土が B 群である。24～27 はすべてロクロ成形後調整を行わない A 類である。また、27 の底部は静止糸切りである。28・29 は小型の小甕 I 類、30・31 は小甕 II 類である。31 の底部には網代痕が残る。32～38 はすべてロクロ成形の長甕 B 類である。35 はやや太目のカキメが残る。37・38 はともに丸底の底部をもつ長甕である。37 は外面に平行タタキメ d 類、内面に同心円あて具痕 a 類が残り、38 は外面に平行タタキメ a 類、内面に放射状あて具痕が残る。39 は外面が平行タタキメ d 類で叩き出されており、内面は扇形あて具痕が残る。内面はさらにハケメで再調整している。

SK197 (図版 27、写真図版 17)

須恵器長頸壺 (68) が出土している。口縁部が若干欠けているものの、ほぼ完形である。底部を回転糸切りで

切り離す東海系技法が使われている。胎土はD群で、滝寺窯跡群などの高田平野西部丘陵産と考えられる。

SK210 (図版 27、写真図版 21)

須恵器無台杯 (78) が出土している。胎土はB群である。

SK253 (図版 27、写真図版 21)

須恵器無台杯 (79) が出土している。やや小ぶりの無台杯 I 類である。胎土はB群である。

SK290 (図版 27、写真図版 21)

須恵器杯蓋 (80) が出土している。胎土はB群である。

SK484 (図版 27、写真図版 22)

土師器鍋 (81) が出土している。内外面にカキメが残る。また、図示はしなかったが、同一個体とみられる鍋がSD291と接合関係にある。

SK314 (図版 32、写真図版 24)

土師器無台碗 (166) が出土している。やや身の浅い碗である。細かな調整等は表面が剥離しているため不明である。

SX274 (図版 32、写真図版 24)

須恵器有台杯 (171)、土師器無台碗 (172) が出土している。171 は高台が大きく歪む。胎土はB群である。172 は全体的に摩滅していて調整が不明である。

SK279 (図版 32、写真図版 18)

須恵器無台杯 (173) が出土している。胎土はB群で、底部に板目圧痕が残る。

SX287 (図版 32、写真図版 25)

土師器長甕 (182・183)・鍋 (184) が出土している。183 は胴部にカキメ・タタキ調整後にケズっている。

SK362 (図版 32、写真図版 25)

須恵器杯蓋 (188) が出土している。口径が15cmとやや大きめのII類に分類される。胎土はB群である。

SK366 (図版 33、写真図版 18)

須恵器無台杯 (189) が出土している。胎土はB群であるが、焼成はやや軟質で調整も摩滅している。

SK373 (図版 33、写真図版 25)

土師器長甕 (190) が出土している。口縁内部の屈曲部に斜め方向の太いケズリが残る。

SK377 (図版 33、写真図版 25)

須恵器無台杯 (191)・有台杯 (192) が出土している。いずれも胎土がB群である。192 は大ぶりの有台杯III類である。

SK382 (図版 33、写真図版 25)

土師器無台碗 (193)・小甕 (194) が出土している。193 は体部下半にロクロケズリした後、内外面にミガキ調整が入る。194 は強くロクロナデをした後、体部下半をロクロケズリしている。

SK384 (図版 33、写真図版 25)

土師器鉢 (195) が出土している。平底の底部で内面をハケメ調整し、外面を板状工具でケズっている。

SK492 (図版 33、写真図版 25)

須恵器無台杯 (196・197)、土師器無台碗 (198) が出土している。196・197 はいずれも胎土がB群である。

c) 溝 (SD)

SD15 (図版 26、写真図版 20)

須恵器無台杯 (45)・杯蓋 (46) が出土している。いずれも胎土はB群である。

SD74 (図版 26、写真図版 17・20)

須恵器無台杯 (51・52)・杯蓋 (53)・短頸壺 (54)、土師器無台碗 (55) が出土している。須恵器はいずれも

胎土B群である。54は底部破片のみであるが、体部の立ち上がりから短頸壺と判断した。55はやや大ぶりの無台椀ⅣB類である。内外面ともに丁寧なミガキ調整が施されているが、底部の調整は不明瞭である。

SD227 (図版26、写真図版21)

土師器鍋(61)が出土している。内外面にカキメ調整が入る。

SD404 (図版26、写真図版21)

須恵器無台杯(59)・大甕(60)が出土している。59は胎土がB群、60はD群である。60は口縁部に波状文が施され、内外面に自然釉がかかる。

SD476 (図版27、写真図版17・21)

須恵器無台杯(62～65)・長頸壺(66)、土師器無台椀(67)が出土している。須恵器はいずれも胎土がB群である。66は頸部のみが残り、内面にはしぼり痕が残る。SD34と接合関係にある。67はロクロナデを強く残す。

SD291 (図版28、写真図版22)

須恵器無台杯(96)・有台杯(97)、土師器鍋(98)が出土している。須恵器はいずれも胎土がB群であり、97はSK484と接合関係にある。底部は残存しないが、立ち上がりから有台杯と判断した。98は内外面にカキメが残る。

SD175 (図版28、写真図版17・22)

須恵器無台杯(92)・長頸壺(93)、土師器小甕(94)・鍋(95)が出土している。92は胎土がB群である。口縁部内面にわずかに墨が付着している。93は底部のみの出土であるが体部の立ち上がり、自然釉のかかり具合から長頸壺と判断した。高台には重ね焼き痕がある。胎土はB群である。94は口縁内部にわずかに炭化物が付着する。

SD231 (図版28、写真図版22)

須恵器大甕(99)が出土している。口縁部内面に自然釉がかかる。胎土はC群である。

SD264 (図版29～31、写真図版18・22～24・30)

須恵器無台杯(100～111)・有台杯(112～118)・杯蓋(119～122)・大甕(123・124)、土師器無台椀(125～131・137)・小甕(132～136・138・139)・長甕(140～146)・鍋(147・148)が出土している。無台杯はほとんどが胎土B群であるが、104・108はA群である。有台杯112は底部が回転糸切りで切り離されている。胎土がC群で新津丘陵産とみられる。また113・114など口径が10cm程度の小型の有台杯が多く見られる。胎土はB群である。杯蓋122は内面に墨跡を残す転用硯である。124は胎土C群の大甕である。125・126はミガキ調整のある無台椀である。127は外面に墨書記号「=」、口縁部内面に炭化物が付着する。130は内外面ロクロナデを強く残す。131は底部が静止糸切りによって切り離されている。137は硬く焼き締まった無台椀底部である。133は口縁部にスス・炭化物を付着する。145・146は体部下半にタタキメa類と内面に同心円のあて具痕a類が残る。148は板状工具で内外面ナデ調整を施した跡がわずかに残る。

SD315 (図版31、写真図版18・24)

須恵器無台杯(158)・有台杯(159)が出土している。2点とも胎土B群である。159は底部のみであるが、小ぶりの有台杯Ⅱ類と想像される。

SD329 (図版31、写真図版24)

須恵器大甕(162)、土師器小甕(160)・長甕(161)・鍋(163)が出土している。161は口縁部外面に沈線が一条めぐる。162は胎土D群の大甕である。163は口縁端部に粘土を重ね貼りしている。

SD331 (図版31、写真図版24)

須恵器無台杯(164)・有台杯(165)が出土している。いずれも胎土がB群である。165は底部が残っていないが、有台杯Ⅲ類である。

SD307 (図版 32、写真図版 24)

須恵器無台杯 (167) が出土している。器壁が薄く胎土は B 群である。

SD268 (図版 32、写真図版 18・24)

須恵器無台杯 (174・175)・長頸壺 (176)・大甕 (177) が出土している。174・175 はいずれも胎土が B 群である。176 は酸化炎焼成の長頸壺である。内面に炭化物が付着している。確認調査資料と接合した。177 は大甕の肩部分である。胎土は B 群で、外面に自然釉がかかる。

SD272 (図版 32、写真図版 25・30)

須恵器無台杯 (178・179)・有台杯 (180)、土師器無台椀 (181) が出土している。178・179 はいずれも胎土が B 群である。180 は体部下半をロクロケズリしており、墨書記号「一」が書かれている。胎土は C 群である。181 は内外面ともに摩滅しているため調整が不明である。

SD358 (図版 38、写真図版 18・29)

須恵器無台杯 (325～327)・有台杯 (328)・大甕 (331～333)、土師器無台椀 (329)・筒形土器 (330) が出土している。須恵器無台杯はいずれも胎土が B 群である。328 は口縁部のみ出土であるが、傾きから有台杯と判断した。胎土は B 群である。331 は胎土 C 群の大甕である。332・333 は頸部に波状文を持つ。332 は胎土 A 群、333 は C 群である。329 は外面にロクロナデを強く残す。内面には炭化物が付着する。330 の筒形土器は、板状工具でケズリ調整がされているが、小片のため全体像は不明である。

SD490 (図版 38、写真図版 29)

須恵器長頸壺 (334・335) が出土している。334 は長頸壺の頸部である。335 は体部下半をロクロナデしている。胎土は 334 が D 群、335 が B 群である。

d) 竪穴遺構 (SI)

SI451 (図版 24、写真図版 20)

土師器無台椀 (9)・小甕 (10)・長甕 (11・12) が出土している。9 は内面にミガキが入る。11・12 はいずれも非ロクロの長甕 A 類であるが、口縁部は 11 が垂直に伸びるのに対し、12 は「く」の字に外反する。

SI385 (図版 33～36、写真図版 19・25～27・30)

須恵器無台杯 (199～220)・有台杯 (221～223・229)・杯蓋 (224～228)・長頸壺 (230・231)・大甕 (232～235)、土師器無台椀 (236～258・266)・無台皿 (259・260)・鉢 (270)・小甕 (261～265・267～269)・長甕 (271～279)・鍋 (280～282) が出土している。須恵器無台杯はすべて胎土が B 群である。199・206・210・218・220 は底部に板目圧痕が残る。203 は底部内面に墨痕がわずかに残る。204 は底部外面にヘラ記号がある。左半分が欠損しているが「×」と推測される。221～223 は大ぶりの有台杯Ⅲ類である。221・222 は胎土 B 群、223 は C 群である。226 は内面に墨痕の残る転用碗で、胎土は B 群である。230・231 は小型の長頸壺である。胎土・色調が似ているため、同一個体の可能性がある。233 はやや厚手の大甕で胎土は C 群である。234 は頸部から口縁部にかけてタタキメが残る大甕で胎土は C 群である。236 は内面に糊圧痕が残る無台椀である。241 は小ぶりで内外面にミガキ調整の入る B 類の椀である。242 は内面に竹管痕が 2 箇所残る。247 は外面にススが付着する。249 は内外面に丁寧なミガキ調整が入り、底部も糸切り後にミガキの再調整を行っている。255・256 は内外面と底部にロクロミガキ調整が行われている。256 はさらに底部に墨書「口」がある。257 は口径 17cm 台で大ぶりの無台椀Ⅳ類である。外面にススが付着する。258 は底部外面に墨書「上」がある。259・260 の無台皿は、いずれも底部が糸切りである。260 は底部内面に赤彩の跡がわずかに残り、261 は口縁部内面に炭化物が付着する。273・274 は器壁が薄く胎土もほかの長甕と異なる。279 は口縁を外側に折り返し、さらに粘土を重ね貼りする形状の長甕である。口縁部のみ出土であるが、甌の可能性も考えられる。280・281 は内面をケズっている。

SI386 (図版 36・37、写真図版 19・27～29)

須恵器無台杯 (283～297)・有台杯 (298・299)・杯蓋 (300・301)・長頸壺 (302)・大甕 (303～305)、土師器無台椀 (306～316)・無台皿 (317・318)・小甕 (319・320)・長甕 (321・322)・鍋 (323・324) が出土している。須恵器無台杯はいずれも胎土が B 群である。283 は SI385 の出土資料と接合した。285 は内面に墨痕がみられ転用硯と考えられる。また SI385・SD490 の出土資料と接合した。287・290 には底部に板目圧痕が残る。295 は酸化炎焼成の須恵器である。301 は擬宝珠状の紐をもつ杯蓋である。胎土は A 群である。302 は底部のみの出土であるが、立ち上がりで長頸壺と判断した。また底部内面の中心に自然釉がかかっている。303 は胎土 C 群の大甕である。304・305 は同一個体の可能性があり、胎土は A 群である。309・311 は内面にミガキが残る。315 は外面にロクロミガキ調整、内面にミガキ調整の入る大ぶりの椀 IV B 類である。317 は胎土のきめ細かい無台皿である。底部まで残存していないが、傾きから皿と判断した。318 は底部が糸切りの無台皿である。321 はやや厚みのある口縁部をもつ長甕である。322 は口縁を外側に折り返す形状の長甕である。323 は内外面にカキメ調整を施し、324 は内外面ともにロクロナデである。

e) その他

Pit4 (図版 27、写真図版 21)

須恵器無台杯 (69) が出土している。底部はヘラ切りで鋭く切り離されている。

Pit480 (図版 27、写真図版 21)

土師器無台椀 (70) が出土している。胎土が精良で、やや厚めの器壁である。

Pit95 (図版 27、写真図版 21)

土師器長甕 (71・72) が出土している。72 は内外面がカキメ調整されている。

Pit338 (図版 32、写真図版 24)

須恵器無台杯 (168) が出土している。胎土は B 群である。

2) 中世遺構出土土器

日水遺跡では、中世遺構からも古代の遺物が多く出土している。古代の遺物と中世の遺物を併記する。

a) 井戸 (SE)

SE58 (図版 26、写真図版 20)

珠洲焼甕 (41)、土師器小甕 (42)・長甕 (43・44) が出土している。41 は外面平行タタキで成形されている。

SE281 (図版 32、写真図版 24)

土師器無台椀 (169)・鍋 (170) が出土している。169 は体部下半をロクロケズリしている。SX287 と接合関係にある。170 は摩滅していて調整が不明である。

b) 溝 (SD)

SD16 (図版 26、写真図版 20)

須恵器有台杯 (47)、土師器無台椀 (48) が出土している。47 の有台杯は底径が大きいことから、有台杯 III 類に属するであろう。胎土は B 群である。

SD17 (図版 26、写真図版 20)

土師器小甕 (49)・長甕 (50) が出土している。50 は内外面にカキメがうすく残る。

SD34 (図版 26、写真図版 20)

須恵器無台杯 (40) が出土している。その他に須恵器長頸壺が出土しているが、SD476 出土の長頸壺 (66) と接合したため、そちらに図示されている。また、図示していないが、珠洲焼の甕が 1 点出土している。

SD93 (図版 26、写真図版 21)

須恵器有台杯 (56)、土師器無台椀 (57)・鍋 (58) が出土している。56 は口縁部破片であるが、立ち上がりから有台杯と判断した。57 は内外面にミガキ調整が入る土師器椀 III B 類である。58 は外面に平行タタキメ c

類で叩き出されている。なお図示していないが、珠洲焼甕の体部破片が1点出土している。

3) 包含層出土遺物 (図版 38、写真図版 18・29)

土師器甕 (336)、須恵器短頸壺 (337)、土師器小甕 (338)・長甕 (339-a・b) が出土している。336 は内外面ハケメ調整の甕である。体部が球胴になるタイプのもので、日水遺跡ではこの1点のみであるが、周辺の中の山遺跡でも確認されている。337 は肩部にタタキメの残る短頸壺で胎土はC群である。338 は小甕I類である。339-a・b は内外面ハケメ調整の長甕A類である。ハケメ調整の後、板状工具でケズリを入れている。

4) 土製品・石製品・鉄製品・鍛冶関連遺物・古銭 (図版 39、写真図版 30)

a) 土 製 品 (340・341)

340 は小型で管状の土錘である。341 はふいごの羽口である。狭端部を残すもので、溶着物が付く。

b) 石 製 品

砥 石 (342～346) 342 は欠損しているが、やや中型の置き砥石の可能性はある。それ以外は全て小型の持ち砥石と考えられる。石材は346が安山岩で、それ以外は凝灰岩である。

磨製石斧 (347) 閃緑岩製の磨製石斧刃部片である。身及び基部は古く欠損する。素材は不明であるが、右側縁には敲打痕がわずかに残ることから、素材を敲打によって成形したことがわかる。表裏面ともに身部と刃部の二段階の研ぎ分けが観察される。両側縁は並行で敲打の後に、磨きを加えられている。側面形は裏面側に刃部が偏る片刃形態である。さらに表裏面の研ぎ分けによって合わせ口状になる、いわゆる「蛤刃」となっている。

小 礫 (348～350) 直径2cm前後の円形で扁平な礫である。348・349はいずれも乳白色であり、350は黒色である。双六子または基石に用いられたと考えられる。近隣では山三賀II遺跡・釈迦堂遺跡・桑ノ口遺跡に出土例がある。

c) 鉄 製 品

刀 子 (351・352) いずれもSE126からの出土である。351は一部欠損しているものの、切先部分と考えられる。352は刀身部と柄部分である。茎には目釘孔がある。351と同一個体であろう。

d) 鍛冶関連遺物 (353・354)

353はSD16から、354はSD358からの出土である。2点とも形状から椀形滓と考えられる。

e) 古 銭 (355)

攪乱中より1点のみ出土している。「寛永通寶」か。

5) 木 製 品 (図版 40～42、写真図版 31・32)

SE133 (356・357)

曲物 (356) と底板 (357) が出土している。356の曲物は直径約54cm、高さ40cmを測り、樹種同定によりスギ材と判明した。底板を抜いた状態で水溜として使用されていた。内面には縦方向のケビキが入られ、円形に曲げられた後、樺紐により綴じられている。その後、下端が籬で留められている。357の底板は半分欠損しており、曲物の傾きを支えるように添えられていた。底板の表面には加工痕が残っているほか、側面には木釘で結合されていた穴が4箇所残っている。

SE298 (359～370)

曲物 (359～363)、板材 (364～370) が出土している。曲物は円筒形の曲物4点 (359～362) と隅丸長方形の曲物1点 (363) であり、いずれも底板がなく、水溜として使用されていた。樹種同定の結果359～362はスギ、363はヒノキであった。359は円筒形の曲物であるが、綴じ部分を含み一部破損している。内面には縦方向のケビキが入っている。360は円筒形の曲物である。内面には縦方向のケビキが入り、円形に曲げられた後、樺紐により2列にわたって綴じられている。さらに上下端が籬によって留められている。下縁には釘孔が等間隔にめぐっている。361は円筒形の曲物である。上部を一部欠損している。内面には縦方向と斜め方向

のケビキが入り、円形に曲げられた後、樺紐により綴じられている。その後、下端が箍によって留められている。下縁と中ほどに直径約 8mm の丸孔がある。362 は円筒形の曲物である。上部を一部欠損している。内面には縦方向のケビキが入り、円形に曲げられた後、樺紐によって綴じられている。中ほどに 4mm 角の角孔が縦に 3 列並んで残っている。363 は平面形が隅丸長方形の曲物である。内面の湾曲部に縦方向のケビキが入れられ隅丸長方形に曲げられた後、樺紐により 2 列にわたって綴じられている。このうち 1 列は中ほどのみを綴じている。

井戸側部材は 7 枚の板材がある (364 ~ 370)。板材はそれぞれ端部に孔があるなど、加工痕を残している。364 は両端部を欠損する板材である。腐敗により明瞭な加工痕が残っていないが、表面には 5cm ほどの線状の工具痕が横方向に残る。365 は板材である。端部が鋸で切断された平坦な面が残り、さらに下端部がノミのような工具でケズられている。また、表面は鉋により平らに調整されているほか、5cm ほどの線状の工具痕が横方向に残る。366 ~ 370 の板材はいずれも腐敗により端部が欠損し、表面も年輪に沿った凹凸が生じている。366・368 には孔が、369 にはホゾと見られる加工が施されている。

Pit135 (358)

木製品 (358) が出土している。中央に柄の入るような孔があいていることから、農具等の可能性が考えられる。

第VI章 自然科学分析

(株) 古環境研究所

第1節 日水遺跡の土層

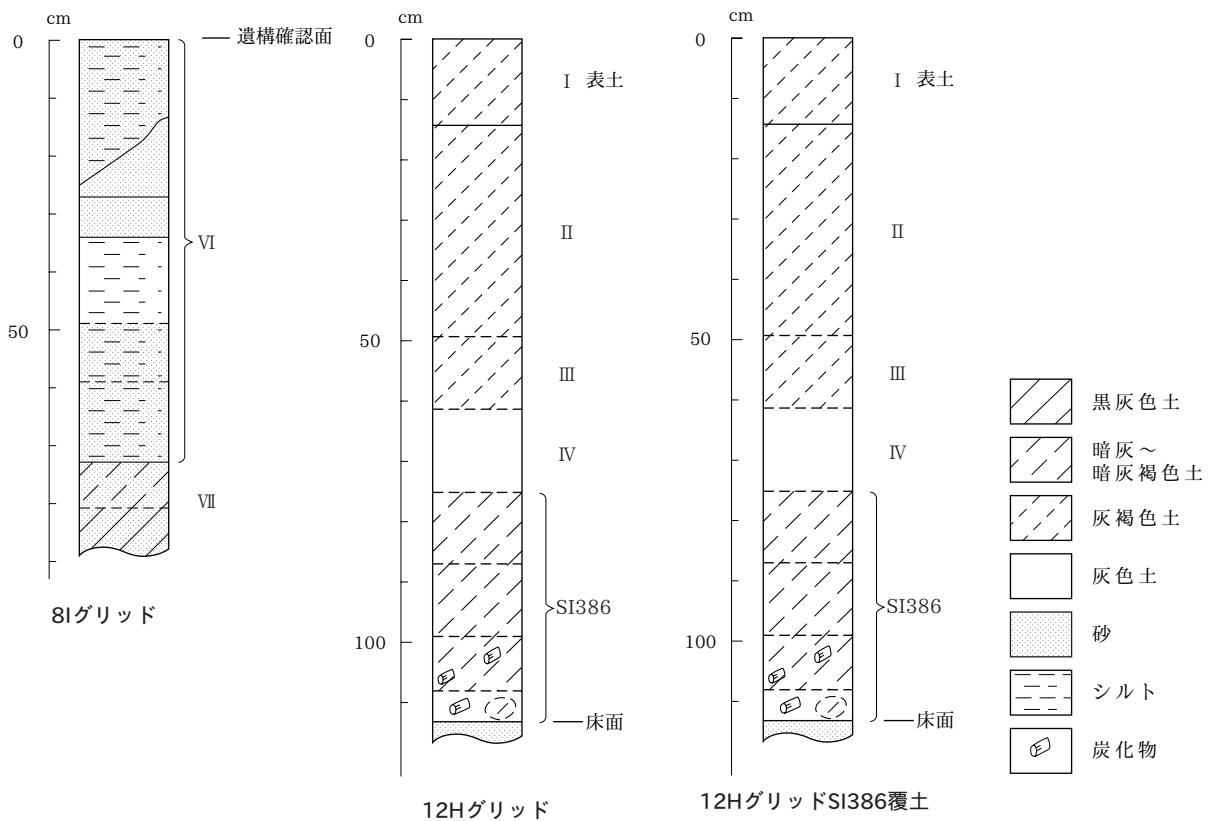
A はじめに

新潟市日水遺跡では、形成環境が不明な土層や遺構が認められた。そこで土層断面から採取された試料を対象に、植物珪酸体、花粉、珪藻など微化石分析を行って、古環境および遺構の構築材などに関する分析を行うことになった。試料採取が行われた地点は、8Iグリッド、12Hグリッド、SI386(12Hグリッド)の3地点である。また古代の井戸と推定されているSE133(2Gグリッド)において、発掘調査担当者により採取された試料(11層)についても、分析を行った。

B 土層の層序

1) 8Iグリッド

8Iグリッドでは、下位より黒灰色砂層(層厚8cm以上)、暗灰色砂層(層厚8cm)、灰色砂質シルト層(層厚14cm)、層理が発達した灰色砂質シルト層(層厚10cm)、灰色シルト層(層厚15cm)、わずかに褐色をおびた灰色砂層(層厚8cm)、灰色砂層(層厚13cm)、より粒径が粗い灰色砂層(層厚13cm)、灰色シルト質砂層層(層厚



第8図 分析地点土層柱状図

24cm) が認められた (第8図)。これらのうち最上位の土層の上面が、古代の遺構の確認面となっている。

2) 12H グリッド

12H グリッドでは、下位より暗灰褐色砂層 (層厚 9cm 以上)、より色調が暗い暗灰色砂層 (層厚 18cm)、砂混じり灰色シルト層 (層厚 26cm)、灰色シルト層のブロックを多く含む灰褐色土 (層厚 12cm)、黄灰色シルト層ブロックを含む灰褐色土 (層厚 9cm)、炭化物混じり灰褐色表土 (層厚 37cm) が認められる (第7図)。

3) SI386 (12H グリッド)

SI386 の覆土は、下位より炭化物や暗灰色ブロック混じり灰色土 (層厚 5cm)、炭化物を多く含む暗灰色土 (層厚 9cm)、黒褐色土 (層厚 12cm)、暗灰褐色土 (層厚 12cm)、鉄分を多く含む橙灰褐色土 (層厚 14cm)、より色調が暗い灰褐色土 (層厚 12cm)、灰褐色土 (層厚 35cm)、灰褐色表土 (層厚 14cm) からなる (第8図)。

第2節 植物珪酸体分析

A はじめに

植物珪酸体は、植物の細胞内に珪酸 (SiO_2) が蓄積したものであり、植物が枯れたあともガラス質の微化石 (プラント・オパール) となって土壤中に半永久的に残っている。植物珪酸体分析は、この微化石を遺跡土壌などから検出して同定・定量する方法であり、イネをはじめとするイネ科栽培植物の同定および古植生・古環境の推定などに応用されている [杉山 2000]。

B 試料と分析方法

分析試料は、8I グリッドおよび SI386 (12H グリッド) から採取された計 2 点である。試料採取箇所を分析結果の柱状図に示す。

植物珪酸体の抽出と定量は、ガラスビーズ法 [藤原 1976] を用いて、次の手順で行った。

- (1) 試料を 105℃ で 24 時間乾燥 (絶乾)
- (2) 試料約 1g に対し直径約 40 μm のガラスビーズを約 0.02g 添加 (電子分析天秤により 0.1mg の精度で秤量)
- (3) 電気炉灰化法 (550℃・6 時間) による脱有機物処理
- (4) 超音波水中照射 (300W・42KHz・10 分間) による分散
- (5) 沈底法による 20 μm 以下の微粒子除去
- (6) 封入剤 (オイキット) 中に分散してプレパラート作成
- (7) 検鏡・計数

同定は、400 倍の偏光顕微鏡下で、おもにイネ科植物の機動細胞に由来する植物珪酸体を対象として行った。計数は、ガラスビーズ個数が 400 以上になるまで行った。これはほぼプレパラート 1 枚分の精査に相当する。試料 1g あたりのガラスビーズ個数に、計数された植物珪酸体とガラスビーズ個数の比率をかけて、試料 1g 中の植物珪酸体個数を求めた。

また、おもな分類群についてはこの値に試料の仮比重 (1.0 と仮定) と各植物の換算係数 (機動細胞珪酸体 1 個あたりの植物体乾重、単位: 10 - 5g) をかけて、単位面積で層厚 1cm あたりの植物体生産量を算出した。これにより、各植物の繁茂状況や植物間の占有割合などを具体的にとらえることができる。イネの換算係数は 2.94、ヨシ属 (ヨシ) は 6.31、ススキ属 (ススキ) は 1.24、チマキザサ節・チシマザサ節は 0.75、ミヤコザサ節は 0.30 である [杉山 2000]。タケ亜科については、植物体生産量の推定値から各分類群の比率を求めた。

C 分析結果

1) 分類群

分析試料から検出された植物珪酸体の分類群は以下のとおりである。これらの分類群について定量を行い、その結果を第1表および第9図、第10図に示した。主要な分類群について顕微鏡写真を示す。

〔イネ科〕 イネ、キビ族型、ヨシ属、ススキ属型（おもにススキ属）、ウシクサ族A（チガヤ属など）

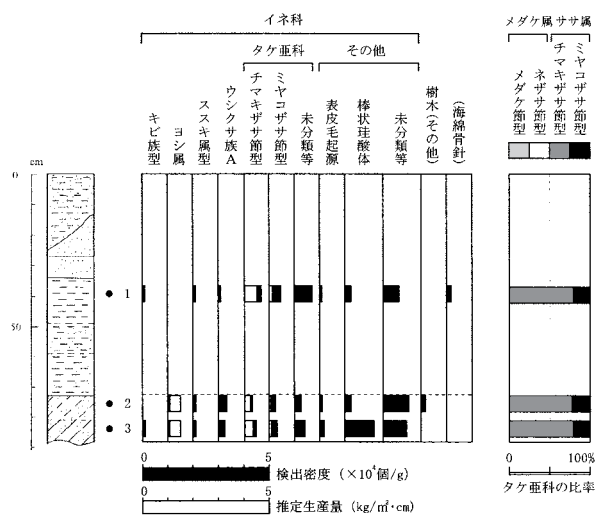
〔イネ科-タケ亜科〕 チマキザサ節型（ササ属チマキザサ節・チシマザサ節など）、ミヤコザサ節型（ササ属ミヤコザサ節など）、未分類等

〔イネ科-その他〕 表皮毛起源、棒状珪酸体（おもに結合組織細胞由来）、茎部起源、未分類等

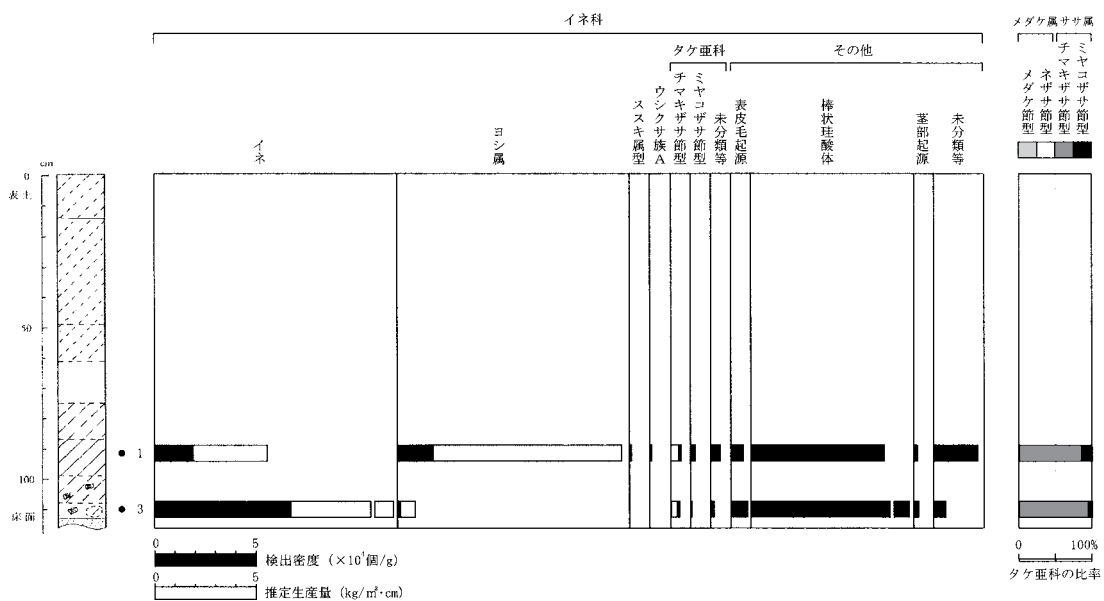
〔樹木〕 その他

第1表 日水遺跡における植物珪酸体分析結果

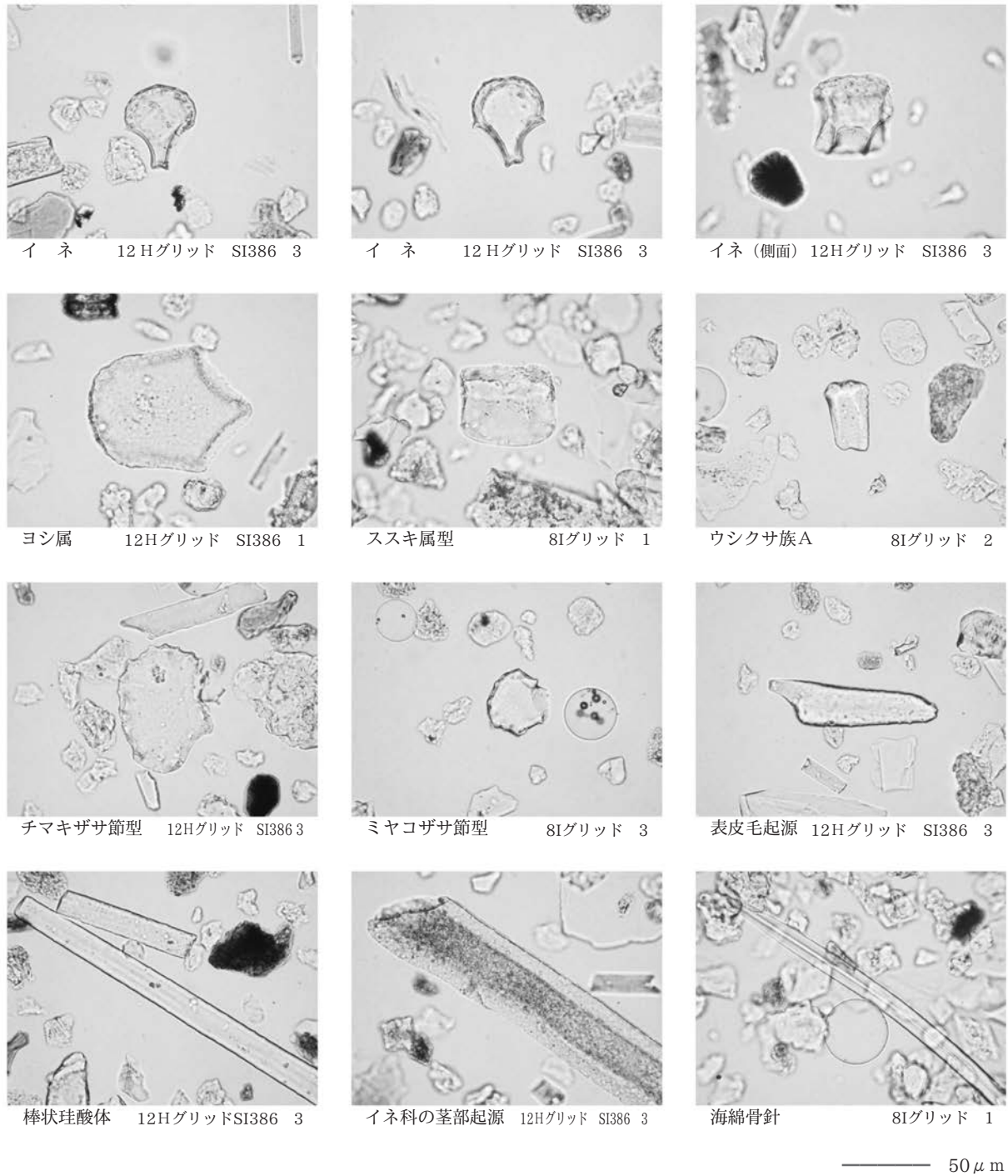
分類群	学名	81グリッド			12Hグリッド	
		1	2	3	1	3
イネ科						
Gramineae (Grasses)						
イネ	<i>Oryza sativa</i>				194	689
キビ族型	Panicaceae type	7		8		
ヨシ属	<i>Phragmites</i>		8	8	179	14
ススキ属型	<i>Miscanthus</i> type	7	8	8		7
ウシクサ族A	Andropogoneae A type	7	30	23		7
タケ亜科						
Bambusoideae (Bamboo)						
チマキザサ節型	<i>Sasa</i> sect. <i>Sasa</i> etc.	67	30	45	52	43
ミヤコザサ節型	<i>Sasa</i> sect. <i>Crassinodi</i>	45	23	30	22	7
未分類等	Others	67	23	38	45	14
その他のイネ科						
Others						
表皮毛起源	Husk hair origin	7	8	15	60	79
棒状珪酸体	Rod-shaped	22	23	113	655	1544
茎部起源	Stern origin				15	22
未分類等	Others	60	98	90	216	57
樹木起源	Arboreal					
その他	Others		15			
(海綿骨針)	Sponge	15				
植物珪酸体総数	Total	291	264	377	1451	2470
おもな分類群の推定生産量 (単位: kg/m ² ・cm) : 試料の仮比重を1.0と仮定して算出						
イネ	<i>Oryza sativa</i>				5.69	20.26
ヨシ属	<i>Phragmites</i>		0.48	0.48	11.27	0.91
ススキ属型	<i>Miscanthus</i> type	0.09	0.09	0.09	0.09	
チマキザサ節型	<i>Sasa</i> sect. <i>Sasa</i> etc.	0.50	0.23	0.34	0.39	0.32
ミヤコザサ節型	<i>Sasa</i> sect. <i>Crassinodi</i>	0.13	0.07	0.09	0.07	0.02
タケ亜科の比率 (%)						
メダケ節型 <i>Pleoblastus</i> sect. <i>Nippon</i>						
ネザサ節型 <i>Pleoblastus</i> sect. <i>Nezasa</i>						
チマキザサ節型	<i>Sasa</i> sect. <i>Sasa</i> etc.	79	77	79	85	94
ミヤコザサ節型	<i>Sasa</i> sect. <i>Crassinodi</i>	21	23	21	15	6



第9図 81グリッドにおける植物珪酸体分析結果



第10図 12Hグリッド SI386覆土における植物珪酸体分析結果



第11図 植物珪酸体(プラント・オパール)の顕微鏡写真

2) 植物珪酸体の検出状況

(1) 8I グリッド (第9図)

黒灰色砂層 (試料3) と暗灰色砂層 (試料2) では、ヨシ属、ススキ属型、ウシクサ族 A、チマキザサ節型、ミヤコザサ節型などが検出されたが、いずれも少量である。灰色シルト層 (試料1) でも、同様の分類群 (ヨシ属を除く) が検出されたが、いずれも少量である。

(2) SI386 (12H グリッド) (第10図)

床面頂上の灰色土 (試料3) では、イネおよび棒状珪酸体が極めて多量に検出され、ヨシ属、チマキザサ節型、ミヤコザサ節型なども検出された。イネの密度は 68,900 個/g と極めて高い値であり、稲作跡の検証や探査を行う場合の判断基準としている 5,000 個/g を大きく上回っている。棒状珪酸体は、大半がイネの茎部の結合組織細胞に由来するものと考えられる。その上位の黒褐色土 (試料1) では、イネ、ヨシ属、棒状珪酸体が多量に検出され、チマキザサ節型、ミヤコザサ節型なども検出された。おもな分類群の推定生産量によると、試料3ではイネが圧倒的に卓越しており、試料1ではイネおよびヨシ属が優勢となっている。

D 植物珪酸体分析から推定される植生と環境

1) 8I グリッド

クロスナとされる黒灰色砂層および暗灰色砂層の堆積当時は、ススキ属やチガヤ属、ササ属 (チマキザサ節やミヤコザサ節など)、およびヨシ属などは少量見られるものの、何らかの原因でイネ科植物の生育にはあまり適さない環境であったと推定される。上位の灰色シルト層でも、おおむね同様の状況であったと考えられる。

2) SI386 (12H グリッド)

古代とされる SI386 の床面直上では、イネが極めて多量に検出され、その上位層ではイネおよびヨシ属が多量に検出された。このことから、同遺構の床面直上では何らかの形で大量のイネ藁が利用され、その上位層でもイネ藁やヨシ属の茎葉が利用されていたと推定される。これらの用途としては、建築材、屋根材、敷物、燃料などが考えられる。

第3節 花粉分析

A はじめに

花粉分析は、一般に低湿地の堆積物を対象とした比較的広域な植生・環境の復原に応用されており、遺跡調査においては遺構内の堆積物などを対象とした局地的な植生の推定も試みられている。花粉などの植物遺体は、水成堆積物では保存状況が良好であるが、乾燥的な環境下の堆積物では分解されて残存していない場合もある。

B 試料と分析方法

分析試料は、8I グリッドおよび SE133 (2G グリッド) から採取された計 4 点である。試料採取箇所を分析結果の柱状図に示す。

花粉の分離抽出は、中村 (1973) の方法をもとに、以下の手順で行う。

- (1) 0.5 %リン酸三ナトリウム (12 水) 溶液を加え 15 分間湯煎する。
- (2) 水洗処理の後、0.5mm の篩で礫などの大きな粒子を取り除き、沈澱法で砂粒を除去
- (3) 25 %フッ化水素酸溶液を加えて 30 分放置
- (4) 水洗処理の後、氷酢酸によって脱水し、アセトリシス処理 (無水酢酸 9 : 濃硫酸 1 のエルドマン氏液を加え 1 分間湯煎) を施す

第2表 日水遺跡における花粉分析結果

分類群		8 I グリッド			SE133
学名	和名	1	2	3	11層
Arboreal pollen	樹木花粉				
<i>Tsuga</i>	ツガ属			1	
<i>Pinus</i> subgen. <i>Diploxylon</i>	マツ属複雑維管束亜属	1	2	13	
<i>Cryptomeria japonica</i>	スギ	3	6	15	9
<i>Sciadopitys verticillata</i>	コウヤマキ		1		
Taxaceae-Cephalotaxaceae-Cupressaceae	イチイ科-イヌガヤ科-ヒノキ科				1
<i>Salix</i>	ヤナギ属	8			1
<i>Pterocarya rhoifolia</i>	サワグルミ	1	1		
<i>Alnus</i>	ハンノキ属	37	284	172	7
<i>Carpinus-Ostrya japonica</i>	クマシデ属-アサダ	2		3	
<i>Castanea crenata</i>	クリ	8	3	8	4
<i>Fagus</i>	ブナ属	1	2		
<i>Quercus</i> subgen. <i>Lepidobalanus</i>	コナラ属コナラ亜属	2	29	9	3
<i>Quercus</i> subgen. <i>Cyclobalanopsis</i>	コナラ属アカガシ亜属				1
<i>Ulmus-Zelkova serrata</i>	ニレ属-ケヤキ	1	2	2	1
<i>Ilex</i>	モチノキ属		2		
<i>Aesculus turbinata</i>	トチノキ	4	1	5	1
<i>Vitis</i>	ブドウ属		1	1	
<i>Tilia</i>	シナノキ属	2			
Arboreal・Nonarboreal pollen	樹木・草本花粉				
Moraceae-Urticaceae	クワ科-イラクサ科	7	1	1	150
Araliaceae	ウコギ科		3		
Nonarboreal pollen	草本花粉				
Gramineae	イネ科	6	8	14	98
<i>Oryza type</i>	イネ属型				5
Cyperaceae	カヤツリグサ科	4		1	9
<i>Fagopyrum</i>	ソバ属				2
Chenopodiaceae-Amaranthaceae	アカザ科-ヒユ科	1			13
Caryophyllaceae	ナデシコ科				2
Cruciferae	アブラナ科				45
<i>Vigna</i>	ササゲ属				1
Apiioideae	セリ亜科		2		2
Solanaceae	ナス科				3
Lactucoeidae	タンポポ亜科	1		1	14
Asteroideae	キク亜科			6	2
<i>Artemisia</i>	ヨモギ属	14	9	14	64
Fern spore	シダ植物孢子				
Monolate type spore	単条溝孢子	14	25	53	17
Trilate type spore	三条溝孢子	6	4	31	4
Arboreal pollen	樹木花粉	70	334	229	28
Arboreal・Nonarboreal pollen	樹木・草本花粉	7	4	1	150
Nonarboreal pollen	草本花粉	26	19	36	260
Total pollen	花粉総数	103	357	266	438
Pollen frequencies of 1cm ³	試料1cm ³ 中の花粉密度	4.6 ×10 ⁻²	8.2 ×10 ⁻³	2.5 ×10 ⁻³	1.1 ×10 ⁻⁴
Unknown pollen	未同定花粉	14	17	16	11
Fern spore	シダ植物孢子	20	29	84	21
Helminth eggs	寄生虫卵	(-)	(-)	(-)	(-)
Digestion rimeins	明らかな消化残渣	(-)	(-)	(-)	(-)
Charcoal fragments	微細炭化物	(-)	(-)	(-)	(-)

- (5) 再び水酢酸を加えて水洗処理
- (6) 沈渣に石炭酸フクシンを加えて染色し、グリセリンゼリーで封入してプレパラート作成
- (7) 検鏡・計数

検鏡は生物顕微鏡によって 300 ~ 1000 倍で行う。花粉の同定は、島倉 (1973) および中村 (1980) をアトラスとして、所有の現生標本との対比で行う。結果は同定レベルによって、科、亜科、属、亜属、節および種の階級で分類し、複数の分類群にまたがるものはハイフン (-) で結んで示す。イネ属については、中村 (1974・1977) を参考にして、現生標本の表面模様・大きさ・孔・表層断面の特徴と対比して同定しているが、個体変化や類似種もあることからイネ属型とした。

C 分析結果

1) 分類群

出現した分類群は、樹木花粉 18、樹木花粉と草本花粉を含むもの 2、草本花粉 13、シダ植物孢子 2 形態の計 35 である。分析結果を第 2 表に示し、花粉数が 100 個以上計数された試料については花粉総数を基数とする花粉ダイアグラムを示した。主要な分類群について顕微鏡写真を示す。以下に出現した分類群を記す。

〔樹木花粉〕 ツガ属、マツ属複雑管束亜属、スギ、コウヤマキ、イチイ科-イヌガヤ科-ヒノキ科、ヤナギ属、サワグルミ、ハンノキ属、クマシデ属-アサダ、クリ、ブナ属、コナラ属コナラ亜属、コナラ属アカガシ亜属、ニレ属-ケヤキ、モチノキ属、トチノキ、ブドウ属、シナノキ属

〔樹木花粉と草本花粉を含むもの〕 クワ科-イラクサ科、ウコギ科

〔草本花粉〕 イネ科、イネ属型、カヤツリグサ科、ソバ属、アカザ科-ヒユ科、ナデシコ科、アブラナ科、ササゲ属、セリ亜科、ナス科、タンポポ亜科、キク亜科、ヨモギ属

〔シダ植物孢子〕 単条溝孢子、三条溝孢子

2) 花粉群集の特徴

(1) 8I グリッド (第 12 図)

黒灰色砂層 (試料 3) および暗灰色砂層 (試料 2) では、樹木花粉の占める割合が草本花粉より高く、シダ植物孢子もやや多い。樹木花粉では、ハンノキ属が卓越し、コナラ属コナラ亜属、スギ、マツ属複雑管束亜属などが伴われる。ハンノキ属は生態上からハンノキと考えられる。草本花粉では、ヨモギ属、イネ科、キク亜科などが低率に出現する。灰色シルト層 (試料 1) では、下位より花粉密度が低く、樹木花粉の占める割合がやや低くなる。樹木花粉では、ハンノキ属が減少し、ヤナギ属、クリ、トチノキなどが伴われる。草本花粉では、ヨモギ属、イネ科、カヤツリグサ科などが出現する。

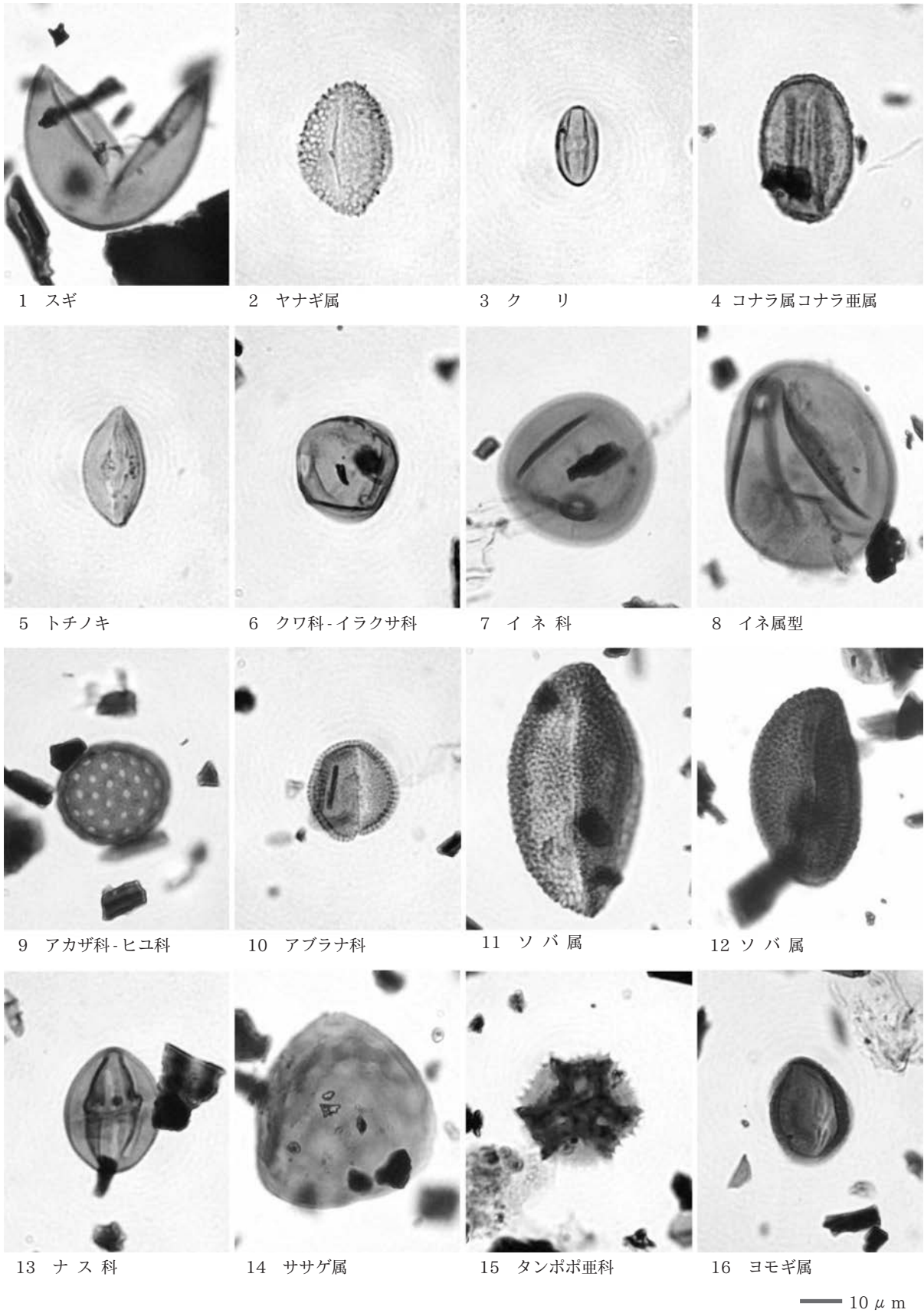
(2) SE133 (2G グリッド) (第 13 図)

11 層では樹木花粉より草本花粉の占める割合が高く、樹木花粉と草本花粉を含むクワ科-イラクサ科が約 35 パーセントを占める。草本花粉では、イネ科、ヨモギ属、アブラナ科が多く、アカザ科-ヒユ科、タンポポ亜科、カヤツリグサ科などが伴われる。また、イネ属型、ソバ属、ササゲ属が認められる。

D 花粉分析から推定される植生と環境

1) 8I グリッド

クロスナとされる黒灰色砂層および暗灰色砂層の堆積当時は、おもにハンノキ林が分布する比較的湿潤な環境であったと考えられ、部分的にマツ属やスギなども分布していたと推定される。また、林縁などにはイネ科、ヨモギ属、キク亜科などが生育していたと考えられる。上位の灰色シルト層の時期には、クリ、ヤナギ、トチノキなどの樹木、およびヨモギ属、イネ科、カヤツリグサ科などの草地がやや拡大したと考えられ、ハンノキ林は縮小したと推定される。



第 14 図 日水遺跡の花粉

遺跡から出土したものについては木材の利用状況や流通を探る手がかりとなる。

B 試料と分析方法

試料は、日水遺跡から出土した曲物などの6点の木材(試料 No.1 ~ No.6)である。試料の詳細を分析結果表に示す。

カミソリを用いて新鮮な横断面(木口と同義)、放射断面(柾目)、接線断面(板目)の基本三断面の切片を作製し、生物顕微鏡によって40~1000倍で観察した。同定は、解剖学的形質および現生標本との対比によって行った。

C 分析結果

第3表に結果を示し、主要な分類群の顕微鏡写真を示す。以下に同定根拠となった特徴を記す。

スギ *Cryptomeria japonica* D.Don スギ科

仮道管、樹脂細胞および放射柔細胞から構成される針葉樹材である。横断面：早材から晩材への移行はやや急で、晩材部の幅が比較的広い。樹脂細胞が見られる。放射断面：放射柔細胞の分野壁孔は典型的なスギ型で、1分野に2個存在するものがほとんどである。接線断面：放射組織は単列の同性放射組織型である。樹脂細胞が見られる。

以上の形質よりスギに同定される。スギは本州、四国、九州、屋久島に分布する。日本特産の常緑高木で、高さ40m、径2mに達する。材は軽軟であるが強靱で、広く用いられる。

ヒノキ *Chamaecyparis obtusa* Endl. ヒノキ科

仮道管、樹脂細胞および放射柔細胞から構成される針葉樹材である。横断面：早材から晩材への移行はゆるやかで、晩材部の幅はきわめて狭い。樹脂細胞が見られる。放射断面：放射柔細胞の分野壁孔はヒノキ型で1分野に2個存在するものがほとんどである。接線断面：放射組織は単列の同性放射組織型である。樹脂細胞が見られる。

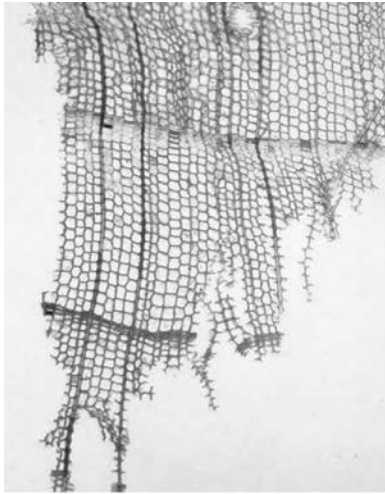
以上の形質よりヒノキに同定される。ヒノキは福島県以南の本州、四国、九州、屋久島に分布する。日本特産の常緑高木で、通常高さ40m、径1.5mに達する。材は木理通直、肌目緻密で強靱、耐朽、耐湿性も高い。良材であり、建築など広く用いられる。

D 所見

分析の結果、曲物などの試料 No.1 ~ No.5 はスギ、試料 No.6 はヒノキと同定された。曲物類には、一般にヒノキやスギが用いられるが、西南日本ではヒノキ、日本海側や東海のスギ林帯ではスギが多く用いられる傾向がある。

第3表 日水遺跡における樹種同定結果

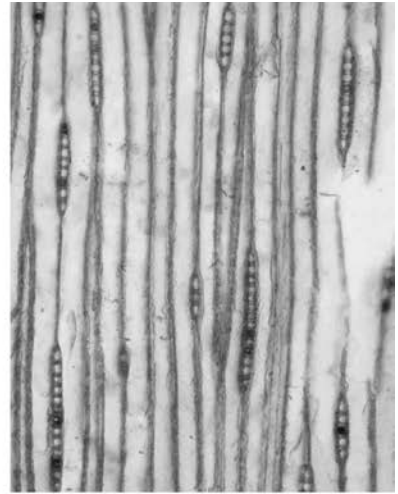
試料		結果(学名/和名)	
No.1	SE133 曲物	<i>Cryptomeria japonica</i> D.Don	スギ
No.2	SE298 円形 1段目	<i>Cryptomeria japonica</i> D.Don	スギ
No.3	SE298 円形 2段目	<i>Cryptomeria japonica</i> D.Don	スギ
No.4	SE298 円形 3段目	<i>Cryptomeria japonica</i> D.Don	スギ
No.5	SE298 4段目	<i>Cryptomeria japonica</i> D.Don	スギ
No.6	SE298 隅丸長方形	<i>Chamaecyparis obtusa</i> Endl.	ヒノキ



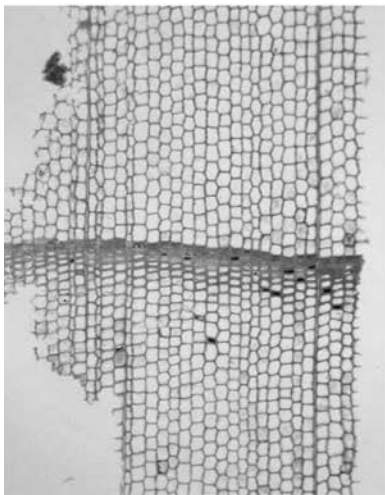
横断面 ————— : 0.5mm
1. No.6 SE298 隅丸長方形



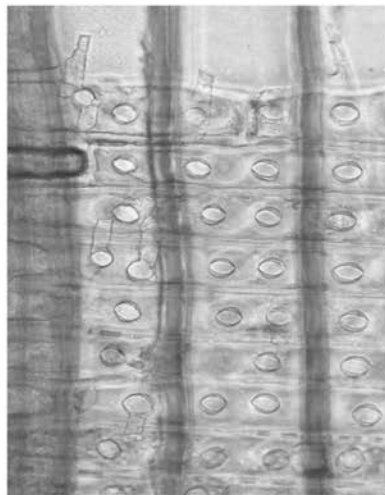
放射断面 ————— : 0.05mm
ヒノキ



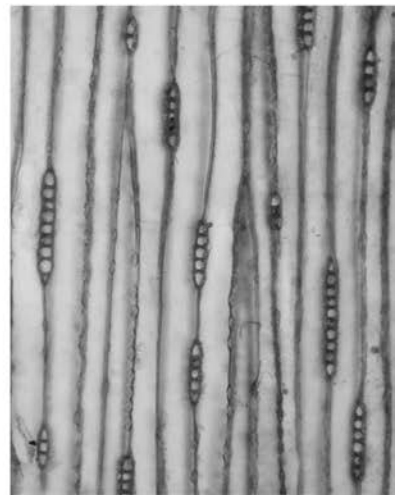
接線断面 ————— : 0.2mm



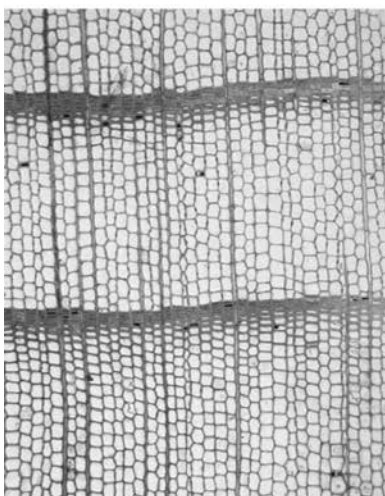
横断面 ————— : 0.5mm
2. No.3 SE298 円形 2段目



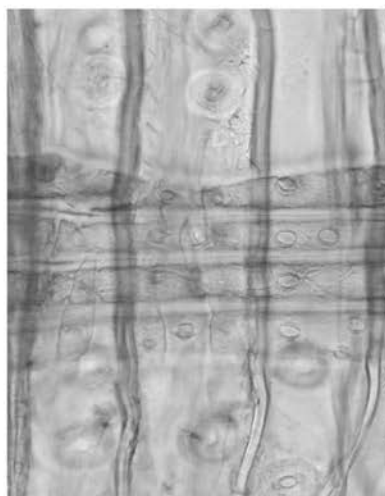
放射断面 ————— : 0.05mm
スギ



接線断面 ————— : 0.2mm



横断面 ————— : 0.5mm
3. No.4 SE298 円形 3段目



放射断面 ————— : 0.05mm
スギ



接線断面 ————— : 0.2mm

第 15 図 日水遺跡の木材

文 献

- 杉山 真二 2000 「植物珪酸体 (プラント・オパール)」『考古学と植物学』 同成社 p.189-213
- 藤原 宏志 1976 「プラント・オパール分析法の基礎的研究 (1) - 数種イネ科栽培植物の珪酸体標本と定量分析法 -」
『考古学と自然科学』 9 p.15-29
- 藤原宏志・杉山真二 1984 「プラント・オパール分析法の基礎的研究 (5) - プラント・オパール分析による水田址の探
査 -」『考古学と自然科学』 17 p.73-85
- 金原 正明 1993 「花粉分析法による古環境復原」『新版古代の日本第 10 巻 古代資料研究の方法』 角川書店 p.248-
262
- 島倉巳三郎 1973 「日本植物の花粉形態」『大阪市立自然科学博物館収蔵目録第 5 集』 p.60
- 中村 純 1973 『花粉分析』 古今書院 p.82-110
- 中村 純 1974 「イネ科花粉について、とくにイネ (*Oryza sativa*) を中心として」『第四紀研究』 13 p.187-193
- 中村 純 1977 「稲作とイネ花粉」『考古学と自然科学』 第 10 号 p.21-30
- 中村 純 1980 「日本産花粉の標徴」『大阪自然史博物館収蔵目録第 13 集』 p.91p
- 佐伯浩・原田浩 1985 針葉樹材の細胞。木材の構造、文永堂出版、p.20-48.
- 佐伯浩・原田浩 1985 広葉樹材の細胞。木材の構造、文永堂出版、p.49-100.
- 島地謙・伊東隆夫 1988 日本の遺跡出土木製品総覧、雄山閣、p.296
- 山田 昌久 1993 日本列島における木質遺物出土遺跡文献集成、植生史研究特別第 1 号、植生史研究会、p.242

第Ⅶ章 総 括

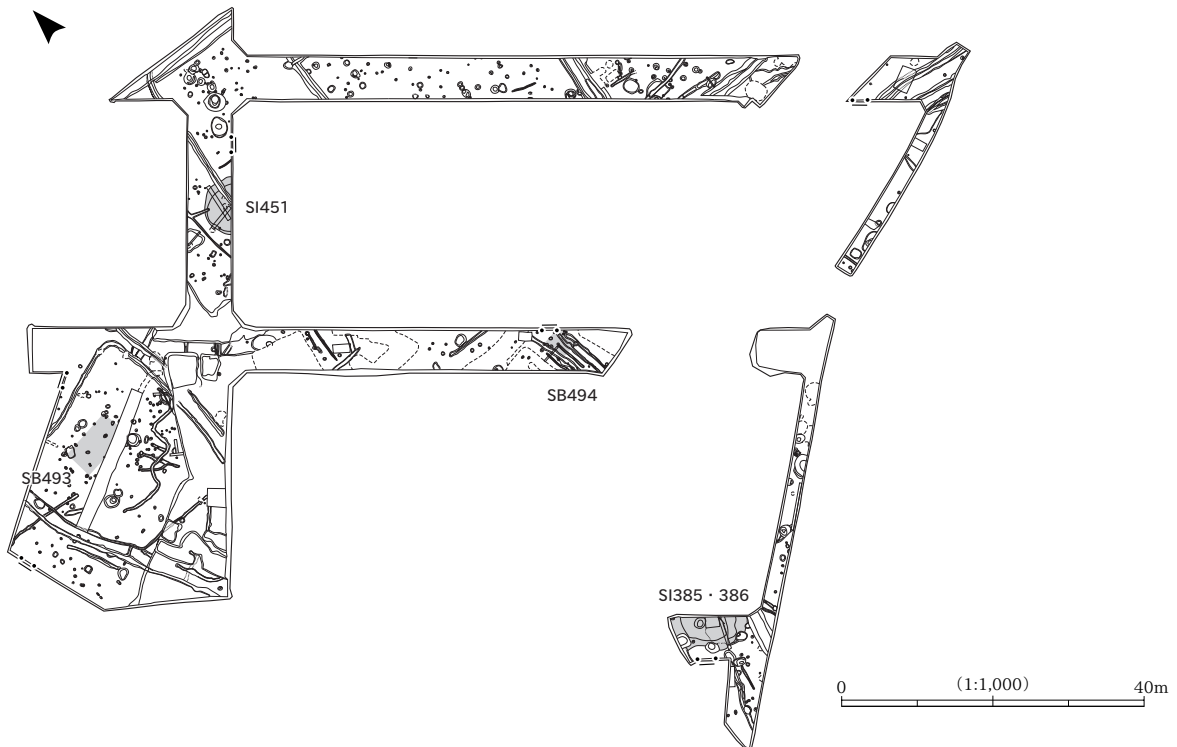
第1節 遺 構

A 住 居

日水遺跡では掘立柱建物が2棟 (SB493・494)、竪穴遺構が3棟 (SI385・386・451) 確認されている。これらの遺構は、出土遺物から9世紀後半 (春日編年Ⅵ1・2期) に属す。

SB493とSB494はいずれも東西方向に主軸を持つ。SB493は2間×4間の束柱を持たない形態の掘立柱建物である。一部を試掘坑に切られているものの、面積はおよそ30m²あることから、居住用の掘立柱と考えると差し支えないだろう。SB494は推定4間×4間の総柱建物である。一部が調査区外に延びるため、正確さを欠くが面積は25m²程度と考えられる。また、柱穴の径・深さもそれほど大きくないことから、倉庫としての機能が考えられる。

次に竪穴遺構であるが、いずれも遺構が調査区外に延び、全体像がつかめないうえ、カマド等住居に付属する施設が認められなかった。しかしながら、平坦な底面と30cm以上の深度が平均してあることから、住居と判断した。また、SI386では自然科学分析の結果、多量のイネ植物珪酸体が検出され、建築材としての稲藁の存在が想定されている。さらに、出土遺物においても土師器無台皿など希少な器種が出土しており、ただの土坑とは考えにくい。SI385はSI386を切る竪穴遺構で、全体像がわからないが面積は30m²以上と考えられる。出土遺物は全遺構中最も多く、SI386同様土師器無台皿の出土があるほか、粉痕の付いた土器が出土している。またSI385内には井戸 (SE387) があるなど、特殊性も感じられる。両遺構は切り合い関係にあるが、出土する遺物に明確な時期差は見られないことから、短時間での建替えが想定される。SI451では、出土した土師器



第16図 日水遺跡遺構構成図

長甕のほとんどが、非ロクロによる成形であったが、亀田砂丘周辺の遺跡では非ロクロの長甕が9世紀まで残る傾向にあるほか、1点のみ出土した須恵器が佐渡小泊産であることから、SI451も9世紀後半の遺構と考える。

B 井戸

日水遺跡では井戸が14基検出されている。うち、SE58は珠洲焼の出土があるため、SE281はV層からの掘り込みであるため中世の井戸と判断したが、その他の井戸については出土遺物の情報で古代と判断している。しかしながら、各井戸には形態や覆土にパターンが見られ、近隣の荒木前遺跡では、そのパターンから分類し、時期の推定がされている〔渡邊1991〕。日水遺跡においても、この荒木前遺跡の報告を基に以下のように分類した。

- ①表土に近い土を覆土の上部に持ち、分層線が水平に近い堆積、またはブロック状の覆土が厚く堆積するもので、短期間で埋められたものと考えられる。中世に属する。
- ②確認面に近い土を覆土の上部に持ち、分層線がU字またはV字状に堆積しているもの。古代に属する。
- ③確認面に近い土、地山の砂質土を主体とする。表土に近い土の混入は見られない。古代に属する。②より相対的に古い。

この3パターンを基にさらに細分類を行った。

①に属するものは6基であり、さらに特徴によって細分される。a平面形が円形で壁の立ち上がりが急なもの(SE9・144・218・281)、b平面形が規模のやや大きな円形で、断面がすり鉢状または箱形のもの(SE58・133)である。②に属するのは7基であり、形態的特徴はa平面形が円形で壁の立ち上がりが急なもの(SE29・139・230・387)、b平面形が規模のやや大きな円形で、断面がすり鉢状または箱形のもの(SE157)、c断面がすり鉢状または箱形のもので、炭層を含むもの(SE126・245)となっている。③に属するものはSE298である。井戸分類②cの炭層の堆積について、廃棄段階で火を焼き、祀りを行ったと考えられている。この祭祀行為は古代の井戸にのみ認められるが、中世の井戸にはほとんどないという〔田辺2001〕。

以上のように、古代の井戸としたものの中に中世の井戸の可能性のあるものが生じた。一般に、井戸は出土遺物が少ないため、遺物のみによる時期比定が困難であることから、土層観察の点からも井戸の時期を推定することが必要となる。近隣の調査事例を見ると、古代の井戸が「埋まった」ものに対し、中世の井戸には「埋められた」ものが多いと感じる。しかしながら日水遺跡の消長は長くても半世紀と捉えられる。短い期間に多くの井戸が掘削され、自然に埋まったことをどう解釈すればよいのだろうか。自然堤防では、河川の氾濫被害に遭い易いこと、地盤が脆弱なため井戸が崩落しやすいことから、井戸が短期間で埋まり、結果として井戸の数が多くなる傾向にあるという〔鈴木1990〕。日水遺跡の遺構確認面であるVI層の珪藻分析結果によれば、河川の影響のあるやや不安定な水域が推定されている。この立地環境が、井戸が多い理由であり、集落としての寿命を短くしたと考えられる。

第2節 日水遺跡出土の古代土器

A 出土土器の編年的位置づけ

日水遺跡が所在する信濃川・阿賀野川流域における9・10世紀の土器編年は、春日真実氏によってまとめられている〔春日1997a・1997b・1999、春日ほか2004〕。日水遺跡からは佐渡小泊産須恵器が大量に出土していることから、春日編年でいうVI1・2期(概ね9世紀後半～10世紀初頭)におさまる年代と推測できる。

1) 器種構成比率

主要遺構の器種構成率については、別表 6 に口縁部計測法〔宇野 1992〕に基づいて算出した各遺構の器種構成率を示した。口縁部が残存しない器種も存在したため、参考までに破片総数・重量についても併せて併記した。遺構出土土器の総計は 121.82 個体、11,373 片である。

主要遺構の中でも、特に一括性が高い SK88・SD264・SI385・SI386 の 4 遺構と遺構出土土器の合計について器種構成率を第 17 図に示した。ただし、SI385 と SI386 については、切り合い部分の出土遺物を調査中に分けられなかったため、一括して表示した。

全体の機能別割合を見ると椀・杯などの食膳具 72.96 %、長甕・小甕・鍋などの煮炊具 26.46 %、壺・甕などの貯蔵具 0.59 % である。上郷遺跡の 71.7 %・27.3 %・1.0% という比率に近く、食膳具が多く煮炊具・貯蔵具が少ない。

食膳具における種類別の割合は、越後の多くの地域で 9 世紀以降時期が新しくなるにつれて須恵器主体から土師器主体へと移行する傾向にある〔春日 1991〕。食膳具における土師器・黒色土器・須恵器の割合は、市内小丸山遺跡第 2 段階の SD2 で 38.2%・0.0%・61.8% と須恵器優勢なのに対し、小丸山第 3 段階の SD4 では、58.6%・2.28%・39.12% と土師器と須恵器の比率が逆転する〔小池・本間 1995〕。日水遺跡の食膳具の割合は全体で土師器 35.11 %・黒色土器 0.03 %・須恵器 64.86 % となり、須恵器が若干優勢である。遺構ごとにみると SK88・SI385・386 では土師器と須恵器がほぼ同率か若干須恵器優勢であるのに対し、SD264 では土師器 7.60 %・黒色土器 0.00 %・須恵器 92.40 % と須恵器の占める割合が高い。SD264 では、阿賀北産・新津丘陵産の須恵器食膳具が同遺跡の他の遺構よりやや多く、幾分古い様相を示していると言える。とはいえ、佐渡小泊産須恵器が圧倒するという点をみると、他の遺構と時期的に大きく隔たるものではないだろう。今回計測をした日水遺跡出土資料は、いずれも小丸山遺跡第 2 段階、春日編年でいう VI 1 期におさまるものと考えられる。

2) 器高指数と底径指数

次に土師器無台椀と須恵器無台杯の形態について、法量と器高指数（器高÷口径×100）・底径指数（底径÷口径×100）に着目し、他の遺跡と比較する。主要遺構の中でも食膳具の一括性が高い SD264 と SI385・386 について、遺構ごとの器高指数・底径指数を第 18 図に示した。

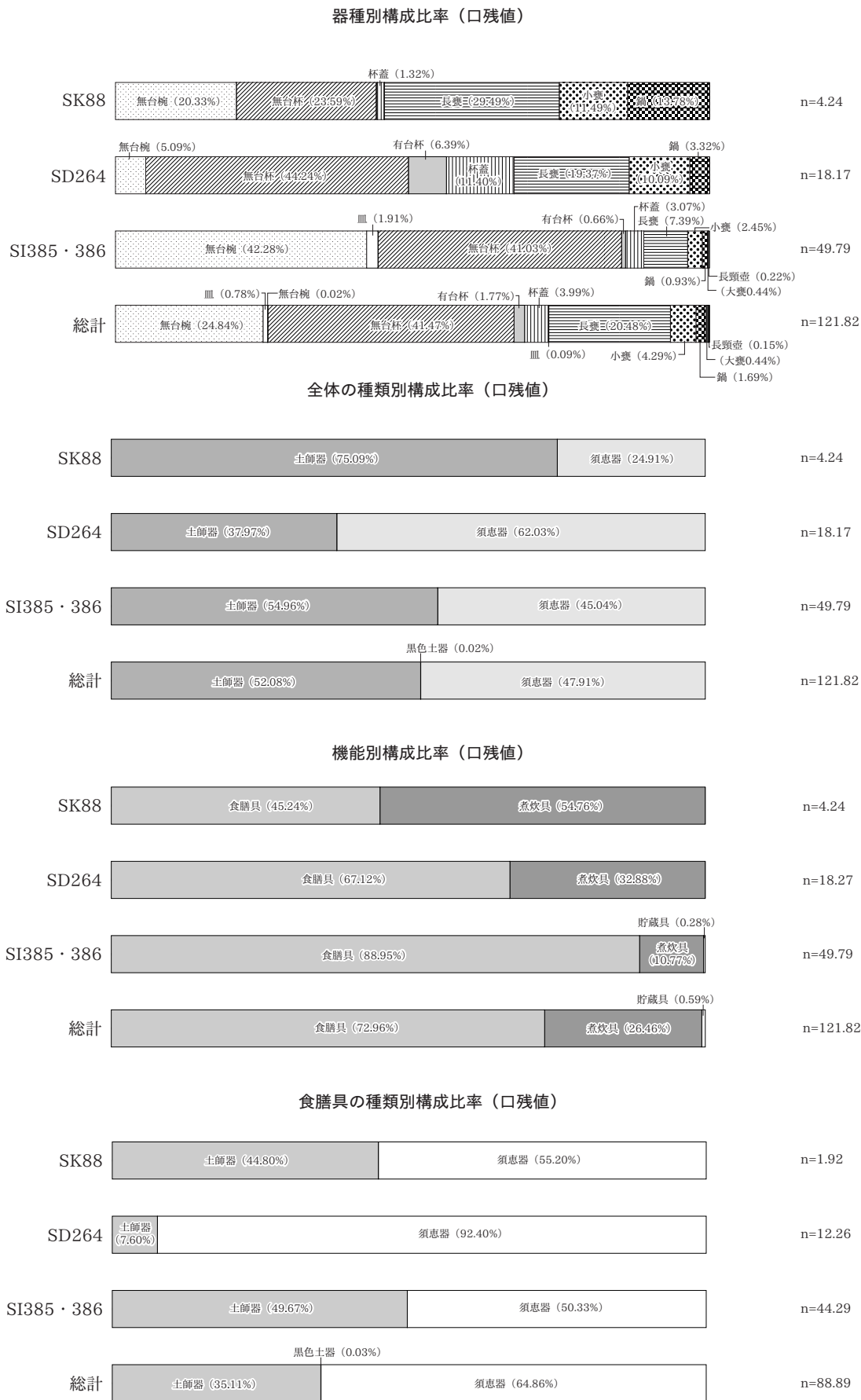
土師器無台椀の器高指数には、25 前後、31 前後と 35 前後の概ね 3 種がある。底径指数は、SD264 で 38 前後のものが確認できる。SI385・386 では 38 から 51 の間でばらつきがある。

春日氏の示した土師器無台椀の変遷案〔宇野・春日 1997〕では、器高指数 25～29 は各時期にあり 35 以上のものは、9 世紀第 4 四半期から 10 世紀のごく初頭に存在する可能性が高いと指摘されている。日水遺跡では、器高指数 35 以上のものが 5 点確認されている。この結果、土師器無台椀の器高指数の変遷から考えると、春日編年 VI 2 期、実年代で 9 世紀の第 4 四半期となり、器種構成比率の結果より若干新しく比定される。

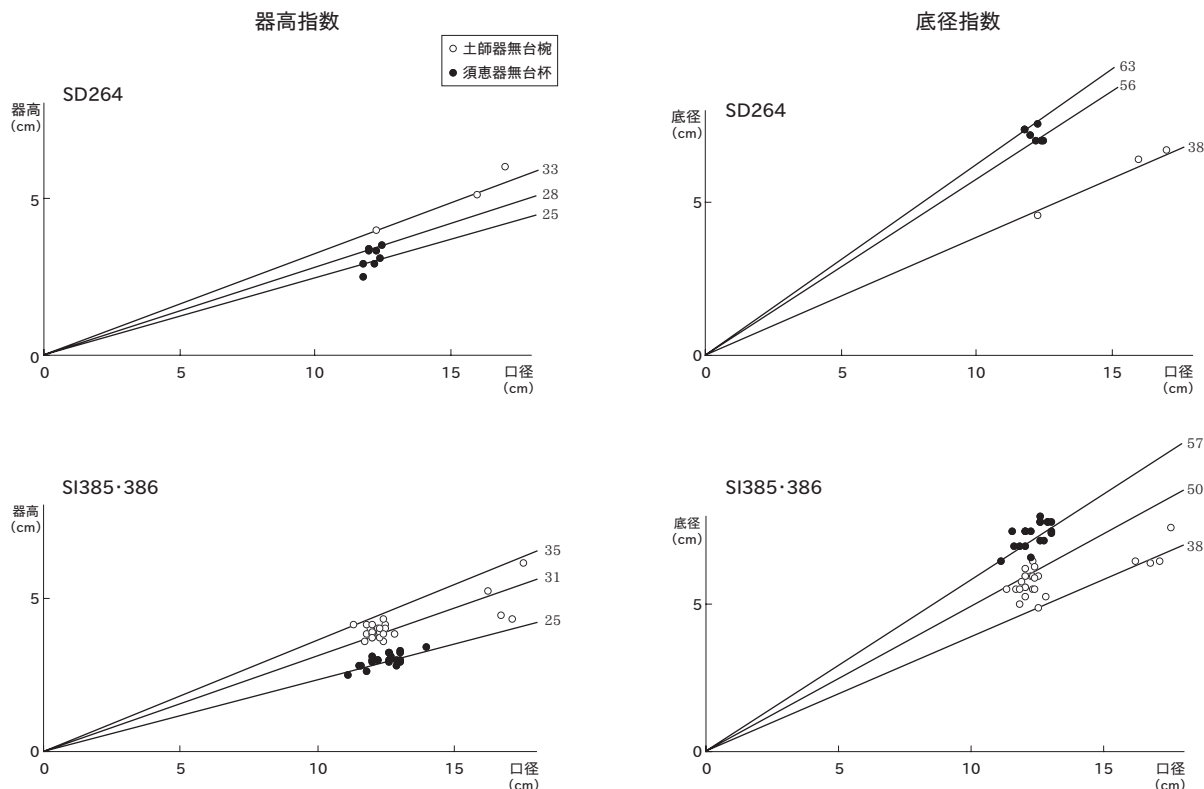
なお、土師器無台椀には、口径が 15cm 以上のものが一定量存在し、ロクロミガキやヘラミガキを施された精製品が散見される。同様の無台椀は春日編年 VI 2 期とされる小丸山遺跡 SD4・SD5 や牛道遺跡でも確認されている。

日水遺跡の須恵器無台杯の器高指数は SD264 でわずかなばらつきが見られるものの、概ね 25 前後にまとまる。また、底径指数は 57 前後と 63 前後の 2 種が確認できる。佐渡小泊遺跡群の須恵器杯類では、時期が新しくなるにつれて、法量の差が広がる傾向にあるという〔坂井 1991〕。日水遺跡におけるまとまった法量分布は、小丸山遺跡の SD2 や寺道上遺跡においても見ることができる〔小池・本間 1995、渡邊ほか 2001〕。

以上、器種構成率と法量分布による年代比定に若干の差が生じたが、日水遺跡出土土器は、春日編年の VI 1・2 期内に限定できると考える。実年代でいうと 9 世紀第 3 四半期から第 4 四半期であり、10 世紀までは下らないだろう。



第17図 日水遺跡主要遺構別器種組成図



第 18 図 日水遺跡主要遺構別食膳具の法量分布図

B 墨書土器

日水遺跡では 4 点の墨書土器が出土している。127 は土師器無台椀の体部外面に記されている。二本の墨線が認められるが、文字ではなく記号様のものであろう。179 は須恵器有台杯の体部外面に「一」と書かれているが、漢数字を意識して記したものは判然としない。256 は土師器無台椀の底部外面に文字が書かれているが、文字の下半分ほどが欠損しているため解読できない。258 は土師器無台椀の底部外面に「上」と書かれている。筆の入り、はね、止めなど、文字を書きなれた人物の手によるものと思われる。「上」という文字は、市内の山木戸遺跡や釈迦堂遺跡をはじめ、県内の複数の遺跡で出土している [諫山 2004、江口ほか 2000]。

以上の結果、墨書土器から日水遺跡の特殊性は認められなかった。また、墨書土器の点数においても、同時期の遺跡と比べて少ないことから、祭祀行為をあまり行わない集団が想定される。

第 3 節 遺跡の性格

日水遺跡周辺の遺跡の消長については、春日氏によってまとめられている [上野・春日 1997]。これによると、亀田砂丘周辺では、9 世紀前半から中葉にかけて遺跡数が急増し、10 世紀前半から中葉にかけて、急激に衰退することが指摘されている。この集落数の激増は全県的に見られるもので、それまでは砂丘上に立地していたものが、開発の及んでいなかった沖積地の微高地・自然堤防上へと変化し、集落に近接して耕地が得られる立地となっていく傾向にある [坂井ほか 1989]。日水遺跡の SI386 では大量のイネ植物珪酸体が検出されていたことから、水田耕作を行っていた集落と考えられる。しかし、調査区内では水田遺構が検出されなかったほか、8I グリッドにおける自然科学分析でも水田を伺わせる結果は出なかった。このため調査区外に水田があったと想定される。調査区の南西には低湿地が広がる立地から、ここで水田耕作を行っていた可能性がある。低湿地での水田耕作については、牛道遺跡で畦畔を伴わない田舟を使用する水田耕作が想定されている [土橋 1999]。

また、これらの農耕集落は、律令制の崩壊とともに台頭してきた、中央あるいは在地の有力者に従う農民たちによって開発された性格をもつものが多い〔酒井 2003〕。小規模な住居や稲作に関連した遺物の出土、施釉陶器等の高い階層性を示す遺物が出土しないことを勘案すると、日水遺跡も在地有力者に従う 9 世紀後半の農民層の集落と考える。そして、おそらく在地有力者が小丸山遺跡居住者ではなかったかと推測する。

今回の発掘調査では、9 世紀後半を主体とする集落が検出された。この遺跡は遅くとも 9 世紀の第 3 四半期には成立し、10 世紀まで続かなかった短期間の遺跡と考えられる。衰退の理由として、開発したものの洪水が頻発するなどして、居住に不適であったことが予想される。

引用・参考文献

- ア 朝岡 政康 2003 『東田遺跡 卸売市場建設に伴う市道東 8-273 建設事業用地内発掘調査報告書』 新潟市教育委員会
- イ 諫山えりか 2004 『新潟市山木戸遺跡 マンション等建設予定地内発掘調査報告書』 新潟市教育委員会
- 伊藤 秀和 2001 『鬼倉遺跡 一国道 403 号線道路改良工事に係わる埋蔵文化財発掘調査報告書一』 加茂市教育委員会
- ウ 上野一久・春日真実 1997 『横雲バイパス関係発掘調査報告書 上郷遺跡Ⅱ』 新潟県教育委員会・(財)新潟県埋蔵文化財調査事業団
- 内堀 信雄 1988 「須恵器甕に見られる叩き目文について」『シンポジウム北陸の古代土器研究の現状と課題』 報告編 石川考古学研究会・北陸古代土器研究会
- 宇野 隆夫 1991 『律令社会の考古学研究 北陸を舞台として』 桂書房
- 宇野 隆夫 1992 「食器計量の意義と方法」『国立歴史民俗博物館研究報告』第 40 集 国立歴史民俗博物館
- エ 江口友子ほか 2000 『釈迦堂遺跡』 新潟県教育委員会・(財)新潟県埋蔵文化財調査事業団
- 遠藤 恭雄 2004 『下前川原遺跡 新潟県豊栄市下前川原発掘調査報告』 豊栄市教育委員会
- オ 尾崎 高宏 2001 「新潟県における古代の鉄生産一鍛冶関連遺構の検討一」『研究紀要第 3 号』 (財)新潟県埋蔵文化財調査事業団
- 小村 弼 1959 『亀田町史』 亀田町公民館
- 温古談話会 1892 『温古之栞』第 32 編 温古談話会
- カ 柿田 祐司 2001 「須恵器甕の叩き目から」『北陸古代土器研究』第 9 号 北陸古代土器研究会
- 春日 真実 1991 「古代佐渡小泊窯における須恵器の生産と流通」『新潟考古学談話会』8 号 新潟考古学談話会
- 春日 真実 1997a 「越後・佐渡における 9 世紀中葉の画期」『北陸古代土器研究』第 6 号 北陸古代土器研究会
- 春日 真実 1997b 「越後における 10・11 世紀の土器様相」『北陸古代土器研究』第 7 号 北陸古代土器研究会
- 春日 真実 1999 「第 4 章古代 第 2 節土器偏年と地域性」『新潟県の考古学』 高志書院
- 春日真実ほか 2004 『越後阿賀北地域の古代土器様相』 新潟古代土器研究会
- 金子 拓男 1996 「大化元年『越国奏上』についての検討」『越と古代の北陸』 名著出版
- 亀田町史編さん委員会 1988 『亀田の歴史』 通史編上巻 亀田町
- 亀田町史編さん委員会 1990 『亀田の歴史』 資料編 亀田町
- 鴨井幸彦ほか 2006 「越後平野における砂丘列の形成年代と発達史」『第四紀研究』第 45 巻 2 号 日本第四紀学会
- 川上 貞雄 1982 『中の山遺跡発掘調査報告書』 亀田町教育委員会
- 川上貞雄・木村宗文・鈴木郁夫 1989 『新津市史』 資料編第 1 巻 原始・古代・中世 新津市
- 川上 貞雄 1996 『荒木前遺跡第 2 次調査 新潟県中蒲原郡亀田町・荒木前遺跡発掘調査報告書』 亀田町教育委員会
- キ 木立雅朗・望月精司 1997 「土師器焼成坑の定義と型式分類」『古代の土師器生産と焼成遺構』 真陽社
- 北村 淳・菊池康一郎ほか 2004 『中谷内遺跡Ⅲ・沖ノ羽遺跡Ⅱ・細池寺道上遺跡発掘調査報告書』 新津市教育委員会
- コ 小池邦明・本間圭吉 1993 『新潟市の場遺跡 的場土地区画整理事業用地内発掘調査報告書』 新潟市教育委員会
- 小池邦明・本間圭吉 1995 『小丸山遺跡 直り山団地建設事業用地内発掘調査報告書』 新潟市教育委員会
- 小林 昌二 1996 「越地域における部民分布の再検討」『越と古代の北陸』 名著出版
- サ 酒井 和男 1980 『三王山遺跡』 亀田町教育委員会
- 酒井和男・坂井陽一ほか 1987 『大江山地区の遺跡』 新潟市教育委員会
- 酒井 和男 2003 『横越町史』 資料編 第 1 章原始・古代 横越町
- 坂井秀弥ほか 1989 『新新バイパス関係発掘調査報告書 山三賀Ⅱ遺跡』 新潟県教育委員会・建設省北陸地方建設局新潟県国道工事事務所
- 坂井秀弥ほか 1991 「佐渡の須恵器」『新潟考古 2』 新潟考古学会
- 笹澤 正史 2003 「時代概説」『上越市史』 資料編 2 考古 第 5 章 古代 上越市
- ス 鈴木 孝之 1990 「古代～中近世の井戸跡について (1)」『研究紀要』第 7 号 (財)埼玉県埋蔵文化財調査事業団
- タ 高野裕子・渡邊朋和 2003 『川口乙遺跡発掘調査報告書』 新津市教育委員会

- 田辺 早苗 2001 「越後の様相」『中世北陸の井戸』第14回北陸中世考古学研究会資料集 北陸中世考古学研究会
- 田中久男ほか 1996 「新潟砂丘の形成史」『第四紀研究』第35巻3号 日本第四紀学会
- ツ 立木宏明ほか 1999 『中谷内遺跡発掘調査報告書』新津市教育委員会
- 立木宏明・澤野慶子ほか 2004 『山王浦遺跡発掘調査報告書』新津市教育委員会
- 立木宏明・澤野慶子ほか 2005 『沖ノ羽遺跡発掘調査報告書Ⅲ』新津市教育委員会
- 鶴巻康志ほか 2003 『桑ノ口遺跡発掘調査報告書』新発田市教育委員会
- ト 土橋由理子 1999 『国道49号横雲バイパス関係発掘調査報告書Ⅲ 牛道遺跡』新潟県教育委員会・(財)新潟県埋蔵文化財調査事業団
- ナ 奈良国立文化財研究所 1985 『木器集成図録』近畿古代篇 奈良国立文化財研究所史料第27冊 奈良国立文化財研究所
- ニ 新潟市史編さん原始古代中世史部会 1994 『新潟市史』資料編1 原始古代中世 新潟市
- 新潟市史編さん原始古代中世史部会・新潟市史編さん近世史部会 1995 『新潟市史』通史編1 原始古代中世・近世(上) 新潟市
- 新潟古砂丘グループ 1979 「新潟平野をめぐる地形と地質-5 砂丘と平野」『アーバンクボタ』17 久保田鉄工(株)
- ミ 南 憲一ほか 2003 『横越町史 通史編』第1章近世 横越町
- 三村 哲司 2005 『亀田の歴史 こぼれ話』亀田町
- ワ 渡邊朋和・立木宏明ほか 2000 『中谷内遺跡発掘調査報告書Ⅱ』新津市教育委員会
- 渡邊朋和ほか 2001 『寺道上遺跡発掘調査報告書』新津市教育委員会
- 渡邊ますみ 1991 『荒木前遺跡』亀田町教育委員会
- 渡邊ますみほか 1994 『緒立C遺跡発掘調査報告書』黒埼町教育委員会
- 渡邊美穂子・田中耕作 2001 『坂ノ沢C遺跡Ⅱ(平安時代編)』新発田市教育委員会

別表1 主要遺構計測表

図版 No.	遺構	グリッド	時代	確認 面	主軸方位	規模 (m)				底面 座標 (m)	形態		遺物の 有無	遺物 図版頁	
						上 端		下 端			深度	平 面			断 面
						長軸	短軸	長軸	短軸						
6・12	SE126	2G21・22, 3G1・2	古代	VI	N-21°-E	2.75	2.10	0.79	0.66	0.92	0.52	楕円形	半円形	○	24・39
6・13	SE133	2G17・18・22・23	古代	VI	N-13°-E	2.94	2.50	1.26	0.90	1.70	-0.13	円形	台形状	○	40
6・13	SE139	2G13	古代	VI	N-12°-E	(1.25)	1.11	0.61	0.49	1.05	0.38	円形	箱形	○	
6・12	SE144	2G8・13	古代	VI	N-56°-E	1.00	0.92	0.50	0.41	2.11	-0.41	円形	台形状	○	
6・12	SE157	2G2・3・7・8	古代	VI	N-15°-E	(1.67)	1.56	0.63	0.55	0.96	0.30	円形	台形状	○	
7・14	SE9	6B12	古代	VI	N-14°-W	1.00	0.92	0.75	0.62	1.11	0.23	円形	箱形	○	24
7・14	SE29	5B25, 5C21, 6B5, 6C1	古代	VI	N-55°-W	2.06	1.65	0.52	0.46	0.81	0.55	円形	箱形	○	24
7・14	SE58	5C14・15	中世	V	N-28°-W	(1.94)	1.72	1.18	1.14	1.07	0.16	円形	半円形	○	26・39
8・16	SE218	4J22・23	古代	VI	N-72°-W	(1.07)	1.04	0.58	0.51	0.55	0.44	円形	箱形	○	27
8・16	SE230	5K11・12・16・17	古代	VI	N-51°-W	1.45	(1.26)	0.61	0.45	0.65	0.66	円形	半円形	○	27
8・16	SE245	5K24・25, 6K4・5	古代	VI	N-23°-W	2.13	1.88	1.83	1.57	0.97	0.38	円形	箱形	○	28
7・8・18	SE298	5E14・15・20, 5F11・16	古代	VI	N-63°-W	3.34	(1.55)	0.78	(0.73)	1.37	-0.08	(円形)	台形状	○	31・40・41・42
9・18	SE281	9L15・20, 9M11・16	中世	V	N-71°-E	(1.25)	(0.47)	(0.55)	(0.28)	0.92	0.77	(円形)	箱形	○	32
10・19	SE387	12H1	古代	VI	N-62°-E	1.47	1.36	0.91	0.73	0.68	-0.37	円形	箱形	○	32
6・7	SK96	4E20・25, 4F16	古代	VI	N-40°-E	1.30	(0.58)	1.05	(0.41)	0.13	1.29	楕円形	皿形	○	
6・7	SK97	4F16	古代	VI	N-49°-E	1.53	(0.79)	1.24	(0.65)	0.12	1.29	不整形	皿形	○	
6・12	SK142	2G8・9・13・14	古代	VI	N-5°-E	(0.80)	0.69	(0.48)	0.57	0.17	1.31	楕円形	皿形	○	
6・12	SK152	2G3・4	古代	VI	N-76°-W	0.88	0.62	0.45	0.35	0.25	1.20	楕円形	皿形	○	
6・12	SK156	2G3・8	古代	VI	N-24°-W	1.27	(1.20)	0.70	0.56	0.44	1.02	楕円形	半円形	○	
6・12	SK163	2G8・9	古代	VI	N-75°-W	0.75	0.68	0.68	0.55	0.16	1.30	長方形	皿形	○	
6	SK463	4F7・8	古代	VI	N-60°-W	0.82	0.79	0.66	0.58	0.17	1.25	円形	箱形	○	
6	SK489	4E20	古代	VI	N-50°-W	0.72	0.47	0.46	0.23	0.12	1.27	長方形	箱形	○	
7	SK25	5B18・19	古代	VI	N-4°-W	0.65	0.68	0.43	0.42	0.37	0.99	円形	箱形	○	
7・14	SK30	5C21・22	古代	VI	N-15°-W	1.25	1.17	0.93	0.92	0.17	1.17	円形	皿形	○	
7	SK42	6C12・13	古代	VI	N-41°-E	0.92	0.65	0.55	0.40	0.28	0.99	楕円形	半円形	○	
7・15	SK47	5C1	古代	VI	N-47°-E	1.72	1.26	1.46	1.00	0.08	1.36	長方形	皿形	○	24
7・15	SK65	4C22	古代	VI	N-58°-E	0.90	0.72	0.55	0.39	0.24	1.23	楕円形	皿形	○	
7・15	SK66	4C22・23	古代	VI	N-88°-E	1.19	1.10	0.94	0.78	0.22	1.24	円形	皿形	○	
7・15	SK88	5D8・13	古代	VI	N-12°-E	2.23	(1.53)	1.40	0.76	0.40	0.96	楕円形	台形状	○	25
7	SK131	4D3・8	中世	V	N-51°-W	(1.41)	(0.46)	(1.34)	(0.25)	0.23	1.24	不整形	皿形	○	
7・15	SK197	5B7・12	古代	VI	N-17°-W	1.55	(1.06)	1.35	(0.87)	0.27	1.05	楕円形	皿形	○	27
7	SK443	6B18・19・23・24	古代	VI	N-55°-E	1.62	1.31	1.27	0.88	0.17	1.11	楕円形	皿形	○	
7	SK474	5C15・20	古代	VI	N-51°-E	1.01	0.49	0.75	0.28	0.14	1.20	楕円形	皿形	○	
8	SK178	3H4・5・9・10	古代	VI	N-9°-E	0.94	0.91	0.48	0.41	0.30	1.15	円形	皿形	○	
8・17	SK182	3I6・11	古代	VI	N-10°-W	0.77	0.77	0.56	0.49	0.48	0.92	円形	箱形	○	
8	SK184	3H14・15	古代	VI	N-80°-E	1.00	0.79	0.78	0.59	0.21	1.21	楕円形	皿形	○	
8・17	SK187	3I11・16	古代	VI	N-22°-W	1.23	0.95	0.63	0.57	0.52	0.99	不整形	箱形	○	
8・17	SK191	3I16・21	古代	VI	N-3°-W	0.85	0.83	0.63	0.66	0.55	0.84	円形	台形状	○	
8	SK195	3I18・23	古代	VI	N-8°-W	0.86	0.75	0.36	0.28	0.28	1.12	不整形	台形状	○	
8	SK201	4I9	古代	VI	N-5°-E	0.76	0.73	0.53	0.52	0.69	0.76	円形	箱形	○	
8	SK202	4I8	古代	VI	N-4°-E	(0.69)	(0.68)	(0.56)	(0.58)	0.14	1.30	不整形	半円形	○	
8・16	SK210	4J16	古代	VI	N-5°-W	1.21	0.94	0.59	0.33	0.38	1.01	楕円形	皿形	○	27
8	SK212	4J17	古代	VI	N-70°-W	0.75	0.65	0.41	0.35	0.35	1.03	円形	箱形	○	
8・16	SK219	4J23, 5J3	古代	VI	N-5°-W	1.21	1.09	0.93	0.91	0.09	1.25	不整形	皿形	○	
8	SK234	2H23, 3H3	古代	VI	N-22°-W	(1.32)	(1.12)	0.99	0.78	0.12	1.29	楕円形	皿形	○	
8	SK239	5K20	古代	VI	N-43°-E	1.21	0.49	0.62	0.10	0.44	0.97	楕円形	台形状	○	
8	SK241	5L16	古代	VI	N-50°-W	(1.00)	(0.22)	(0.81)	(0.12)	0.10	1.24	-	皿形	○	
8	SK251	6L1	古代	VI	N-66°-W	0.62	0.56	0.14	0.12	0.43	0.98	楕円形	箱形	○	
8・16	SK253	5L22, 6L2	古代	VI	N-30°-E	0.85	0.75	0.49	0.27	0.40	0.35	円形	半円形	○	27
8・16	SK290	6L19	古代	VI	N-83°-E	1.44	1.13	1.15	0.58	0.27	1.28	楕円形	皿形	○	27
8	SK295	3H20・25	古代	VI	N-75°-W	0.80	0.75	0.47	0.46	0.21	1.21	円形	箱形	○	
8	SK309	7G8	古代	VI	N-7°-E	(1.01)	(0.79)	(0.91)	(0.60)	0.16	0.86	不整形	半円形	○	
8・17	SK314	7G5・10, 7H1・6	古代	VI	N-82°-E	1.63	1.16	1.18	0.90	0.29	0.97	長方形	皿形	○	32
8	SK334	7H16・21	中世	V	N-51°-W	(1.40)	(0.67)	(0.15)	(0.10)	0.22	0.94	(円形)	箱形	○	
8	SK456	6L8・9	古代	VI	N-35°-W	0.53	0.53	0.18	0.10	0.50	0.84	円形	皿形	○	
8	SK457	6L9・14	古代	VI	N-51°-W	0.88	0.82	0.47	0.42	0.33	1.01	円形	半円形	○	
8	SK483	6L8・13	古代	VI	N-43°-W	0.78	0.68	0.46	0.39	0.43	0.91	円形	箱形	○	
8	SK484	6L14・15・19・20	古代	VI	N-65°-E	1.04	(0.94)	(0.83)	(0.59)	0.23	1.20	楕円形	半円形	○	27
9	SK279	9M8・13	古代	VI	N-71°-E	(1.59)	(0.63)	(1.49)	(0.57)	0.12	0.58	(円形)	皿形	○	32
9	SK280	9M12	古代	VI	N-85°-W	(0.86)	(0.70)	(0.51)	(0.41)	0.30	1.33	楕円形	箱形	○	
9	SK282	9L14・15・19・20	古代	VI	N-20°-W	1.42	1.25	1.22	1.09	0.16	1.49	長方形	皿形	○	
10	SK362	12H13	古代	VI	N-76°-W	(0.57)	0.68	(0.48)	0.54	0.11	1.30	円形	皿形	○	32
10・20	SK363	12H12・13・17・18	古代	VI	N-63°-W	1.56	1.28	1.35	1.03	0.10	1.30	楕円形	皿形	○	
10・19	SK366	12H16・17・21・22	古代	VI	N-71°-W	1.72	1.08	0.53	0.26	0.22	1.20	楕円形	皿形	○	33
10・19	SK373	12I3	古代	VI	N-48°-E	0.81	0.74	0.63	0.49	0.14	1.43	円形	皿形	○	33
10・19	SK377	12H16	古代	VI	N-10°-E	(1.75)	(0.87)	(1.48)	(0.59)	0.23	1.08	楕円形	皿形	○	33
10	SK378	11I24・25	近世	III	N-78°-W	1.56	1.36	0.40	0.39	0.95	0.63	円形	箱形	○	
10	SK379	11J6・7・11・12	古代	VI	N-49°-E	0.92	(0.67)	0.44	0.20	0.47	1.21	(円形)	台形状	○	
10	SK380	11J7・8・12・13	近世	III	N-50°-E	3.04	(1.42)	1.36	(0.70)	0.60	1.11	(円形)	台形状	○	
10・19	SK382	10J24, 11J3・4	古代	VI	N-70°-W	(1.25)	1.15	0.49	0.46	0.80	1.09	(円形)	台形状	○	33
10・19	SK384	12G10・15, 12H6・11	古代	VI	N-22°-W	1.80	1.32	0.87	0.77	0.27	0.93	楕円形	皿形	○	33
10	SK492	12G4・5・9・10	古代	VI	N-14°-W	(1.99)	1.89	(1.20)	1.00	0.26	0.96	(長方形)	皿形	○	33
6・7・13	SX110	3E25, 3F21, 4E5, 4F1	古代	VI	N-84°-E	(2.17)	(2.04)	(1.69)	(1.82)	0.16	1.28	(長方形)	皿形	○	24
9・18	SX274	8N19・23・24・25	古代	VI	N-64°-E	(3.03)	(1.54)	(2.95)	(1.48)	0.04	1.60	-	皿形	○	32
9・18	SX287	9L15・20, 9M11・16	古代	VI	N-71°-E	(3.03)	(0.80)	(2.94)	(0.70)	0.22	1.28	-	皿形	○	32
8	SX452	6K5・10, 6L1・2・6・7	古代	VI	N-14°-W	2.47	2.49	2.46	2.06	0.25	1.17	不整形	箱形	○	
6	SD109	3F17・22, 4F2・7・12	古代	VI	N-3°-W	0.56		0.44		0.10	1.37		皿形	○	
6	SD113	3F17・18	古代	VI	N-72°-W	0.49		0.32		0.04	1.42		皿形	○	
6	SD132	3F15, 3G11	古代	VI	N-84°-W	0.19		0.10		0.07	1.35		半円形	○	
6・22	SD118	1F25, 1G21, 2F5・10・25, 3F5・10・14・15・19・20・24・25	近世	IV	N-7°-E	0.94		0.20		0.21	1.19		皿形	○	
7・14	SD15	6B2・7・8・13・18	古代	VI	N-28°-W	0.58		0.29		0.23	1.08		台形状	○	26・39

別 表

図版 No.	遺構	グリッド	時代	確認面	主軸方位	規模 (m)				底面座標 (m)	形態		遺物の有無	遺物図版頁	
						上端		下端			深度	平面			断面
						長軸	短軸	長軸	短軸						
7・14	SD16	5B6・7・11・12・17・22, 6B2・3・8・9・13・14・19・20・24・25, 7B5, 7C1・6・11・12・16・17・22	中世	V	N-28°-W	1.06		0.65		0.26	1.04	箱形	○	26・39	
7・14	SD17	5B2・7・12・13・17・18・23, 6B3・4・9・14・15・20, 6C16・17・18・19・20, 6D16	中世	V	N-28°-W	0.62		0.45		0.14	1.14	皿形	○	26	
7	SD18	5A14・15, 5B11・12・13・14・19	古代	VI	N-85°-W	0.52		0.30		0.20	1.16	半円形	○		
7	SD19	6B15・19・20	古代	VI	N-63°-E	0.52		0.42		0.33	0.94	皿形	○		
7	SD23	6B20・25, 6C16・21, 7C1・2・7・12・13・18	古代	VI	N-27°-W	0.73		0.59		0.07	1.02	皿形	○		
7・15	SD34	5C24・25, 5D11・12・13・16・21, 6C1・2・4・6・7・8・9	中世	V	N-44°-E	0.65		0.45		0.22	1.14	皿形	○	26	
7・15	SD74	4B20, 4C10・13・14・15・16・17・18, 4D6・7・8・13・18・23, 5D3・8・13・18・19・23・24, 6D3・4・8・13	古代	VI	N-2°-W	0.91		0.35		0.26	1.23	皿形	○	26	
7	SD85	6C25, 6D21, 7C5・6・7・8	近世	IV	N-44°-E	0.63		0.35		0.07	1.00	皿形	○		
7・15	SD93	4D8・9・13・14・19・24, 5D14・19・24, 6D4・9	中世	V	N-0°-E	1.03		0.25		0.61	0.80	台形状	○	26	
7	SD94	4D13・18	古代	VI	N-55°-E	0.25		0.17		0.09	1.39	皿形	○		
7	SD158	5E8・13	古代	VI	N-72°-E	0.58		0.34		0.11	1.26	皿形	○		
7	SD159	5E7・8	古代	VI	N-35°-E	0.49		0.23		0.18	1.19	皿形	○		
7	SD161	4E21, 5E1	古代	VI	N-40°-E	0.55		0.36		0.15	1.27	皿形	○		
7	SD164	5E3・7・8	古代	VI	N-33°-E	0.25		0.10		0.18	1.18	箱形	○		
7・15	SD227	5B18・19・24	古代	VI	N-63°-W	0.66		0.48		0.24	1.10	台形状	○	26	
7・15	SD404	4D14・15・18・19・20	古代	VI	N-67°-E	0.98		0.83		0.26	1.14	台形状	○	26	
7	SD423	5C20・25, 5D16・21	古代	VI	N-27°-W	0.41		0.27		1.10	1.25	皿形	○		
7	SD433	5C24, 6C4・5, 6D1	古代	VI	N-54°-W	0.36		0.18		0.18	1.17	半円形	○		
7・15	SD476	5C19・20・24・25, 6C5	古代	VI	N-30°-W	0.70		0.40		0.27	1.04	箱形	○	27	
8・17	SD175	2H23・24, 3H3・4	古代	VI	N-80°-W	(0.95)		0.33		0.36	1.12	皿形	○	28	
8・17	SD176	2H23・24, 3H3・4・8・9・13・14・19	古代	VI	N-3°-E	1.25		0.51		0.37	1.07	台形状	○		
8	SD220	5J3・4・5	古代	VI	N-71°-E	0.22		0.11		0.09	1.24	半円形	○		
8・17	SD231	5K2・7・12・17・22	古代	VI	N-8°-E	0.83		0.34		0.58	1.03	台形状	○	28	
8・17	SD233	5K8・9・13・18・23	古代	VI	N-7°-E	1.75		0.40		0.42	1.06	皿形	○		
8	SD236	5K24・25, 5L21	古代	VI	N-65°-E	0.44		0.27		0.13	1.30	半円形	○		
8・22	SD262	6K10, 6L3・4・6・7・8・9	近世	III	N-74°-E	0.66		0.51		0.53	1.22	台形状	○		
8・22	SD263	6L18・19・20・24・25, 6M16・17・21・22・23	近世	III	N-88°-W	2.22	(0.81)			0.58	0.97	半円形	○		
8・17	SD264	6M21・22, 7M1・2・3・4	古代	VI	N-71°-E	2.17		1.79		0.28	1.42	皿形	○	28・30・31・39	
8・16	SD291	6L12・13・14・15・18・19・20	古代	VI	N-82°-W	0.78		0.42		0.30	1.25	台形状	○	28	
8	SD302	5F23, 6F3	古代	VI	N-11°-E	0.40		0.23		0.21	0.95	皿形	○		
8	SD305	5F23, 6F3・8	古代	VI	N-4°-E	0.33		0.17		0.17	0.99	半円形	○		
8	SD307	6F13・14・15	古代	VI	N-87°-E	0.59		0.46		0.11	1.01	皿形	○	32	
8	SD308	6F9・10・14・15	古代	VI	N-20°-E	0.67		0.64		0.25	0.86	皿形	○		
8・17	SD315	7G9・10, 7H6・7	古代	VI	N-87°-W	0.54		0.28		0.38	0.90	台形状	○	31	
8	SD321	8H4・9・10・15	古代	VI	N-8°-W	0.33		0.23		0.17	1.27	畝状遺構	皿形	○	
8	SD323	7H19・24・25, 8H4・5・10・15	古代	VI	N-10°-W	0.78		0.50		0.22	1.22	畝状遺構	半円形	○	
8	SD328	8H5・10, 8I6・11	古代	VI	N-8°-W	0.27		0.20		0.12	1.32	畝状遺構	皿形	○	
8	SD329	7I21, 8I1・6・11・16	古代	VI	N-8°-W	0.73		0.49		0.20	1.22	畝状遺構	半円形	○	
8	SD331	8I1・6・7・11・12・17	古代	VI	N-10°-W	0.70		0.38		0.21	1.23	畝状遺構	半円形	○	
9・18	SD268	8N2・3・4・7・8・9・10, 8O6・7・8・12・13	古代	VI	N-80°-W	1.65		0.32		0.60	1.05	台形状	○	32・39	
9・18	SD272	8N14・15・20, 8O11・12・16・17	古代	VI	N-79°-W	1.01		0.16		0.49	1.28	台形状	○	32	
9・18	SD273	8N19・20, 8O16	古代	VI	N-85°-W	0.93		0.13		0.59	1.06	台形状	○		
9	SD276	9N1・6	古代	VI	N-0°-E	0.75		0.53		0.17	1.58	皿形	○		
9	SD283	9L14・19	古代	VI	N-16°-W	0.30		0.20		0.12	1.54	半円形	○		
9・18	SD288	8N19・20・24・25	古代	VI	N-69°-W	(0.83)		0.22		0.31	1.32	台形状	○		
10・19	SD348	12G25, 12H16・21, 13G5・10・14・15・19・20, 13H1	古代	VI	N-22°-E	0.90		0.44		0.14	1.28	皿形	○		
10	SD354	12H21, 13H1・6	古代	VI	N-10°-E	0.32		0.19		0.08	1.43	皿形	○		
10・19	SD358	12H13・14・15・18・19・23・24	古代	VI	N-12°-E	2.36		1.31		0.25	1.20	皿形	○	38・39	
10	SD367	12H15・20	古代	VI	N-26°-W	0.33		0.14		0.15	1.38	半円形	○		
10	SD368	12H15	古代	VI	N-17°-W	0.39		0.24		0.13	1.41	皿形	○		
10	SD376	11I23・24・25	古代	VI	N-84°-E	0.73		0.29		0.45	1.13	台形状	○		
10・19	SD490	12G9・14	古代	VI	N-13°-E	(0.55)	(0.42)			0.20	1.22	皿形	○	38	
6・14	SI451	3F14・15・18・19・20・22・23・24, 4F3・4	古代	VI	N-51°-W	7.51	(3.48)	6.24	(3.13)	0.17	1.26	(円形)	皿形	○	24
10・20	SI385	11G24・25, 11H21, 12G4・5・9・10, 12H1・2・6・7・11・12	古代	VI	N-52°-W	(7.22)	(3.79)	(6.90)	(3.07)	0.40	0.98	(長方形)	皿形	○	33・34・35・36・39
10・20	SI386	12H7・8・12・13・17	古代	VI	N-52°-W	(3.57)	(2.90)	(3.41)	(1.45)	0.31	1.05	(円形)	皿形	○	36・37・39
7・21	SB493	4C24, 5C1・2・4・11・12	古代	VI	N-82°-E	8.46	4.40						○		
8・21	SB494	7H18・23・25, 7I21, 8H10, 8I1・6	古代	VI	N-86°-E	5.72	3.12						○		

図版No.	報告書No.	出土位置		種別	器種	分類	法量 (cm)				胎土	色調	焼成	手法								備考						
		遺構名	グリッド				口径	底径	器高	器高指数				底径指数	胎土		外面		内面		底部		取柄	口縁部	底部	全体		
															含有物	産地	外面	内面	底面	取柄							口縁部	底部
27	62	SD476	6C5	須恵器	無台杯	II	12.2	7.8	2.8	23	64	長・チ	B	灰白 (7.5Y7/1)	還元	軟	ロクロナデ		ロクロナデ		ヘラ切り	左	35/36	25/36	30/36			
27	63	SD476	6C5	須恵器	無台杯	II	12.2	7.8	2.9	24	64	長・チ	B	灰白 (7.5Y7/1)	還元	軟	ロクロナデ		ロクロナデ		ヘラ切り	左	28/36	33/36	29/36			
27	64	SD476	6C5	須恵器	無台杯	II	12.4	7.8	3.1	25	63	石・長・焼	B	灰白 (7.5Y7/1)	還元	軟	ロクロナデ		ロクロナデ		ヘラ切り	左	24/36	36/36	30/36			
27	65	SD476	6C5	須恵器	無台杯	II	12.4	7.2	2.7	22	58	石・長	B	灰 (5Y6/1)	還元	硬	ロクロナデ		ロクロナデ		ヘラ切り	左	29/36	36/36	30/36			
27	66	SD476 SD34	5C25・6C5 5C25	須恵器	長頸壺							石・長	B	黄灰 (2.5Y5/1)	還元	硬	ロクロナデ		ロクロナデ・しほり痕									
27	67	SD476	6C5	土師器	無台碗	IIA	13.5	6.7	4.1	30	50	長・雲・チ		浅黄橙 (10YR8/3)	酸化	硬	ロクロナデ		ロクロナデ			右	30/36	31/36	30/36			
27	68	SK197	5B7・12	須恵器	長頸壺			6.6				長・チ・角	D	灰白 (10Y7/1)	還元	硬	ロクロナデ		ロクロナデ・しほり痕		糸切り	左		36/36		外面全体に自然釉		
27	69	Pt4	5B21	須恵器	無台杯		11.6	7.7	2.8	24	66	石・長	B	灰 (7.5Y6/1)	還元	硬	ロクロナデ		ロクロナデ		ヘラ切り		2/36	10/36	6/36			
27	70	Pt480	4D25	土師器	無台碗	IA	11.5	5.5	4.0	35	48	長・雲		浅黄橙 (10YR8/3)	酸化	硬	ロクロナデ		ロクロナデ		糸切り	右	5/36	31/36	18/36			
27	71	Pt495	5E12	土師器	長巻	B	18.0					長・雲		橙 (2.5Y7/6)	酸化	軟												
27	72	Pt495	5E12	土師器	長巻	B	(20.0)					長・雲		浅黄橙 (10YR8/3)	酸化	硬	カキメ		カキメ					3/36				
27	73	SE218	4I23	須恵器	無台杯			8.0				石・長	A	灰 (5Y6/1)	還元	硬					糸切り	右		6/36				
27	74	SE218	4I23	土師器	長巻	B	(23.0)					石・長・チ		浅黄橙 (7.5YR8/4)	酸化	硬								1/36				
27	75	SE230	5K11	須恵器	無台杯	II	12.4					石・長	A	オリープ灰 (2.5GY6/1)	還元	硬	ロクロナデ		ロクロナデ					3/36				
27	76	SE230	5K11	土師器	小壺	II	14.7					石・長・雲		にぶい黄橙 (10YR7/3)	酸化	硬	ロクロナデ		ロクロナデ					3/36			炭化物	
27	77	SE230	5K11	土師器	長巻	B	20.0					長・チ		灰白 (10YR8/2)	還元	硬	カキメ		カキメ						1/36			
27	78	SK210	4I16	須恵器	無台杯	II	13.0	8.0	3.4	26	62	石・長	B	灰白 (7.5Y7/1)	還元	硬	ロクロナデ		ロクロナデ		ヘラ切り		4/36	4/36	4/36			
27	79	SK253	6I2	須恵器	無台杯	I	11.0	7.0	2.6	24	64	長	B	黄灰 (2.5Y6/1)	還元	硬	ロクロナデ		ロクロナデ		ヘラ切り	左	3/36	12/36	7/36			
27	80	SK290	6L19	須恵器	杯蓋	I	13.5		2.4			石・長・チ	B	灰白 (2.5Y7/1)	還元	硬	ロクロナデ・ロクロナズリ		ロクロナデ					8/36				
27	81	SK484	6I20	土師器	鍋		(40.0)					石・長・雲		浅黄橙 (10YR8/3)	酸化	硬	カキメ		カキメ					1/36				
28	82	SE245	6K5	須恵器	無台杯	II	12.0	7.2	3.1	26	60	長・チ	B	灰白 (N7/0)	還元	硬	ロクロナデ		ロクロナデ		ヘラ切り	左	32/36	36/36	35/36			
28	83	SE245	6K5	須恵器	無台杯	II	(12.0)					石・長	B	灰白 (7.5Y7/1)	還元	硬	ロクロナデ		ロクロナデ					(3/36)				
28	84	SE245	6K5	須恵器	無台杯	II	13.7	8.0	3.2	23	58	石・長	B	灰白 (10Y7/1)	還元	硬	ロクロナデ		ロクロナデ		ヘラ切り	左	15/36	22/36	18/36			
28	85	SE245	6K5	須恵器	杯蓋							石・長	C	灰白 (10Y8/1)	還元	硬	ロクロナデ		ロクロナデ								転用碗か	
28	86	SE245	6K5	須恵器	無台皿		14.0	10.0	2.2	16	71	石・長		明青灰 (5B7/1)	還元	硬	ロクロナデ		ロクロナデ		ヘラ切り		4/36	7/36	6/36			
28	87	SE245	6K5	須恵器	大壺		(27.0)					石・長		灰 (N4/0)	還元	硬	ロクロナデ・タタキメ		ロクロナデ					2/36				
28	88	SE245	6K5	土師器	無台碗			5.7				石・長・雲		浅黄橙 (10YR8/3)	酸化	硬	ロクロナデ		ロクロナデ		糸切り	右		36/36				
28	89	SE245	5K25 6K10	土師器	筒形土器							石・雲		浅黄橙 (10YR8/3)	酸化	硬	ハケメ		ハケメ								輪積痕	
28	90	SE245	5K25・6K5	土師器	鍋		(40.0)					長・チ		浅黄橙 (7.5YR8/3)	酸化	硬								2/36				
28	91	SE245	6K5	土師器	鍋		(45.0)					長・雲・焼		浅黄橙 (10YR8/3)	酸化	硬	カキメ		カキメ					1/36				
28	92	SD175	2H25	須恵器	無台杯	II	12.6	7.5	3.1	25	60	石・長	B	灰白 (10Y7/1)	還元	硬	ロクロナデ		ロクロナデ		ヘラ切り	左	29/36	36/36	33/36		口縁部内面に墨痕	
28	93	SD175 SD176	2H23 3H3・8	須恵器	長頸壺			9.5				長	B	灰 (N4/0)	還元	硬	ロクロナデ		ロクロナデ		ヘラ切り			25/36			底部内面に自然釉 高台部に黒ね焼き痕 炭化物	
28	94	SD175	2H23	土師器	小壺	II	(13.0)					石・長		にぶい橙 (7.5Y7/4)	酸化	軟	ロクロナデ		ロクロナデ					2/36				
28	95	SD175	2H25	土師器	鍋		(35.0)					石・長・雲		橙 (5YR7/8)	酸化	軟								1/36				
28	96	SD291	6L22	須恵器	無台杯	I	(11.0)	6.0	2.9			長・雲	B	灰白 (7.5Y7/1)	還元	硬	ロクロナデ		ロクロナデ		ヘラ切り		1/36	7/36	4/36			
28	97	SD291	6L14	須恵器	有台杯	III	14.0					石・長	B	灰 (7.5Y6/1)	還元	硬	ロクロナデ		ロクロナデ					6/36				
28	98	SK484	6L20	土師器	鍋		(40.0)					石・長・雲・チ		灰白 (10YR8/2)	還元	硬	カキメ		カキメ						1/36			
28	99	SD291	6L19	須恵器	大壺		30.0					石・長	C	灰白 (2.5Y7/1)	還元	硬	ロクロナデ		ロクロナデ					3/36			口縁部と内面に自然釉	
29	100	SD264	7M2	須恵器	無台杯	II	11.8	7.4	2.5	21	63	石・長	B	灰白 (N7/0)	還元	硬	ロクロナデ		ロクロナデ		ヘラ切り		12/36	12/36	9/36			
29	101	SD264	6M21	須恵器	無台杯	II	11.8	7.4	2.9	25	63	石・長	B	灰白 (N7/0)	還元	硬	ロクロナデ		ロクロナデ		ヘラ切り	左	6/36	22/36	15/36			
29	102	SD264	7M2	須恵器	無台杯	II	12.0					石・長	B	灰 (7.5Y6/1)	還元	硬	ロクロナデ		ロクロナデ					8/36				
29	103	SD264	7M3	須恵器	無台杯	II	12.0	9.0	3.4	28	75	石・長・雲	B	灰白 (5Y8/1)	還元	軟	ロクロナデ		ロクロナデ		ヘラ切り	左	5/36	18/36	18/36			
29	104	SD264	7M2・3	須恵器	無台杯	II	12.0	7.2	3.3	28	60	石・長	A	灰白 (7.5Y7/1)	還元	硬	ロクロナデ		ロクロナデ		ヘラ切り	左	13/36	19/36	18/36			
29	105	SD264	7M2	須恵器	無台杯	II	12.2	7.0	2.9	24	57	石・長	B	灰白 (2.5Y7/1)	還元	硬	ロクロナデ		ロクロナデ		ヘラ切り	左	8/36	15/36	11/36			
29	106	SD264	6M21・7M2	須恵器	無台杯	II	12.3	7.6	3.3	27	62	石・長	B	灰白 (N8/0)	還元	硬	ロクロナデ		ロクロナデ		ヘラ切り	左	29/36	36/36	34/36			
29	107	SD264	7M2	須恵器	無台杯	II	12.4	7.0	3.1	25	56	石・長	B	灰白 (10YR8/2)	還元	軟	ロクロナデ		ロクロナデ		ヘラ切り	左	10/36	17/36	13/36			
29	108	SD264	7M2	須恵器	無台杯	II	12.5	7.0	3.5	28	56	石・長	A	黄灰 (2.5Y6/1)	還元	硬	ロクロナデ		ロクロナデ		ヘラ切り		2/36	14/36	8/36			
29	109	SD264	7L23	須恵器	無台杯	II	12.8					長・チ	B	灰白 (5Y7/1)	還元	硬	ロクロナデ		ロクロナデ					6/36				
29	110	SD264 SD263	7M2 6L25・6M22 7M1複乱	須恵器	無台杯	II	13.0					石・長	B	灰 (5Y6/1)	還元	硬	ロクロナデ		ロクロナデ					10/36				
29	111	SD264	7M2	須恵器	無台杯			8.0				石・長	B	灰白 (7.5Y8/1)	還元	軟	ロクロナデ		ロクロナデ		ヘラ切り	左		20/36				
29	112	SD264	7M2	須恵器	有台杯	I	11.6	6.5	4.0	34	56	長	C	灰白 (2.5Y7/1)	還元	硬	ロクロナデ		ロクロナデ		糸切り	右	14/36	16/36	15/36			
29	113	SD264	7M2	須恵器	有台杯	II	10.0					長	B	灰白 (5Y7/1)	還元	硬	ロクロナデ		ロクロナデ					12/36				
29	114	SD264	7M3	須恵器	有台杯	II	10.0	6.0	5.8	58	60	石・長	B	灰白 (N7/0)	還元	硬	ロクロナデ		ロクロナデ		ヘラ切り		8/36	5/36				

図版No.	報告書No.	出土位置		種別	器種	分類	法量(cm)				器高指数	口径指数	胎土		色調	焼成	手法		備考				遺存率	備考	
		遺構名	グリッド				口径	底径	器高	胎土含有物			産地	外面			内面	底部	取柄	口縁部	底部	全体			
																									底径
30	140	SD264	6L22・7M2	土師器	長巻	B	17.7						石・長・チ	浅黄橙(10YR8/3)	酸化硬	カキメ							8/36		
30	141	SD264	7M2	土師器	長巻	B	19.6						石・長・雲・チ	にぶい黄橙(10YR7/3)	酸化硬	カキメ							4/36		
30	142	SD264	7M3	土師器	長巻	B	20.0						石・長・チ	浅黄橙(10YR8/3)	酸化硬	カキメ							6/36	内面剥離多い	
30	143	SD264	7M2	土師器	長巻	B	20.0						長・チ	浅黄橙(7.5YR8/3)	酸化軟	カキメ							7/36		
30	144	SD264	6L22・7M2	土師器	長巻	B	22.2						石・長・チ	浅黄橙(10YR8/3)	酸化硬	カキメ							6/36	全体に磨耗	
30	145	SD264	7M2	土師器	長巻	B	21.2						石・長・チ	灰白(10YR8/2)	酸化硬	カキメ・タタキメ・ケズリ	Ha	ナデ・カキメ・あて具痕	Da				3/36		
30	146	SD264	7M2 6L3	土師器	長巻	B	(21.8)						長・チ	灰白(2.5Y8/2)	酸化硬	カキメ・タタキメ・カキメ	Ha	あて具痕	Da				2/36		
31	147	SD264	7M2	土師器	鉢		38.0						石・長	浅黄橙(10YR8/3)	酸化硬	カキメ							4/36	炭化物	
31	148	SD264	7M2	土師器	鉢		(39.8)						石・長・チ	浅黄橙(10YR8/4)	酸化硬	カキメ・タタキメ・ナデ	Hd	カキメ・あて具痕・ナデ					2/36	口縁内面剥離	
31	149	SE298	5F6	須恵器	無台杯	II	(12.0)	(7.0)	3.1				石・長	灰白(N8/0)	還元硬	ロクロナデ							1/36	3/36	
31	150	SE298	5E20	須恵器	無台杯	II	12.2	8.0	3.7	30	66		石・長	灰白(5Y7/1)	還元硬	ロクロナデ							1/36	26/36	
31	151	SE298	5E15	須恵器	無台杯	III	(14.4)						長	灰白(N7/0)	還元硬	ロクロナデ							(3/36)		
31	152	SE298	5F6	須恵器	無台杯	III	(14.4)	8.5	3.6				石・長・海	浅黄橙(7.5YR8/4)	酸化硬	ロクロナデ							(3/36)	5/36	
31	153	SE298	5E20	須恵器	無台杯			8.0					石・長・海	浅黄橙(7.5YR8/4)	酸化硬	ロクロナデ							9/36	3/36	
31	154	SE298	5E20	土師器	無台杯	III B	(15.0)						石・長・雲・チ	灰白(10YR8/2)	酸化硬	ロクロナデ・ロクロケズリ							(1/36)		
31	155	SE298	5F11	土師器	無台杯	IV A	16.2	6.0	5.4	33	37		石・長・雲	浅黄橙(10YR8/3)	酸化硬	ロクロナデ・ミガキ							12/36	36/36	
31	156	SE298	5E20	土師器	長巻	A	(14.4)						石・長	にぶい橙(7.5YR7/3)	酸化硬	ナデ・ハケメ							2/36		
31	157	SE298	5E15	土師器	長巻	A	19.6						石・長・海	灰白(7.5YR8/2)	酸化硬	ナデ・ハケメ							3/36		
31	158	SD315	7G10	須恵器	無台杯	II	12.4	7.6	3.2	26	61		石・長	灰白(7.5Y7/1)	還元軟	ロクロナデ							34/36	36/36	
31	159	SD315	7G11	須恵器	有台杯	II		6.3					石・長	灰白(5Y7/1)	還元軟	ロクロナデ							9/36	5/36	
31	160	SD329	8I1	土師器	小甕			6.4					石・長・チ	にぶい黄橙(10YR6/3)	酸化硬	ロクロナデ							9/36		
31	161	SD329	8I1	土師器	長巻	B	(25.0)						石・長	にぶい黄橙(10YR6/3)	酸化硬	カキメ							1/36	沈線1条	
31	162	SD329	8I1	須恵器	大甕								石・長	灰白(2.5Y7/1)	還元硬	タタキメ	Hc	あて具痕	De						
31	163	SD329	8I1	土師器	鉢		(44.0)						石・長・チ	浅黄橙(10YR8/3)	酸化硬	カキメ							1/36	口縁端部に重ね貼り	
31	164	SD331	8I6	須恵器	無台杯			7.2					石・長・チ	灰白(10Y7/1)	還元硬	ロクロナデ								10/36	
31	165	SD331	8I1	須恵器	有台杯	III	12.9						石・長	灰(5Y6/1)	還元硬	ロクロナデ							4/36		
32	166	SK314	7H1	土師器	無台杯	II A	12.2	5.3	3.7	30	43		長・焼	浅黄橙(10YR8/3)	酸化硬	ロクロナデ							10/36	12/36	
32	167	SD307	6F14	須恵器	無台杯	II	13.2	7.6	2.7	20	58		石・長	灰(10Y6/1)	還元硬	ロクロナデ							13/36	11/36	
32	168	Pt338	7H25	須恵器	無台杯	I	11.4	7.6	2.7	24	67		石・長	灰(10Y6/1)	還元硬	ロクロナデ							7/36	16/36	
32	169	SE281 SX287	9M16 9K20	土師器	無台杯	III A	(15.0)						長	浅黄橙(7.5YR8/6)	酸化軟	ロクロナデ・ロクロケズリ							(3/36)		
32	170	SE281	9L15	土師器	鉢		(43.0)						石・長	浅黄橙(10YR8/3)	酸化硬	カキメ							1/36		
32	171	SX274	8N24	須恵器	有台杯			8.0					石・長・チ	灰白(7.5Y7/1)	還元硬	ロクロナデ・ロクロケズリ								17/36	
32	172	SX274	8N23	土師器	無台杯			7.0					石・長	漆橙(5YR8/4)	酸化軟	ロクロナデ								34/36	
32	173	SK379	9M13	須恵器	無台杯	II	12.5	8.0	3.3	26	64		石・長	灰白(10Y7/1)	還元硬	ロクロナデ							23/36	29/36	
32	174	SD268	8N8	須恵器	無台杯	II	12.0	7.5	3.1	26	63		石・長	灰(N6/0)	還元硬	ロクロナデ							22/36	22/36	
32	175	SD268	8N8	須恵器	無台杯	II	(12.4)	8.0	2.9				石・長	灰白(5Y7/1)	還元硬	ロクロナデ							1/36	9/36	
32	176	SD268	8N8・2次1T	須恵器	長頸壺			6.5					石・長・チ	浅黄橙(7.5YR8/6)	酸化硬	ロクロナデ・ケズリ							6/36	炭化物	
32	177	SD268	8N8	須恵器	大甕								長	黄灰(2.5Y7/2)	還元硬	カキメ・タタキメ							De	6/36	
32	178	SD272	8N15・8O11	須恵器	無台杯	II	12.8						石・長	灰(7.5Y5/1)	還元硬	ロクロナデ							5/36	炭化物	
32	179	SD272	8N15・8O11	須恵器	無台杯			7.6					石・長	灰(2.5Y6/1)	還元硬	ロクロナデ								9/36	体部外面に自然釉
32	180	SD272	8O17	須恵器	有台杯	III		11.0					石・長・チ	黄灰(2.5Y7/2)	還元硬	ロクロナデ								7/36	外面に墨書「一」
32	181	SD272	8N14	土師器	無台杯			6.2					石・長・焼	明褐色(7.5YR7/2)	酸化軟	カキメ								15/36	
32	182	SX287	9M16	土師器	長巻	B	(18.8)						石・長・チ	浅黄橙(10YR8/3)	酸化硬	カキメ							(2/36)		
32	183	SX287	9M16	土師器	長巻	B							石・長・チ	浅黄橙(10YR8/4)	酸化硬	カキメ・タタキメ・ケズリ	Hc	カキメ・あて具痕	De						
32	184	SX287	9M16	土師器	鉢		(44.0)						石・長・チ	にぶい黄橙(10YR7/3)	酸化硬	カキメ							2/36	10/36	
32	185	SE387	12H1	須恵器	無台杯	I	11.5	6.5	3.1	27	57		長・焼	灰(N5/0)	還元硬	ロクロナデ							9/36	10/36	
32	186	SE387	12H1	須恵器	無台杯	II	12.8						石・長	灰(7.5Y6/1)	還元硬	ロクロナデ							8/36		
32	187	SE387	12H1	土師器	長巻	B	(20.0)						石・長・雲	にぶい黄橙(10YR7/2)	酸化硬	カキメ							1/36		
32	188	SK362	12H13	須恵器	杯蓋	II	15.0						石・長	黄灰(2.5Y6/1)	還元硬	ロクロナデ							3/36		
33	189	SK366	12H21	須恵器	無台杯	II	12.4	7.6	3.3	27	61		長・焼	灰白(5Y7/1)	還元軟	ロクロナデ							11/36	36/36	
33	190	SK373	12I3	土師器	長巻	B	19.0						石・長・チ	浅黄橙(7.5YR8/4)	酸化硬	カキメ							7/36	23/36	
33	191	SK377	12H16	須恵器	無台杯	II	12.3	7.3	3.1	25	59		長	灰(N6/0)	還元硬	ロクロナデ							3/36	9/36	
33	192	SK377	12H16・17	須恵器	有台杯	III		9.0					石・長	灰白(N7/0)	還元硬	ロクロナデ							2/36	6/36	
33	193	SK382	11J4	土師器	無台杯	IV B	16.5						石・長・雲	浅黄橙(10YR8/3)	酸化硬	ロクロナデ・ロクロケズリ・ミガキ							5/36		
33	194	SK382	11J4	土師器	小甕			7.0					石・長・雲	にぶい橙(7.5YR7/4)	酸化硬	ロクロナデ・ロクロケズリ							19/36	スス	
33	195	SK384	12H11	土師器	鉢		(9.0)						雲・チ	浅黄橙(7.5YR8/3)	酸化硬	ケズリ							8/36		
33	196	SK492	12G10	須恵器	無台杯	II	(12.5)						石・長	灰(5Y5/1)	還元硬	ロクロナデ							1/36		
33	197	SK492	12G10	須恵器	無台杯			7.2					長	灰(N6/0)	還元硬	ロクロナデ								5/36	
33	198	SK492	12G10	土師器	無台杯			5.0					石・長・チ・焼	浅黄橙(7.5YR8/4)	酸化硬	ロクロナデ							11/36		
33	199	SI385	12H12	須恵器	無台杯	II	12.0	7.5																	

図版No.	報告書No.	出土位置		種別	器種	分類	法量 (cm)			器高 指数	口径 指数	胎土		色調	焼成	手法		備考				遺存率 全体	備考				
		遺構名	グリッド				口径	底径	器高			含有物				焼成	外面		内面		底部			底面	口縁部		
												石	土				胎土	底面	口縁部								
33	218	SI385	12H6・11 12H16	須恵器	無台杯		7.0					石・長	B	灰 (7.5Y6/1)	還元	硬	ロクロナデ		ロクロナデ		ヘラ切り		24/36		板目疳痕		
33	219	SI385	12H7	須恵器	無台杯		7.0					石・長	B	灰 (5Y6/1)	還元	硬	ロクロナデ		ロクロナデ		ヘラ切り	左	10/36				
33	220	SI385	11G25	須恵器	無台杯		7.2					石・長	B	灰 (N6/)	還元	硬	ロクロナデ		ロクロナデ		ヘラ切り	左	12/36		板目疳痕		
34	221	SI385	11G25・ 12G5・ 12H1	須恵器	有台杯	Ⅲ	(13.5)	7.5	6.2			石・長	B	灰 (5Y5/1)	還元	硬	ロクロナデ		ロクロナデ		ヘラ切り		1/36	14/36	7/36		
34	222	SI385	12H6・7	須恵器	有台杯	Ⅲ	13.9	7.9	6.9	50	57	石・長	B	灰 (7.5Y6/1)	還元	硬	ロクロナデ		ロクロナデ		ヘラ切り	左	8/36	25/36	17/36		
34	223	SI385	12H7	須恵器	有台杯	Ⅲ	(14.0)					石・長	C	黄灰 (2.5Y6/1)	還元	硬	ロクロナデ		ロクロナデ				3/36				
34	224	SI385	12G5	須恵器	杯蓋							石・長	B	灰 (5Y6/1)	還元	硬	ロクロナデ・ロクロケズリ		ロクロナデ								
34	225	SI385	12H2	須恵器	杯蓋							石・長	B	灰白 (10YR7/1)	還元	硬	ロクロナデ・ロクロケズリ		ロクロナデ			左					
34	226	SI385	12H7	須恵器	杯蓋							石・長	B	灰 (5Y6/1)	還元	硬	ロクロナデ・ロクロケズリ		ロクロナデ			左				内面転用痕	
34	227	SI385	12H1	須恵器	杯蓋	Ⅱ	15.0					長	B	灰白 (2.5Y8/1)	還元	硬	ロクロナデ・ロクロケズリ		ロクロナデ				3/36				
34	228	SI385	12H2	須恵器	杯蓋							石・長	B	黄灰 (2.5Y6/1)	還元	硬	ロクロナデ・ロクロケズリ		ロクロナデ			右	4/36				
34	229	SI385	12H6	須恵器	有台杯	Ⅱ	16.0					石・長	B	灰 (5Y5/1)	還元	硬	ロクロナデ		ロクロナデ		ヘラ切り			6/36			
34	230	SI385	11G25	須恵器	長頸壺			7.0				石・長	B	灰 (N4/0)	還元	硬	ロクロナデ		ロクロナデ				4/36				
34	231	SI385	12H11	須恵器	長頸壺							石・長	B	灰 (5Y4/1)	還元	硬	ロクロナデ		ロクロナデ								
34	232	SI385	12H6	須恵器	大甕							石・長	B	灰 (5Y4/1)	還元	硬	タタキメ			Hc		De					
34	233	SI385	12H12	須恵器	大甕							石・長	C	灰 (5Y6/1)	還元	硬	タタキメ			Hd							
34	234	SI385	11G25	須恵器	大甕							石・長	C	灰褐 (5YR5/2)	還元	硬	タタキメ					Db					
34	235	SI385	12G5・12H6	須恵器	大甕		(40.0)					石・長	D	灰 (N4/0)	還元	硬	ロクロナデ		ロクロナデ					1/36			
34	236	SI385	12H2	土師器	無台碗	I A	10.0					石・長		灰白 (10YR8/2)	酸化	硬	ロクロナデ		ロクロナデ					7/36			内面糊圧痕
34	237	SI385	12H6	土師器	無台碗	I A	11.3	5.5	4.1	36	49	石・長・雲		灰白 (10YR8/2)	酸化	硬	ロクロナデ		ロクロナデ		糸切り		1/36	12/36	9/36		
34	238	SI385	12H12	土師器	無台碗	II A	11.8	5.0	3.8	32	42	石・雲		浅黄橙 (7.5YR8/3)	酸化	硬	ロクロナデ		ロクロナデ		糸切り		5/36	15/36	7/36		
34	239	SI385	12H12	土師器	無台碗	I A	11.9	5.8	4.0	34	49	石・長・チ・焼		浅黄橙 (10YR8/3)	酸化	硬	ロクロナデ		ロクロナデ		糸切り		14/36	17/36	16/36		
34	240	SI385	12H7	土師器	無台碗	II A	(11.9)	6.0	3.7			雲		にぶい黄橙 (10YR7/2)	酸化	硬	ロクロナデ		ロクロナデ		糸切り		2/36	14/36	8/36		
34	241	SI385 SI386	12H7 12H12	土師器	無台碗	II B	11.9					石・長		浅黄橙 (7.5YR8/3)	酸化	硬	ロクロナデ・ミガキ		ロクロナデ・ミガキ					3/36			
34	242	SI385	12H11	土師器	無台碗	II A	12.0	5.3	3.7	31	44	石・長・チ・焼		浅黄橙 (7.5YR8/3)	酸化	硬	ロクロナデ		ロクロナデ		糸切り		9/36	11/36	9/36		内面竹管痕
34	243	SI385	12H6	土師器	無台碗	II A	12.0	5.6	3.8	32	47	石・長・雲・チ・焼		浅黄橙 (10YR8/3)	酸化	硬	ロクロナデ		ロクロナデ		糸切り	右	11/36	20/36	18/36		
34	244	SI385	12H6	土師器	無台碗	II A	12.0	5.6	3.8	32	47	石・長・チ		浅黄橙 (10YR8/3)	酸化	硬	ロクロナデ		ロクロナデ		糸切り	右	5/36	20/36	15/36		
34	245	SI385	12H1・11	土師器	無台碗	II A	12.0	6.2	3.9	33	52	長・雲		にぶい黄橙 (10YR7/3)	酸化	硬	ロクロナデ		ロクロナデ		糸切り	右	15/36	29/36	22/36		
34	246	SI385	12H7・12	土師器	無台碗	II A	12.2	6.0	4.0	33	49	石・長・チ		灰白 (10YR8/2)	酸化	硬	ロクロナデ		ロクロナデ		糸切り	右	11/36	29/36	22/36		
34	247	SI385 SI386	12H7 12H7	土師器	無台碗	II A	12.3	5.5	3.9	32	45	石・長・チ		淡橙 (5YR8/3)	酸化	硬	ロクロナデ		ロクロナデ		糸切り	右	3/36	34/36	18/36		スス
34	248	SI385	12H7	土師器	無台碗	II A	12.4	5.5	3.6	29	44	石・長・雲・チ		にぶい黄橙 (10YR7/2)	酸化	硬	ロクロナデ		ロクロナデ		糸切り		2/36	15/36	12/36		
34	249	SI385	12H1	土師器	無台碗	II B	12.5	4.9	4.1	33	39	石・長・チ		浅黄橙 (7.5YR8/3)	酸化	硬	ロクロナデ・ミガキ		ロクロナデ・ミガキ		糸切り・ミガキ		12/36	19/36	16/36		
34	250	SI385	12H12	土師器	無台碗	II A	12.5	6.0	4.0	32	48	石・長		浅黄橙 (10YR8/3)	酸化	硬	ロクロナデ		ロクロナデ		糸切り		2/36	12/36	5/36		
34	251	SI385	12H6・11	土師器	無台碗	II A	12.8	5.3	3.8	30	41	長・チ		灰白 (10YR8/2)	酸化	硬	ロクロナデ		ロクロナデ		糸切り		3/36	15/36	10/36		
34	252	SI385	12H2	土師器	無台碗	II A	(12.9)	6.4	3.2			長・雲・チ		浅黄橙 (10YR8/3)	酸化	軟	ロクロナデ		ロクロナデ		糸切り		2/36	15/36	9/36		
34	253	SI385	12H1	土師器	無台碗	II B	(13.0)	5.6	3.8			長・雲		にぶい黄橙 (10YR7/2)	酸化	硬	ロクロナデ		ロクロナデ		糸切り		2/36	13/36	8/36		
35	254	SI385	12H2	土師器	無台碗	IV A	16.8					雲・チ		灰白 (7.5YR8/2)	酸化	硬	ロクロナデ		ロクロナデ		糸切り		6/36				
35	255	SI385	12H1・2・6	土師器	無台碗	IV B	17.1	6.5	4.3	25	38	石・雲・チ		にぶい橙 (7.5YR7/3)	酸化	硬	ロクロナデ		ロクロナデ		糸切り	右	5/36	12/36	8/36		底部外面墨書「口」
35	256	SI385	12H1	土師器	無台碗	IV B	16.7	6.4	4.4	26	38	石・長・雲		浅黄橙 (7.5YR8/3)	酸化	硬	ロクロナデ		ロクロナデ		糸切り	右	2/36	17/36	9/36		底部外面墨書「口」
35	257	SI385	12H11	土師器	無台碗	IV A	17.5	7.6	6.1	35	43	石・長・焼		灰白 (10YR8/2)	酸化	硬	ロクロナデ		ロクロナデ		糸切り	右	18/36	18/36	18/36		スス
35	258	SI385	12H7・12	土師器	無台碗			6.0				石・長		浅黄橙 (7.5YR8/3)	酸化	硬	ロクロナデ		ロクロナデ		糸切り		19/36				底部外面墨書「上」
35	259	SI385	12H2	土師器	無台皿		16.0	9.5	2.6	16	59	石・チ		灰白 (10YR8/2)	酸化	硬	ロクロナデ		ロクロナデ		糸切り		3/36	7/36	5/36		
35	260	SI385	12H7	土師器	無台皿		16.0	8.0	2.4	15	50	石・長・チ・焼		浅黄橙 (7.5YR8/3)	酸化	硬	ロクロナデ		ロクロナデ		糸切り	右	5/36	14/36	11/36		底部内面赤彩か 炭化物
35	261	SI385	12H6	土師器	小甕	I	(10.0)					石・長・雲		灰褐 (7.5YR6/2)	酸化	硬	ロクロナデ		ロクロナデ				2/36				
35	262	SI385	12H2・12	土師器	小甕	I	10.5					雲・チ・焼		にぶい黄橙 (10YR7/2)	酸化	硬	ロクロナデ・カキメ		ロクロナデ				6/36				
35	263	SI385	12H1	土師器	小甕	II	12.8					長・雲・チ		にぶい橙 (7.5YR7/3)	酸化	硬	ロクロナデ・カキメ		ロクロナデ				7/36				
35	264	SI385	12H7	土師器	小甕	II	(12.5)					長・雲・焼		にぶい黄橙 (10YR7/2)	酸化	硬	ロクロナデ		ロクロナデ				2/36				
35	265	SI385	12H1	土師器	小甕	II	15.0					石・長・雲		灰白 (7.5YR8/2)	酸化	硬	ロクロナデ		ロクロナデ				7/36				
35	266	SI385	12H6	土師器	無台碗			5.9				石・長・雲		にぶい黄橙 (10YR7/2)	酸化	硬	ロクロナデ		ロクロナデ		糸切り	右		34/36			
35	267	SI385	12H6	土師器	小甕			5.7				長・雲・海・焼		にぶい橙 (7.5YR7/3)	酸化	硬	ロクロナデ		ロクロナデ		糸切り	右		30/36			
35	268	SI385 SI386	12H7 12H13	土師器	小甕			6.5				長・雲		にぶい橙 (5YR6/3)	酸化	硬	ロクロナデ・ロクロケズリ		ロクロナデ		糸切り	右		36/36			スス・炭化物
35	269	SI385	12H6	土師器	小甕			7.3				長・雲・焼		灰白 (7.5YR8/1)	酸化	硬	ロクロナデ		ロクロナデ		糸切り	右		35/36			スス
35	270	SI385	12H1・11	土師器	鉢			8.5				長・雲・焼		明褐灰 (7													

図版No.	報告書No.	出土位置		種別	器種	分類	法量 (cm)			器高指数	口径指数	胎土		色調	焼成	手法				遺存率	全体	備考					
		遺構	グリッド				口径	底径	器高			含有物	産地			外面		内面					底部	甕頸	口縁部	底部	
36	293	SI386	12H7	須恵器	無台杯	II	13.0	7.4	3.2	25	57	石・長	B	灰白 (2.5Y7/1)	還元	硬	ロクロナデ		ロクロナデ		ヘラ切り		9/36	14/36	10/36		
36	294	SI386	12H7	須恵器	無台杯	III	(13.9)					石・長	B	灰白 (5Y7/1)	還元	硬	ロクロナデ		ロクロナデ				3/36				
36	295	SI386	12H8	須恵器	無台杯			7.0				石・長	B	灰白 (7.5YR8/1)	酸化	硬	ロクロナデ		ロクロナデ		ヘラ切り			6/36			
36	296	SI386	12H7	須恵器	無台杯			7.8				石・長	B	灰白 (7.5Y7/1)	還元	硬	ロクロナデ		ロクロナデ		ヘラ切り			16/36			
36	297	SI386	12H8	須恵器	無台杯			8.4				石・長	B	灰 (10Y5/1)	還元	硬	ロクロナデ		ロクロナデ		ヘラ切り	左		12/36			
36	298	SI386	12H7	須恵器	有台杯	III	(16.5)					石・長	B	灰 (10Y4/1)	還元	硬	ロクロナデ		ロクロナデ				1/36				
36	299	SI386	12H13 12H12	須恵器	有台杯			8.2				石・長	B	灰 (7.5Y6/1)	還元	硬	ロクロナデ		ロクロナデ		ヘラ切り			13/36			
36	300	SI386	12H8	須恵器	杯蓋							石・長	B	灰 (7.5Y6/1)	還元	硬	ロクロナデ・ロクロナデ		ロクロナデ			左					
36	301	SI386	12H12 12H12・17	須恵器	杯蓋							長	A	灰白 (7.5Y7/1)	還元	硬	ロクロナデ		ロクロナデ			左					
36	302	SI386	12H8	須恵器	長頸壺							石・長・チ	B	灰 (N4/0)	還元	硬	ロクロナデ		ロクロナデ		ヘラ切り					内面自然釉	
36	303	SI386	12H7	須恵器	大甕							石・長・チ	C	灰 (5Y5/1)	還元	硬	ロクロナデ		ロクロナデ								
37	304	SI386 SI385	12H8 12H7	須恵器	大甕							石・長	A	灰 (N6/)	還元	硬	カキメ・タタキメ	Hb	あて具痕		Dc						305 と同一個体か
37	305	SI386 SI385	12H8 12H7	須恵器	大甕							石・長	A	灰 (N6/)	還元	硬	カキメ・タタキメ	Hb	あて具痕		Dc						304 と同一個体か
37	306	SI386	12H8	土師器	無台碗	II A	11.7	5.5	3.6	31	47	石・長・チ		灰白 (10YR8/2)	酸化	軟	ロクロナデ		ロクロナデ		糸切り		5/36	16/36	15/36		
37	307	SI386	12H8	土師器	無台碗	II A	11.8	5.5	4.1	35	47	石・長・チ		灰白 (10YR8/2)	酸化	軟	ロクロナデ		ロクロナデ		糸切り		11/36	14/36	13/36		
37	308	SI386	12H7	土師器	無台碗	II A	12.0	6.0	4.1	34	50	石・長		灰白 (10YR8/2)	酸化	軟	ロクロナデ		ロクロナデ		糸切り		8/36	18/36	13/36		
37	309	SI386 SI385	12H12 12H12	土師器	無台碗	II B	12.0	6.0	3.7	31	50	雲・焼		にぶい黄橙 (10YR7/2)	酸化	硬	ロクロナデ		ロクロナデ・ミガキ		糸切り	右	6/36	25/36	16/36		
37	310	SI386	12H7	土師器	無台碗	II A	12.3	6.0	4.0	33	49	石・長・焼		浅黄橙 (7.5YR8/3)	酸化	軟	ロクロナデ		ロクロナデ		糸切り	右	19/36	24/36	22/36		
37	311	SI386 SI385	12H8 12H7	土師器	無台碗	II B	12.3	6.5	3.7	30	53	石・長・雲・焼		にぶい橙 (7.5YR7/3)	酸化	硬	ロクロナデ		ロクロナデ・ミガキ		糸切り	右	2/36	35/36	18/36		スス
37	312	SI385 SI386	12H12 12H12	土師器	無台碗	II A	12.4	6.3	3.8	31	51	石・長		浅黄橙 (7.5YR8/3)	酸化	軟	ロクロナデ		ロクロナデ				13/36	33/36	23/36		全体に刺離多い
37	313	SI386	12H12	土師器	無台碗	II A	12.4	5.9	4.3	35	48	石・長・焼		灰白 (10YR8/2)	酸化	軟	ロクロナデ		ロクロナデ		糸切り	右	21/36	35/36	28/36		
37	314	SI386 SI385	12H7 12H2・7	土師器	無台碗	IV A	16.2	6.5	5.2	32	40	石・長・雲		にぶい橙 (7.5YR7/3)	酸化	硬	ロクロナデ		ロクロナデ		糸切り	右	32/36	29/36	31/36		
37	315	SI386	12H12	土師器	無台碗	IV B	16.8					長・チ		浅黄橙 (10YR8/3)	酸化	硬	ロクロナデ		ロクロナデ・ミガキ				7/36				
37	316	SI386 SI385	12H13 12H7	土師器	無台碗	IV A	16.9					石・長・チ		浅黄橙 (10YR8/3)	酸化	軟	ロクロナデ		ロクロナデ				12/36				
37	317	SI386	12H12	土師器	無台皿		15.4					長		灰白 (10YR8/2)	酸化	軟	ロクロナデ		ロクロナデ				7/36				
37	318	SI386 SI385	12H7・8 12H7	土師器	無台皿		15.3	10.4	2.3	15	68	長・雲		灰白 (10YR8/2)	酸化	硬	ロクロナデ		ロクロナデ		糸切り		22/36	20/36	21/36		
37	319	SI386	12H12	土師器	小甕	II	13.6					石・長		浅黄橙 (10YR8/3)	酸化	軟	ロクロナデ		ロクロナデ				8/36				
37	320	SI386	12H13	土師器	小甕	II	(14.5)					石・雲		灰白 (10YR8/2)	酸化	軟	ロクロナデ		ロクロナデ				2/36				
37	321	SI386	12H18	土師器	長甕	B	(27.0)					石・長・チ		灰白 (10YR8/2)	酸化	硬	ロクロナデ		ロクロナデ				2/36				
37	322	SI386	12H7	土師器	長甕	B	(27.0)					石・長・チ		浅黄橙 (10YR8/3)	酸化	硬	ロクロナデ		ロクロナデ				2/36				外面刺離
37	323	SI386	12H7	土師器	鍋		(40.3)					石・長・雲		にぶい橙 (7.5YR6/4)	酸化	硬	カキメ・ケズリ		カキメ				2/36				
37	324	SI386 SI385	12H2 12H12	土師器	鍋		(47.0)					長・雲		灰白 (7.5YR8/3)	酸化	硬	ロクロナデ		ロクロナデ				2/36				
38	325	SD358	12H14	須恵器	無台杯	II	(11.5)					石・長	B	灰白 (N7/0)	還元	硬	ロクロナデ		ロクロナデ				3/36				
38	326	SD358	12H23	須恵器	無台杯			7.2				石・長・チ	B	灰 (7.5Y6/1)	還元	硬	ロクロナデ		ロクロナデ		ヘラ切り			9/36			
38	327	SD358	12H14	須恵器	無台杯			8.5				石・長	B	灰白 (7.5Y7/1)	還元	硬	ロクロナデ		ロクロナデ		ヘラ切り			8/36			
38	328	SD358	12H19	須恵器	有台杯	II	(11.5)					石・長	B	灰白 (N7/0)	還元	硬	ロクロナデ		ロクロナデ				2/36				
38	329	SD358	12H24	土師器	無台碗	III A	15.8	6.4	5.1	32	41	石・長		灰白 (7.5YR8/2)	酸化	硬	ロクロナデ		ロクロナデ		糸切り		7/36	22/36	15/36		炭化物
38	330	SD358	12H19	土師器	筒形土器							長・雲		浅黄橙 (10YR8/3)	酸化	硬	ケズリ		指頭匠痕・ケズリ								
38	331	SD358	12H24	須恵器	大甕							石・長	C	灰 (5Y5/1)	還元	硬	タタキメ・カキ目	Hc	あて具痕		Da						
38	332	SD358	12H14	須恵器	大甕		(56.6)					石・長	A	灰 (7.5Y6/1)	還元	硬	ロクロナデ・波状文		ロクロナデ				0/36				
38	333	SD358	12H14	須恵器	大甕							石・長	C	褐灰 (10YR6/1)	還元	硬	ロクロナデ・波状文		ロクロナデ								
38	334	SD490	12G15	須恵器	長頸壺							石・長	D	灰 (7.5Y6/1)	還元	硬	ロクロナデ		ロクロナデ								
38	335	SD490	12G15	須恵器	長頸壺			12.5				石・長	B	灰 (7.5Y6/1)	還元	硬	ロクロナデ		ロクロナデ		(内) 指頭匠痕の ちナデ (外) ヘラケズリ	右		18/36			
38	336	包含層	表採	土師器	甕		22.0					石・長		にぶい橙 (7.5YR6/4)	酸化	硬	ハケメ		ハケメ				4/36				外面肩部自然釉
38	337	包含層	5D17	須恵器	短頸壺		10.2					石・長	C	灰 (5Y6/1)	還元	硬	ロクロナデ・カキメ・タタキメ		ロクロナデ				12/36				外面肩部自然釉
38	338	包含層	6L3	須恵器	小甕	I	9.4	5.5	9.3	99	59	石・長		橙 (7.5YR7/6)	酸化	軟	ロクロナデ		ロクロナデ		(外) ケズリ		15/36	23/36	23/36		スス・炭化物 全体に刺離多い
38	339-a	包含層	5L21	土師器	長甕	A	(23.8)					石・長・チ		浅黄橙 (10YR8/3)	酸化	硬	ハケメ		ハケメ・ケズリ				1/36				外面刺離多い
38	339-b	包含層	5L21	土師器	長甕	A		9.5				石・長・チ		浅黄橙 (10YR8/3)	酸化	硬	ハケメ・ケズリ		ナデ・ケズリ		(内) 指頭匠痕		8/36				外面スス付着

別表 3 土製品・石製品観察表

図版No.	報告書No.	出土位置		時代	器種	石材	法量				備考	
		遺構	グリッド				長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重量 (g)		
39	340	SD264	7M3		土師			(内径) 4.0	(外径) 9.0	(長さ) 26.0	1.00	
39	341	SI386	12H13		羽口			(内径) 28.0	(外径) 155.0	(長さ) 44.0	30.10	
39	342	SE58	5C15		砥石	凝灰岩		99.50	76.00	46.00	362.00	
39	343	SD15	6B13		砥石	凝灰岩		39.00	60.40	33.00	85.00	
39	344	SE126	3G1		砥石	凝灰岩		57.20	43.30	16.50	45.10	
39	345	SI386	12H7		砥石	凝灰岩		50.30	37.70	10.30	17.00	
39	346	SD358	12H14		砥石	安山岩		100.50	43.20	18.20	119.00	
39	347	SD268	8O7		磨製石斧	閃緑岩		45.25	59.80	27.05	124.52	敲打痕「痕刃」
39	348	SD264	7M3		小礫			15.00		5.00	1.80	
39	349											

別表 6 主要遺構出土古代土器器種構成率

1 主要遺構から出土した土器（土師器・黒色土器・須恵器）の構成比率を示した表である。出土点数の少ない遺構については掲載していない。
 2 土器の計測法は口縁部残存率法〔宇野 1992、春日 1994〕とそれを応用した底部残存率法により計測した。また、併せて口縁数・底部数を示した。
 3 口縁・底部残存率によって得られた数値は¹/₃₆を示し、それぞれ口縁値・底残値と略記した。

種別	計測法	食膳具										煮炊具			貯蔵具			合計	
		土師器		黒色土器		須恵器			土師器		須恵器	須恵器		合計					
		無台碗	皿	鉢	無台碗	無台杯	有台杯	杯蓋	皿	長甕	小甕	鍋	大甕		長頸壺	短頸壺			
SE9	口縁値 口縁数(点) 底残値 底部数(点) 総点数(点) 総重量(g)					8 3 3 21.2	100.00% 100.00% 27.27% 20.62%											0 0 3 11	0.00% 0.00% 100.00% 100.00%
SE29	口縁値 口縁数(点) 底残値 底部数(点) 総点数(点) 総重量(g)	0.07 2 0.08	6.28% 18.18% 7.65%			0.07 1 0.5	6.28% 9.09% 45.54%	0.49 3 0.51	43.72% 27.27% 46.81%									33.8 6 0.03	32.88% 54.55% 41.20%
SE126	口縁値 口縁数(点) 底残値 底部数(点) 総点数(点) 総重量(g)					0.14 2 6	100.00% 100.00% 13.64%	116.3	20.29%									322.7 16 56.6	56.29% 36.36% 28.87%
SE133	口縁値 口縁数(点) 底残値 底部数(点) 総点数(点) 総重量(g)	0.04 1 5	100.00% 50.00% 16.13%															13.4 1 14.9	3.32% 50.00% 4.29%
SE144	口縁値 口縁数(点) 底残値 底部数(点) 総点数(点) 総重量(g)					0.08 1	75.00% 50.00%	1.8	1.50%									118.2 0.03 1	98.50% 25.00% 50.00%
SE218	口縁値 口縁数(点) 底残値 底部数(点) 総点数(点) 総重量(g)	0.17 1 10	27.29% 25.00% 26.32%			0.45 3 4	72.71% 75.00% 10.53%											31.6 0.14 22	20.43% 50.00% 14.22%
SE230	口縁値 口縁数(点) 底残値 底部数(点) 総点数(点) 総重量(g)					2.2 11	62.20% 61.11%											0.11 18 2.2	4.03% 50.00% 62.20%
SE245	口縁値 口縁数(点) 底残値 底部数(点) 総点数(点) 総重量(g)	1 8 66.2	28.34% 4.08% 3.25%			35 282.8	17.86% 13.88%											0.58 9 28.8	40.00% 45.00% 56.18%
SE281	口縁値 口縁数(点) 底残値 底部数(点) 総点数(点) 総重量(g)	0.25 2	56.18% 28.57%			2 0.14	28.09% 27.74%											0.49 1 9	32.06% 50.00% 12.68%
SE298	口縁値 口縁数(点) 底残値 底部数(点) 総点数(点) 総重量(g)	1.46 3 23	47.51% 20.00% 15.75%			0.78 5 9	25.33% 33.33% 6.16%	0.08 1 0.16	2.74% 6.67% 0.68%									155.9 0.49 10	10.90% 32.06% 6.67%
SE387	口縁値 口縁数(点) 底残値 底部数(点) 総点数(点) 総重量(g)					0.28 1	100.00% 100.00%											0.28 1 2	100.00% 100.00% 40.00%
SK47	口縁値 口縁数(点) 底残値 底部数(点) 総点数(点) 総重量(g)					0.44 3	100.00% 100.00%											0.44 3 927	100.00% 100.00% 100.00%
SK88	口縁値 口縁数(点) 底残値 底部数(点) 総点数(点) 総重量(g)	0.86 13 1.4	20.33% 21.67% 27.37%			1 0.75	23.59% 14.63%											13 0.75 8	21.67% 14.63% 34.78%
SK197	口縁値 口縁数(点) 底残値 底部数(点) 総点数(点) 総重量(g)					0.13 2	100.00% 100.00%											0.13 2 0.47	100.00% 100.00% 100.00%
SK210	口縁値 口縁数(点) 底残値 底部数(点) 総点数(点) 総重量(g)	0.86 13 1.4	20.33% 21.67% 27.37%			1 0.75	23.59% 14.63%											13 0.75 8	21.67% 14.63% 34.78%

計測法	種別	食膳具											煮炊具			貯蔵具			合計				
		土師器			黒色土器		須恵器			土師器			須恵器										
		無台碗	皿	鉢	無台碗	無台杯	有台杯	杯蓋	皿	長表	小表	鍋	大表	長頸壺	短頸壺								
SK279	口残値					0.36	86.60%						0.06	13.40%							0.42	100.00%	
	口縁数(点)					5	71.43%						2	28.57%								7	100.00%
	底残値					1	100.00%															1	100.00%
	底部数(点)					5	100.00%															5	100.00%
SK290	総点数(点)					7	38.89%						10	55.56%				1	5.56%			18	100.00%
	総重量(g)					94.6	69.20%					39.1	28.60%				3	2.19%			136.7	100.00%	
	口残値										0.21	100.00%									0.21	100.00%	
	口縁数(点)										1	100.00%									1	100.00%	
SK314	底残値					0.11	100.00%														0.11	100.00%	
	底部数(点)					1	100.00%														1	100.00%	
	総点数(点)	1	7.14%			6	42.86%			1	7.14%		6	42.86%							14	100.00%	
	総重量(g)	2.6	2.59%			20.6	20.52%			62.6	62.35%		14.6	14.54%							100.4	100.00%	
SK366	口残値	0.31	73.21%			0.08	20.10%					0.03	6.70%								0.42	100.00%	
	口縁数(点)	2	40.00%			1	20.00%					1	20.00%								5	100.00%	
	底残値	0.28	100.00%																		0.28	100.00%	
	底部数(点)	1	100.00%																		1	100.00%	
SK373	総点数(点)	6	46.15%			6	21.00%			2	15.38%		3	23.08%				1	7.69%		13	100.00%	
	総重量(g)	42.3	41.13%			7.1	6.91%			2.4	2.33%		40	38.91%				11	10.70%		102.8	100.00%	
	口残値					0.97	97.20%					0.03	2.80%								1	100.00%	
	口縁数(点)					21	95.45%			1	4.55%										22	100.00%	
SK377	底残値	0.06	4.47%			1.08	86.58%					0.11	8.95%								1.25	100.00%	
	底部数(点)	1	10.00%			8	80.00%					1	10.00%								10	100.00%	
	総点数(点)	22	23.16%			48	50.53%			2	2.11%		22	23.16%				1	1.05%		95	100.00%	
	総重量(g)	40.3	13.17%			118.1	38.58%			8	2.61%		134.7	44.01%				5	1.63%		306.1	100.00%	
SK382	口残値	2.5	26.32%									7	73.68%								9.5	100.00%	
	口縁数(点)	2	66.67%									1	33.33%								3	100.00%	
	底残値																				0	0.00%	
	底部数(点)					3	15.79%						14	73.68%							19	100.00%	
SK384	総点数(点)	2	10.53%			2.7	2.10%					123.5	96.03%								128.6	100.00%	
	総重量(g)	2.4	1.87%			0.22	69.47%					0.1	30.53%								0.32	100.00%	
	口残値					4	66.67%					2	33.33%								6	100.00%	
	口縁数(点)					0.39	34.15%	0.75	65.85%												1.14	100.00%	
SK388	底残値					2	50.00%			2	50.00%										4	100.00%	
	底部数(点)	3	11.54%			7	26.92%	3	11.54%	2	7.69%		9	34.62%				2	7.69%		26	100.00%	
	総点数(点)	7.5	1.93%			41.4	10.68%	139.6	36.00%	8.1	2.09%		129.7	33.45%				61.5	15.86%		387.8	100.00%	
	総重量(g)	0.2	100.00%																		0.2	100.00%	
SK484	口残値	0.08	13.11%												0.53	86.89%					0.61	100.00%	
	口縁数(点)	1	25.00%												3	75.00%					4	100.00%	
	底残値	15	78.95%												4	21.05%					19	100.00%	
	底部数(点)	128	62.75%												76.0	37.25%					204.0	100.00%	
SI385	口残値																				0	0.00%	
	口縁数(点)					0.22	100.00%														0.22	100.00%	
	底残値					1	100.00%														1	100.00%	
	底部数(点)	1	20.00%			4	80.00%														5	100.00%	
SI386	総点数(点)	0.8	0.71%			111.3	99.29%														112.1	100.00%	
	総重量(g)																				0.1	100.00%	
	口残値											0.04	42.86%			0.06	57.14%				3	100.00%	
	口縁数(点)											1	33.33%			2	66.67%				3	100.00%	
SX110	底残値					0.03	100.00%														0.03	100.00%	
	底部数(点)					1	100.00%														1	100.00%	
	総点数(点)					2	8.33%					6	25.00%			16	66.67%				24	100.00%	
	総重量(g)					6.2	2.01%					102.5	33.20%			200	64.79%				308.7	100.00%	
SX274	口残値	21.05	42.28%	0.95	1.91%	20.43	41.03%	0.33	0.66%	1.53	3.07%		3.08	7.39%	1.22	2.45%	0.46	0.93%	0.03	0.06%	0.11	0.22%	
	口縁数(点)	378	46.49%	12	1.48%	297	36.53%	6	0.74%	25	3.08%		62	7.63%	21	2.58%	10	1.23%	1	0.12%	1	0.12%	
	底残値	48.54	57.63%	0.95	1.13%	1.20	1.42%					5.33	6.33%	3.42	4.06%	1.49%							
	底部数(点)	210	44.59%	5	1.06%	6	1.27%					31	6.58%	11	2.34%	7	1.49%			1	0.21%		
SX287	総点数(点)	1919	52.75%	17	0.47%	6	0.16%	3	0.08%	625	17.18%	14	0.83%	37	1.02%	820	22.54%	100	2.75%	11	0.03%	83	2.28%
	総重量(g)	838.18	37.78%	176.5	0.79%	205.8	0.93%	14.0	0.06%	2411.9	10.87%	247.3	1.11%	580.5	2.62%	5464.1	24.63%	540.0	2.43%	397.9	1.79%	3718.3	16.76%
	口残値	0.08	14.55%										0.42	76.36%			0.05	9.09%			0.55	100.00%	
	口縁数(点)	4	33.33%										7	58.33%			1	8.34%			12	100.00%	
SX274	底残値																				0	0.00%	
	底部数(点)																				0	0.00%	
	総点数(点)	11	4.42%									236	94.78%			1	0.40%				249	100.00%	
	総重量(g)	17.9	1.62%									0.8	0.07%			17.0	0.63%				1106.7	100.00%	
SX110	口残値																				0.93	100.00%	
	口縁数(点)																				16	100.00%	
	底残値																				5.17	100.00%	
	底部数(点)																				14	100.00%	
SX274	総点数(点)																				406	100.00%	
	総重量(g)																				4006.5	100.00%	
	口残値																				0	0.00%	
	口縁数(点)																				0	0.00%	
SX274	底残値	1	60.46%			0.17	10.10%	0.49	29.44%												1.65	100.00%	
	底部数(点)	8	80.00%			1	10.00%	1	10.00%												10	100.00%	
	総点数(点)	8	33.33%			2	8.33%	1	4.17%					13	54.17%						24	100.00%	
	総重量(g)	65	44.22%			2.8	1.90%	45.8	31.16%					33.4	22.72%			0.06	28.57%		147	100.00%	
SX287	口残値	0.08	42.86%											0.06	28.57%						0.2	100.00%	
	口縁数(点)	1	33.33%											1	33.33%					1	33.33%		
	底残値																				0	0.00%	
	底部数(点)																				0	0.00%	
SD16	総点数(点)	1	16.67%											4	66.67%			1	16.67%		6	100.00%	
	総重量(g)	11.6	6.13%											117.1	61.89%			60.5	31.98%		189.2	100.00%	
	口残値	0.13	32.05%			0.21	53.59%									0.06	14.36%				0.39	100.00%	
	口縁数(点)	1	11.11%			4	44.44%									4	44.44%				9	100.00%	
SD17	底残値	0.13	18.36%			2	50.00%	0.56	81.64%												0.68	100.00%	
	底部数(点)	1	25.00%			4	50.00%	1	25.00%												4	100.00%	
	総点数(点)	11	10.48%			6	5.71%	1	0.95%					68	64.76%	18							

図 版

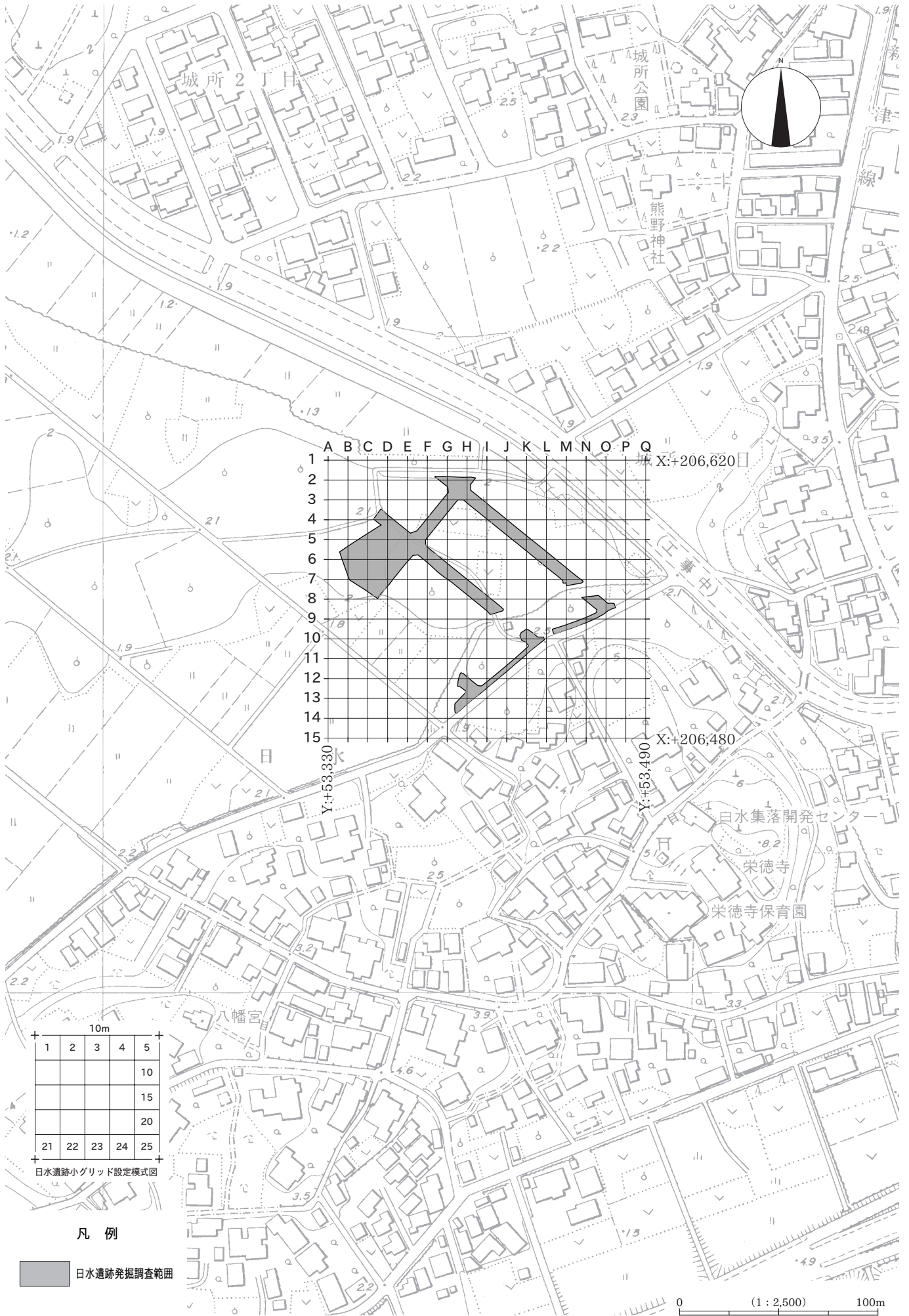


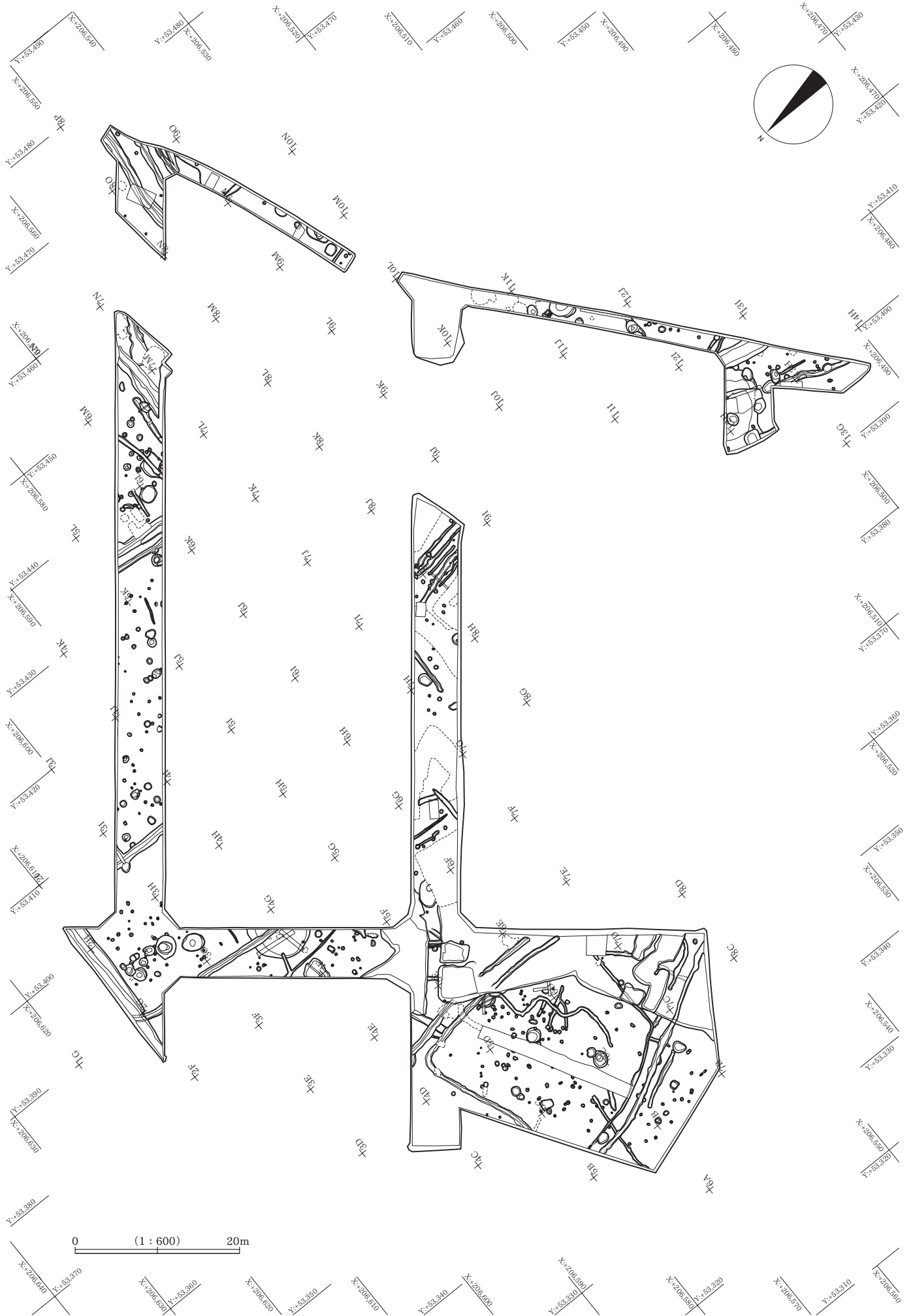
凡例

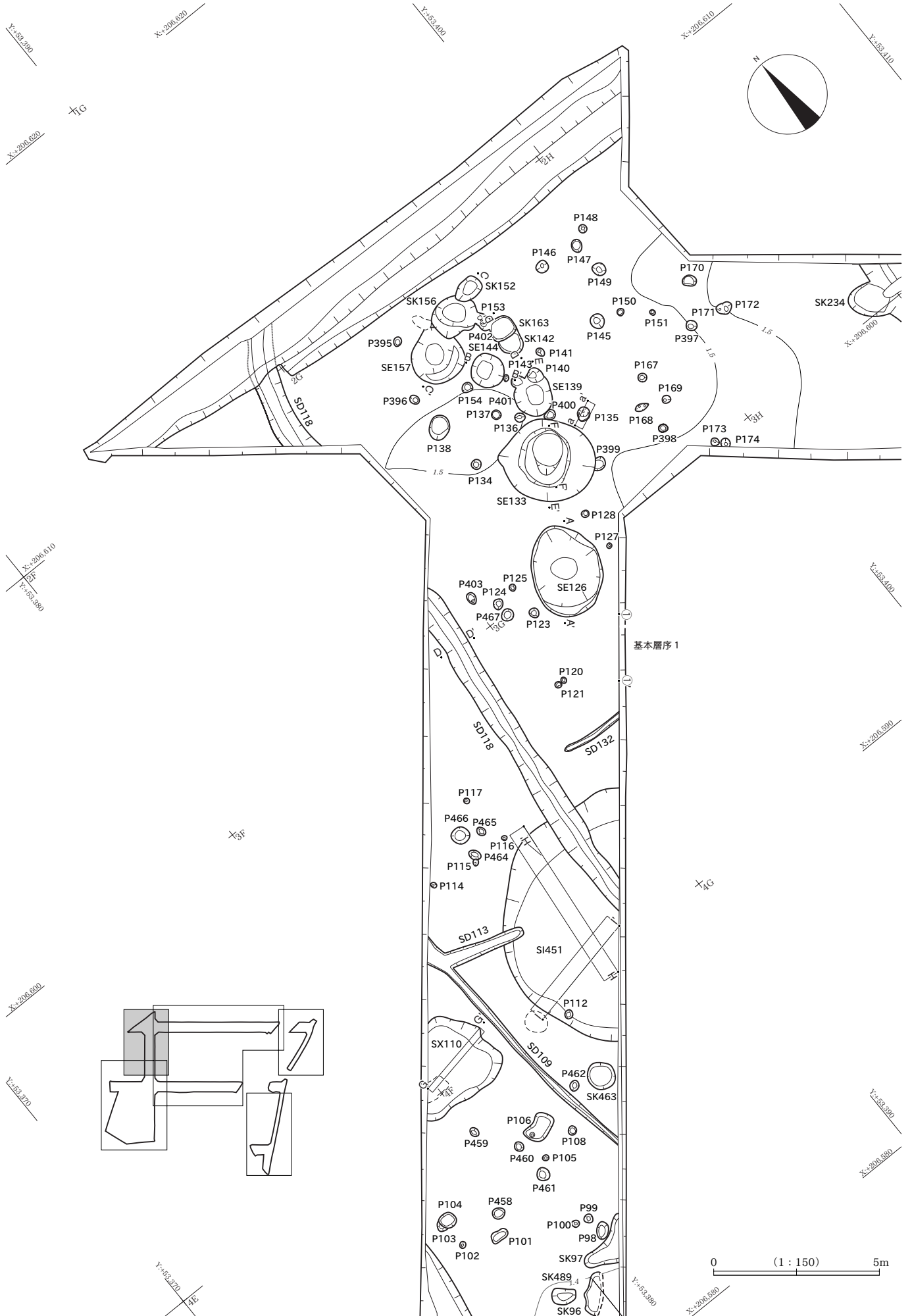
遺跡推定範囲

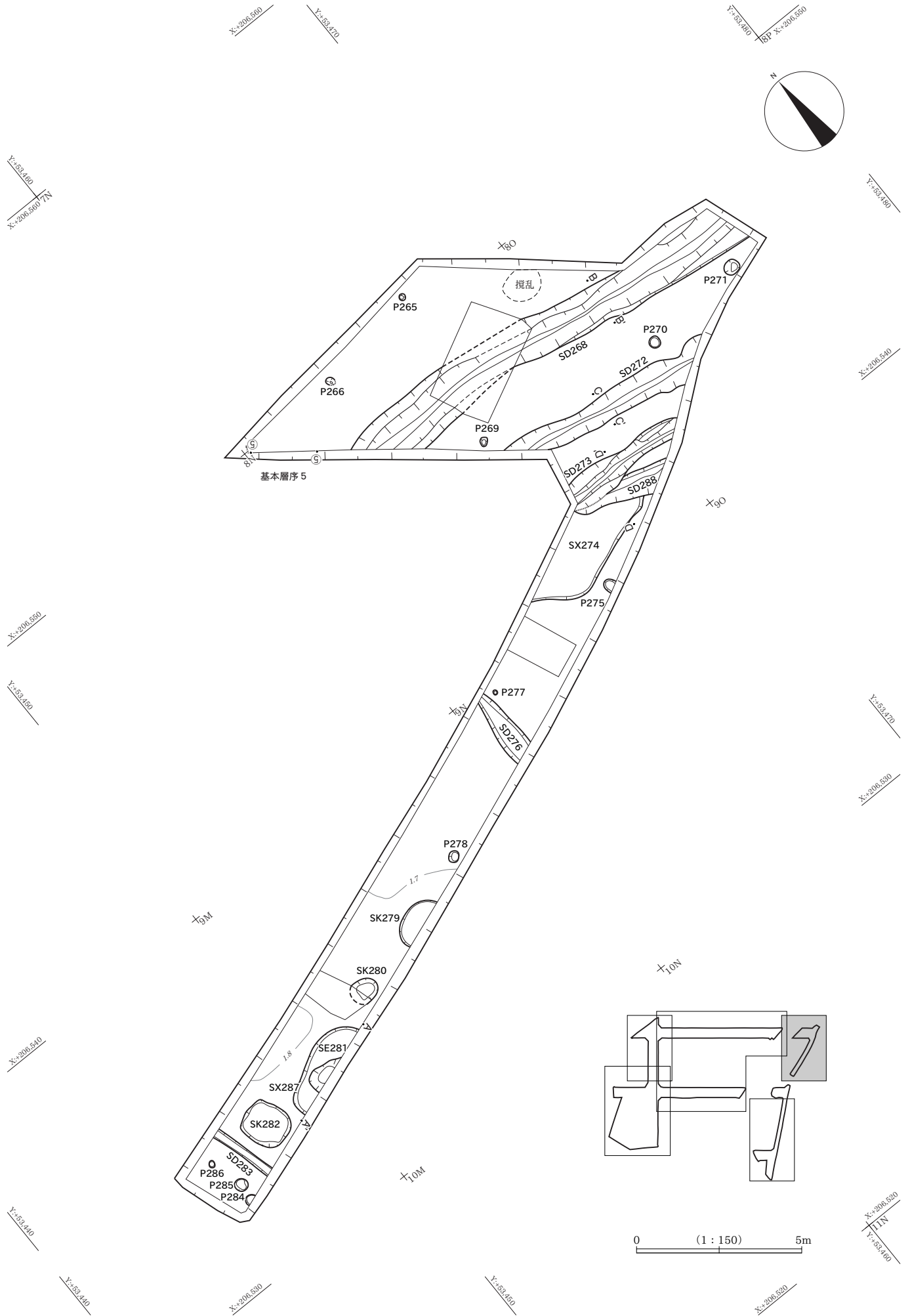
2006年4月1日 現在

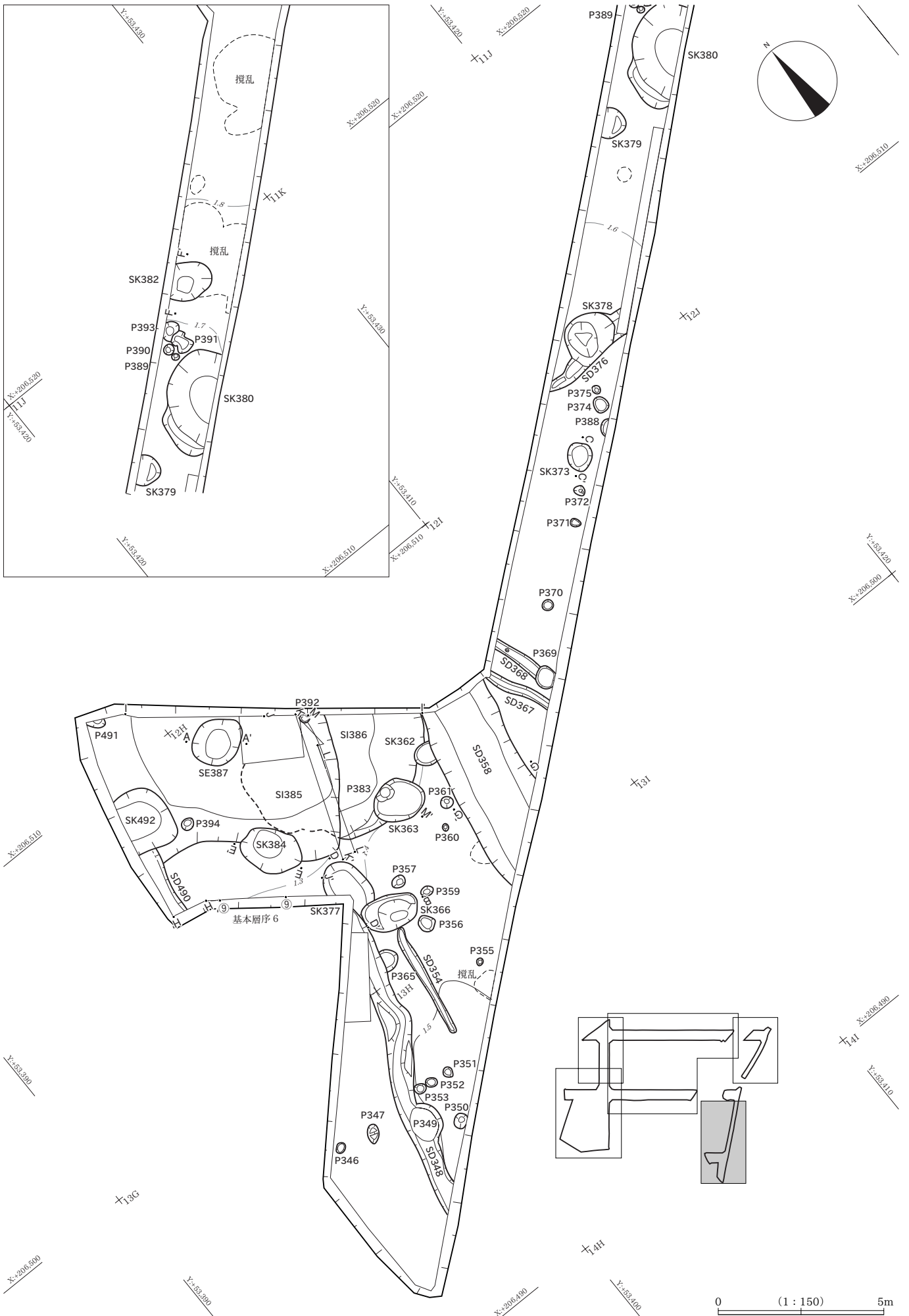
0 (1:10,000) 500m
亀田町全図 (2000年) 1/10,000



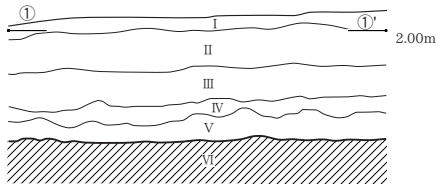




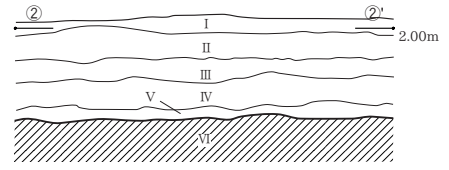




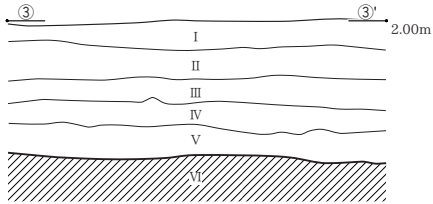
基本層序 1



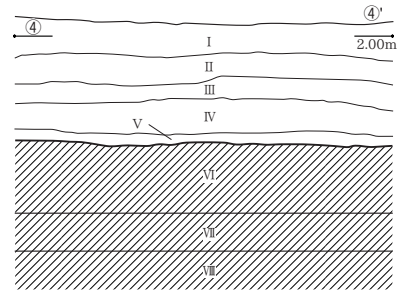
基本層序 2



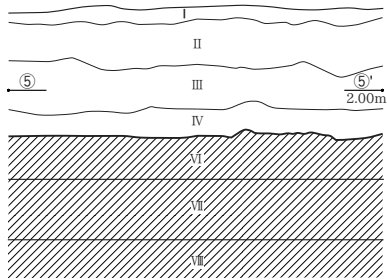
基本層序 3



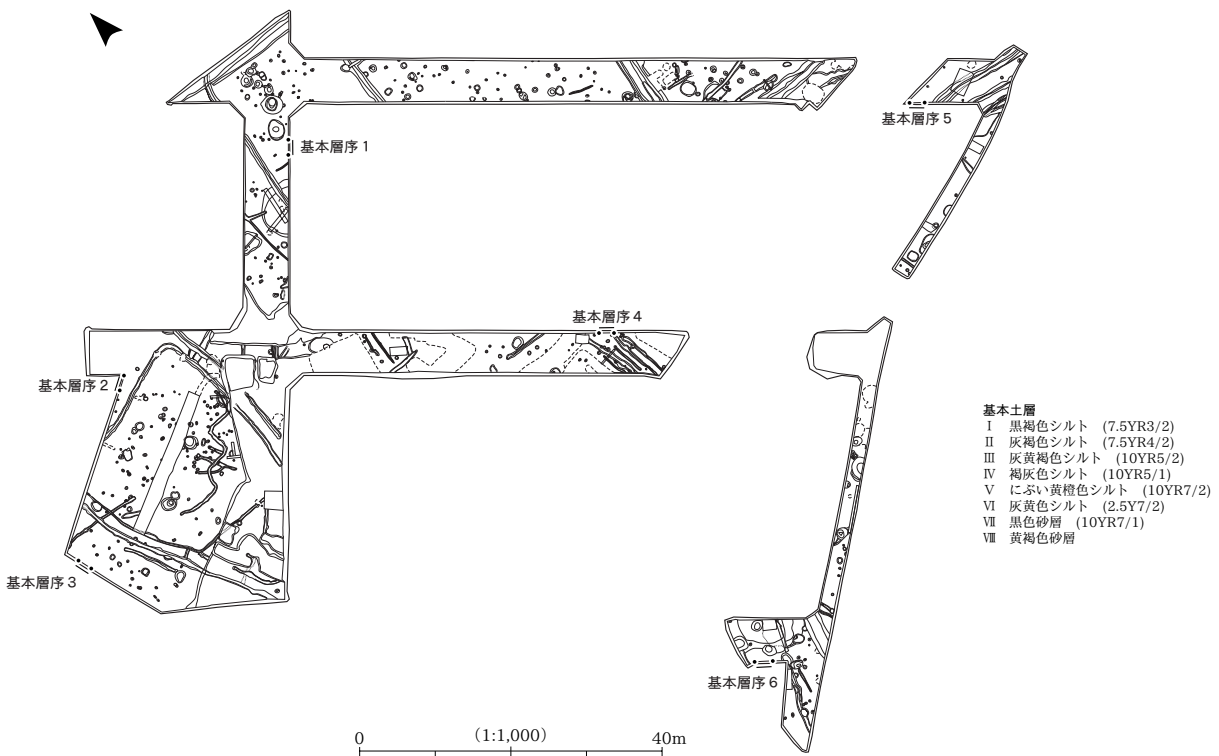
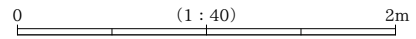
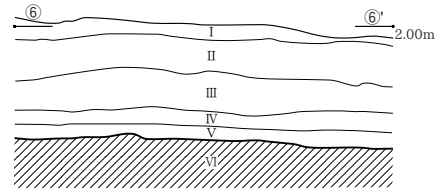
基本層序 4



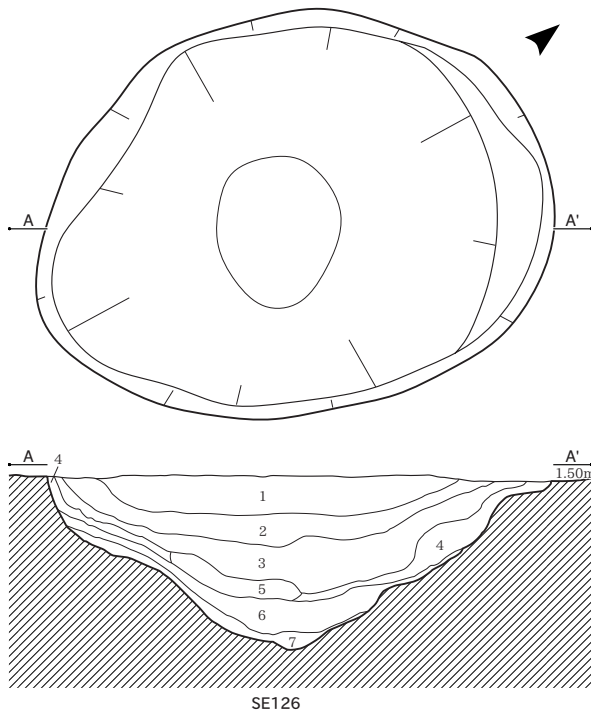
基本層序 5



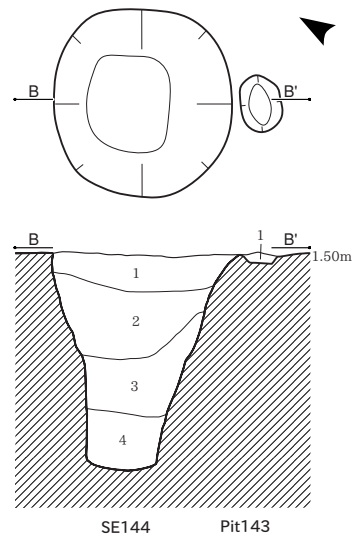
基本層序 6



図版6に対応



SE126

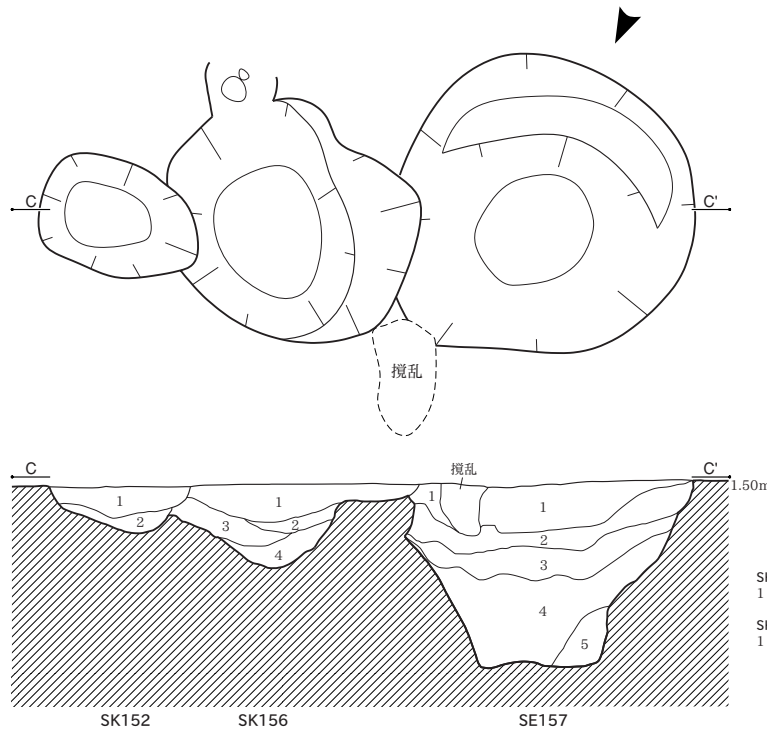


SE144 Pit143

- SE126**
 1 褐灰色シルト (7.5YR6/1) 黒褐色砂を混じる、しまりあり。
 2 褐灰色シルト (10YR6/1) 黄褐色砂を斑に混じる、しまりあり。
 3 暗灰色炭化物層 (N3/) 褐灰色粘土がブロック状に少量混じる。
 4 灰褐色シルト (7.5YR6/2) 砂多く、しまりなし。
 5 灰白色シルト (7.5YR8/1) 黄褐色砂を含む。
 6 黄灰色シルト (2.5Y6/1) 炭化物層が5枚ほど互層になっている。
 7 黄灰色シルト (2.5Y6/1) やや砂が強い。

- SE144**
 1 褐灰色シルト (10YR6/1) 褐色砂を混じる、灰白色シルトをブロック状に混じる。
 2 褐灰色シルト (10YR5/1) 灰白色砂をマール状に混じる。
 3 灰色シルト (N5/) 炭化物を少量混じる、粘性ややあり。
 4 暗灰色粘土 (N3/) φ2~3cmの灰白色ブロックを多く含む、粘性ややあり、しまりあり、粘性あり。

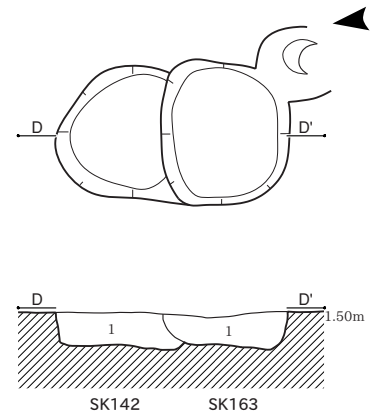
- Pit143**
 1 黄灰色シルト (2.5Y6/1) 灰白色砂を混じる。



- SK152**
 1 黄灰色シルト (2.5Y5/1) 砂強い、黄褐色砂、灰褐色シルトを混じる。
 2 黄灰色シルト (2.5Y5/1) 黄褐色砂を混じる、粘性あまりなし。

- SK156**
 1 灰色シルト (7.5Y6/1) 褐色砂を混じる。
 2 灰黄色シルト (2.5Y7/2) 黄褐色砂・灰色砂をブロック状に含む。
 3 黄灰色シルト (2.5Y5/1) 暗灰色の炭をすじ状に多く含む。
 4 灰色シルト (N4/) 砂強い、灰白色砂をブロック状に少量含む。

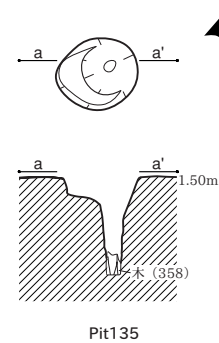
- SE157**
 1 褐灰色シルト (10YR6/1) 灰黄褐色砂・褐色砂を混じる。
 2 黄灰色シルト (2.5Y6/1) 浅黄色砂を斑状に多く含む。
 3 黄灰色シルト (2.5Y5/1) 浅黄色砂を斑状に少量含む、炭化物をすじ状に含む。
 4 灰白色シルト (5Y7/2) 砂強い、粘性あまりなし、灰色シルトをブロック状に含む。
 5 灰色シルト (N4/) 粘性強い。



SK142 SK163

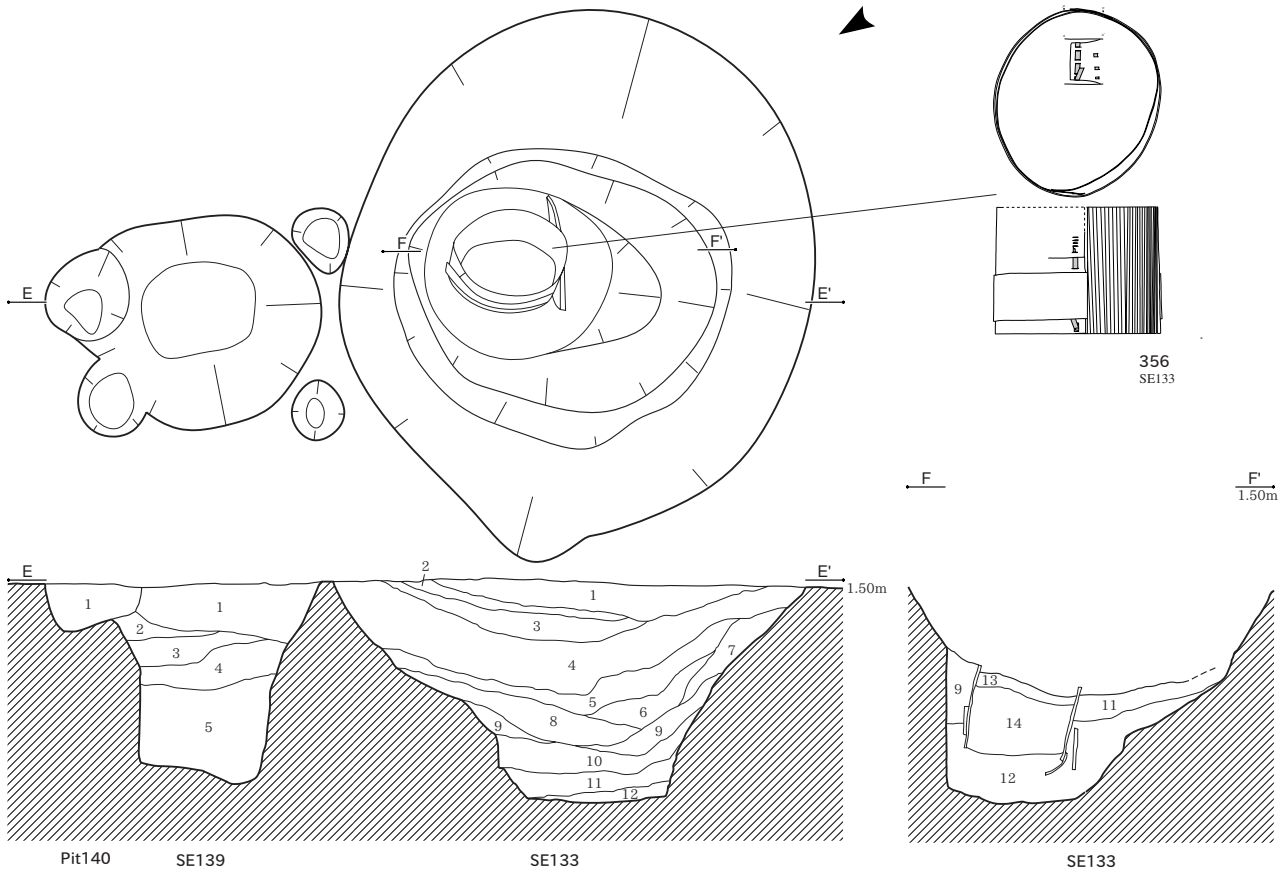
- SK142**
 1 褐灰色シルト (10YR5/1) 砂多い、黄褐色・灰白色砂をブロック状に含む。

- SK163**
 1 黄灰色シルト (2.5Y5/1) 黄褐色・灰白色砂をブロック状に含む。



Pit135

図版6に対応



Pit140

1 黄灰色シルト (2.5Y6/1) 褐色砂を混じる、粘性ややあり。

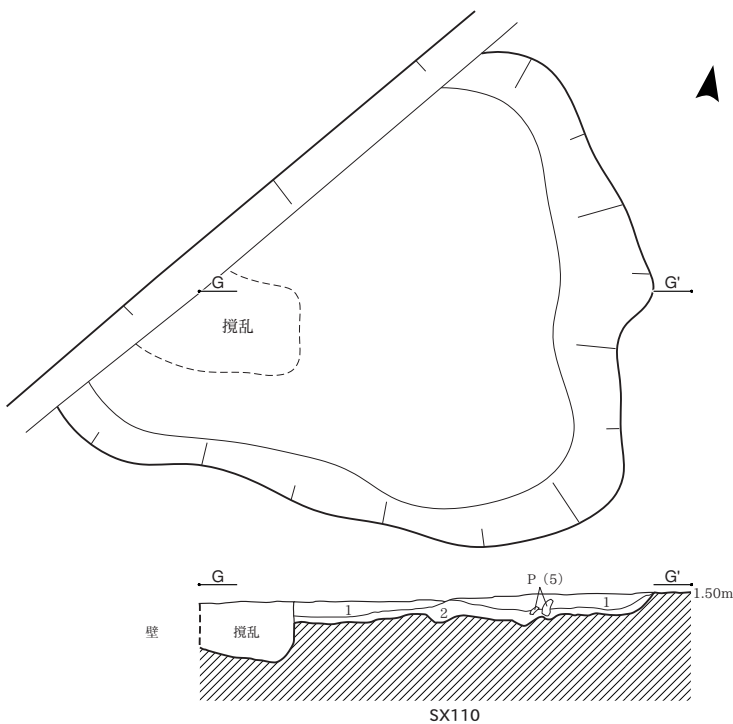
SE139

1 灰色シルト (5Y6/1) 褐色砂・灰色砂を斑に含む。
 2 灰白色シルト (2.5Y8/1) 褐灰色粘土を含む。
 3 灰色シルト (N5/) 灰白色砂をマール状に含む。
 4 灰白色シルト (5Y8/1) 砂多い、灰色砂をわずかに含む。
 5 灰色シルト (N5/) 灰白色砂をブロック状に含む、粘性あり。

SE133

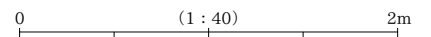
1 灰色シルト (5Y6/1)
 2 黄灰色シルト (2.5Y6/1)
 3 灰色シルト (7.5Y6/1)
 4 黄灰色シルト (2.5Y5/1)
 5 灰色シルト (5Y5/1)
 6 灰色シルト (5Y5/1)
 7 灰黄色シルト (2.5Y6/2)
 8 灰色シルト (10Y5/1)
 9 灰色粘土 (N6/)
 10 明オリーブ灰色砂層 (2.5GY7/1)
 11 暗灰色粘土 (N3/1)
 12 灰白色シルト
 13 褐灰色シルト (10YR6/1)
 14 黒褐色シルト (10YR3/1)

褐色砂を少量混じる。
 灰白色砂を混じる。
 炭化物が堆積している。
 黄褐色・灰白色砂ブロック(φ5~10cm)を非常に多く混じる。
 粘性あり、炭化物を微量に含む。
 粘性あり、灰白色砂をすじ状に含む。
 灰色シルトをすじ状に含む。
 粘性強い、炭化物をすじ状に含む。(3枚くらい)
 灰白色砂をすじ状に含む。
 暗灰色粘土をすじ状に含む。
 明オリーブ灰色砂をブロック状に含む。
 砂多いが粘性あり。
 しまりややあり、粘性なし、褐色砂を斑状に含む。
 黒褐色シルトをわずかに含む。
 黄灰色砂をブロック状に含む、しまりあまりなし、粘性ややあり。

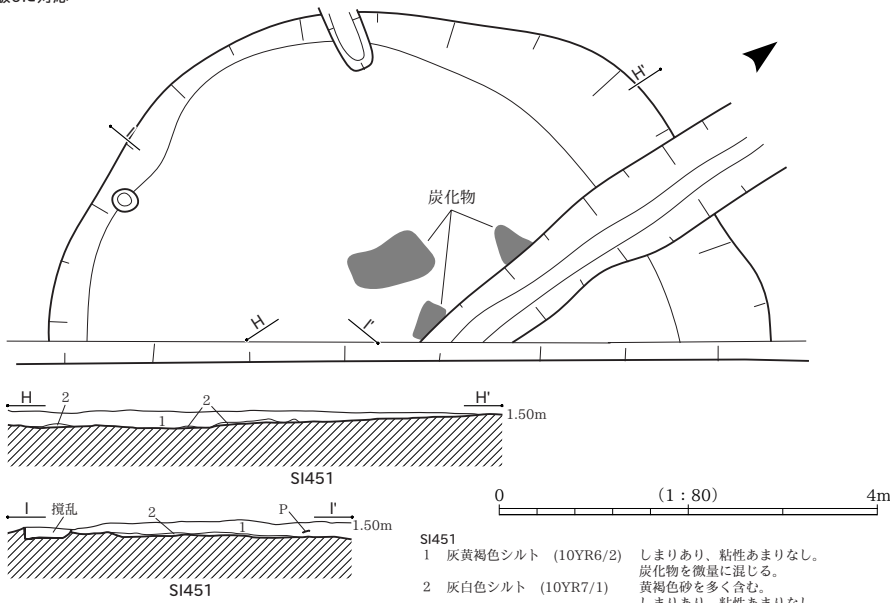


SX110

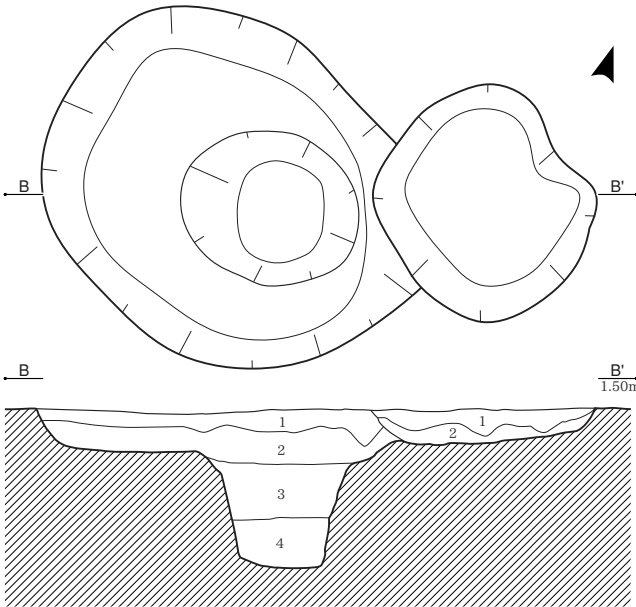
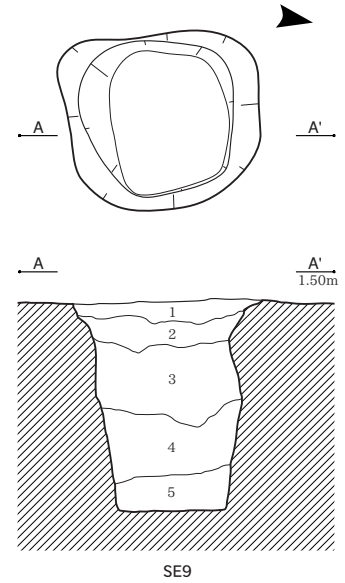
1 灰黄褐色シルト (10YR6/2) 褐灰色砂・黄褐色砂をよく含む。
 炭化物φ5mmを少量混じる。
 しまりあり、粘性あまりなし。
 2 褐灰色シルト (10YR6/1) 黄褐色砂を含む。
 炭化物φ5mm~1cmをやや多く混じる。
 しまりあり、粘性ややあり。



図版6に対応



図版 7 に対応

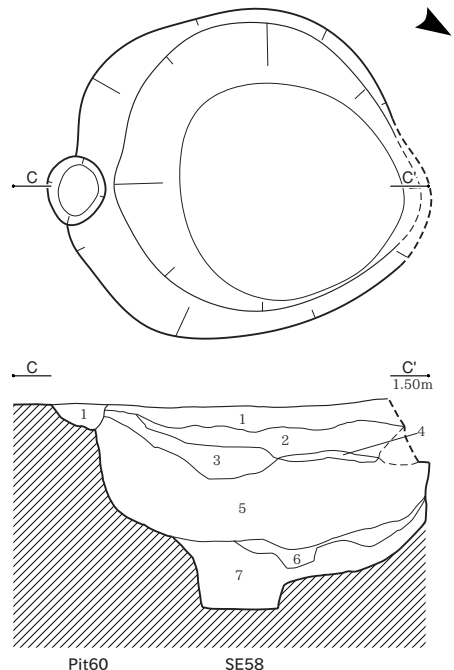
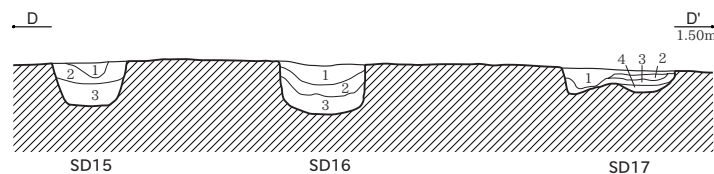


- SE29
- 1 黄灰色シルト (2.5Y6/1) 砂強い、黄褐色砂を混じる。
 - 2 灰白色シルト (10YR7/1) 黄褐色砂を非常に多く含む。
 - 3 黄灰色シルト (2.5Y6/1) 黄褐色砂を多く含む。
 - 4 黄灰色シルト (2.5Y6/1) 炭化物φ5mm~2cmをよく混じる。粘性あり、黄褐色砂を含む。

- SK30
- 1 黄灰色シルト (2.5Y6/1) 黄褐色砂を含む、灰色粘土ブロックを含む。
 - 2 灰白色シルト (10YR7/1) 炭化物を少量混じる。

- SE58
- 1 灰色シルト (5Y5/1) しまりあり、粘性ややあり、淡黄色シルトを斑状に少量含む。
 - 2 明黄褐色シルト (10YR6/8) しまりあり、粘性ややあり、灰色シルトをブロック状に含む。
 - 3 褐色シルト (10YR5/1) しまりややあり、粘性あり、灰白色シルトをブロック状に少量含む。炭化物・植物根を含む。
 - 4 黒色炭化物層 (2.5Y2/1) しまりなし、粘性なし。
 - 5 褐色シルト (10YR4/1) しまりあり、粘性あり、灰白色シルトをブロック状に多く含む。
 - 6 黒色炭化物層 (2.5Y2/1) しまりなし、粘性なし。
 - 7 黒褐色粘土 (10YR3/2) しまりややなし、粘性あり、灰白色シルトをブロック状に含む。炭化物を少し含む。

- Pit60
- 1 黄灰色シルト (2.5Y6/1)

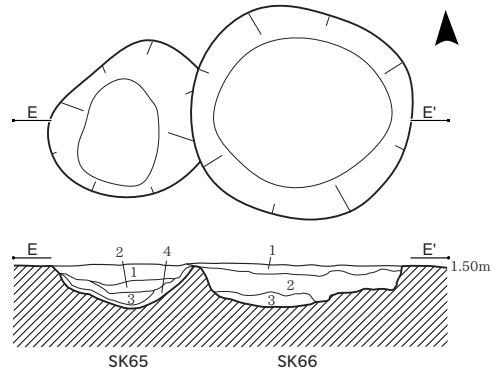
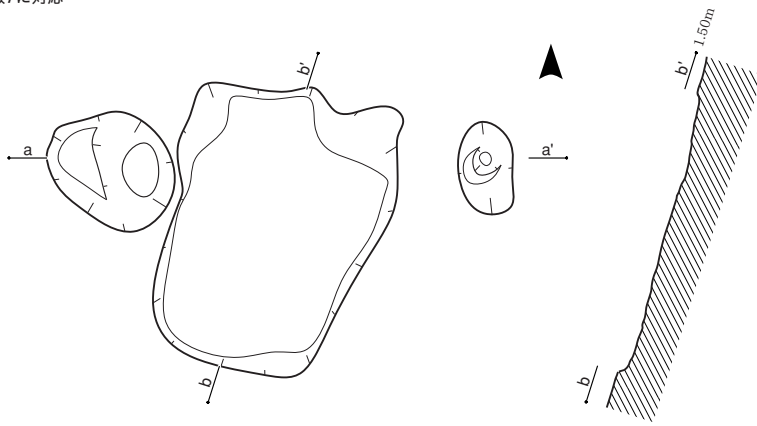


- SD15
- 1 黄灰色シルト (2.5Y6/1) 砂強い、黄褐色砂を混じる。
 - 2 黄灰色シルト (2.5Y6/1) 黄褐色砂を混じる。
 - 3 灰色シルト (5Y6/1) 灰白色砂をブロック状に含む。

- SD16
- 1 灰色シルト (5Y6/1) 黄褐色砂を多く含む。
 - 2 黄灰色シルト (2.5Y5/1) 黄褐色砂をすじ状に含む。炭化物を微量に含む。
 - 3 灰白色シルト (2.5Y7/1) 砂強い。

- SD17
- 1 褐色シルト (5YR6/1) 黄褐色砂を含む、炭化物を微量に混じる。
 - 2 褐色シルト (7.5YR5/1) 炭化物を層状に含む。
 - 3 濃い黄褐色シルト (10YR7/2) 灰色粘土をブロック状に含む。
 - 4 灰色シルト (2.5Y7/1) 砂強い。

図版7に対応

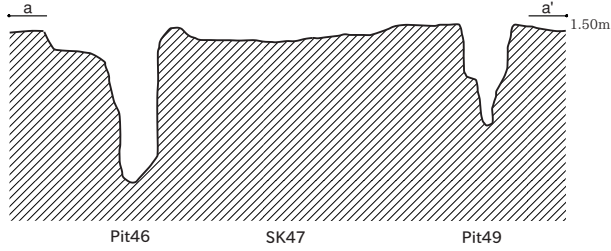


SK65

- 1 褐灰色シルト (10YR6/1) 褐色砂を混じる。
- 2 褐灰色シルト (10YR6/1) 暗灰色砂を多く含む。
- 3 黄灰色シルト (2.5Y5/1) 黄褐色砂、灰白色砂をブロック状に含む。
- 4 灰白色シルト (5Y7/1) 砂強い、褐灰色砂を多く含む。

SK66

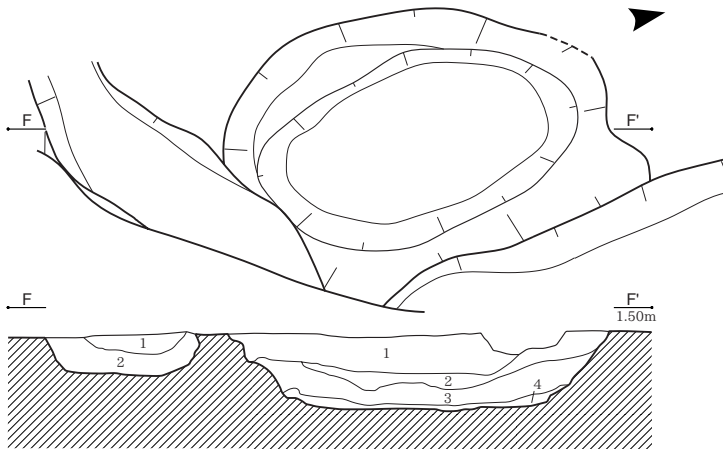
- 1 褐灰色シルト (10YR6/1) 褐色砂を微量に混じる。
- 2 灰色シルト (5Y5/1) 炭化物、黄褐色砂を含む。
- 3 灰白色シルト (5Y7/1) 砂強い、褐灰色砂を多く含む。



Pit46

SK47

Pit49

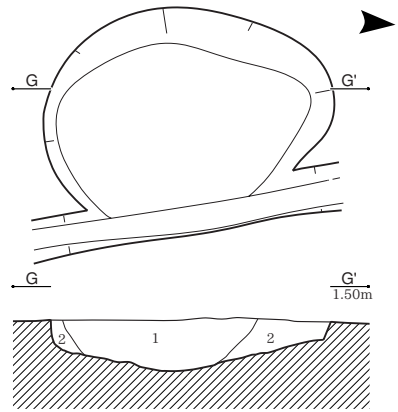


SD34

SK88

- SD34
- 1 黄灰色シルト (2.5Y5/1) 褐色砂を含む。しまりあり、粘性なし、炭化物含む。
 - 2 灰白色シルト (5Y7/1) 褐色砂を含む。しまりあり、粘性ややあり。

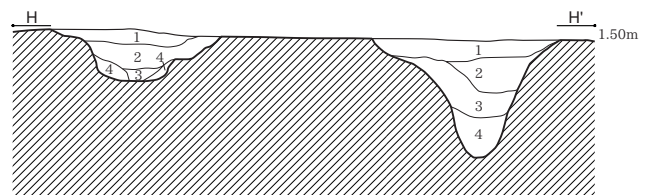
- SK88
- 1 褐灰色シルト (10YR6/1) しまりあり、粘性ややあり。褐色シルト斑状に含む、炭化物を少量含む。
 - 2 灰黄褐色シルト (10YR4/2) しまりあり、粘性ややあり。褐色シルト・褐灰色シルト多く含む、炭化物多く含む。
 - 3 灰色シルト (10Y6/1) しまりあり、粘性ややあり。褐色シルト、淡黄色シルト斑状に含む。炭化物を少量含む。
 - 4 黒色炭化物層 (N2/1) しまりなし、粘性なし。



SK197

SK197

- 1 褐灰色シルト (7.5YR5/1) しまりあり、粘性ややあり、炭化物を含む。褐色砂・灰黄褐色シルトを斑状に含む。
- 2 褐灰色シルト (10YR6/1) しまりややあり、粘性なし。褐色砂を斑状に含む。炭化物を含む。



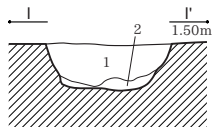
SD74

SD93

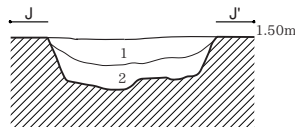
- SD74
- 1 黄灰色シルト (2.5Y6/1) 砂強い、しまりあり、褐色砂を含む。
 - 2 褐灰色シルト (10YR6/1) 黄褐色砂を斑状に混じる。
 - 3 褐灰色シルト (10YR5/1) 粗砂をよく含む、しまりあまりなし。
 - 4 灰白色シルト (10YR7/1) 黄褐色砂をよく混じる。

SD93

- 1 褐灰色シルト (10YR6/1) 砂やや強い、黄褐色砂を含む。
- 2 黄灰色シルト (2.5Y5/1) 砂やや強い、褐色砂を多く含む。
- 3 黄灰色シルト (2.5Y5/1) 褐色砂を含む、真下に灰白色砂をすじ状に堆積する。
- 4 褐灰色シルト (10YR5/1) 砂多い、灰白色砂をブロック状に混じる。



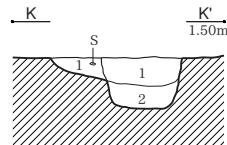
SD227



SD404

- SD227
- 1 黄灰色シルト (2.5Y5/1) しまりあり、粘性ややあり、黒褐色シルトを斑状に含む。褐色砂を層状に含む、炭化物を含む。
 - 2 褐灰色シルト (10YR6/1) しまりあり、粘性なし、黒褐色シルトを斑状に含む。褐色砂を層状に含む。

- SD404
- 1 灰白色シルト (5Y7/1) しまりあり、粘性ややあり。炭化物を微量に含む。
 - 2 灰白色シルト (5Y7/2) 褐色砂を多く含む。



Pit477

SD476

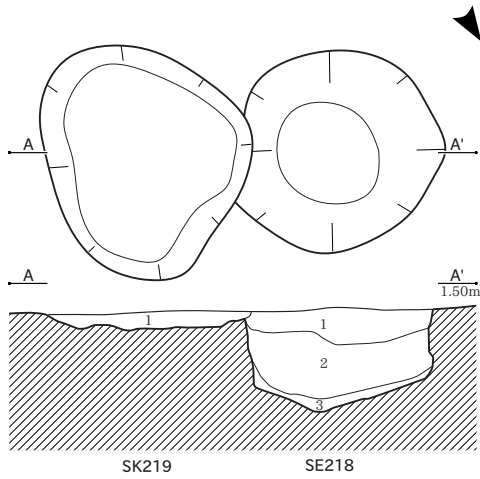
SD476

- 1 灰黄褐色シルト (10YR6/2) 褐色砂を混じる、炭化物を微量に混じる。しまりあり、粘性なし。
- 2 灰色シルト (10Y6/1) 炭化物を微量に混じる、しまりあり、粘性なし。

Pit477

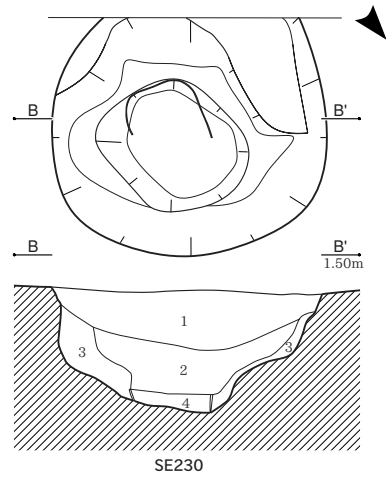
- 1 灰黄色シルト (2.5Y6/2) 灰白色砂を混じる、しまりあり、粘性なし。

図版8に対応



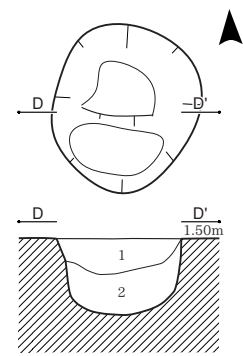
SK219 SE218

- SK219**
 1 灰色シルト (7.5Y4/1) 灰白色砂をブロック状に多く含む、しまりあり、粘性なし。
- SE218**
 1 灰色シルト (5Y5/1) 褐色砂を多く含む、炭化物を少量混じる、しまりあり、粘性なし。
 2 灰色シルト (5Y5/1) 灰白色砂ブロックをやや多く含む、最下に炭を堆積する。
 3 灰色シルト (7.5Y4/1) 灰白色砂を含む、しまりあり、粘性ややあり。



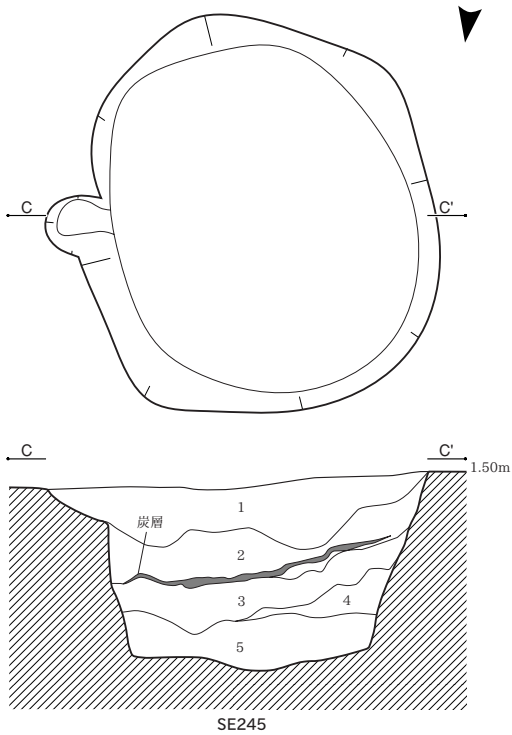
SE230

- SE230**
 1 黄灰色シルト (2.5Y6/1) 褐色砂を多く含む、炭化物を微量に含む、粘性ややあり。
 2 灰白色シルト (5Y7/1) 黄褐色砂を含む、炭化物を少量含む、粘性ややあり。
 3 灰白色シルト (5Y7/1) 黄褐色砂を含む。
 4 にぶい黄色砂 (2.5Y6/3) やや粗い砂、灰色砂を混じる。



SK253

- SK253**
 1 褐灰色シルト (10YR6/1) 褐色砂をよく含む、しまりあり、粘性あまりなし。
 2 褐灰色シルト (10YR6/1) 黄褐色砂をよく含む、しまりややあり、粘性ややあり。炭化物を微量に含む。

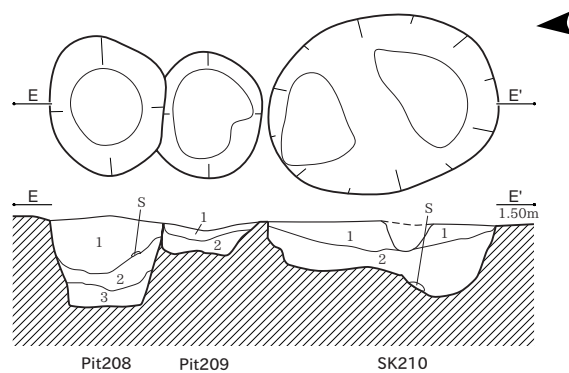


SE245

- SE245**
 1 青灰色シルト (5PB5/1) しまりあり、粘性ややあり、褐色シルトを斑状に含む。炭化物を多く含む。
 2 灰白色シルト (10Y7/1) しまりあり、粘性ややあり、褐色シルトを斑状に含む。黄灰色砂を層状に含む。
 3 灰色シルト (N5/1) しまりあまりなし、粘性あり、褐色シルトを斑状に含む。黄灰色砂を層状に含む。
 4 灰色シルト (10Y6/1) しまりあり、粘性ややあり、褐色シルトを斑状に含む。黄灰色砂を層状、一部ブロック状に含む。
 5 灰オリブ粘土 (7.5Y5/2) しまりあまりなし、粘性あり、褐色シルトを斑状にわずかに含む。

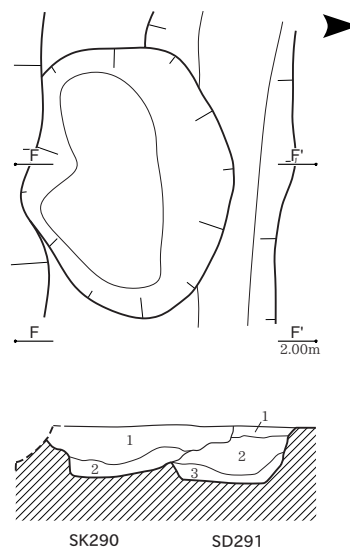
- SK290**
 1 褐灰色シルト (10YR5/1) しまりあり、粘性ややあり、灰白色シルトを層状に多く含む。褐色シルトをブロック状に多く含む、炭化物を含む。
 2 灰白色シルト (5Y7/1) しまりややあり、粘性あり、黄灰色シルトを斑状に含む。褐色シルトを柱状に含む。

- SD291**
 1 灰黄色シルト (2.5Y7/2) しまりややあり、粘性ややあり、黄灰色シルトを斑状に含む。褐色シルトを層状に含む、炭化物をわずかに含む。
 2 灰白色シルト (2.5Y7/1) しまりややあり、粘性あり、褐色シルトを斑状に多く含む。黄灰色シルトを斑状にわずかに含む、炭化物をわずかに含む。
 3 黄灰色シルト (2.5Y5/1) しまりややあり、粘性あり、褐色シルトを斑状に含む。炭化物をわずかに含む。

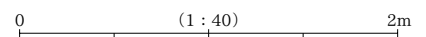


Pit208 Pit209 SK210

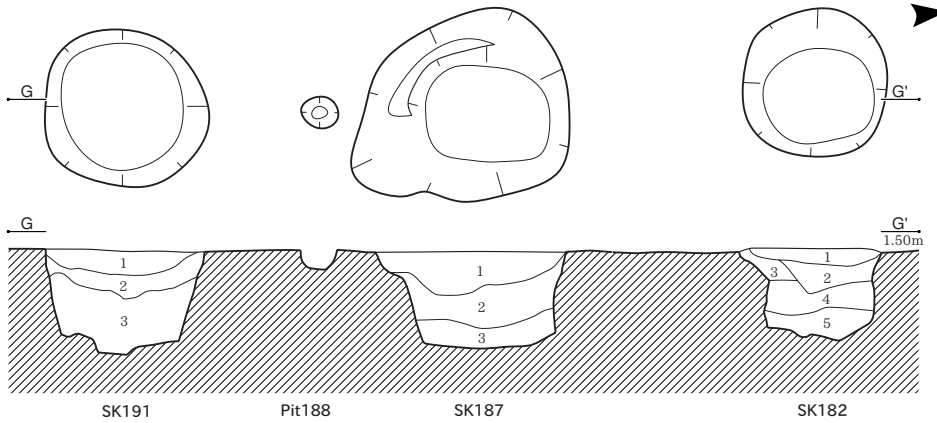
- Pit208**
 1 黄灰色シルト (2.5Y5/1) 褐色砂を多く含む、灰白色砂をブロック状に混じる、粘性あまりなし。
 2 黄灰色シルト (2.5Y4/1) 灰白色砂をブロック状に多く含む。
 3 灰白色シルト (5Y7/1) 灰色シルトをブロック状に混じる。
- Pit209**
 1 灰色シルト (5Y6/1) 褐色砂を多く含む。
 2 灰色シルト (10Y4/1) 灰白色砂をブロック状に混じる、炭化物を少量混じる。
- SK210**
 1 灰色シルト (5Y5/1) 褐色砂を多く含む。
 2 灰色シルト (10Y4/1) 灰白色砂をブロック状に混じる、粘性ややあり。



SK290 SD291

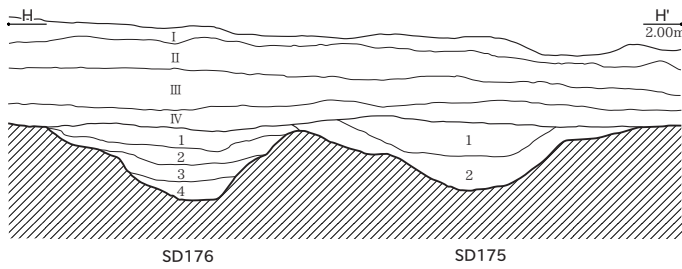


図版8に対応

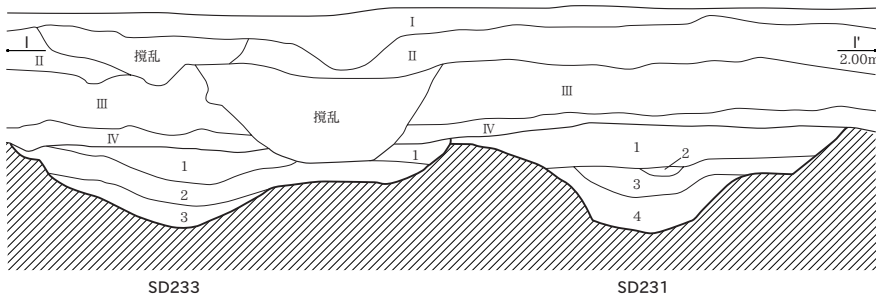


- SK182**
 1 灰色シルト (5Y6/1)
 2 灰黄色シルト (2.5Y7/2)
 3 褐灰色シルト (10YR6/1)
 4 褐灰色シルト (10YR6/1)
 5 黄灰色シルト (2.5Y5/1)

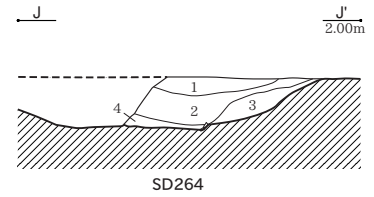
- SK187・SK191**
 1 灰色シルト (5Y6/1)
 2 灰黄色シルト (2.5Y7/2)
 3 褐灰色シルト (10YR6/1)



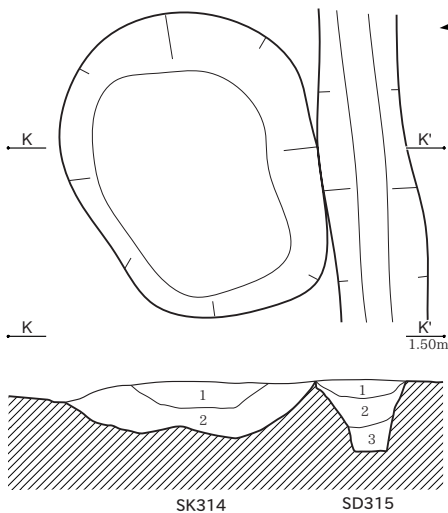
- SD175**
 1 黄灰色シルト (2.5Y6/1) 炭化物を多く含む、粘性あり、しまりふつつ、遺物多く出土。
 2 灰白色シルト (2.5Y7/1) 褐色砂を含む、炭化物を少量混じる、粘性あり。
- SD176**
 1 褐灰色シルト (10YR6/1) 黄褐色砂を混じる、しまりあり、粘性あり。
 2 褐灰色シルト (10YR6/1) 灰白色砂・褐色砂を混じる、しまりややあり、粘性あり。
 3 灰色シルト (N4/) 炭化物を微量に混じる。
 4 灰白色シルト (5Y7/1) 砂強い、粘性あまりなし。



- SD233**
 1 灰色シルト (5Y5/1) 褐色砂を混じる。
 2 灰色シルト (5Y6/1) 褐色砂をすじ状に混じる、炭化物を微量に含む。
 3 灰色シルト (7.5Y5/1) 灰白色(粗砂)を多く含む、炭化物を微量に混じる。
- SD231**
 1 黄灰色シルト (2.5Y6/1) 褐色砂を斑に含む。
 2 黄灰色シルト (2.5Y5/1) 明黄褐色砂を斑状に混じる。
 3 黄灰色シルト (2.5Y5/1) しまりあり、粘性ややあり、炭化物を微量に混じる。
 4 灰色シルト (5Y6/1) 灰白色砂・黄褐色砂をブロック状に含む。

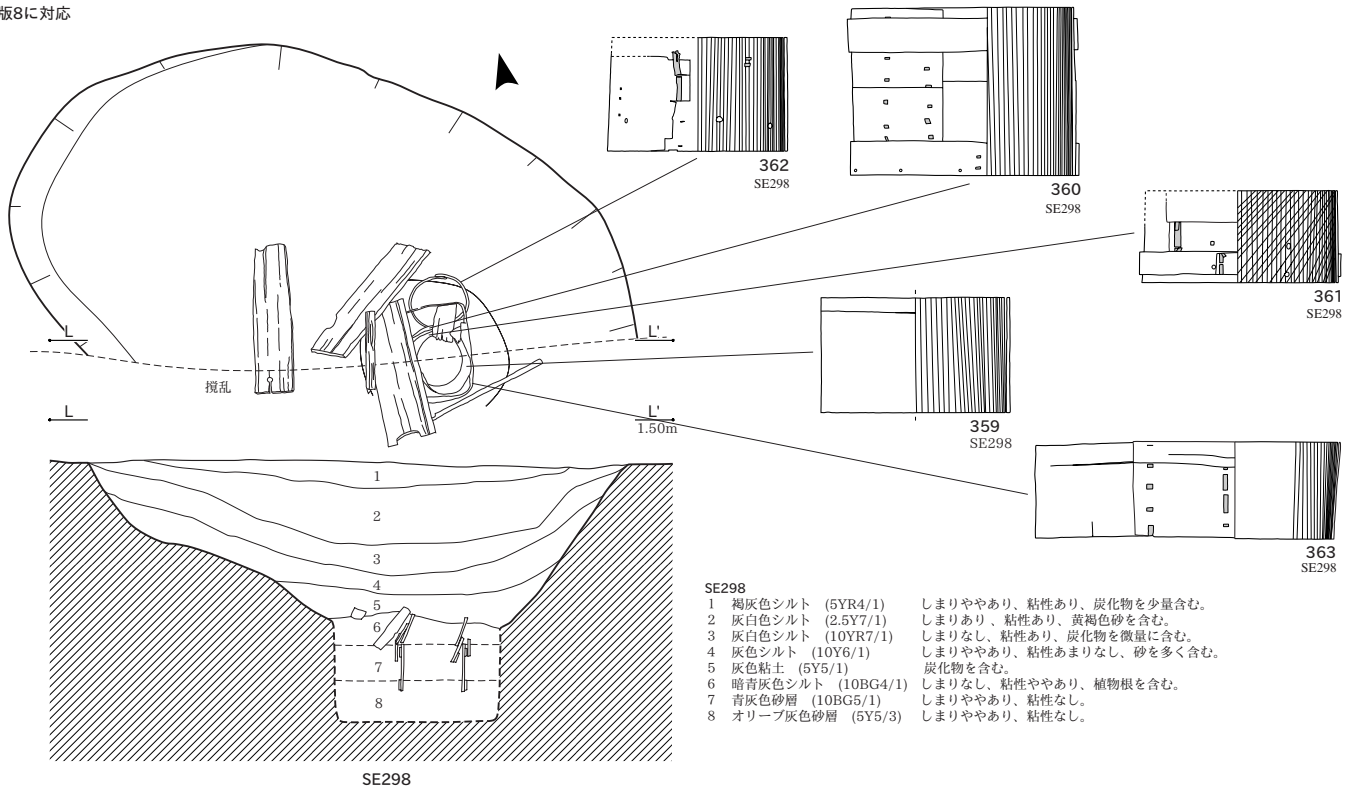


- SD264**
 1 灰黄褐色シルト (10YR4/2) しまりややあり、粘性ややあり、褐色シルトを斑状に含む。
 2 にぶい黄褐色シルト (10YR4/3) しまりあり、粘性なし、褐色シルトを層状に含む。炭化物を多く含む。
 3 灰黄褐色シルト (10YR5/2) しまりあり、粘性なし、暗灰褐色シルトを斑状に含む。褐色シルトを層状に含む。
 4 灰褐色シルト (7.5YR5/2) しまりあり、粘性ややあり、褐色シルトを層状に含む。炭化物を多く含む。

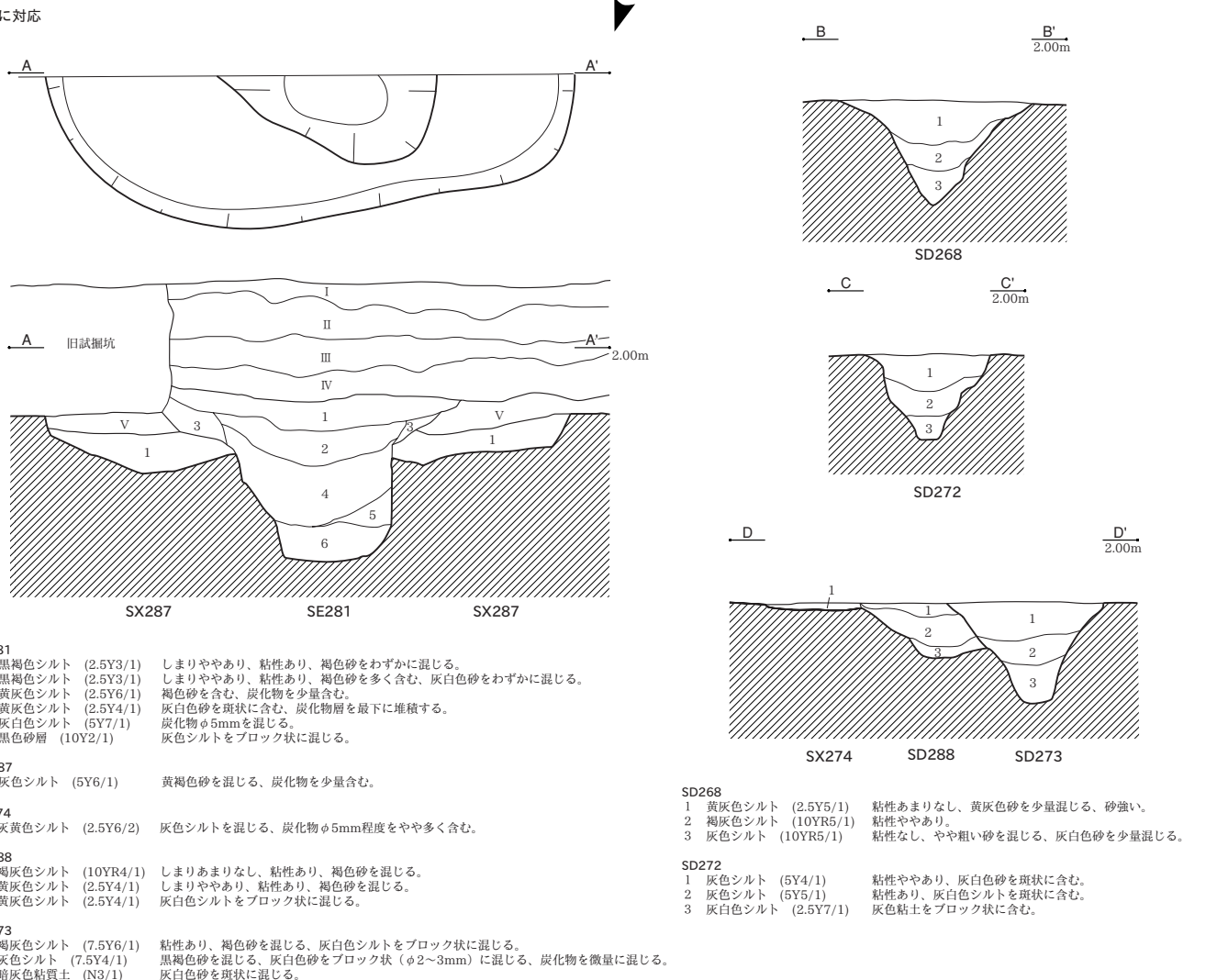


- SK314**
 1 にぶい黄褐色シルト (10YR7/2) 浅黄色砂を多く含む、炭化物を含む。
 2 灰白色シルト (10YR7/1) 炭化物φ2mmを多く含む。
- SD315**
 1 にぶい黄褐色シルト (10YR7/2) 炭化物を微量に含む。
 2 黄灰色シルト (2.5Y6/1) 浅黄色砂を含む。
 3 褐灰色シルト (10YR5/1) 炭化物φ5mmを多く含む。

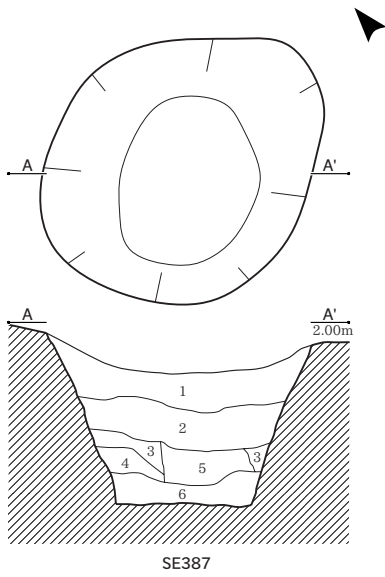
図版8に対応



図版 9 に対応



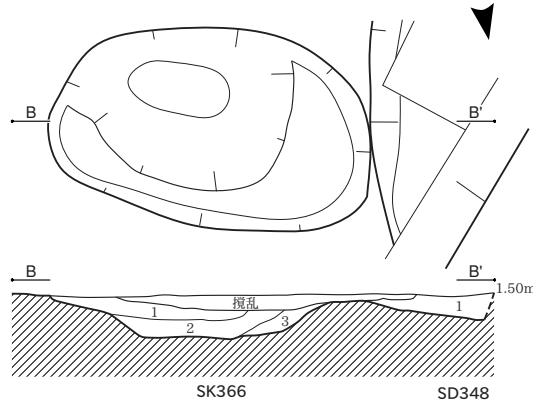
図版10に対応



SE387

SE387

- | | |
|--------------------|-----------------------------|
| 1 灰オリーブシルト (5Y6/2) | しまりあまりなし、粘性ややあり、木片を混じる。 |
| 2 灰白色シルト (5Y7/1) | しまりあまりなし、粘性なし、砂強い。 |
| 3 灰白色シルト (5Y7/2) | しまりあまりなし、粘性ややあり。 |
| 4 灰色シルト (7.5Y4/1) | しまりなし、粘性ややあり、植物遺体を多く含む。 |
| 5 オリーブ灰色シルト (5GY) | しまりあまりなし、粘性ややあり、砂強い、木片を混じる。 |
| 6 灰色シルト (10Y5/1) | しまりあまりなし、粘性ややあり、砂強い。 |



SK366

SD348

SK366

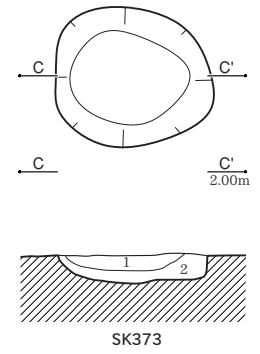
- | | |
|--------------------|---------------------------|
| 1 黄灰色シルト (2.5Y6/1) | 粘性ややあり、炭化物を少量混じる。 |
| 2 黄灰色シルト (2.5Y5/1) | 粘性ややあり、炭化物(φ2~3mm)を多く混じる。 |
| 3 灰白色シルト (2.5Y7/1) | 粘性ややあり、炭化物を少量混じる。 |

SD348

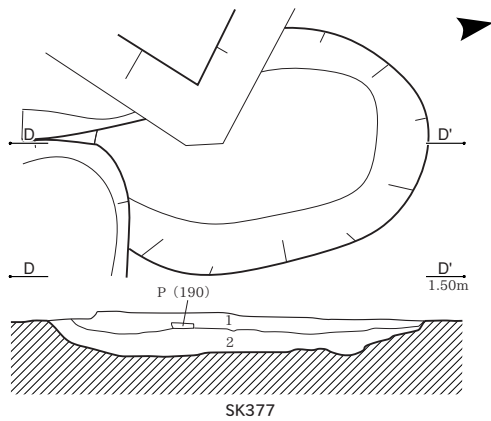
- | | |
|--------------------|---------------------|
| 1 黄灰色シルト (2.5Y5/1) | 粘性あり、灰白色シルトを斑状に混じる。 |
|--------------------|---------------------|

SK373

- | | |
|--------------------|---------------------------|
| 1 灰オリーブシルト (5Y5/2) | 砂多い、粘性あまりなし。 |
| 2 灰色シルト (5Y6/1) | 砂多く含む、粘性あまりなし、炭化物を微量に混じる。 |



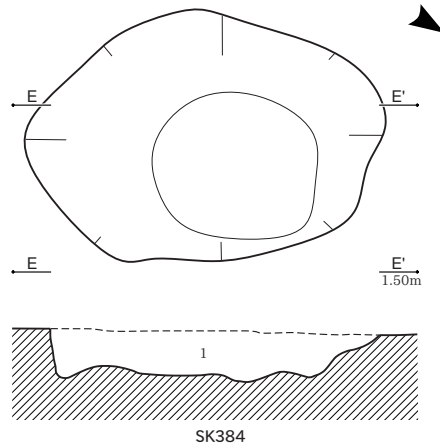
SK373



SK377

SK377

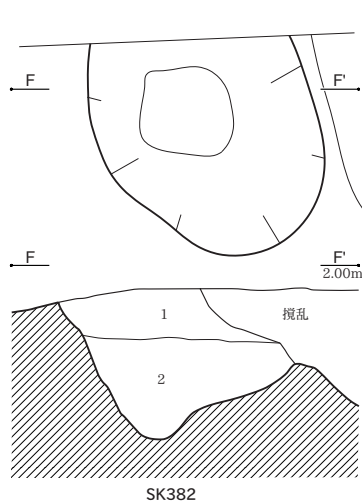
- | | |
|--------------------|-----------------------------|
| 1 褐灰色シルト (10YR5/1) | しまりあり、粘性あまりなし、炭化物を微量に混じる。 |
| 2 灰白色シルト (10YR7/1) | しまりややあり、粘性あまりなし、炭化物を微量に混じる。 |



SK384

SK384

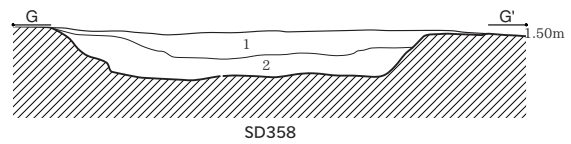
- | | |
|--------------------|-----------------------------|
| 1 褐灰色シルト (10YR4/1) | しまりあり、粘性ややあり、灰白シルトブロックを混じる。 |
|--------------------|-----------------------------|



SK382

SK382

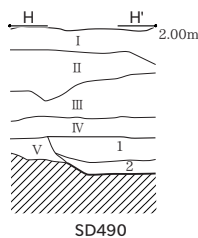
- | | |
|--------------------|-------------------------|
| 1 灰黄褐色砂層 (10YR4/2) | しまりややあり、粘性なし、褐色砂を斑状に含む。 |
| 2 褐灰色砂層 (10YR4/1) | しまりなし、粘性なし、植物根を含む。 |



SD358

SD358

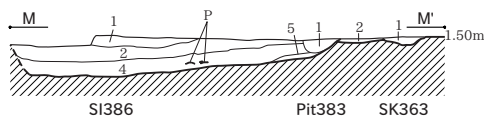
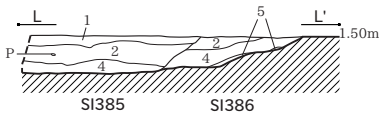
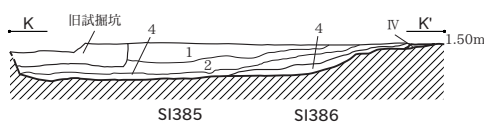
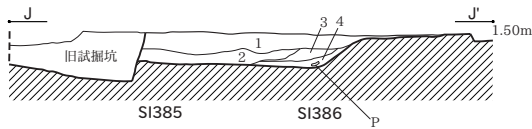
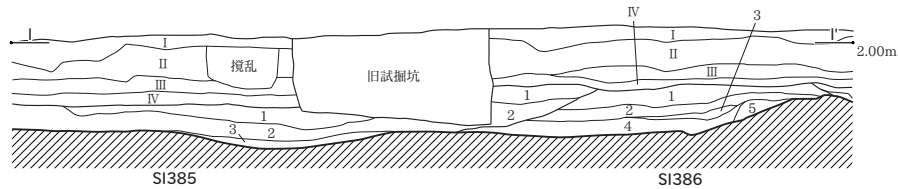
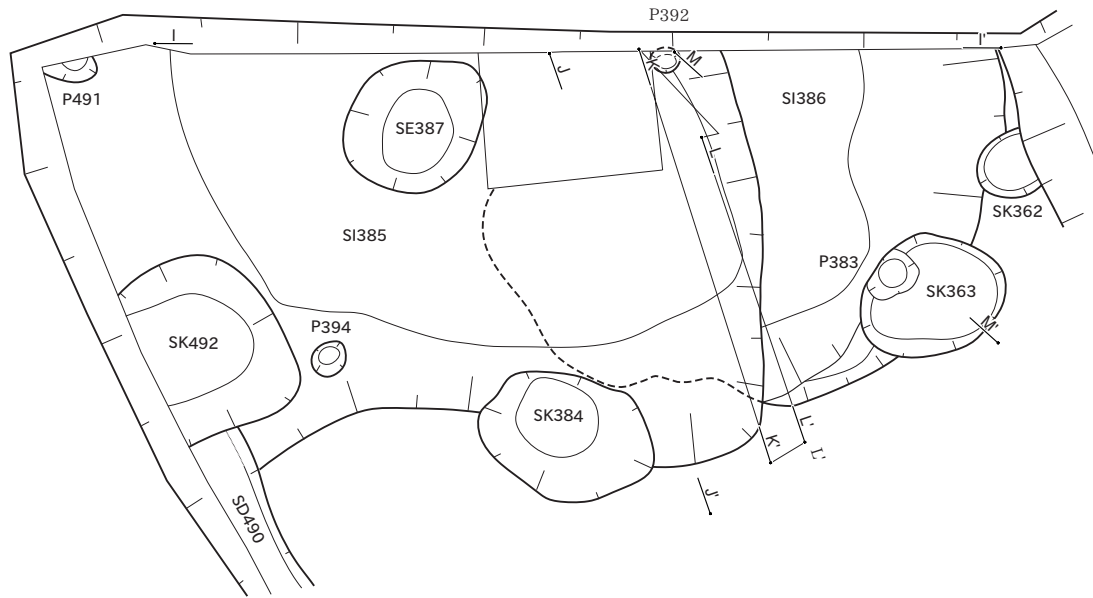
- | | |
|--------------------|--------------------------------|
| 1 黄灰色シルト (2.5Y4/1) | しまりあり、粘性あまりなし、炭化物を少量混じる。 |
| 2 灰色シルト (5Y6/1) | しまりあり、粘性あまりなし、灰白色シルトをブロック状に含む。 |



SD490

- | | |
|--------------------|---------------|
| 1 黄灰色シルト (2.5Y4/1) | しまりあり、粘性あり。 |
| 2 灰白色シルト (2.5Y7/1) | しまりあり、粘性ややあり。 |

図版10に対応



SI385

- 1 黄灰色シルト (2.5Y6/1) しまりあり、粘性あり、灰白色ブロックφ4~5cmを非常に多く混じる。
- 2 暗灰色シルト (N3/) しまりあり、粘性ややあり、黒色砂を多く含む。炭化物を多く混じる。
- 3 灰色シルト (7.5Y5/1) しまりあり、粘性ややあり、炭化物を多く混じる。
- 4 灰色シルト (7.5Y5/1) しまりなし、粘性ややあり、炭・灰白色シルトを層状に混じる。

SI386

- 1 褐灰色シルト (7.5Y4/1) しまりあり、粘性あまりなし。
- 2 黒色シルト (10Y2/1) しまりあり、粘性あまりなし、褐色砂を混じる。
- 3 黄灰色シルト (2.5Y5/1) しまりあり、粘性あまりなし、炭化物を含む。
- 4 灰色シルト (10Y5/1) しまりあり、粘性なし、炭化物φ5mmを多く含む。灰白シルトを層状に含む。
- 5 灰白シルト (2.5Y7/1) しまりあり、粘性なし、炭化物を微量に含む。

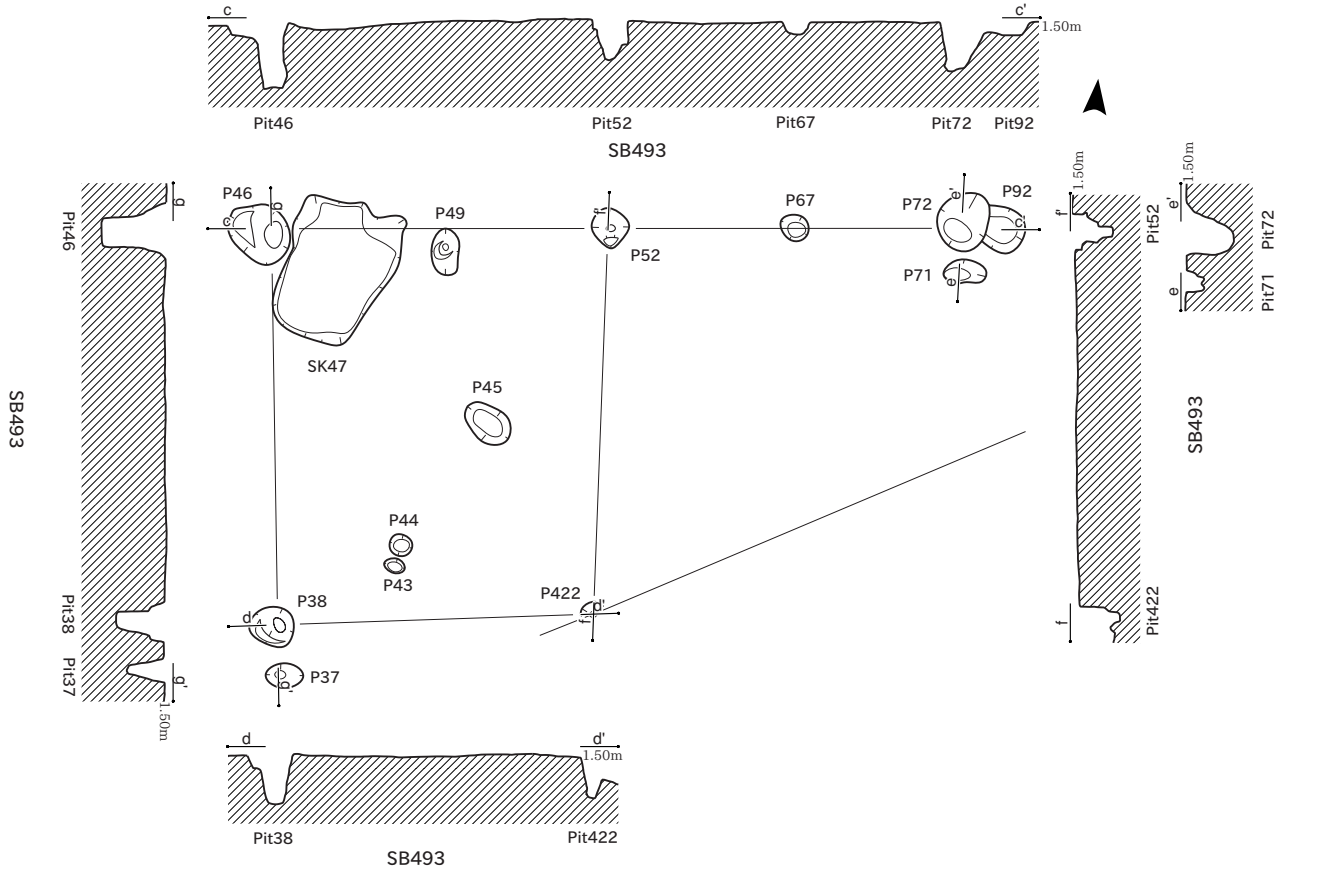
Pit383

- 1 褐灰色シルト (10YR4/1) しまりあり、やや砂質。

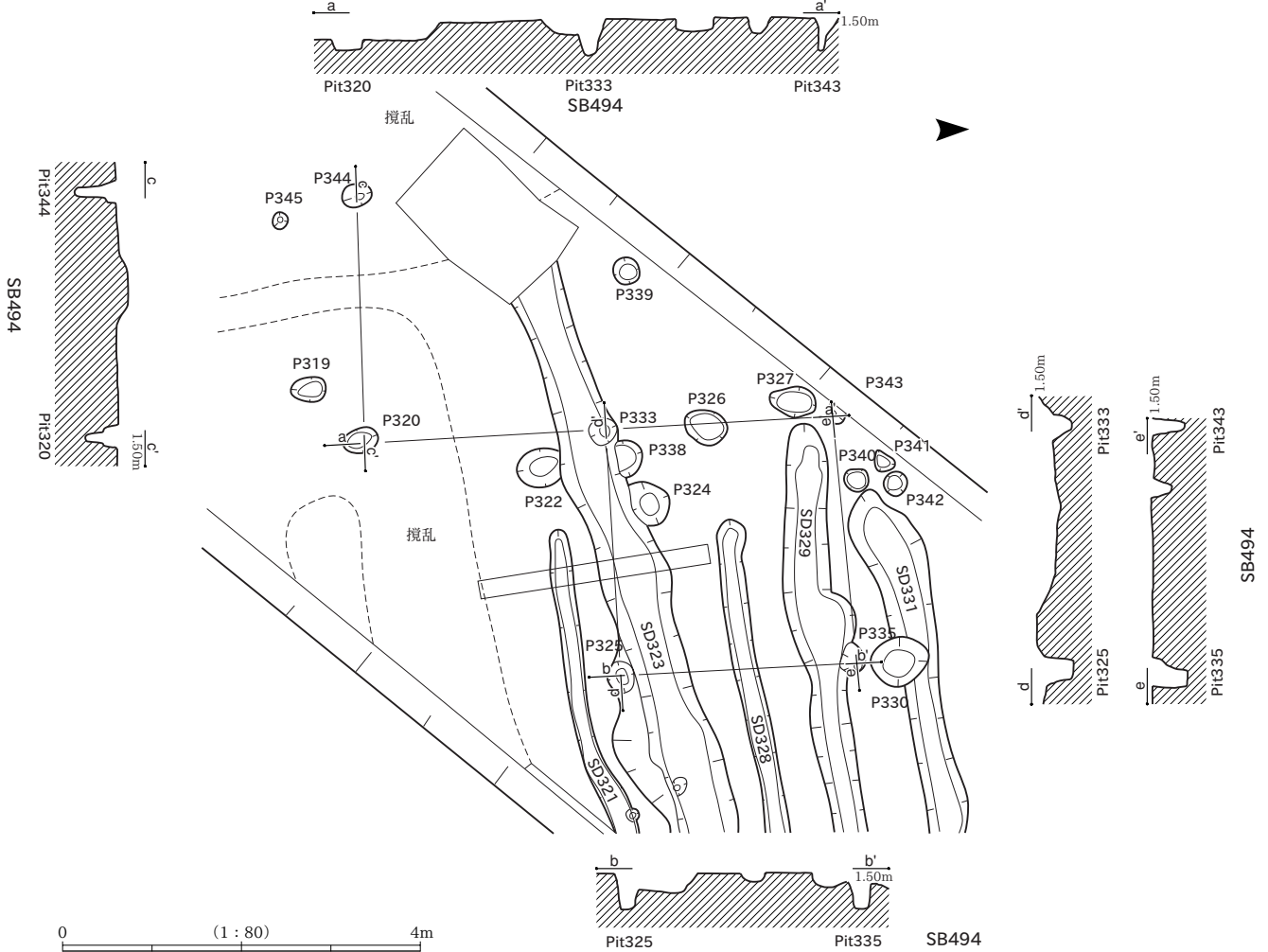
SK363

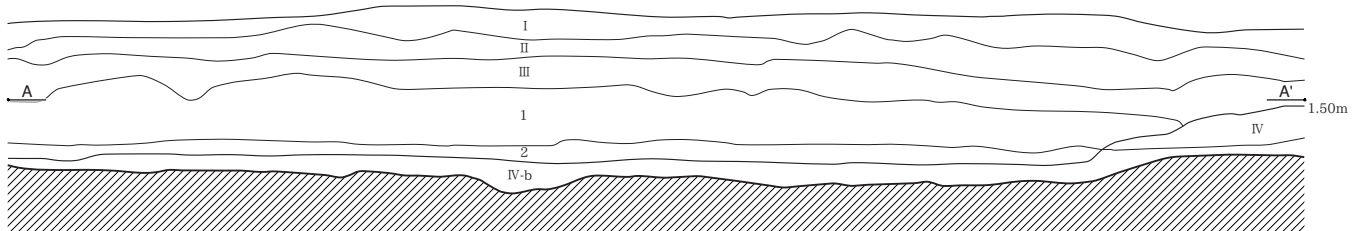
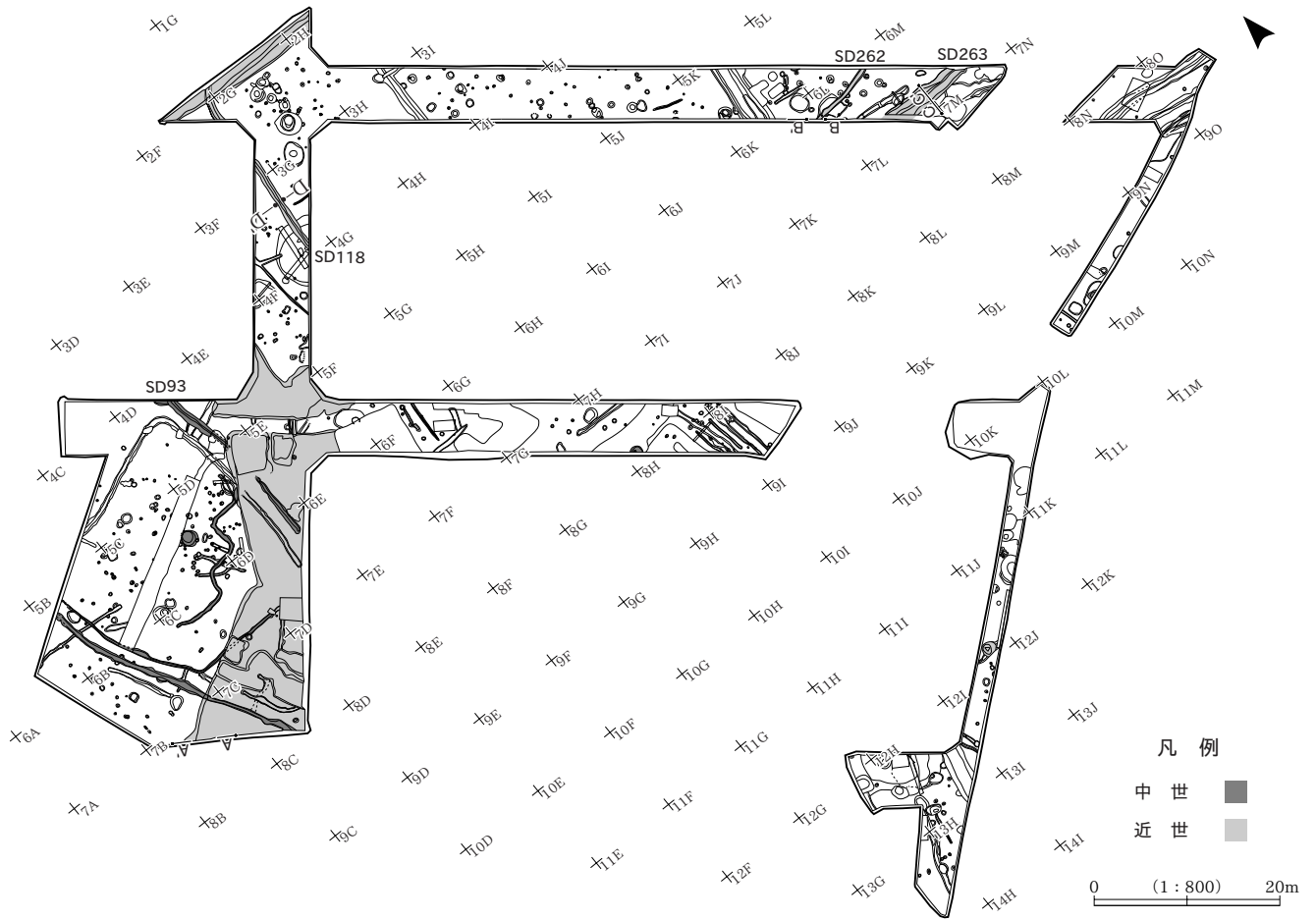
- 1 褐灰色シルト (10YR5/1)
- 2 灰白色シルト (10YR7/1) 褐灰色砂をブロック状に含む。

図版7に対応



図版8に対応





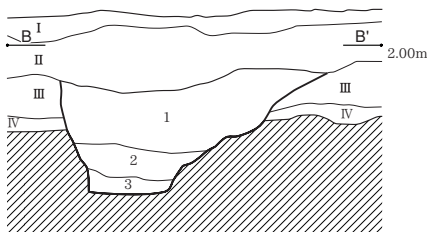
近世水田遺構

IV-b層 褐灰色シルト (10YR4/1) しまりあり、粘性あり。

近世水田遺構

- 1 灰黄色砂 (2.5Y6/2) しまりなし、粘性なし。搬入砂。
- 2 褐灰色シルト (7.5YR4/1) しまりややあり、粘性ややあり、褐色砂を含む。

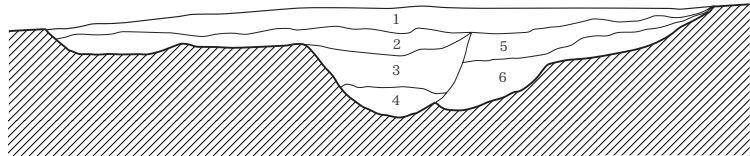
C C' 2.00m



SD262

SD262

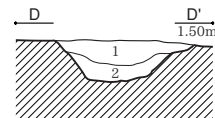
- 1 暗灰色砂質土 (2.5Y4/2) 灰白色粘土ブロックを含む、近世近代の遺物を混じる。
- 2 灰黄褐色土 (10YR5/2) 黒褐色砂を混じる、粘性あり、しまりなし。
- 3 にぶい黄褐色土 (10YR5/3) 灰褐色砂を混じる。



SD263

SD263

- 1 暗灰黄色シルト (2.5Y4/2) しまりあり、粘性なし、炭化物含む、砂質強い。
- 2 黄灰色シルト (2.5Y4/1) しまりあり、粘性ややあり、炭化物含む、暗灰色シルトを斑状に含む。
- 3 灰色シルト (5Y4/1) しまりあり、粘性ややあり、褐色砂を斑状に含む。
- 4 灰色粘土 (N4/1) しまりあり、粘性あり、褐色砂を斑状に含む、砂質強い。
- 5 オリーブ褐色シルト (2.5Y4/3) しまりあり、粘性なし、暗褐色砂を斑状に含む、炭化物含む。
- 6 灰オリーブシルト (5Y4/2) しまりあり、粘性なし、褐色砂を斑状に含む。

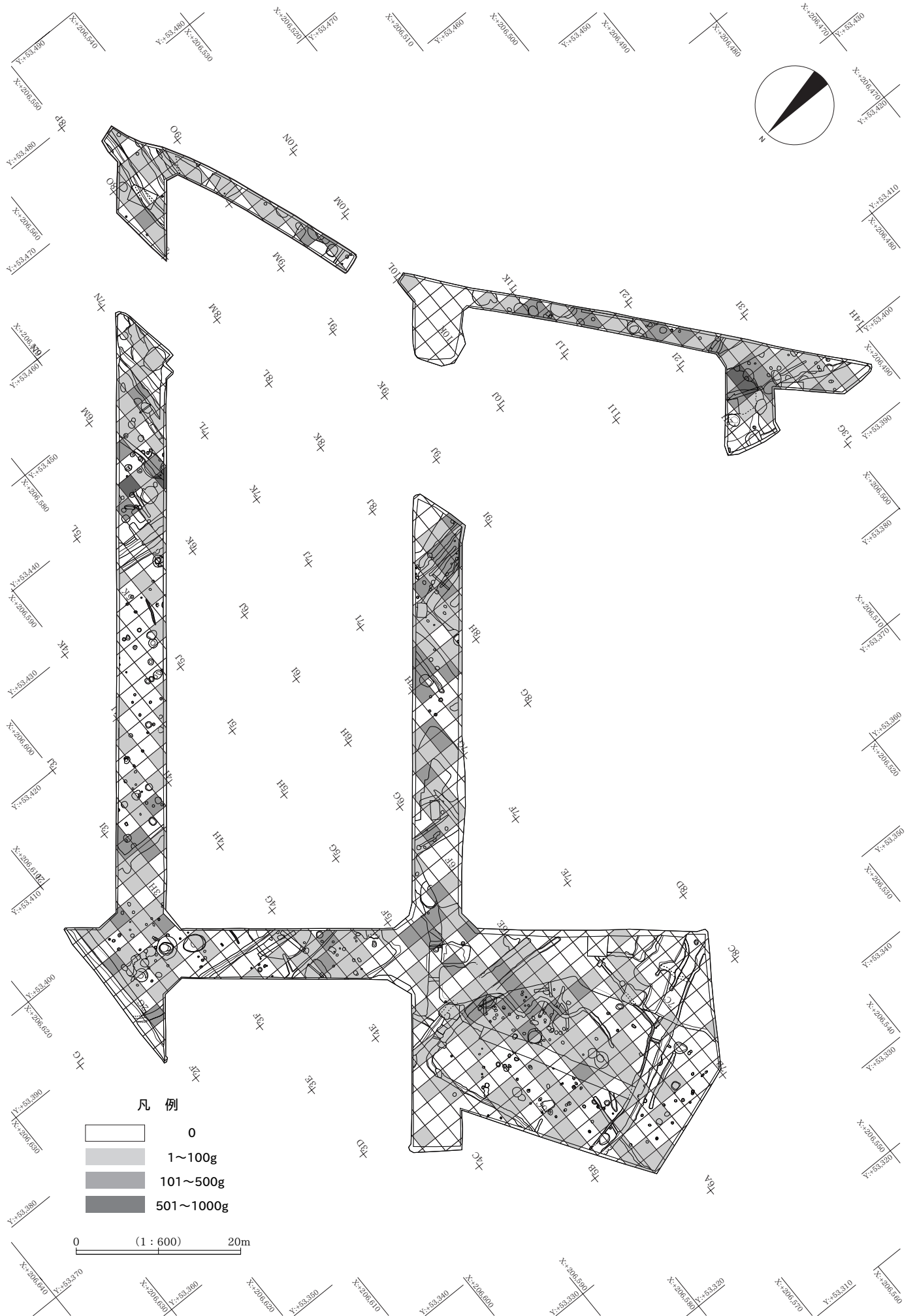


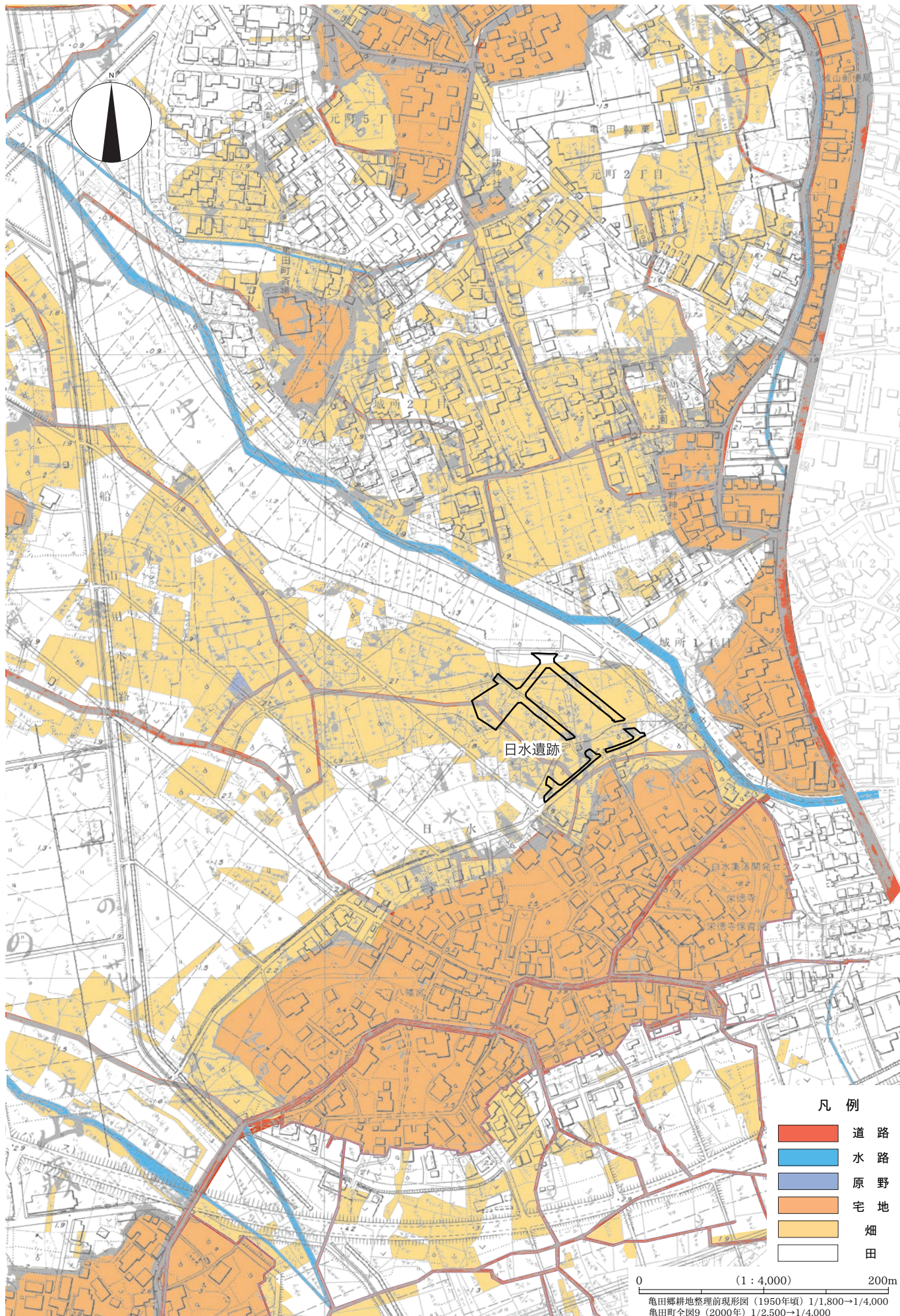
SD118

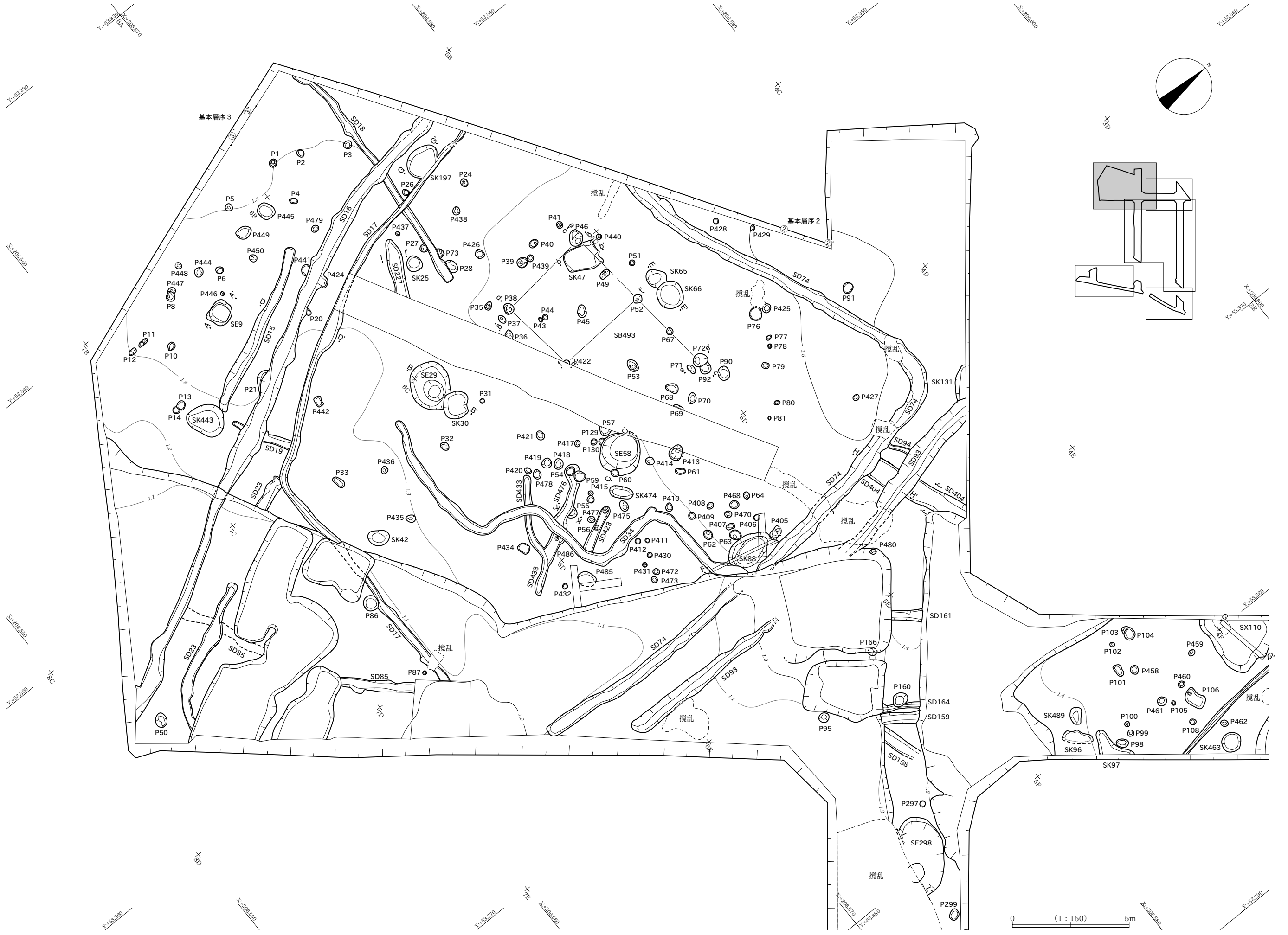
SD118

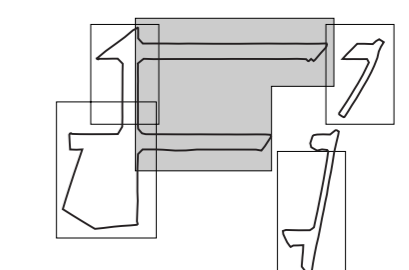
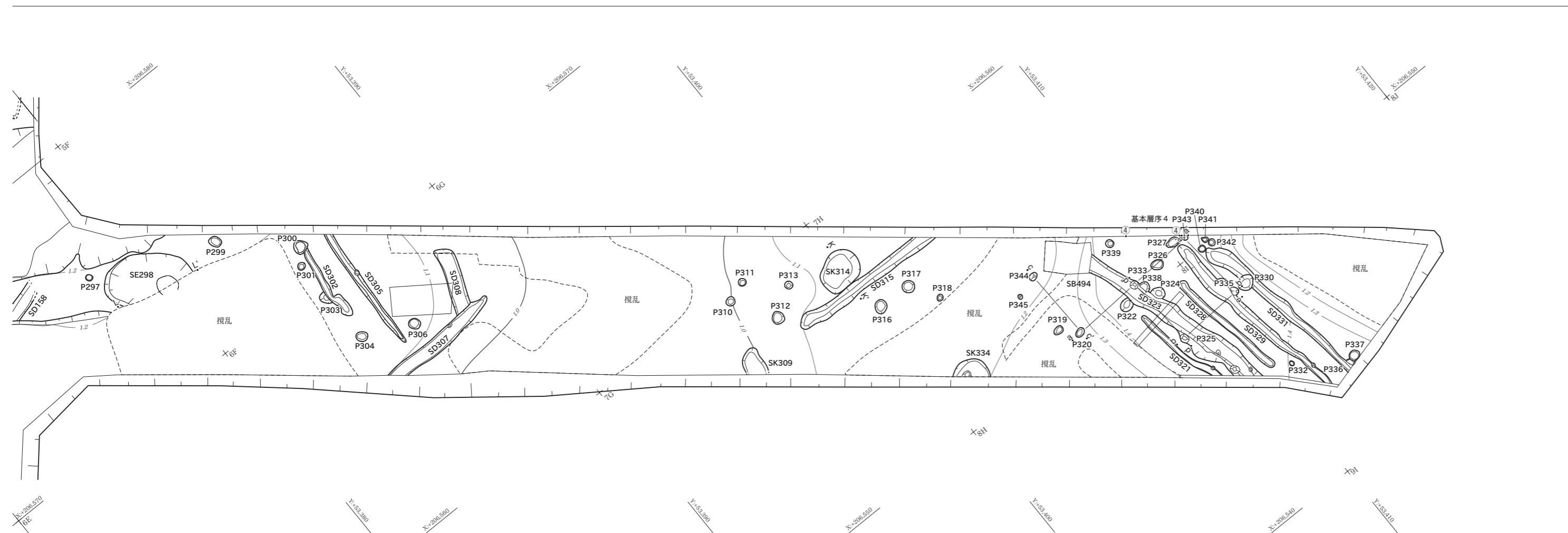
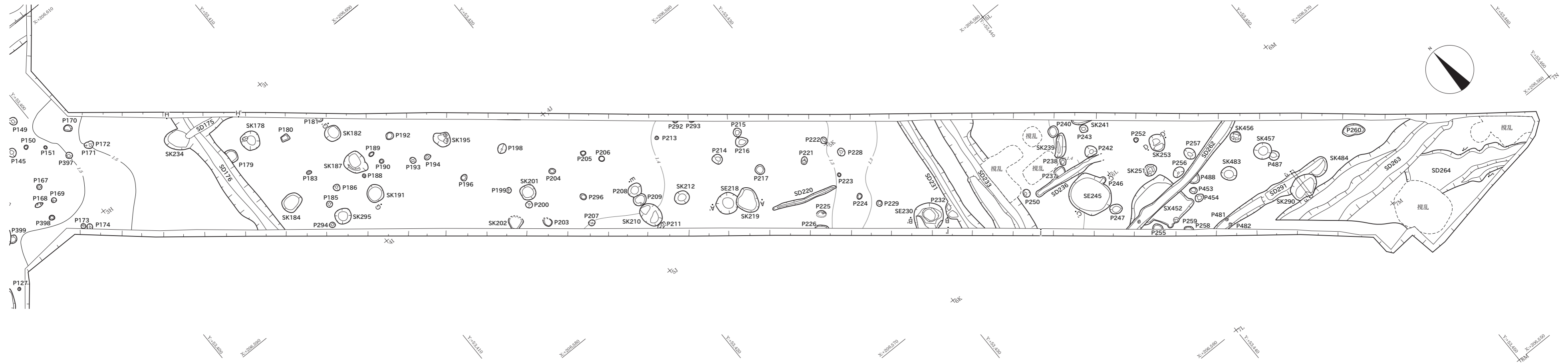
- 1 褐灰色シルト (10YR5/1) 褐色砂を混じる。
- 2 褐灰色シルト (10YR6/1) 灰白色砂をすじ状に含む。

0 (1:40) 2m



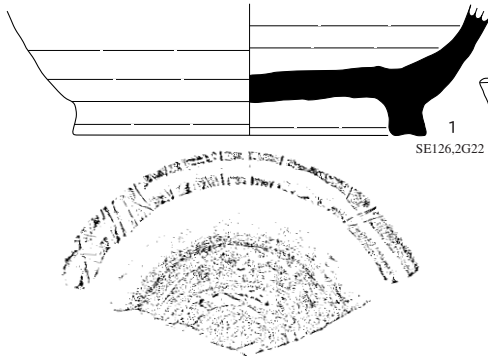




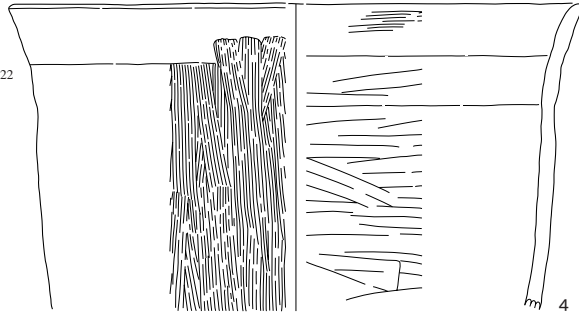


SE126 (1)

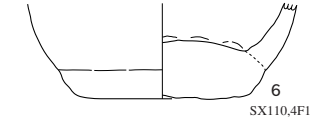
SX110 (2~8)



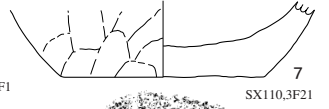
1 SE126,2G22



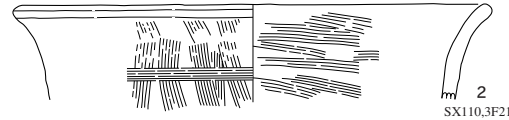
4 SX110,4F1



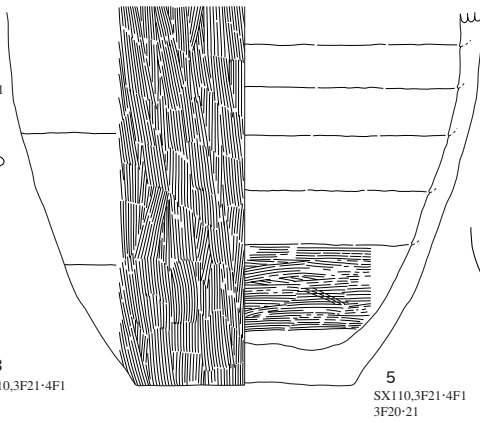
6 SX110,4F1



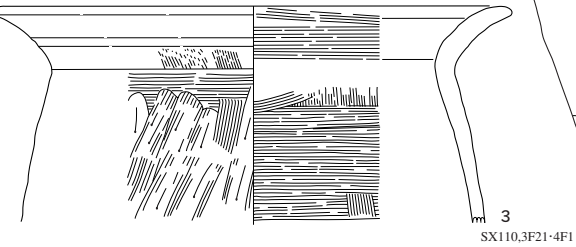
7 SX110,3F21



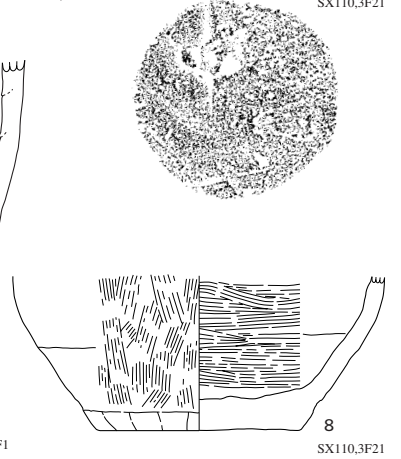
2 SX110,3F21



5 SX110,3F21-4F1
3F20-21



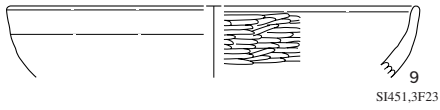
3 SX110,3F21-4F1



8 SX110,3F21

SI451 (9~12)

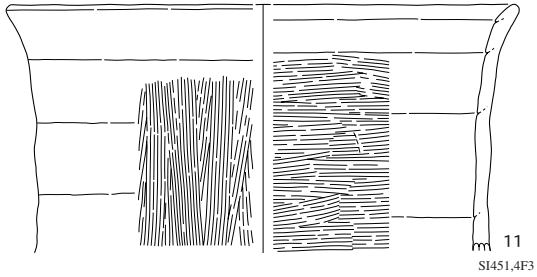
SE29 (13~17)



9 SI451,3F23



10 SI451,4F4



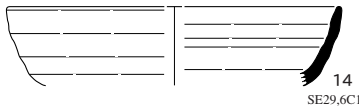
11 SI451,4F3



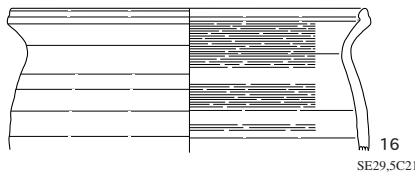
12 SI451,3F24



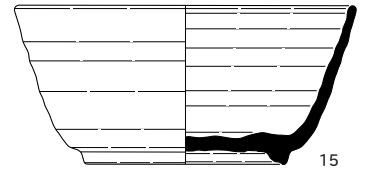
13 SE29,5C21



14 SE29,6C1



16 SE29,5C21



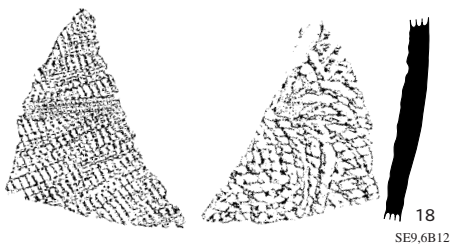
15 SE29,5C21



17 SE29,5C21

SE9 (18)

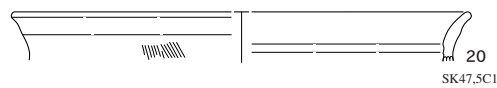
SK47 (19・20)



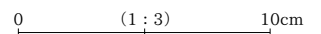
18 SE9,6B12



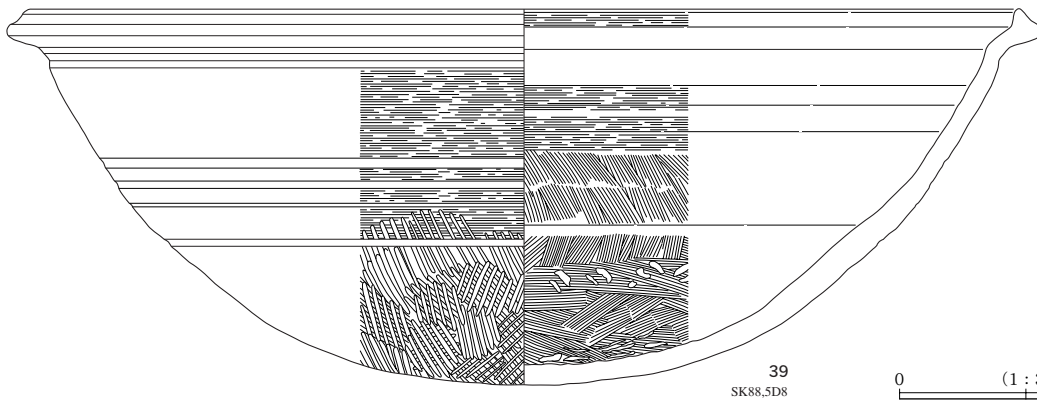
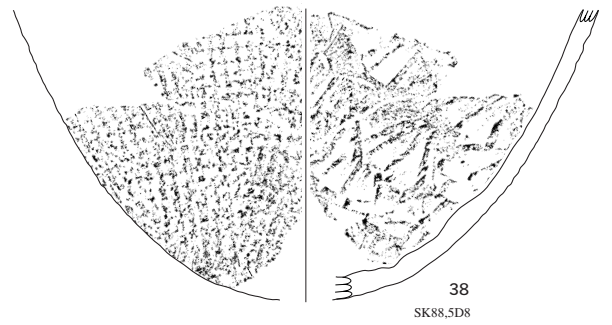
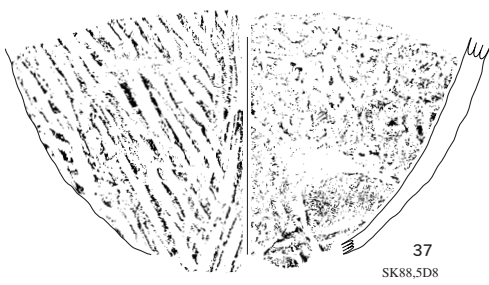
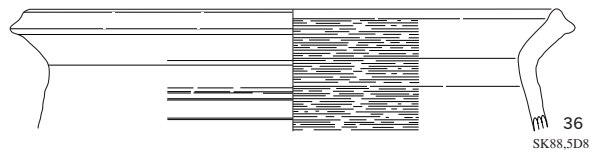
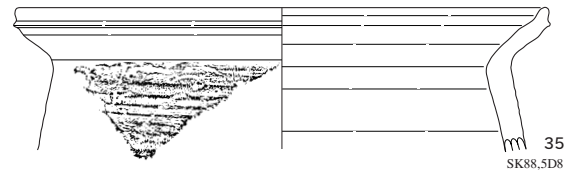
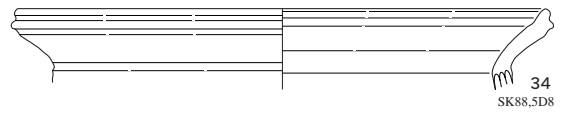
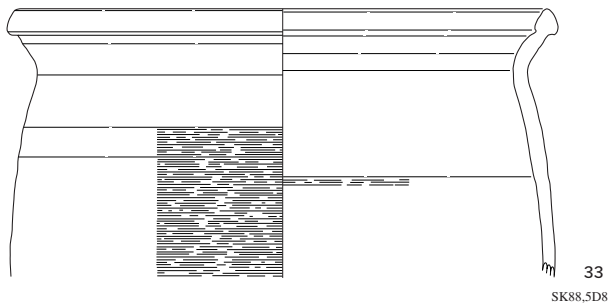
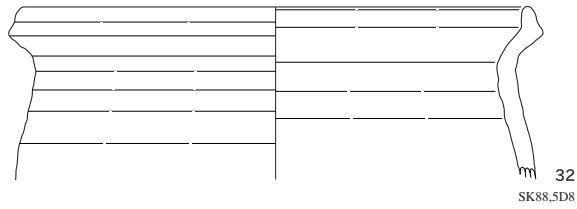
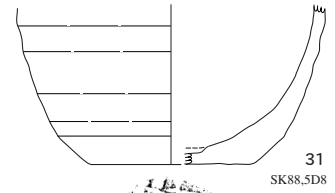
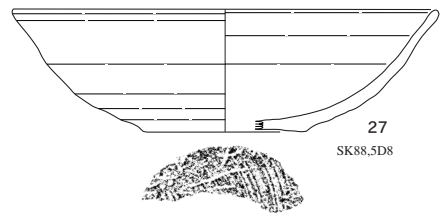
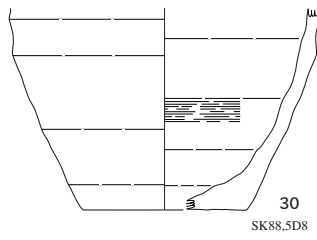
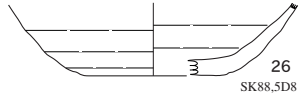
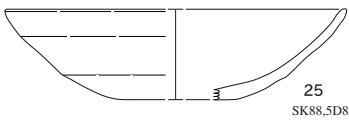
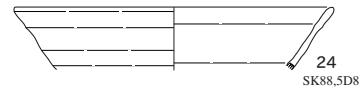
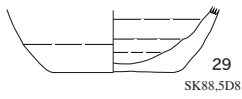
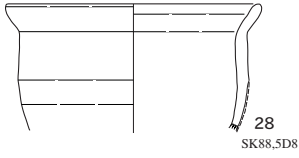
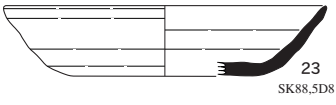
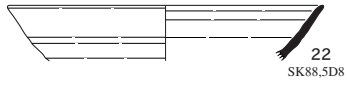
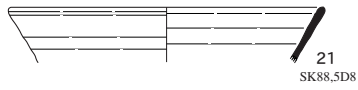
19 SK47,5C1



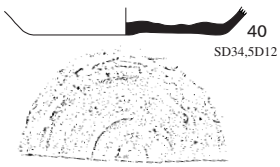
20 SK47,5C1



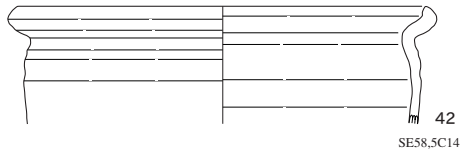
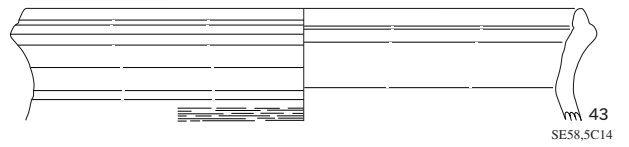
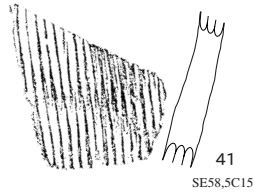
SK88 (21~39)



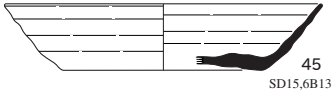
SD34 (40)



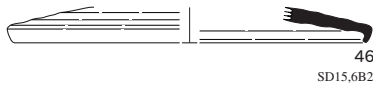
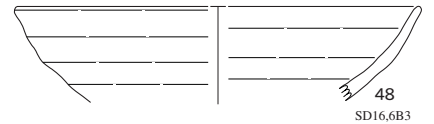
SE58 (41~44)



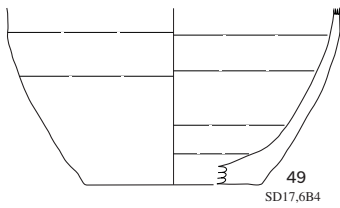
SD15 (45・46)



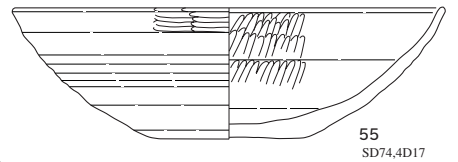
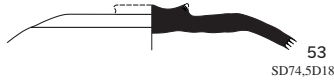
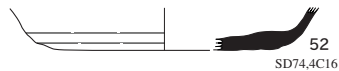
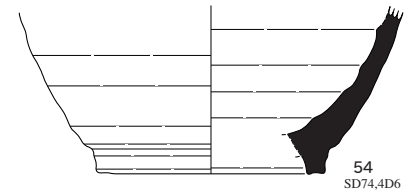
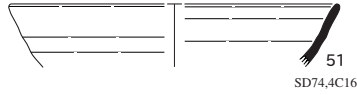
SD16 (47・48)



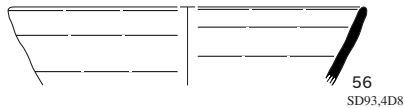
SD17 (49・50)



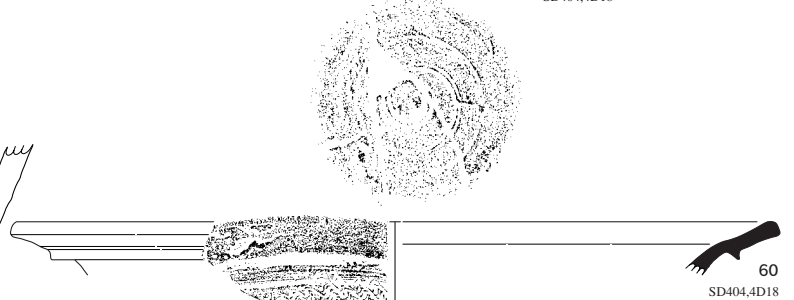
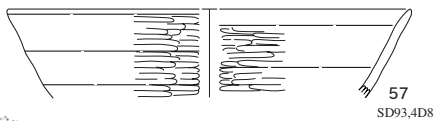
SD74 (51~55)



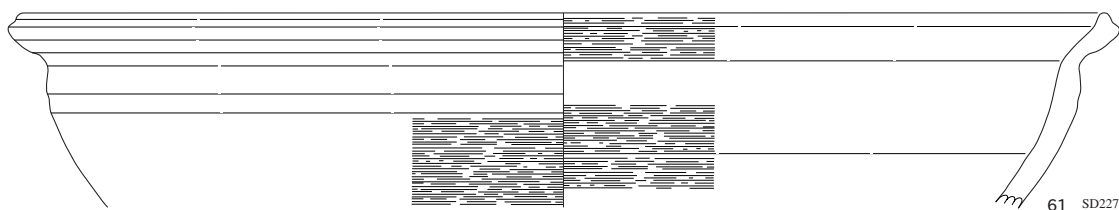
SD93 (56~58)



SD404 (59・60)



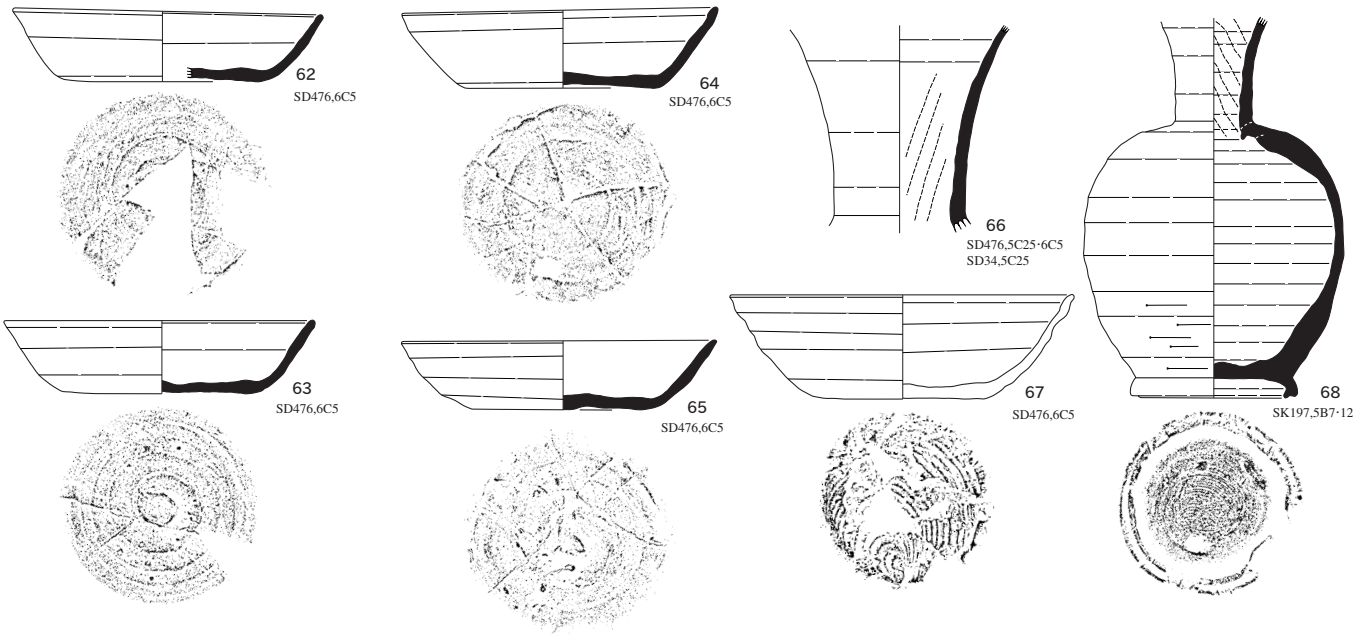
SD227 (61)



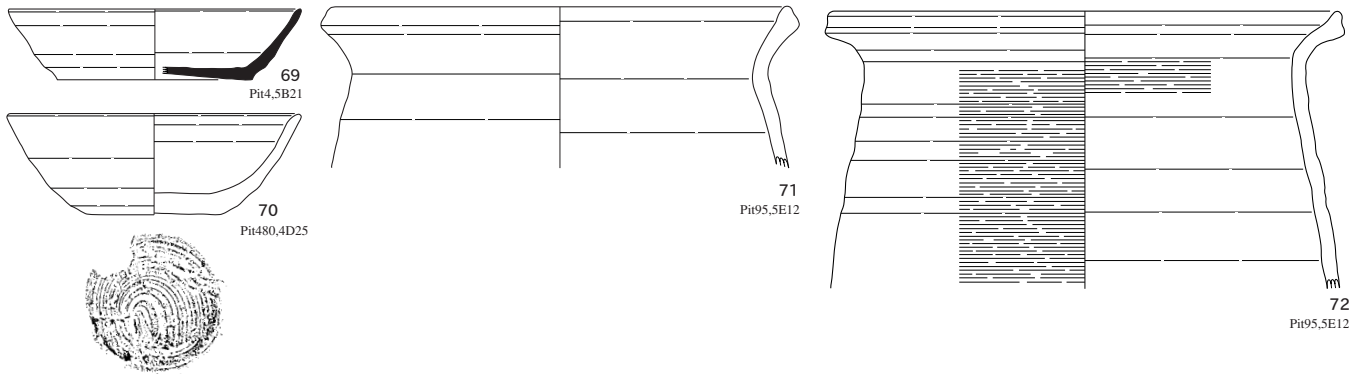
0 (60 1 : 4) 10cm
0 (その他 1 : 3) 10cm

SD476 (62~67)

SK197 (68)

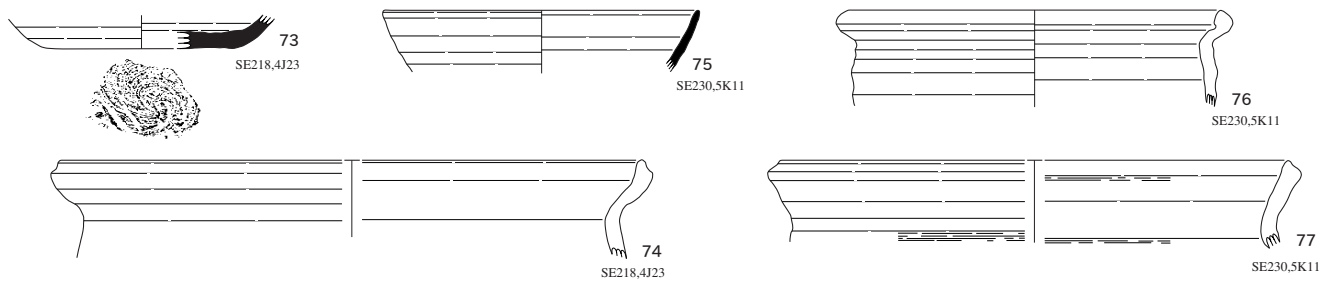


Pit4 (69)・Pit480 (70)・Pit95 (71・72)



SE218 (73・74)

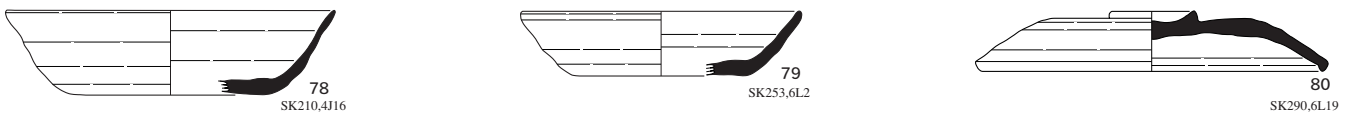
SE230 (75~77)



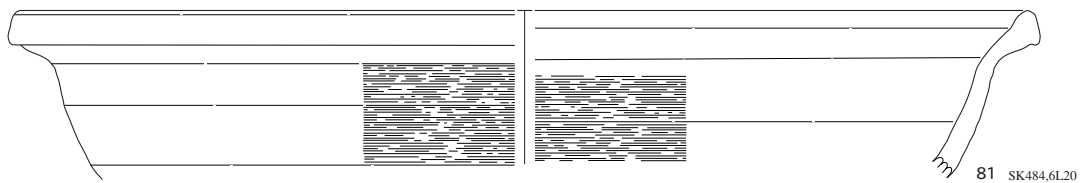
SK210 (78)

SK253 (79)

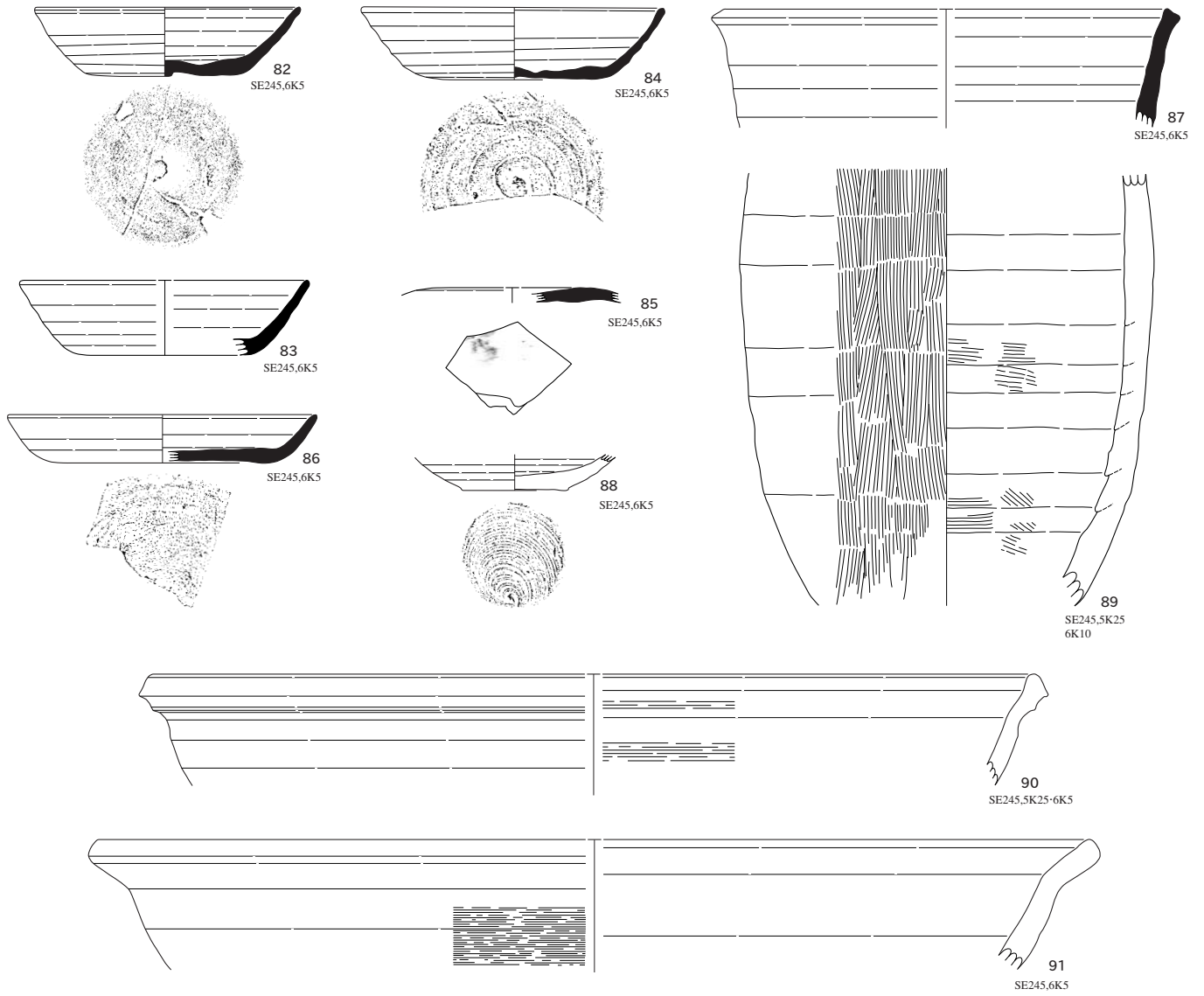
SK290 (80)



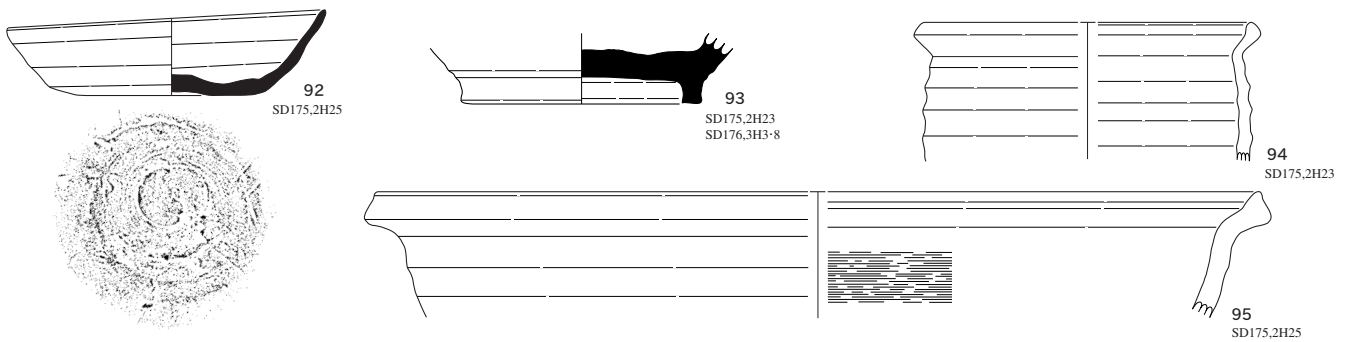
SK484 (81)



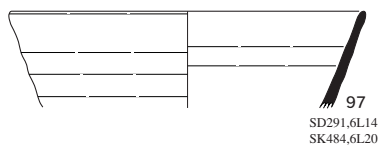
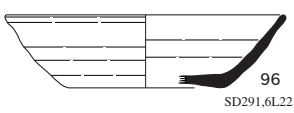
SE245 (82~91)



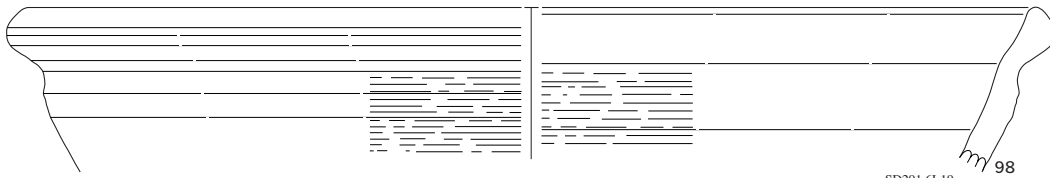
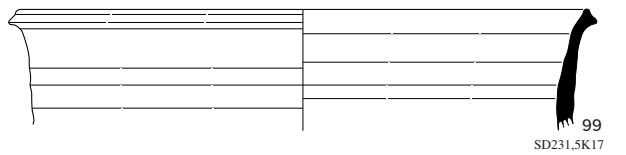
SD175 (92~95)



SD291 (96~98)

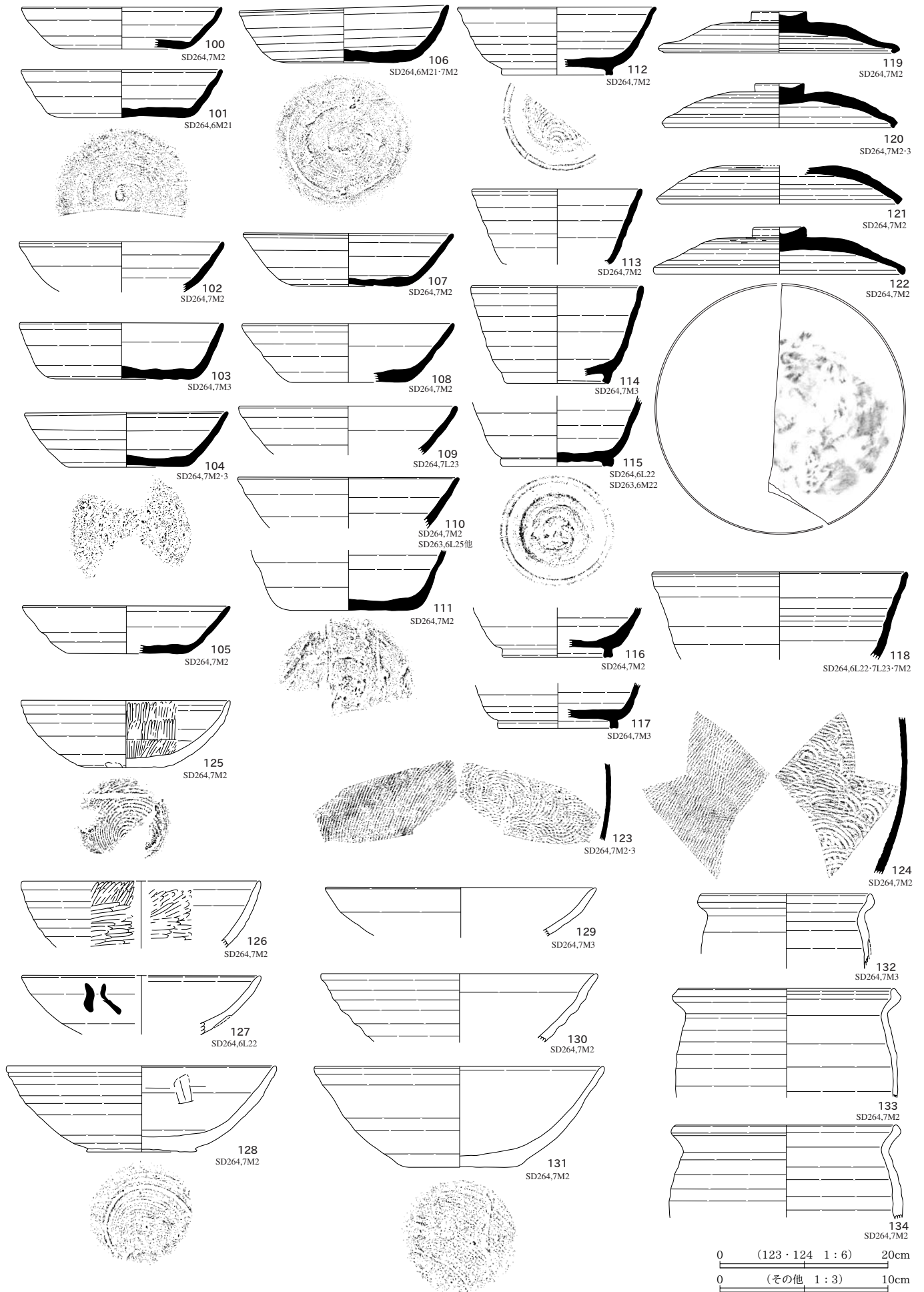


SD231 (99)

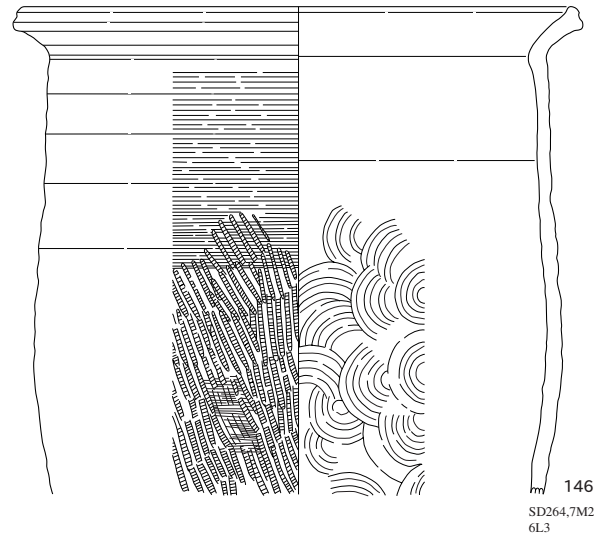
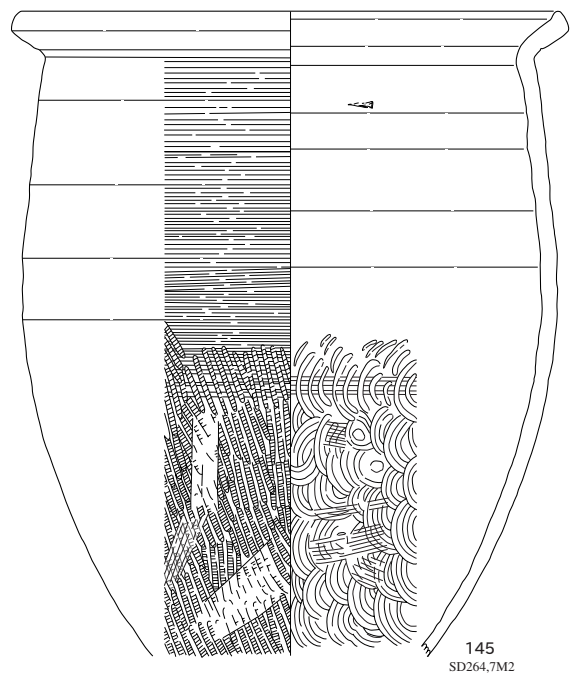
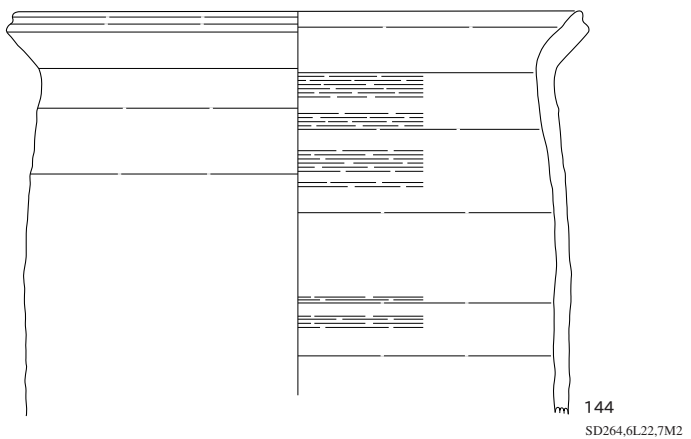
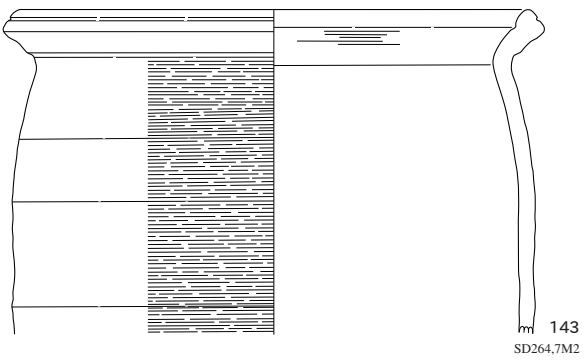
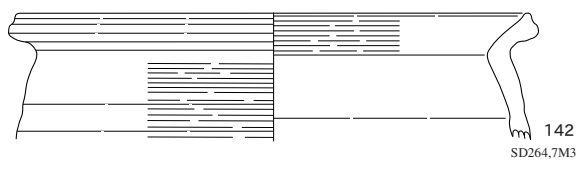
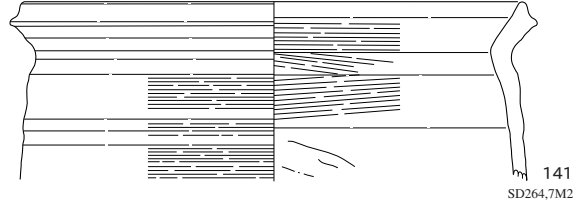
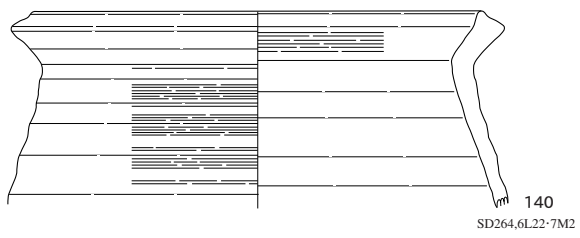
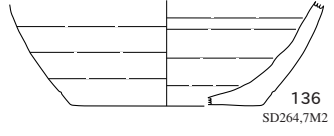
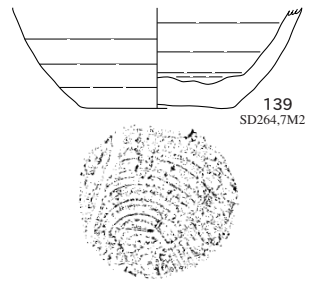
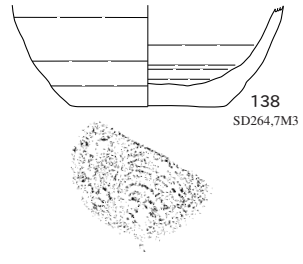
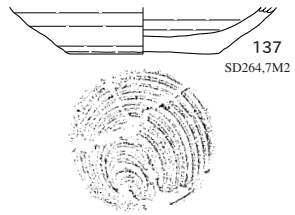
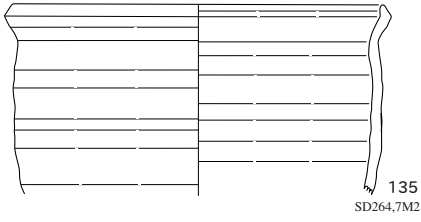


0 (87・99 1:4) 10cm
0 (その他 1:3) 10cm

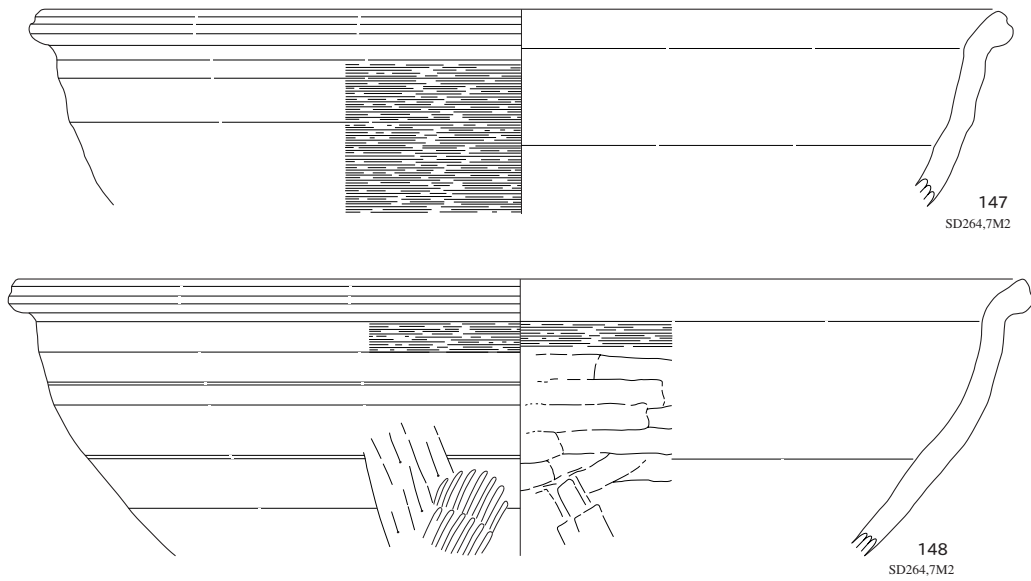
SD264 (100~134)



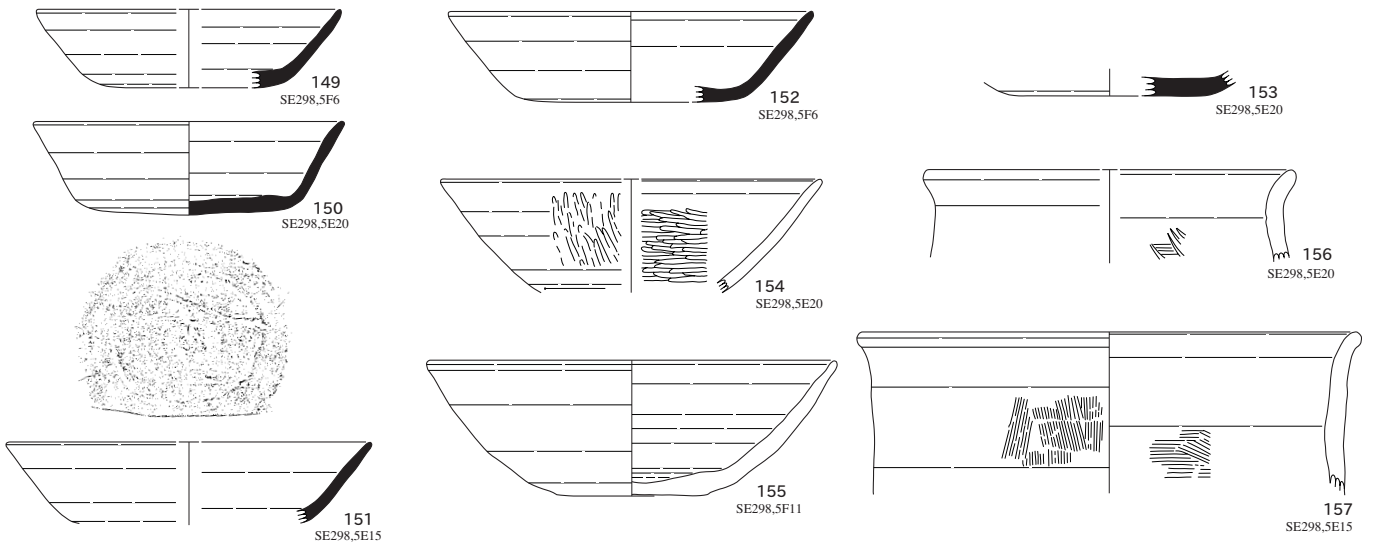
SD264 (135~146)



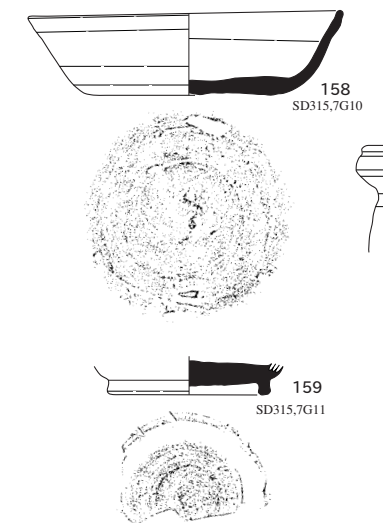
SD264 (147 · 148)



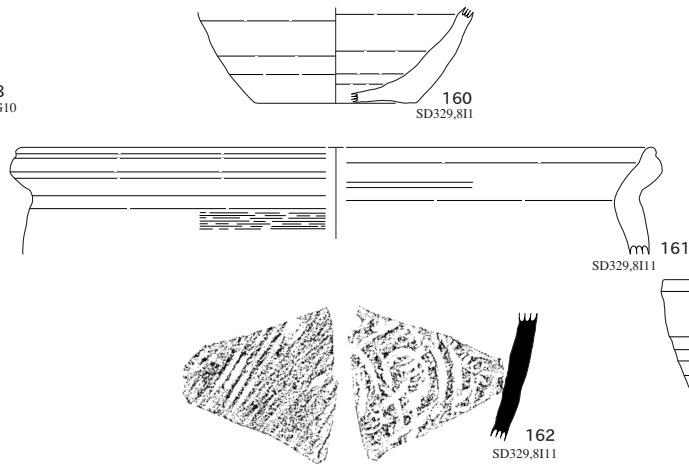
SE298 (149~157)



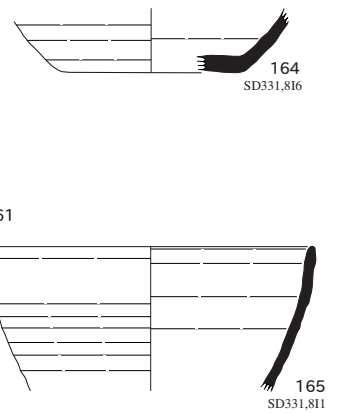
SD315 (158 · 159)



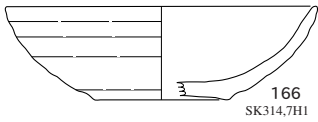
SD329 (160~163)



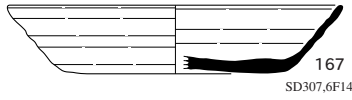
SD331 (164 · 165)



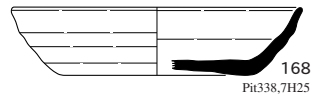
SK314 (166)



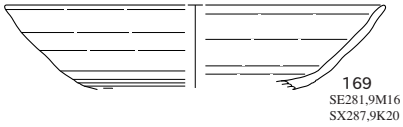
SD307 (167)



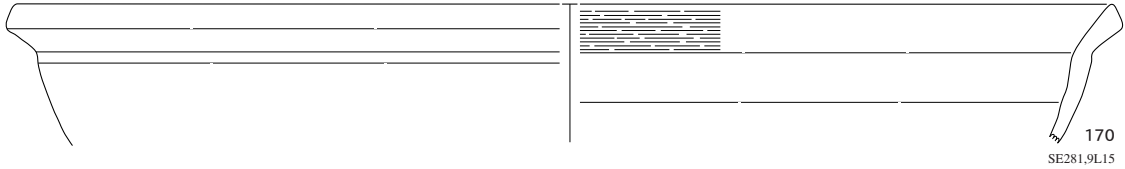
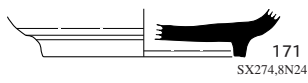
Pit338 (168)



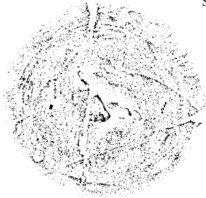
SE281 (169・170)



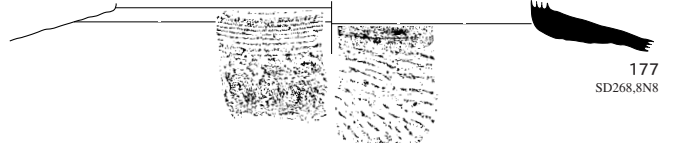
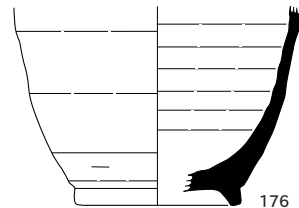
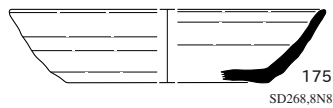
SX274 (171・172)



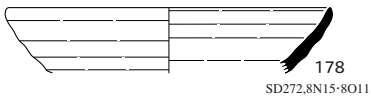
SK279 (173)



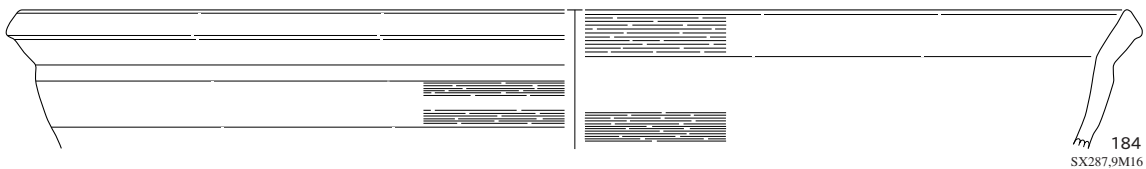
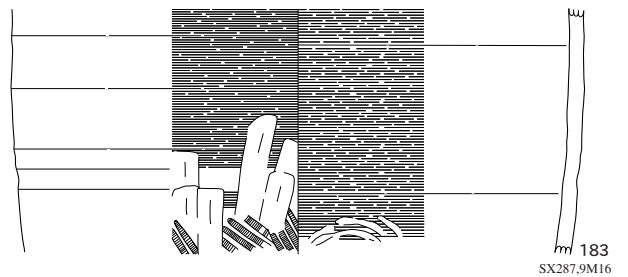
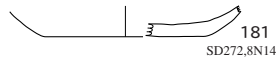
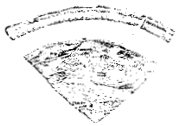
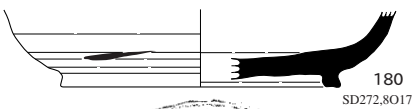
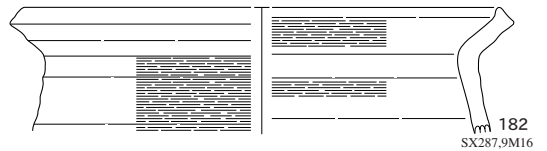
SD268 (174~177)



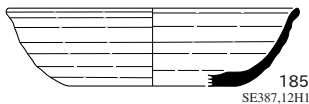
SD272 (178~181)



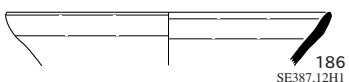
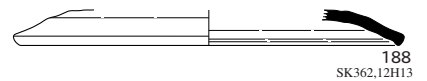
SX287 (182~184)



SE387 (185~187)

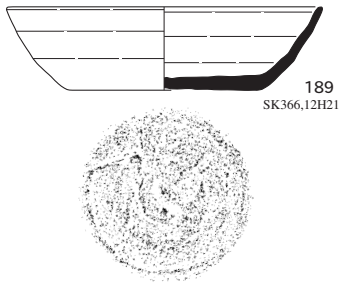


SK362 (188)

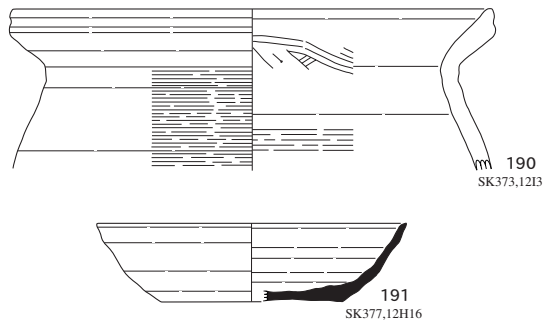


0 (1:3) 10cm

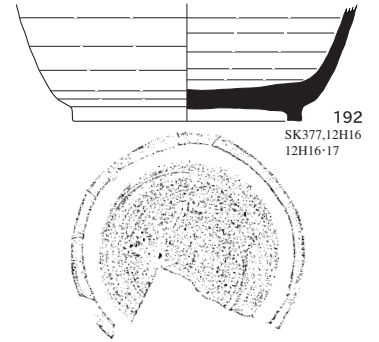
SK366 (189)



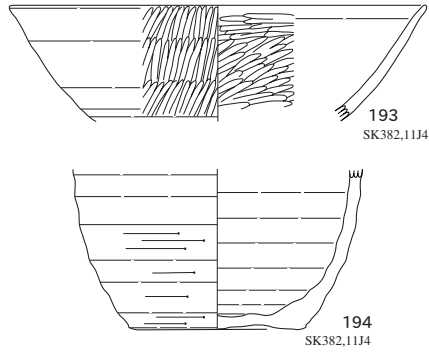
SK373 (190)



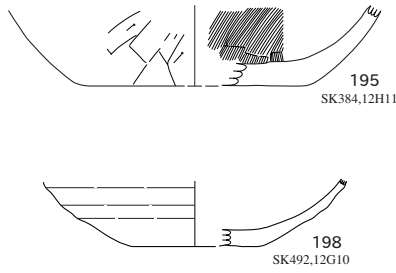
SK377 (191・192)



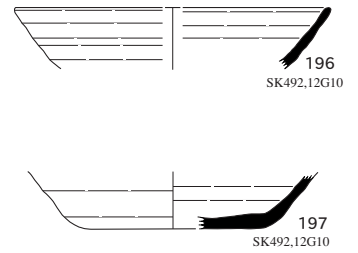
SK382 (193・194)



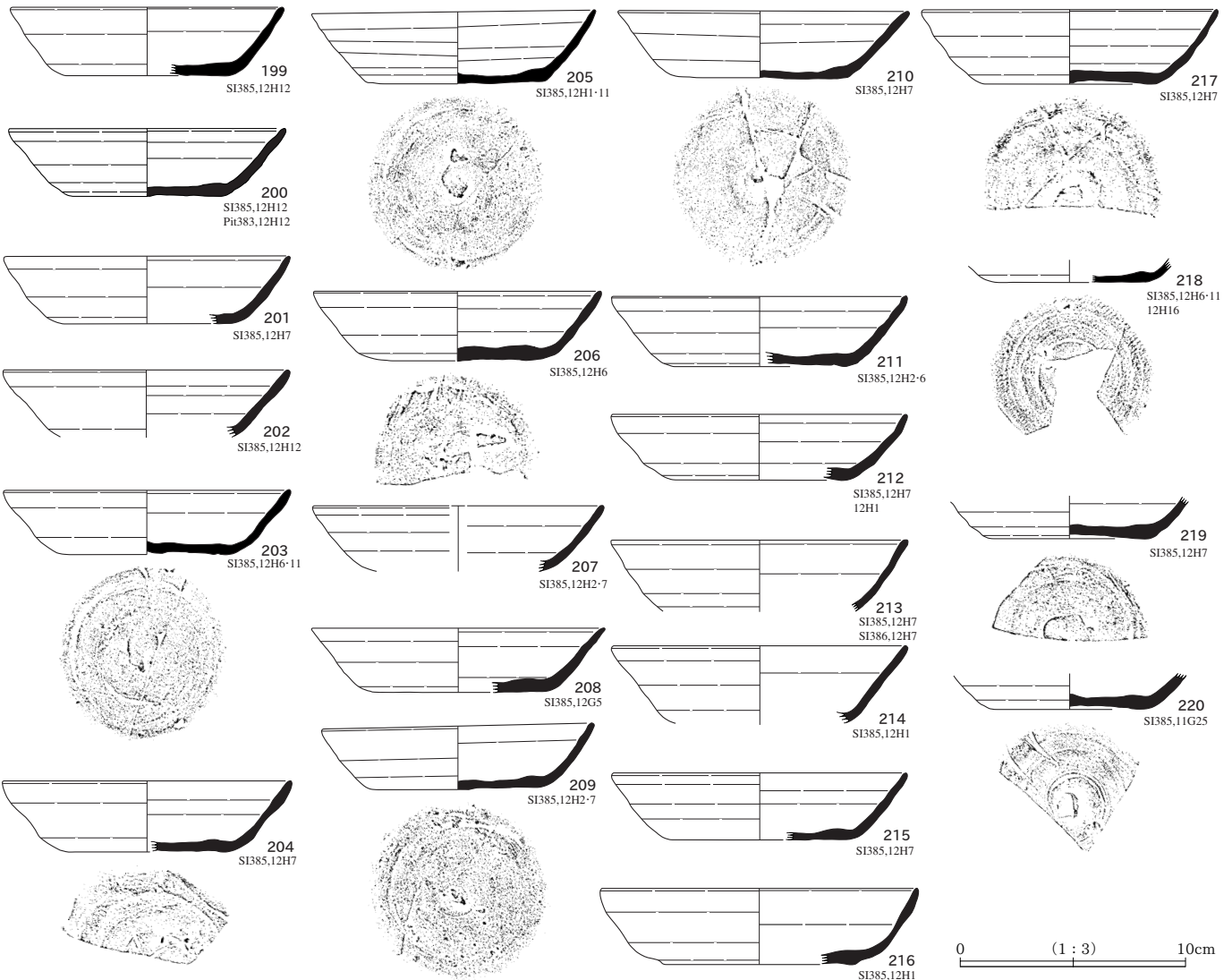
SK384 (195)



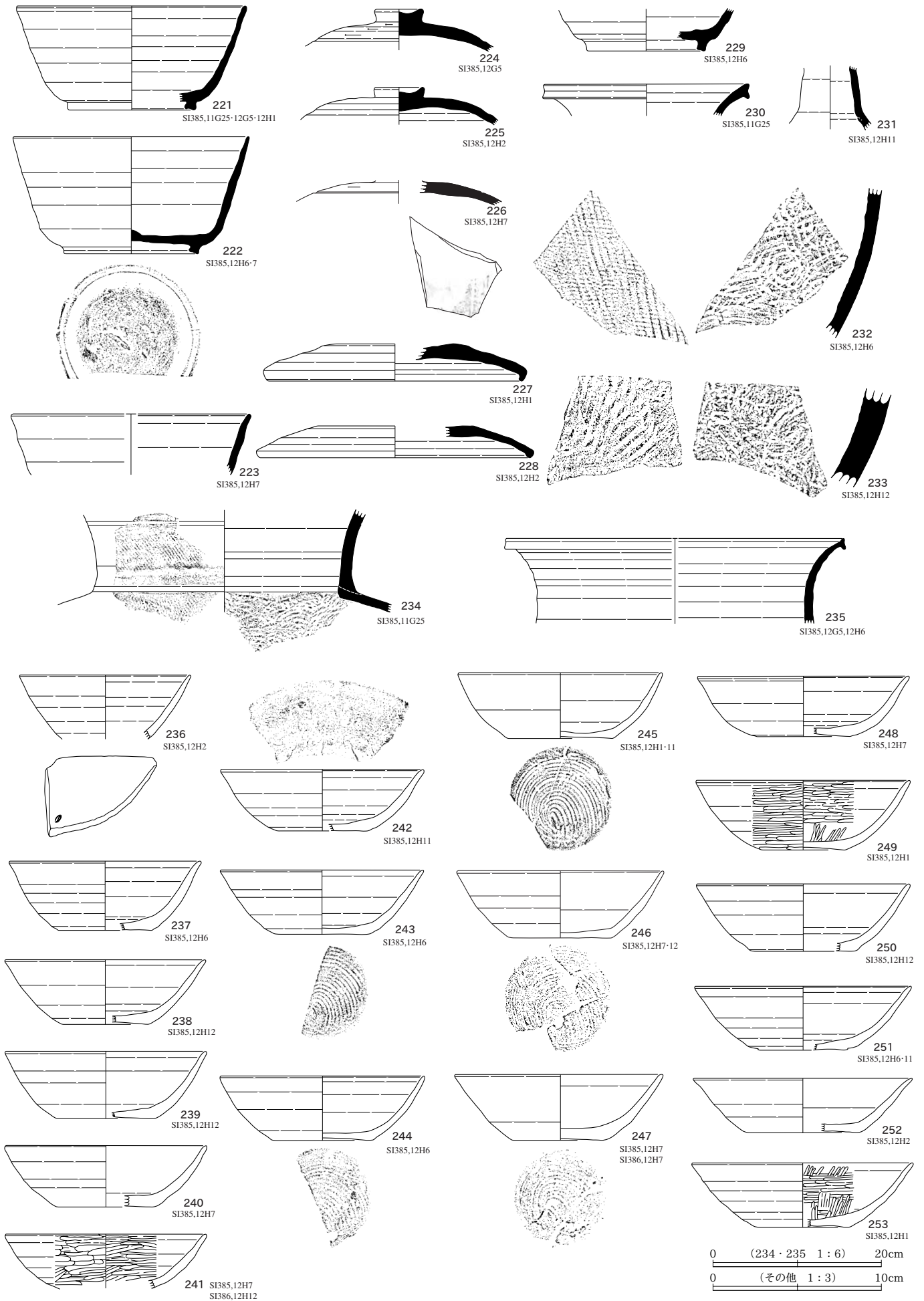
SK492 (196~198)



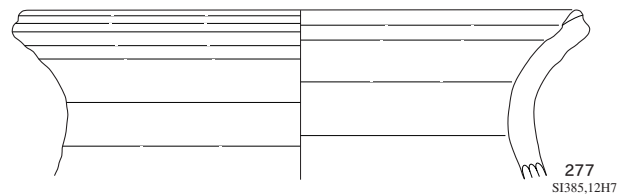
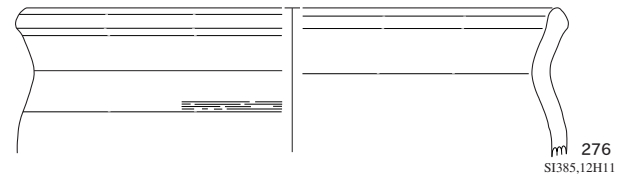
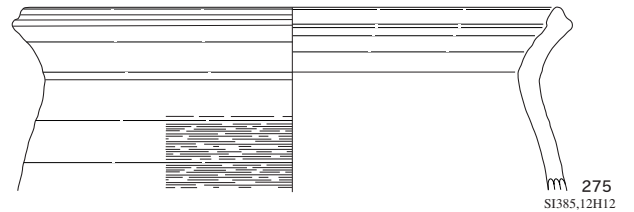
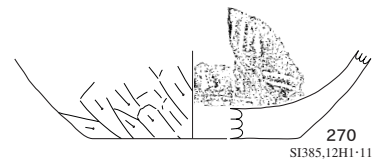
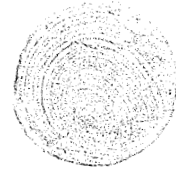
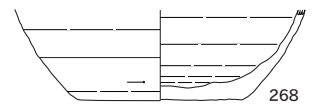
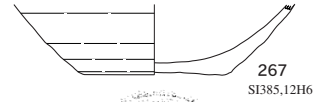
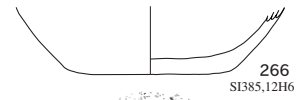
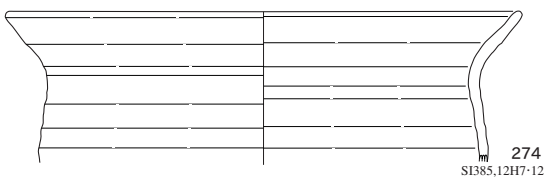
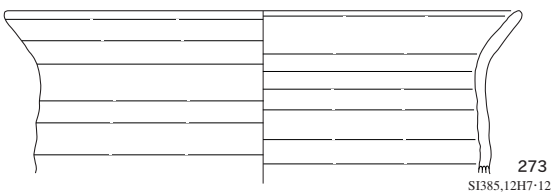
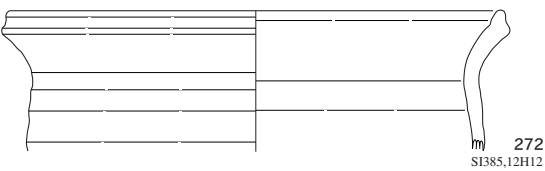
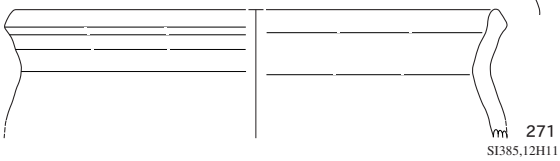
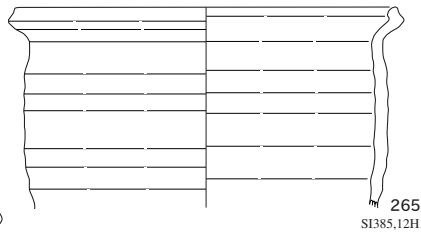
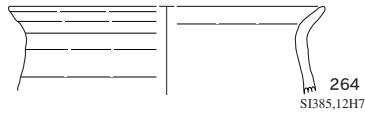
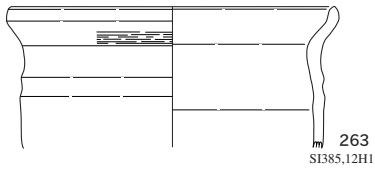
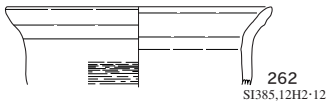
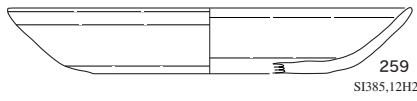
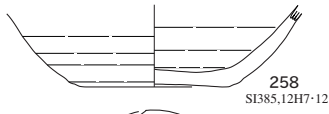
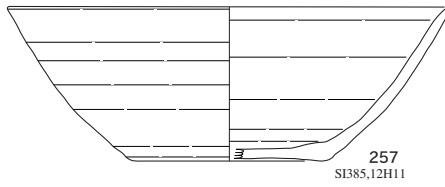
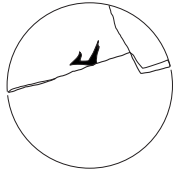
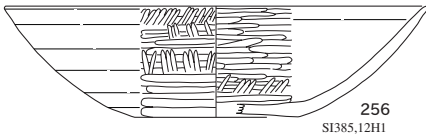
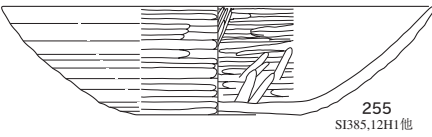
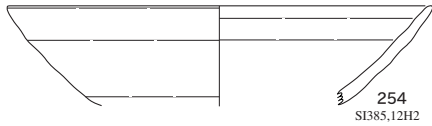
SI385 (199~220)



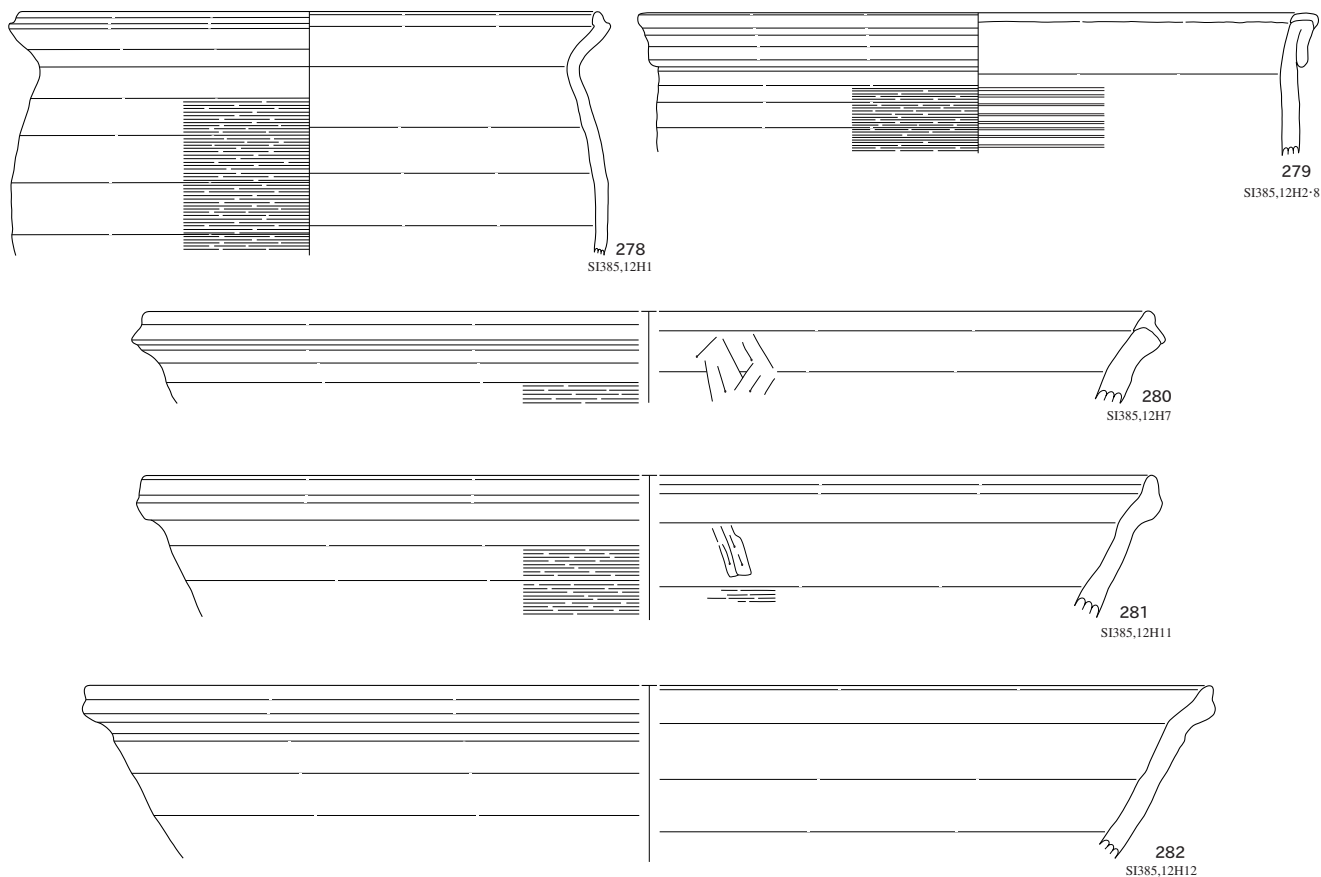
SI385 (221~253)



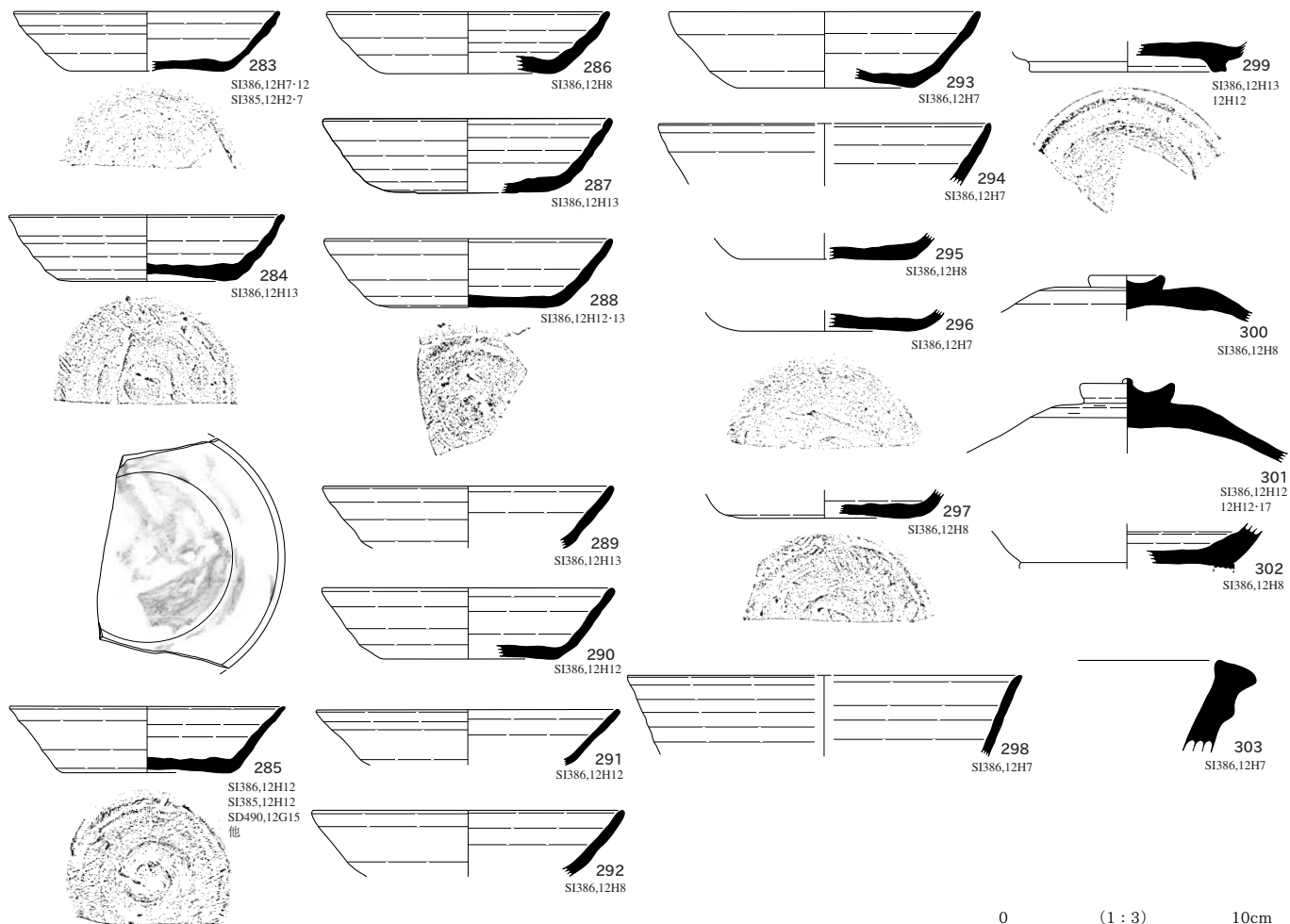
SI385 (254~277)



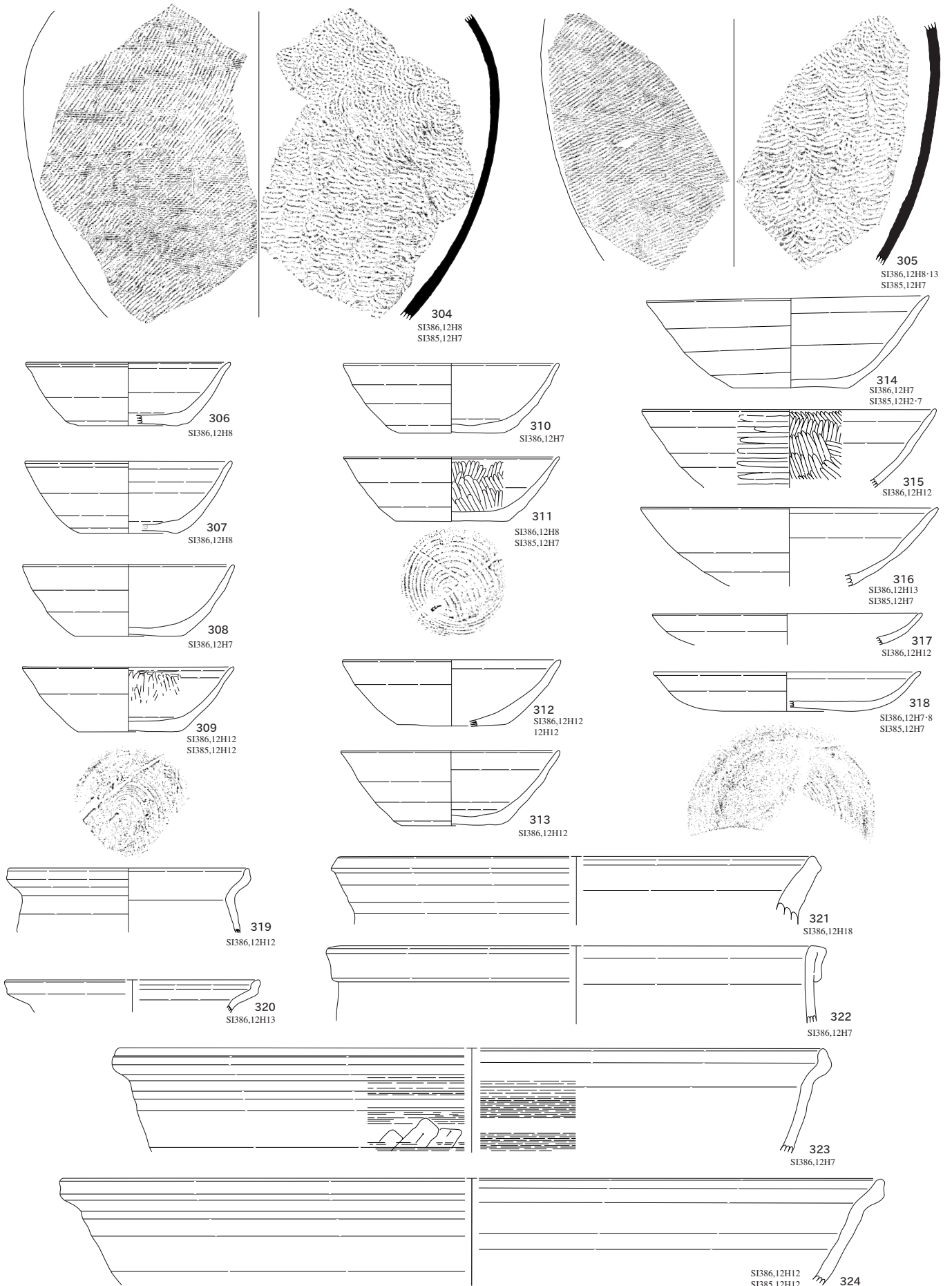
SI385 (278~282)



SI386 (283~303)



SI386 (304~324)



304
SI386.12H8
SI385.12H7

305
SI386.12H8-13
SI385.12H7

306
SI386.12H8

310
SI386.12H7

314
SI386.12H7
SI385.12H2-7

307
SI386.12H8

311
SI386.12H8
SI385.12H7

315
SI386.12H12

308
SI386.12H7

316
SI386.12H13
SI385.12H7

309
SI386.12H12
SI385.12H12

312
SI386.12H12
12H12

317
SI386.12H12

318
SI386.12H7-8
SI385.12H7

313
SI386.12H12

319
SI386.12H12

321
SI386.12H18

320
SI386.12H13

322
SI386.12H7

323
SI386.12H7

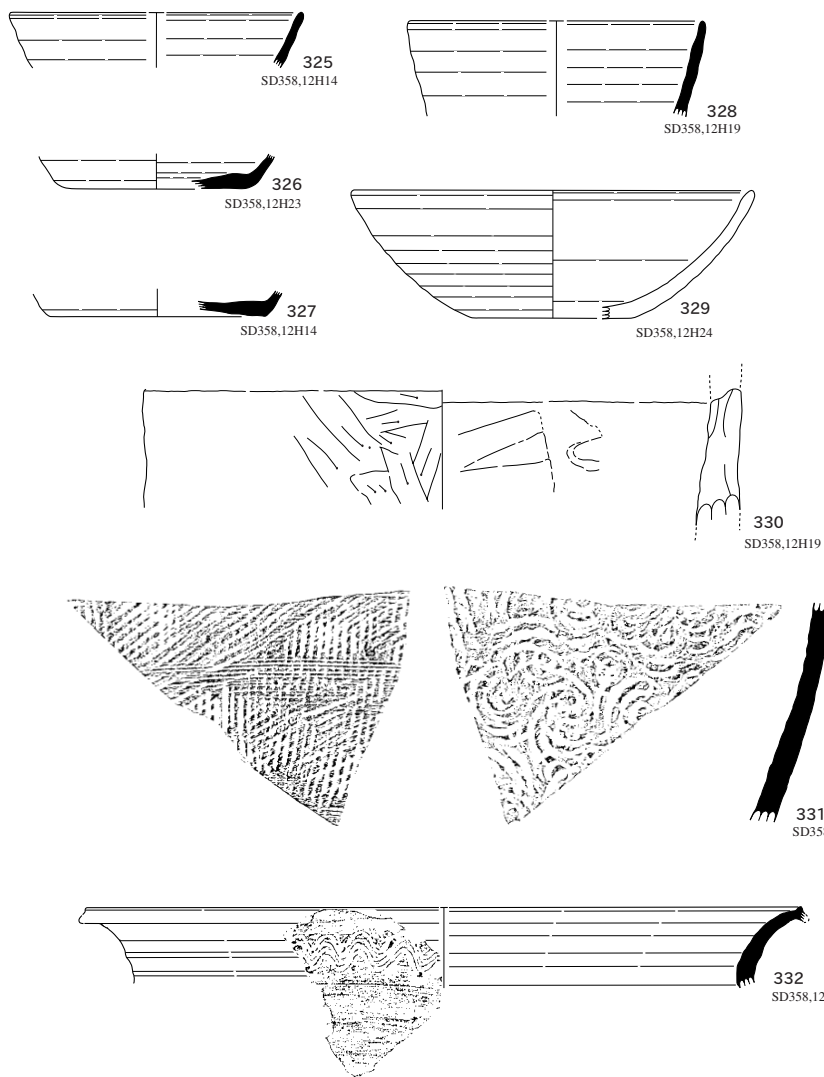
324

SI386.12H12
SI385.12H12

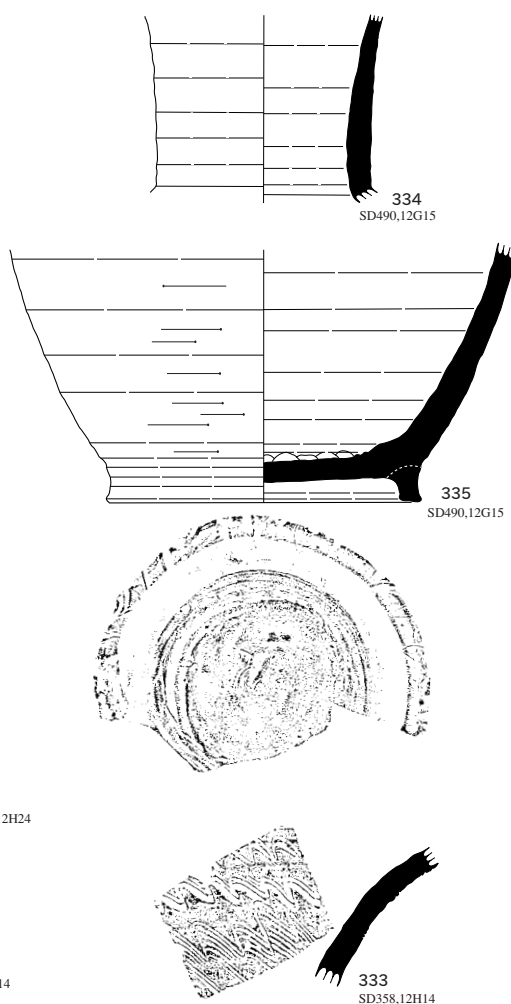
0 (304・305 1:6) 20cm

0 (その他 1:3) 10cm

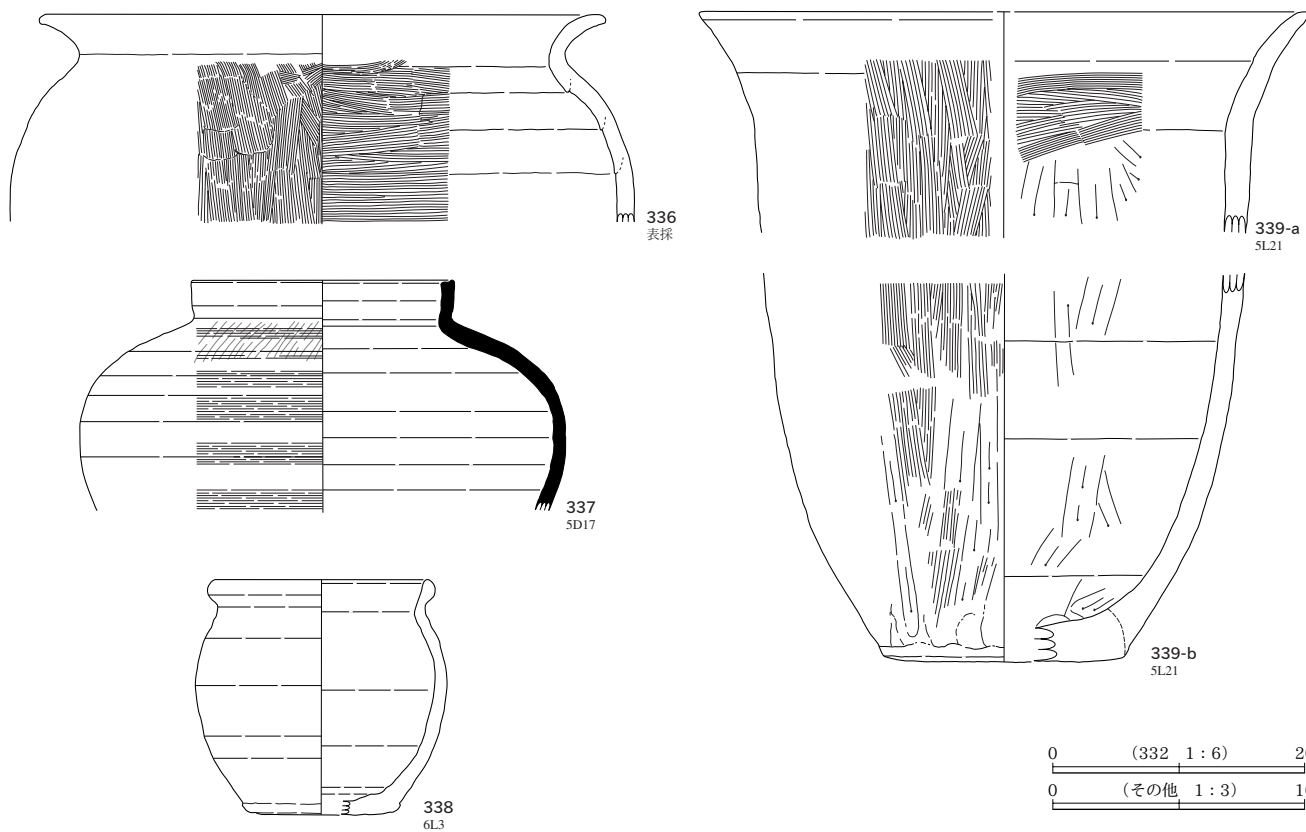
SD358 (325~333)



SD490 (334・335)

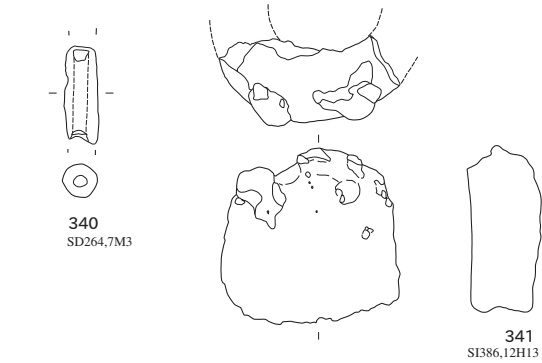


包含層出土遺物等 (336~339)

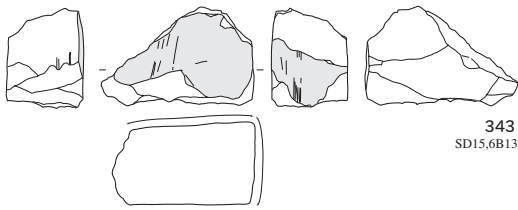
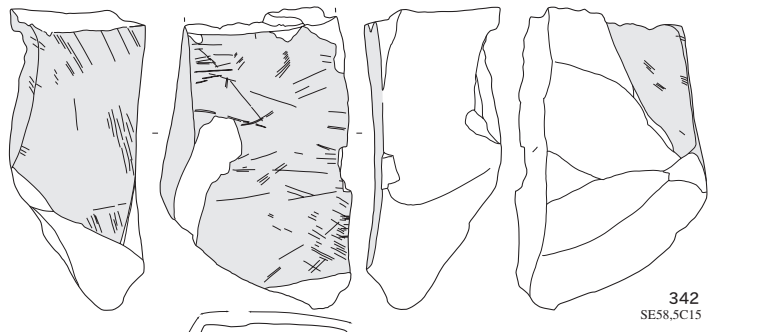


0 (332 1:6) 20cm
0 (その他 1:3) 10cm

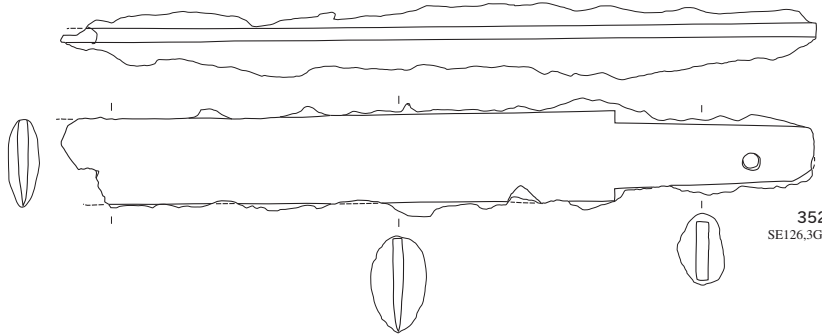
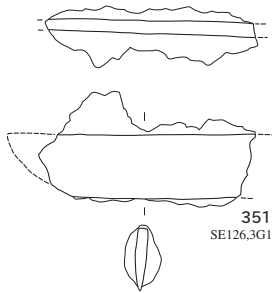
土製品 (340・341)



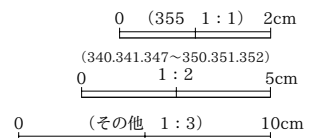
石製品 (342~350)



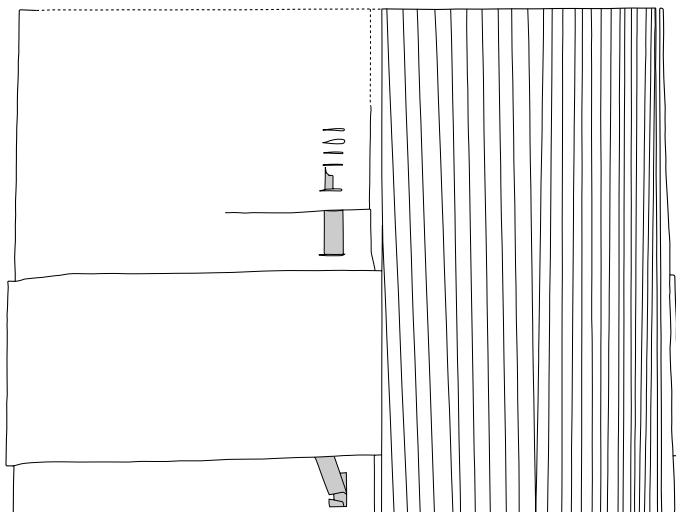
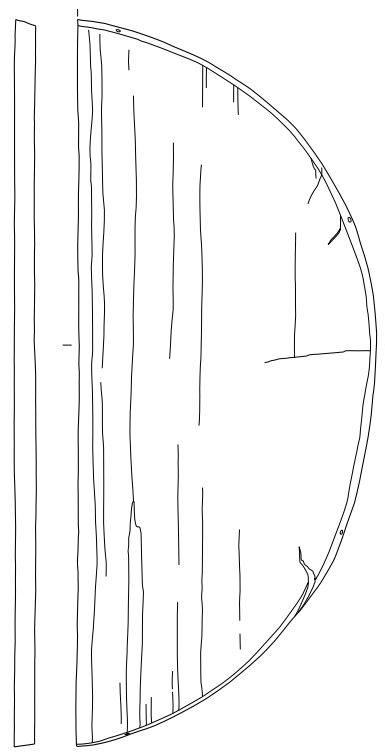
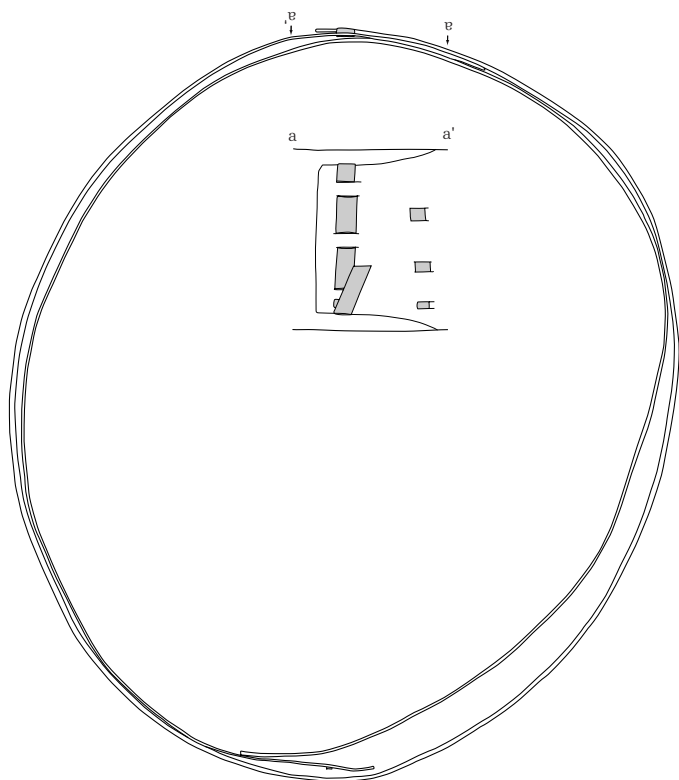
鉄製品 (351~354)



古銭 (355)

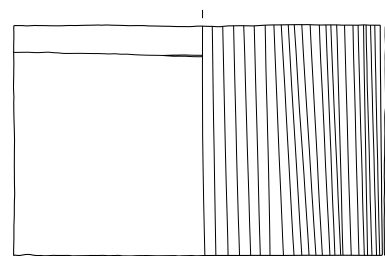
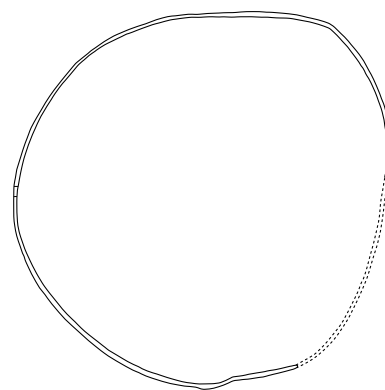


SE133 (356・357)



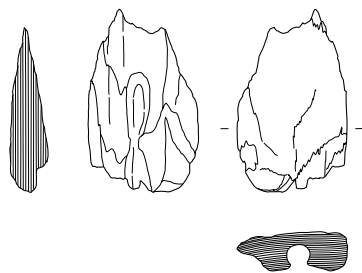
356
SE133,2G18

SE298 (359)



359
SE298,5E20

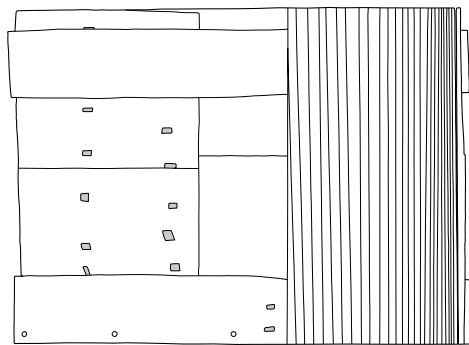
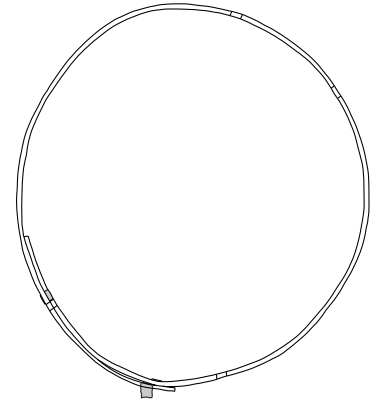
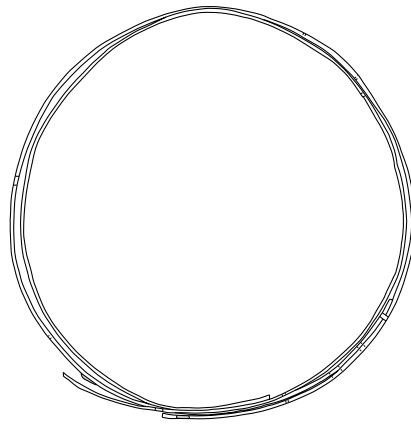
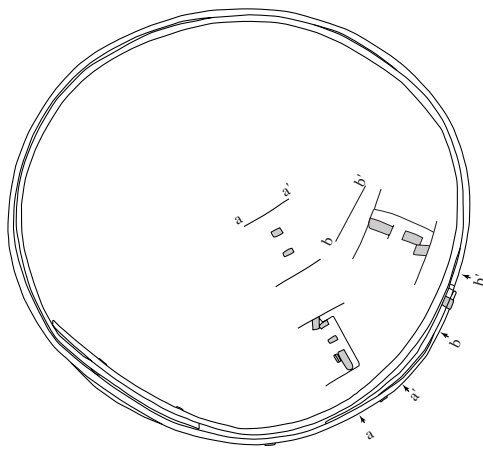
Pit135 (358)



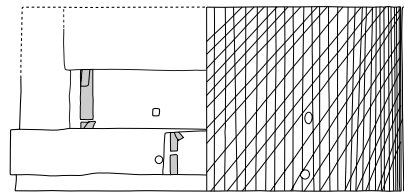
358
Pit135,2G19

0 (1:6) 20cm

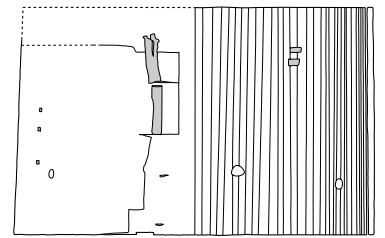
SE298 (360~364)



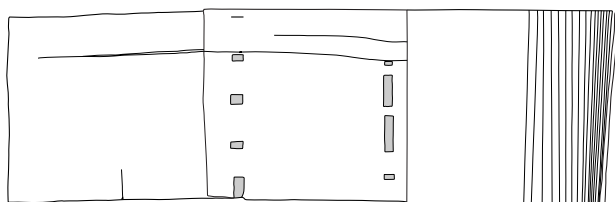
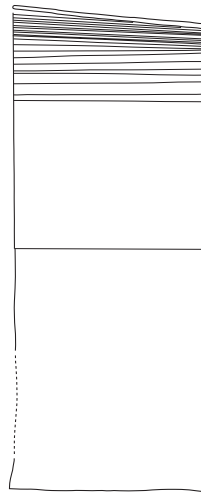
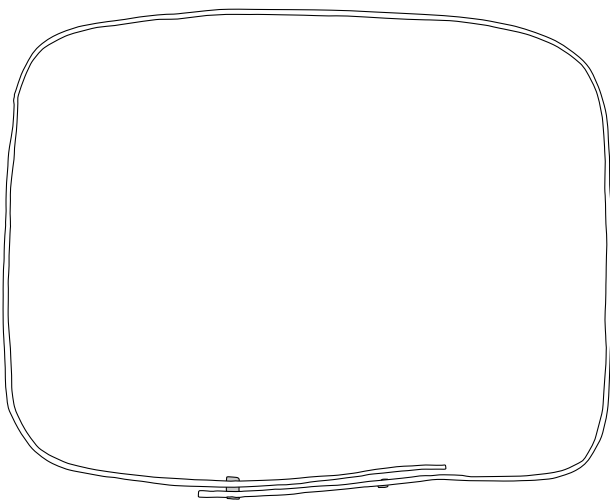
360
SE298, SE20



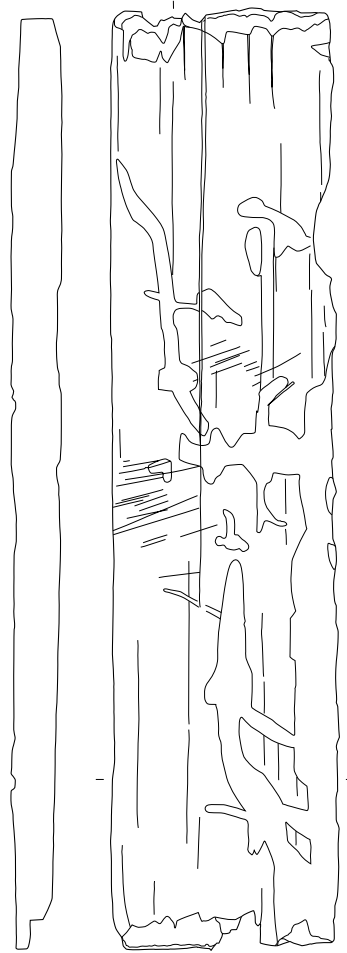
361
SE298, SE20



362
SE298, SE20

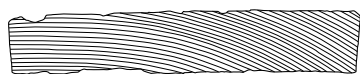


363
SE298, SE20



364
SE298, SE20

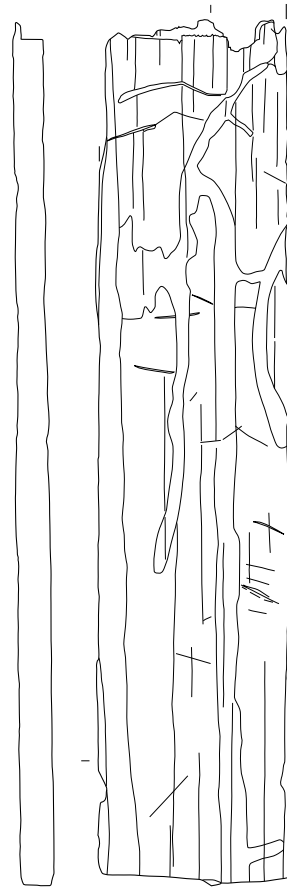
SE298 (365~370)



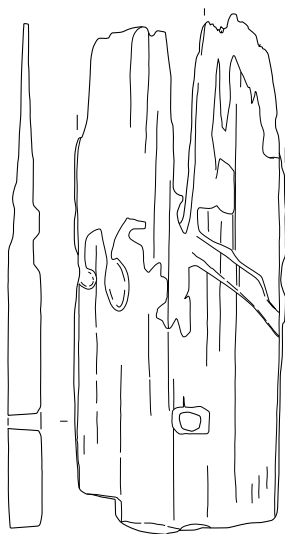
365
SE298, SE20



366
SE298, SE20



367
SE298, 5F16



368
SE298, 5F16



369
SE298, 5F16



370
SE298, SE20

0 (1 : 6) 20cm

写真図版



日水遺跡周辺空中写真1

米軍撮影1948年9月



完掘状況 2Gグリッド付近 (北東から)



完掘状況 5Dグリッド付近



完掘状況 6Lグリッド付近（南東から）



完掘状況 80グリッド付近（南東から）



完掘状況 8Nグリッド付近（北東から）



完掘状況 12Hグリッド付近（南西から）



調査前現況



表土掘削



基本層序1



基本層序2



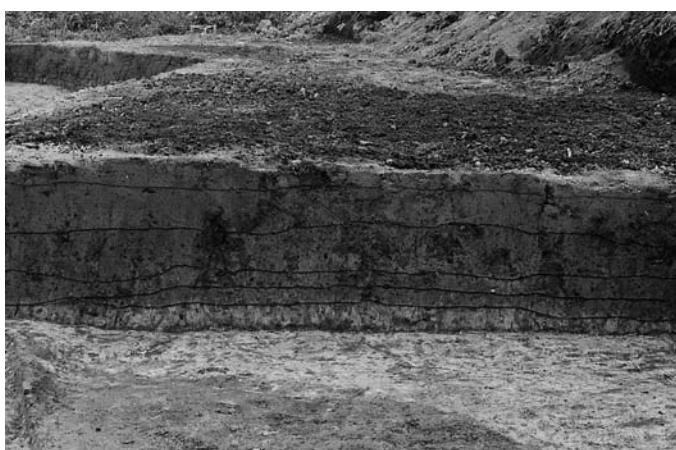
基本層序3



基本層序4



基本層序5



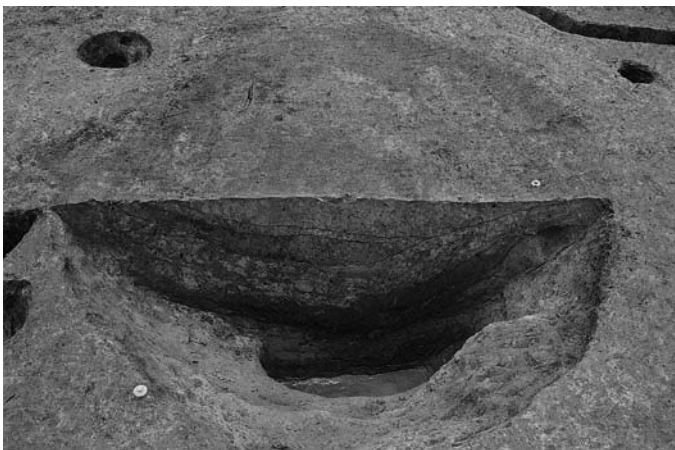
基本層序6



SE126 土層断面



SE126 完掘 (北西から)



SE133 土層断面



SE133 曲物出土状況



SE133 曲物



SE133 完掘 (北西から)



SE139 土層断面



SE139 完掘 (北西から)



SE144 土層断面



SE144 完掘 (南西から)



SK152・SK156・SE157 土層断面



SK152・SK156・SE157 完掘 (北から)



SX110 土層断面



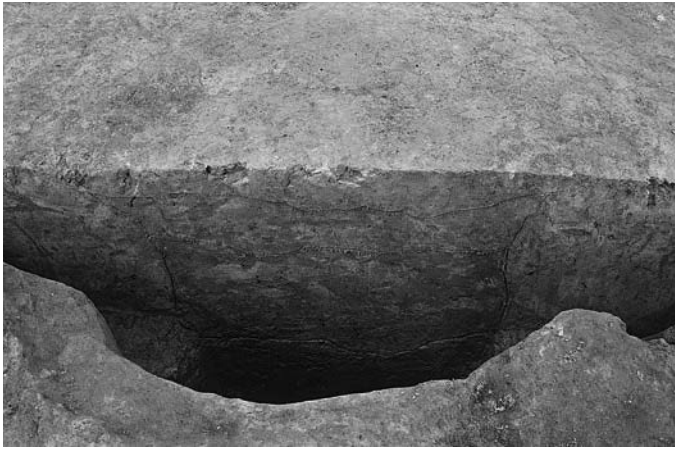
SX110完掘 (南から)



SI451 土層断面



SI451 完掘 (北西から)



SE9 土層断面



SE9 完掘 (北東から)



SE29・SK30 土層断面



SE29・SK30 完掘 (南東から)



SE58 土層断面



SE58 完掘 (東から)



SK47 遺物出土状況



SK47 完掘 (南西から)



SK88 土層断面



SK88 完掘 (南東から)



SD15・16・17 土層断面



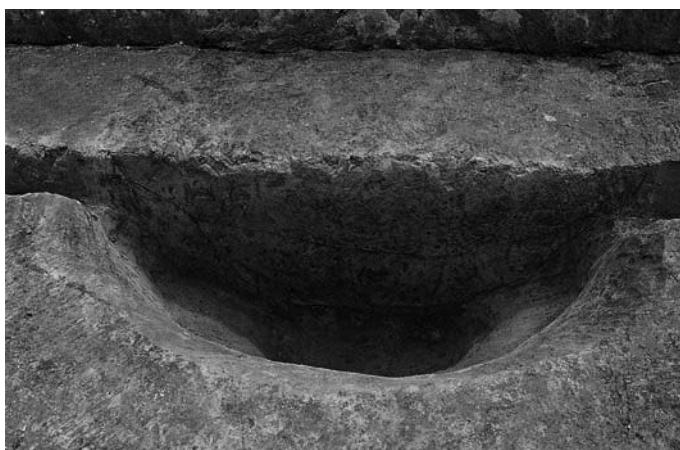
SD15・16・17 完掘 (南から)



SD74・93 土層断面



SD74・93 完掘 (南から)



SE230 土層断面



SE230 完掘 (北から)



SE245 土層断面



SE245 完掘 (北西から)



SD175・176 土層断面



SD231・233 土層断面



SD264 土層断面



SD264 遺物出土状況 (北西から)



SD263・264 完掘 (西から)



SK314・SD315 土層断面



SE298 土層断面



SE298 上層曲物検出状況 (南西から)



SE298 下層曲物検出状況



SE298 下層曲物検出状況



SE281 · SX287 土層断面



SD268 土層断面



SD272 土層断面



SD268 · 272 完掘 (西から)



SD273 · 288 · SX274 土層断面



SE387 土層断面



SK366 土層断面



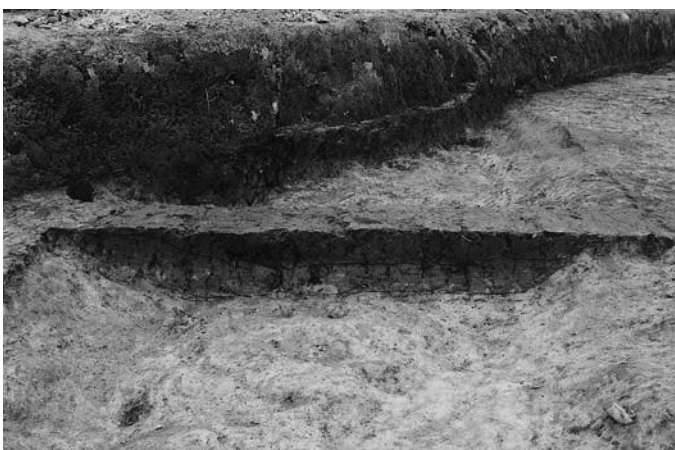
SK366 完掘 (北から)



SK377 土層断面



SK377 完掘 (東から)



SD358 土層断面



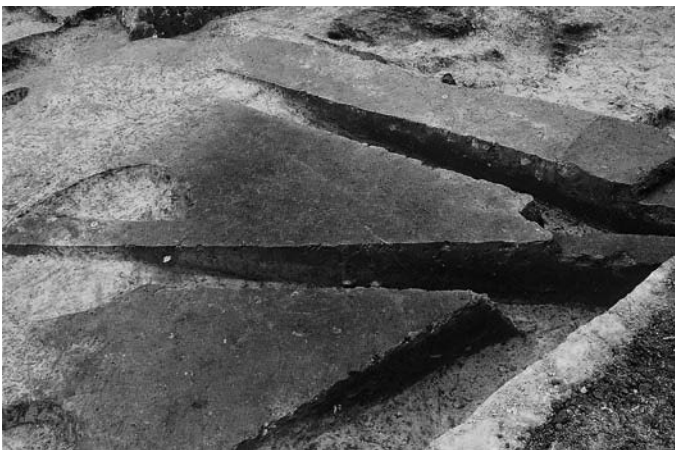
SD358 完掘 (北から)



SI385・SI386 土層断面1



SI385・SI386 土層断面2



SI385・SI386 土層断面3



SI385 完掘 (南から)



SI386 遺物出土状況



SI385・SI386・SE387 完掘 (南東から)



SB493 完掘 (北から)



SB494 完掘 (南から)



日水遺跡周辺空中写真2（南から）



日水遺跡周辺空中写真3（北西から亀田砂丘を望む）



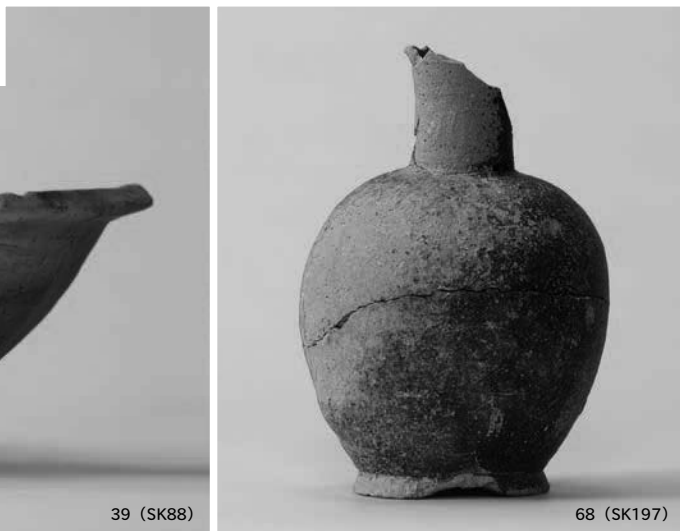
日水遺跡全景空中写真



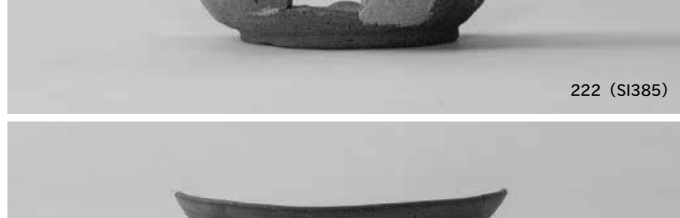
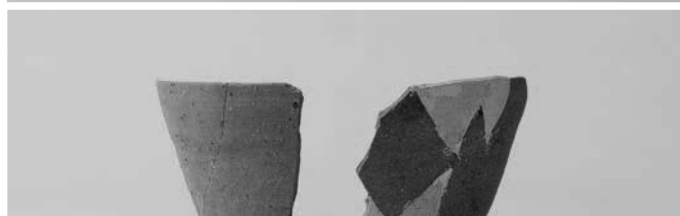
完掘状況 5Dグリッド付近（西から）

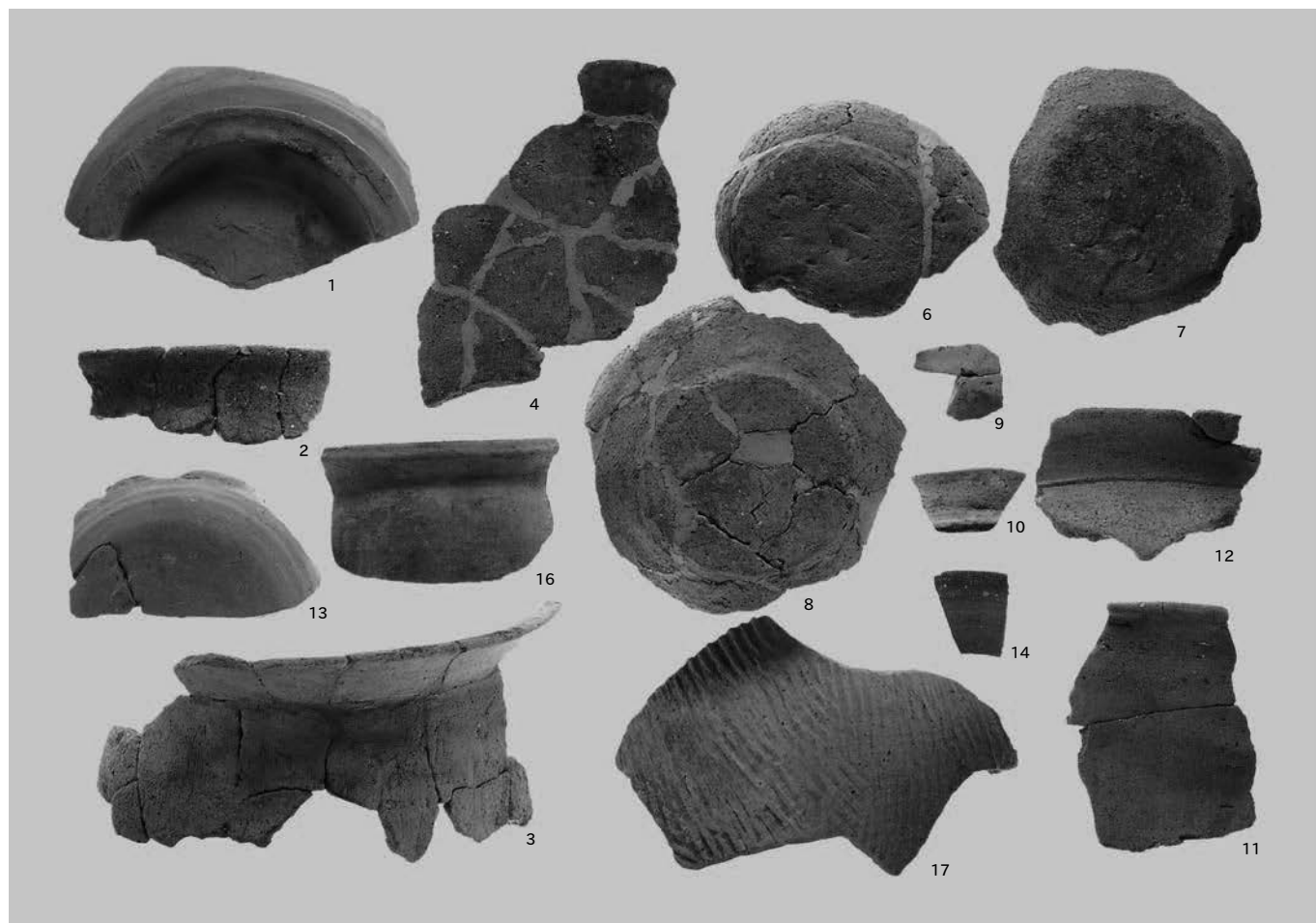


SE133 曲物出土状況

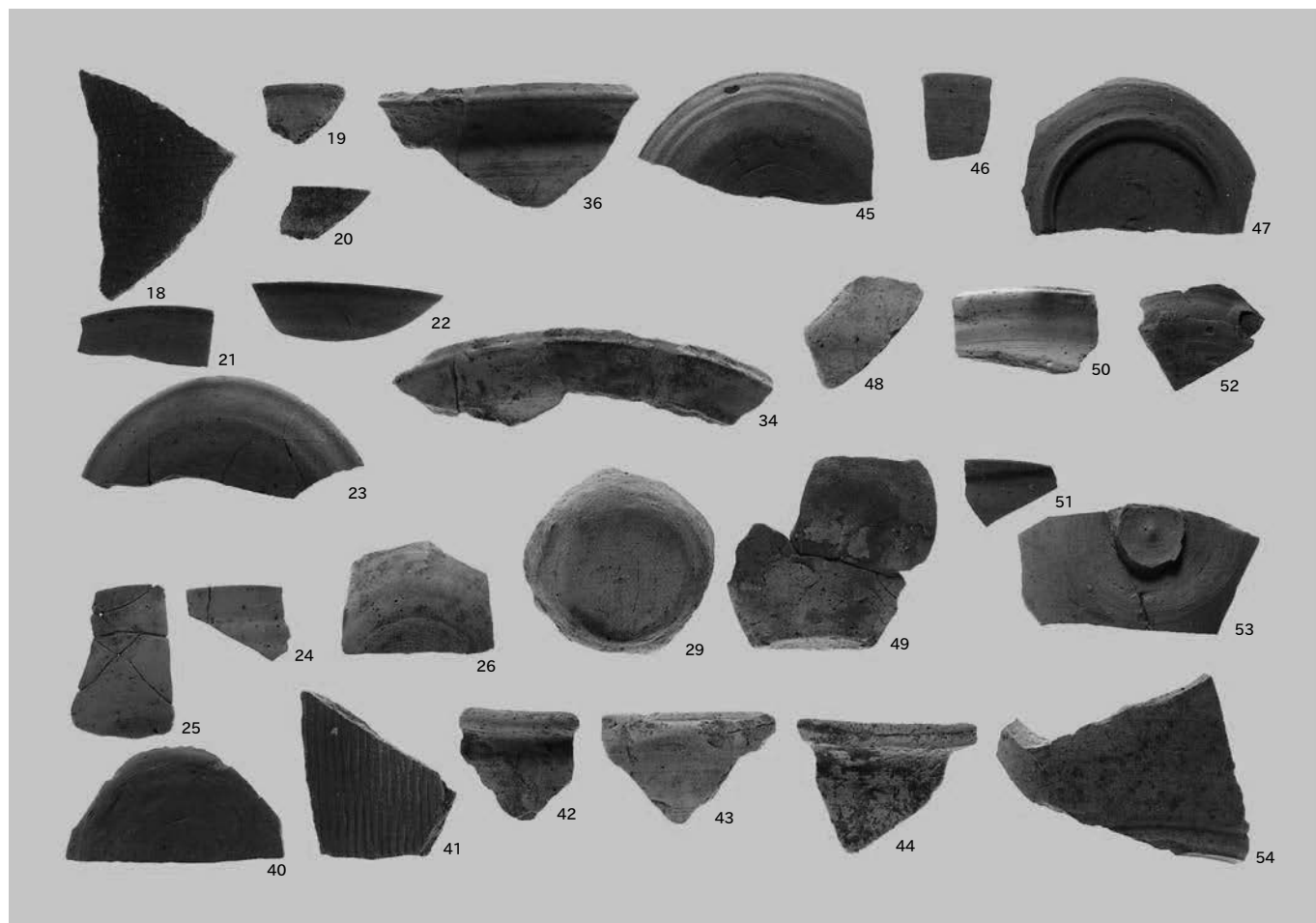




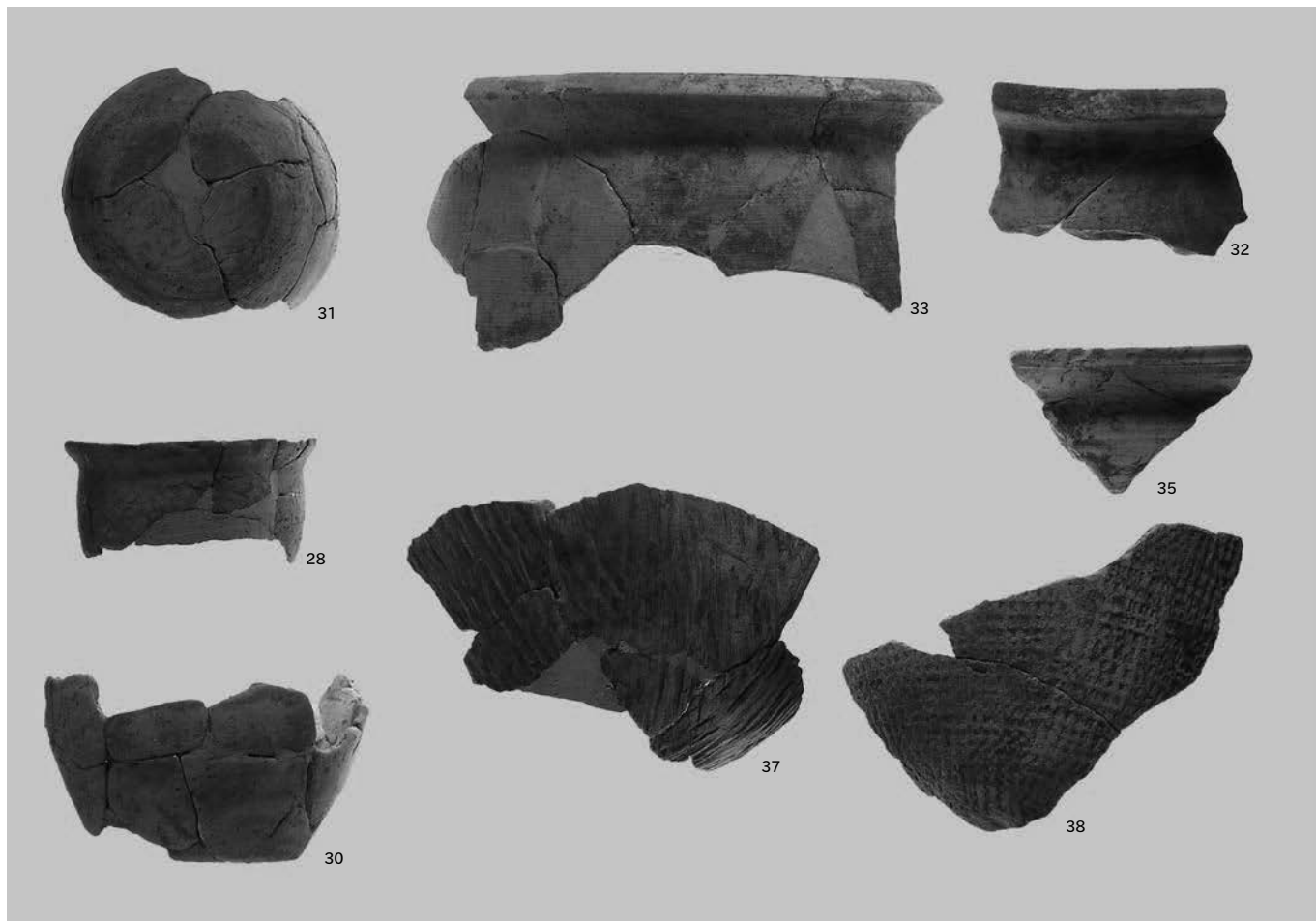




SE126 (1)、SX110 (2~4・6~8)、SI451 (9~12)、SE29 (13・14・16・17)



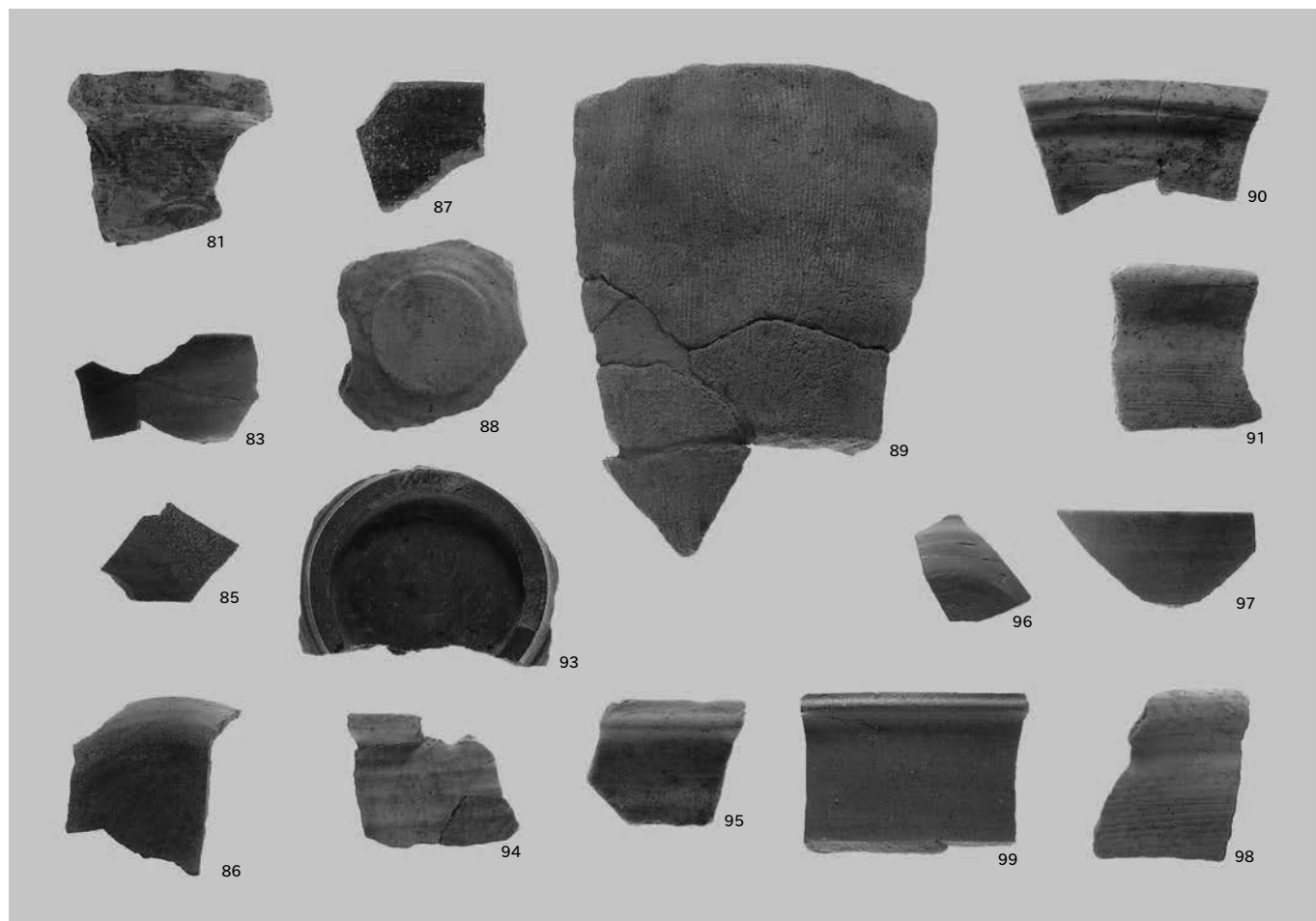
SE9 (18)、SK47 (19・20)、SK88 (21~26・29・34・36)、SD34 (40)
SE58 (41~44)、SD15 (45・46)、SD16 (47・48)、SD17 (49・50)、SD74 (51~54)



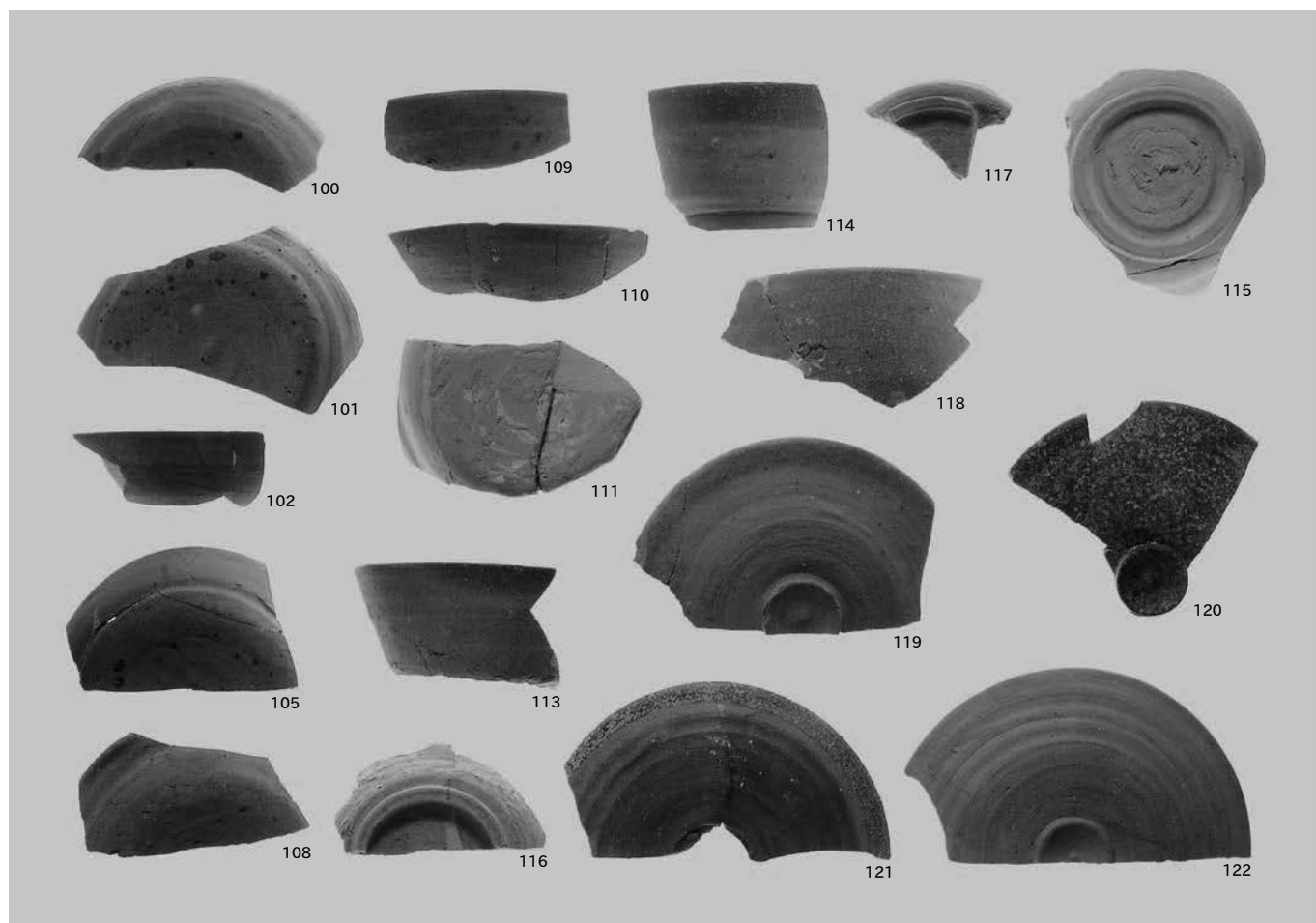
SK88 (28・30~33・35・37・38)



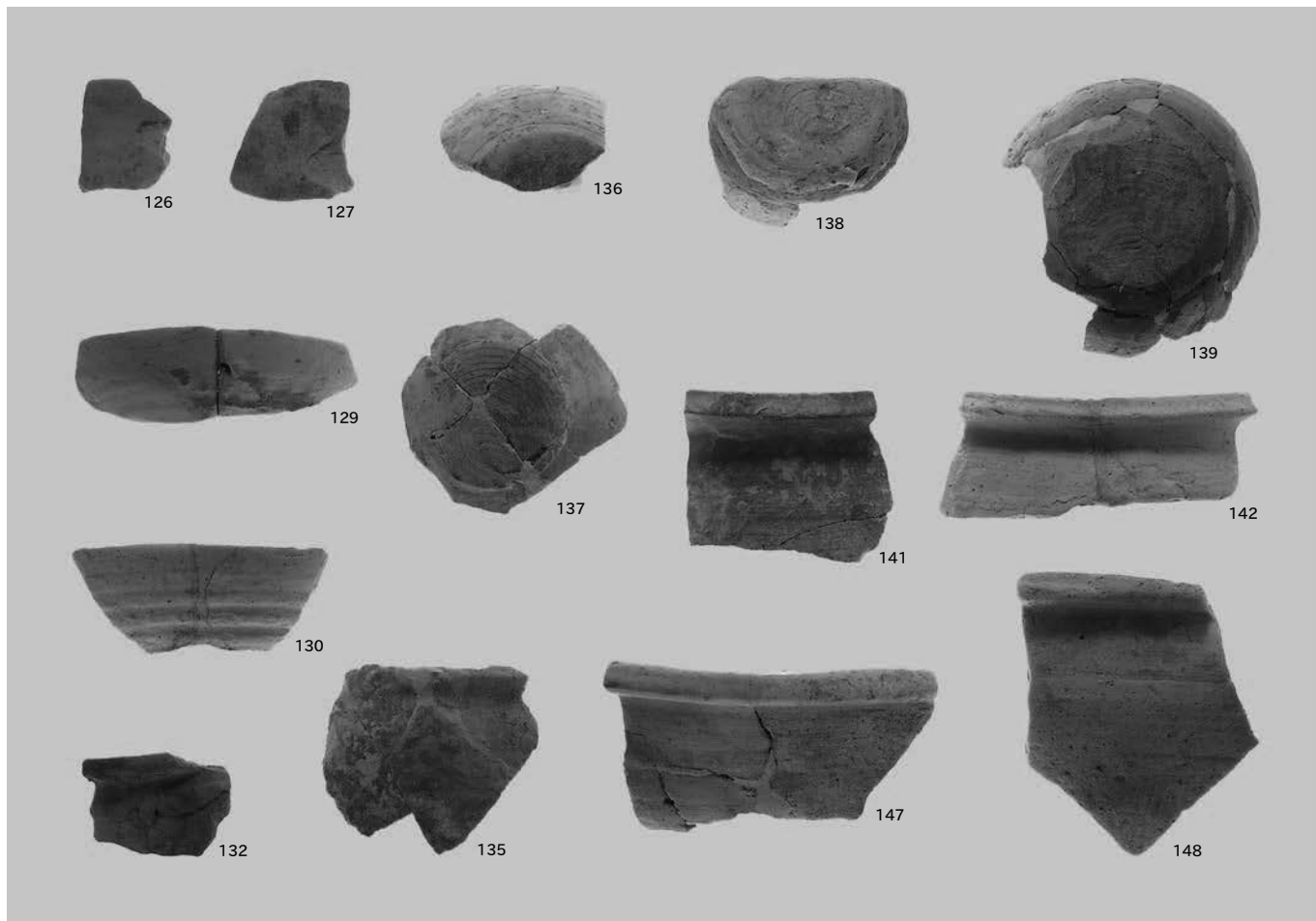
SD93 (56~58), SD404 (59・60), SD227 (61), SD476 (66), Pit4 (69), Pit480 (70)
Pit95 (71・72), SE218 (73・74), SE230 (75~77), SK210 (78), SK253 (79), SK290 (80)



SK484 (81)、SE245 (83・85~91)、SD175 (93~95)、SD291 (96~98)、SD231 (99)



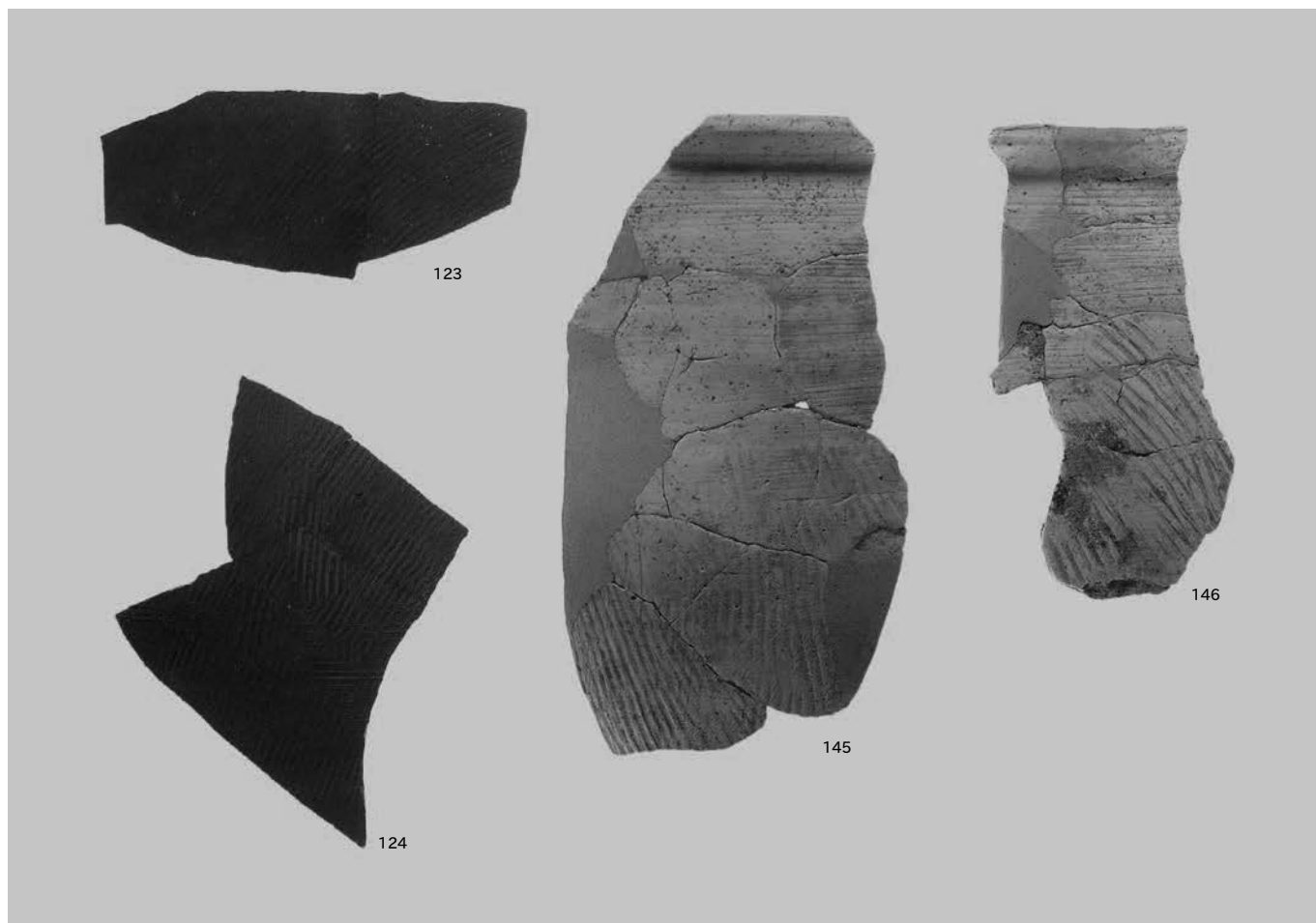
SD264 (100~102・105・108~111・113~122)



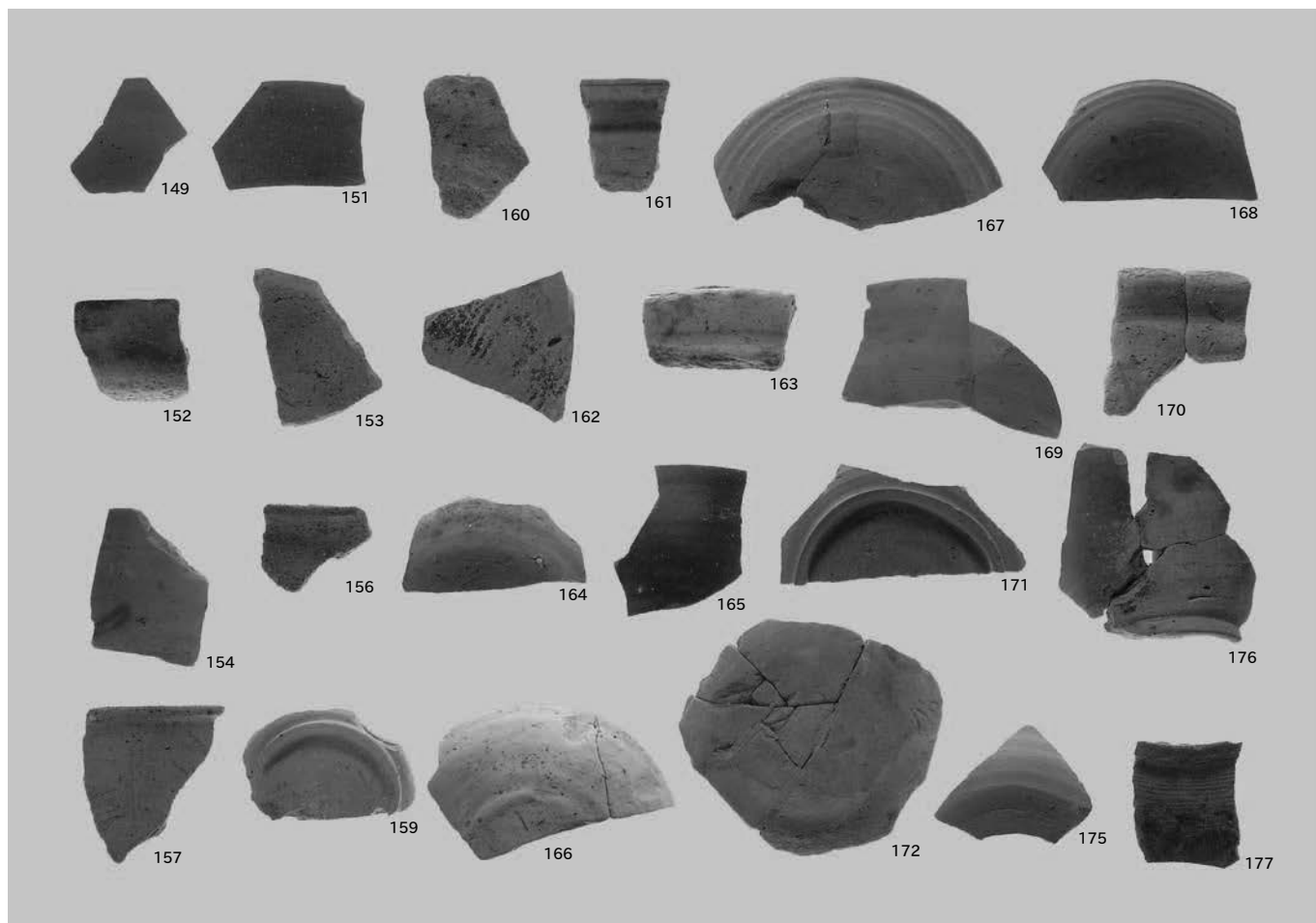
SD264 (126 · 127 · 129 · 130 · 132 · 135~139 · 141 · 142 · 147 · 148)



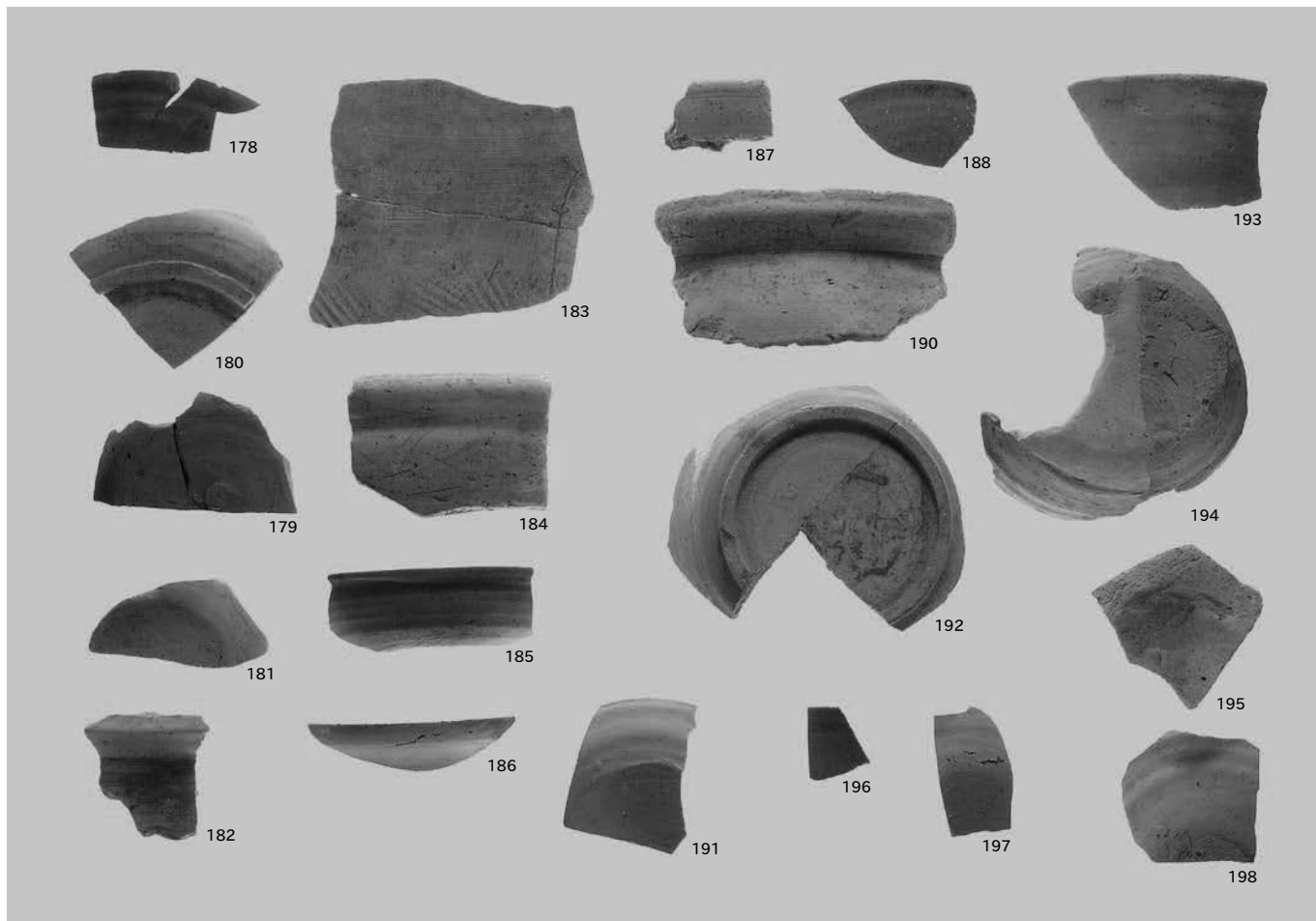
SD264 (133 · 134 · 140 · 143 · 144)



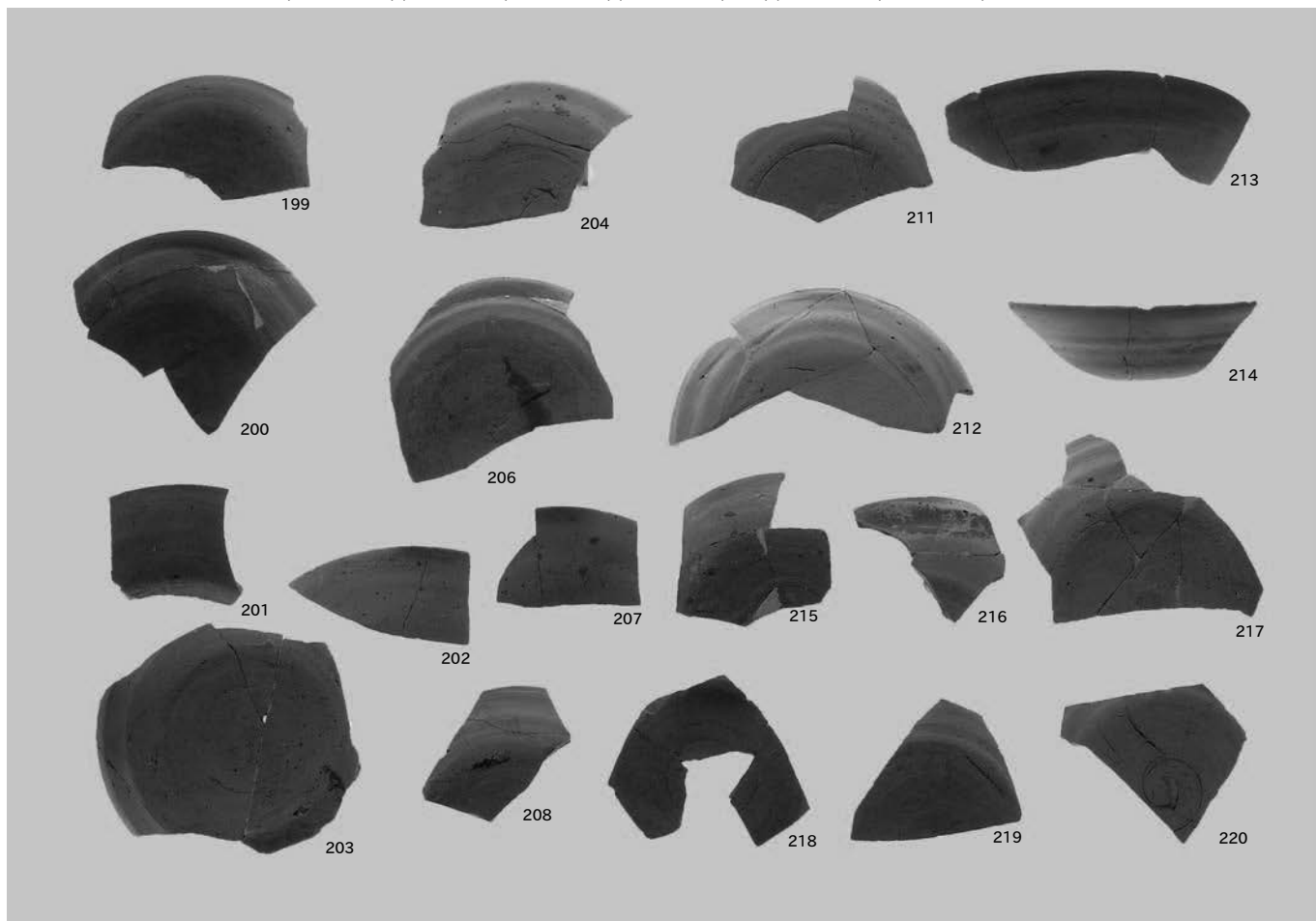
SD264 (123・124・145・146)



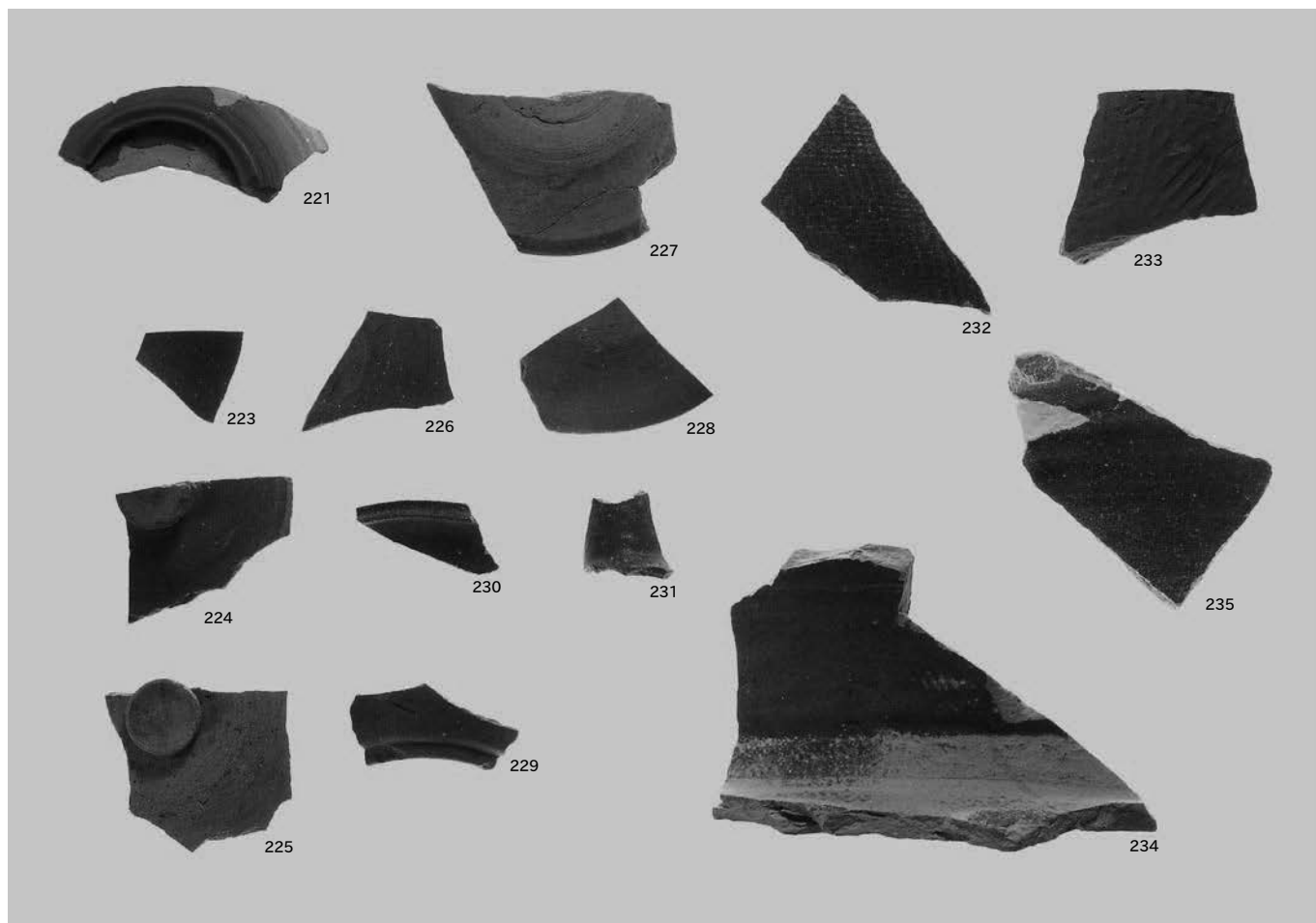
SE298 (149・151~154・156・157), SD315 (159), SD329 (160~163), SD331 (164・165)
SK314 (166), SD307 (167), Pit338 (168), SE281 (169・170), SX274 (171・172), SD268 (175~177)



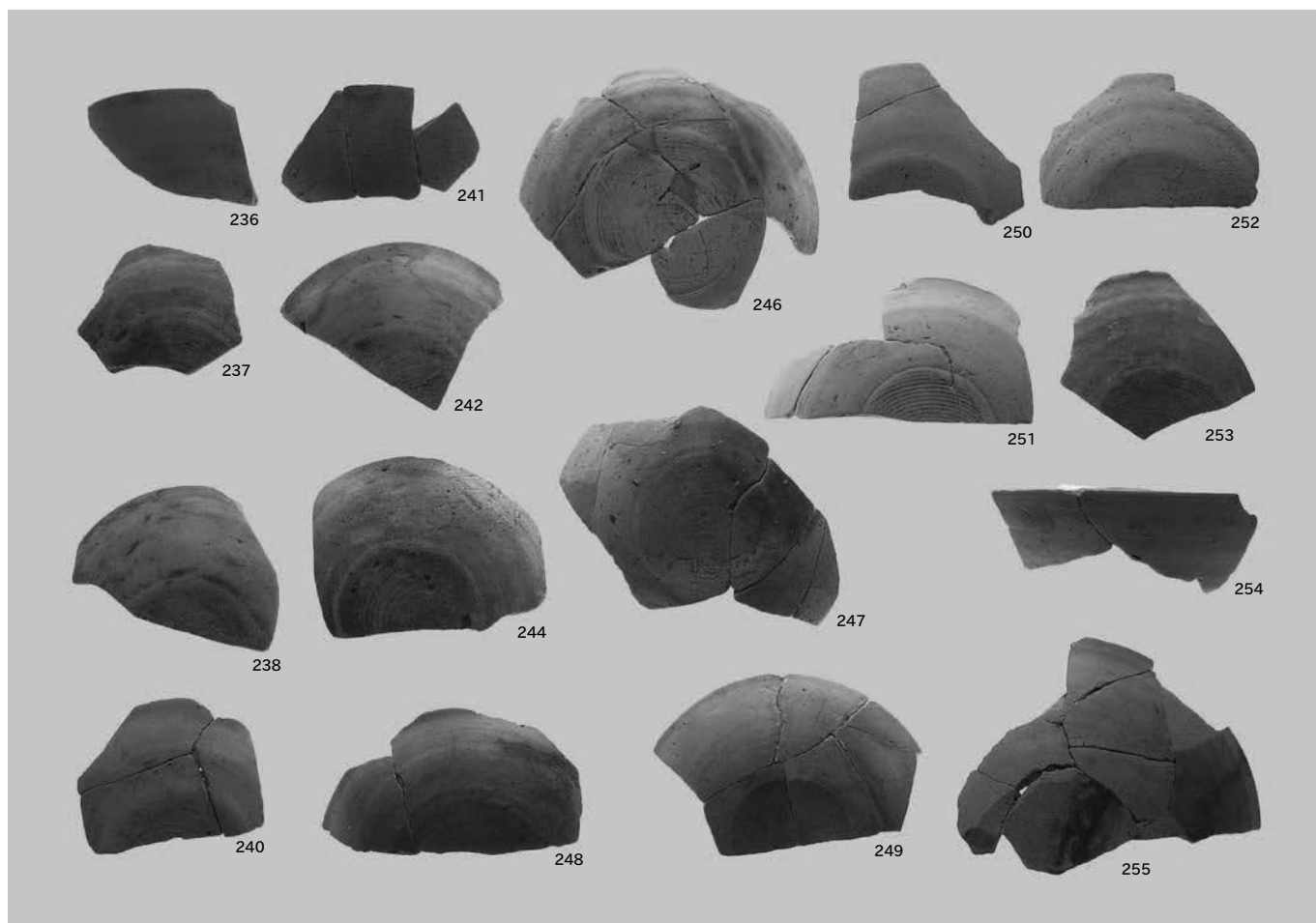
SD272 (178~181)、SX287 (182~184)、SE387 (185~187)、SK362 (188)、SK373 (190)
SK377 (191・192)、SK382 (193・194)、SK384 (195)、SK492 (196~198)



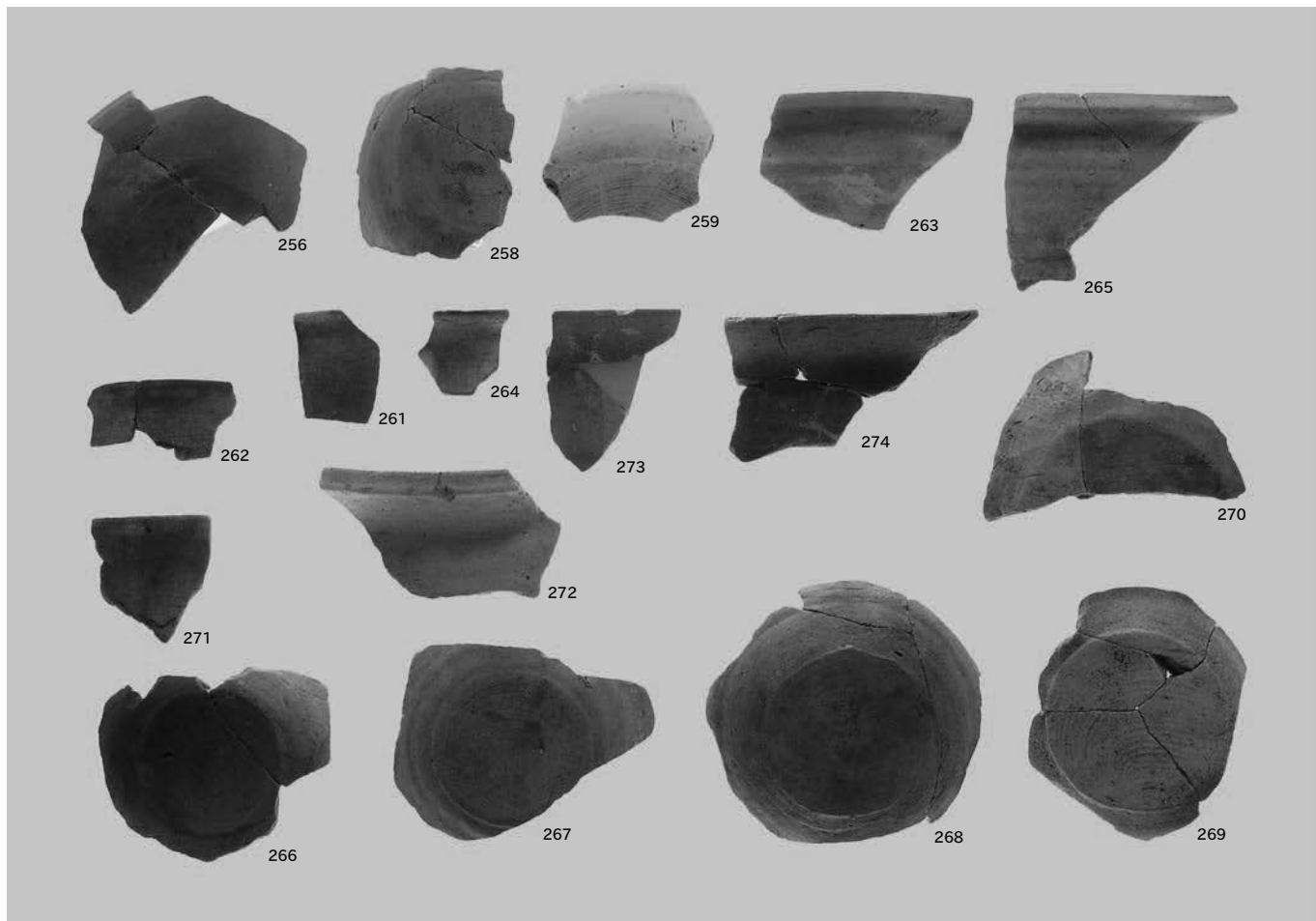
SI385 (199~204・206~208・211~220)



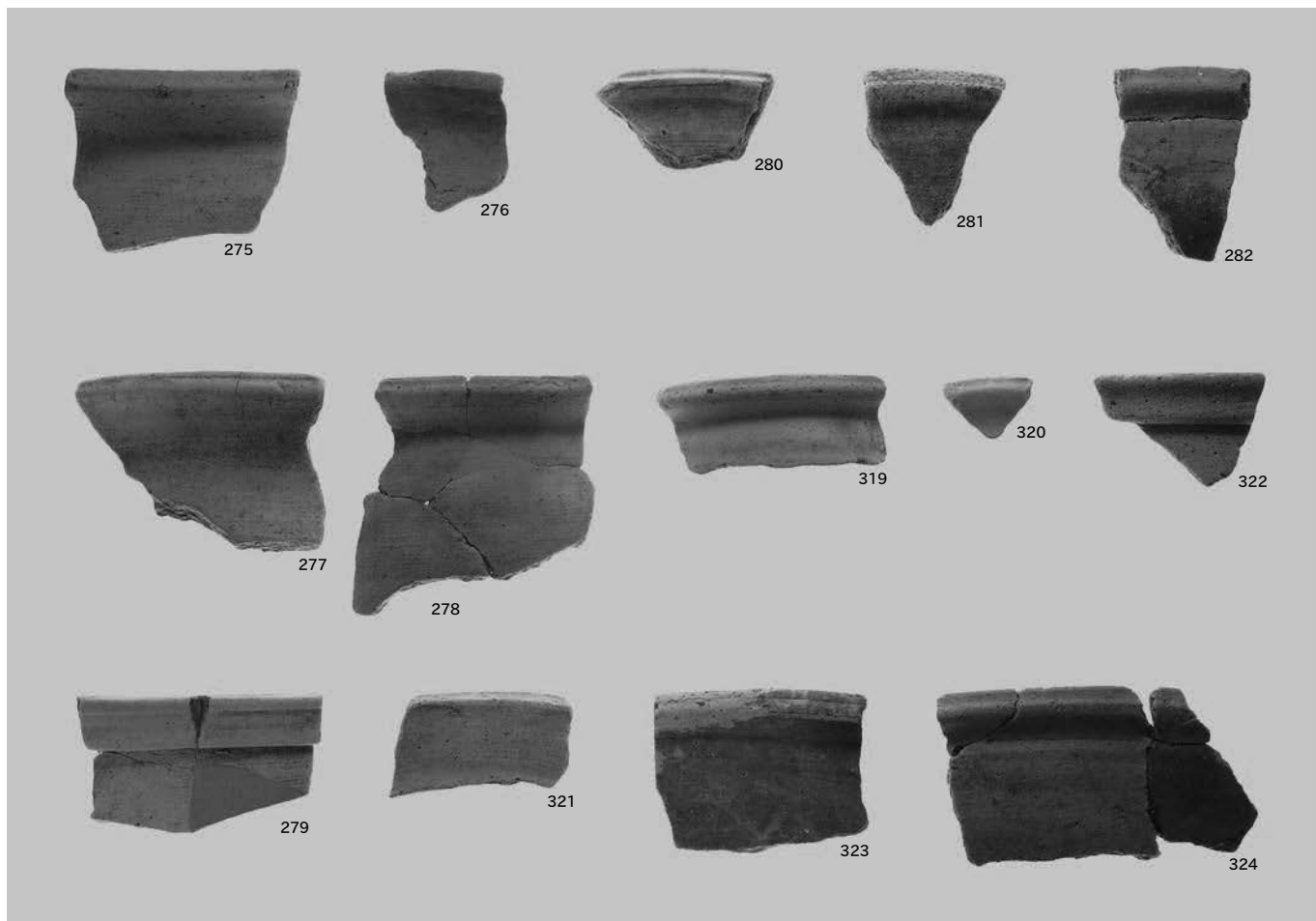
SI385 (221・223~235)



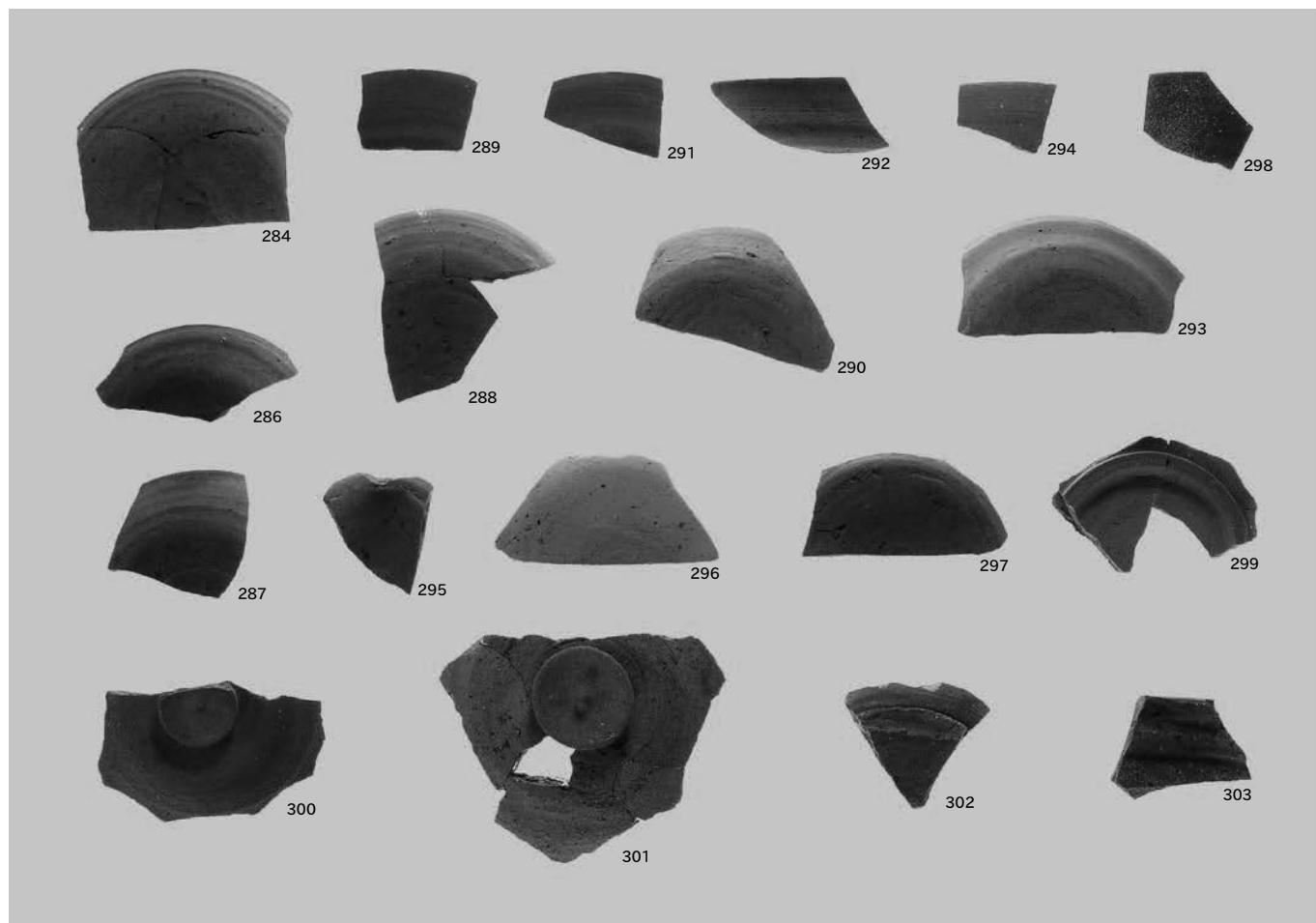
SI385 (236~238・240~242・244・246~255)



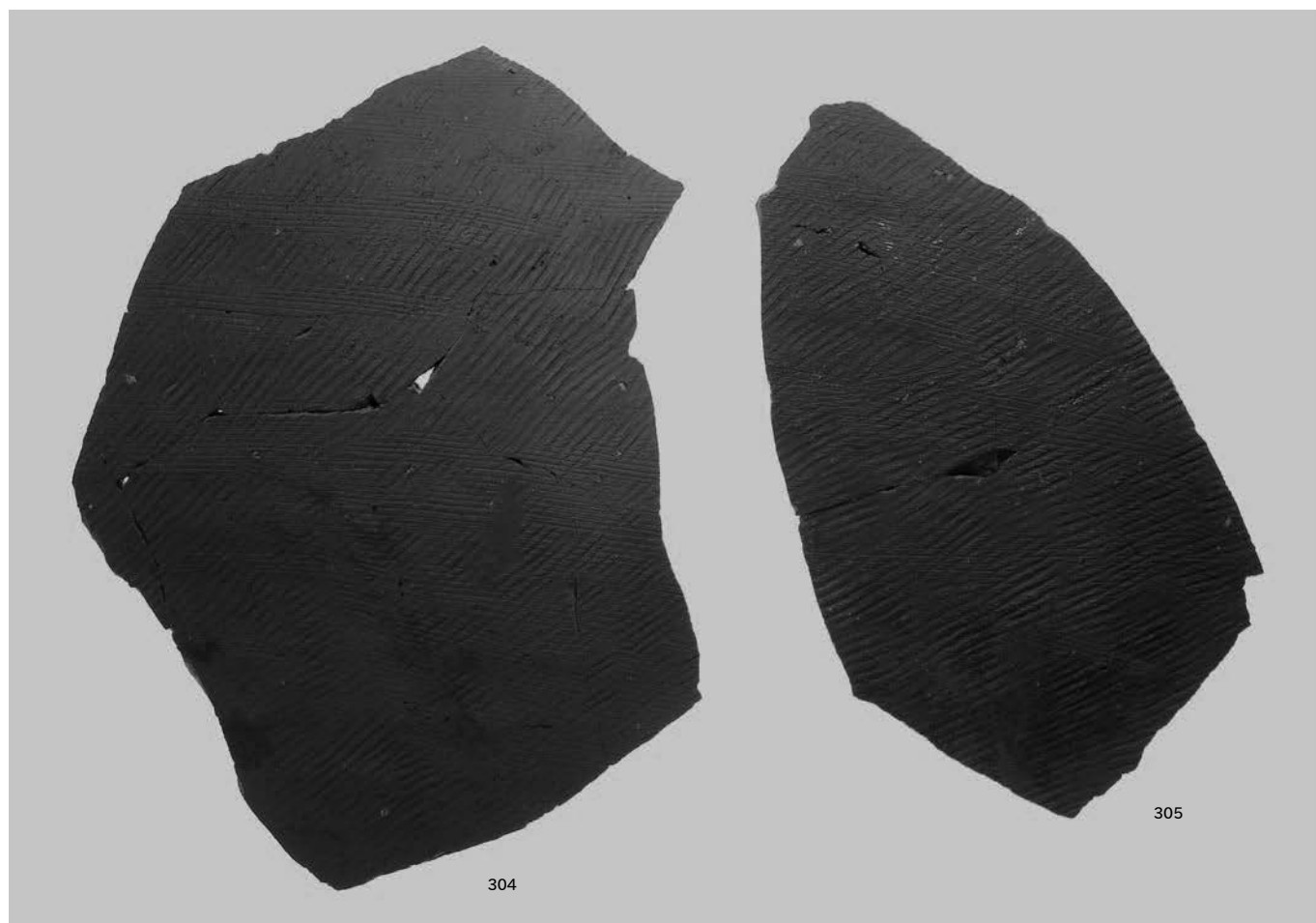
SI385 (256・258・259・261~274)



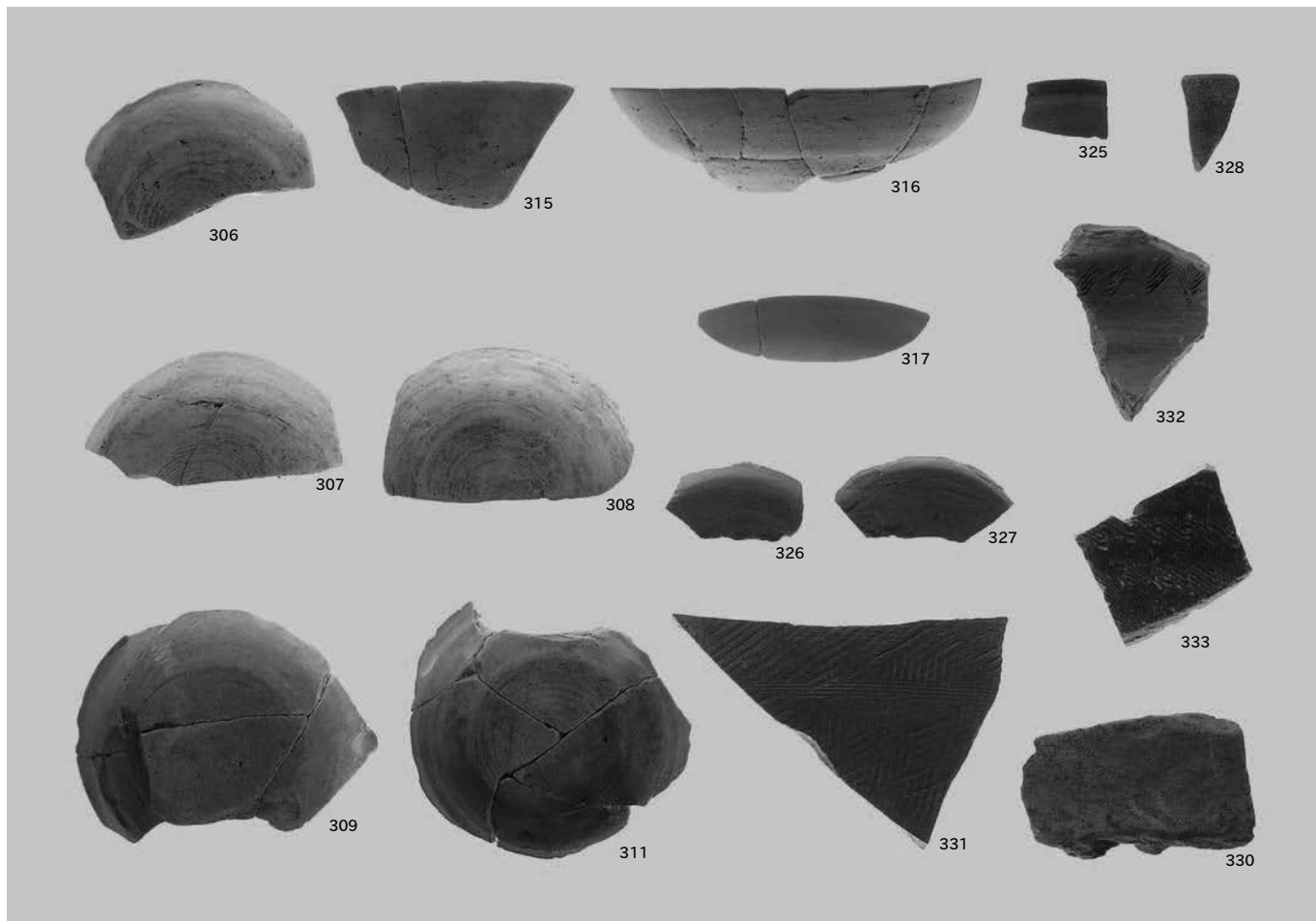
SI385 (275~282)、SI386 (319~324)



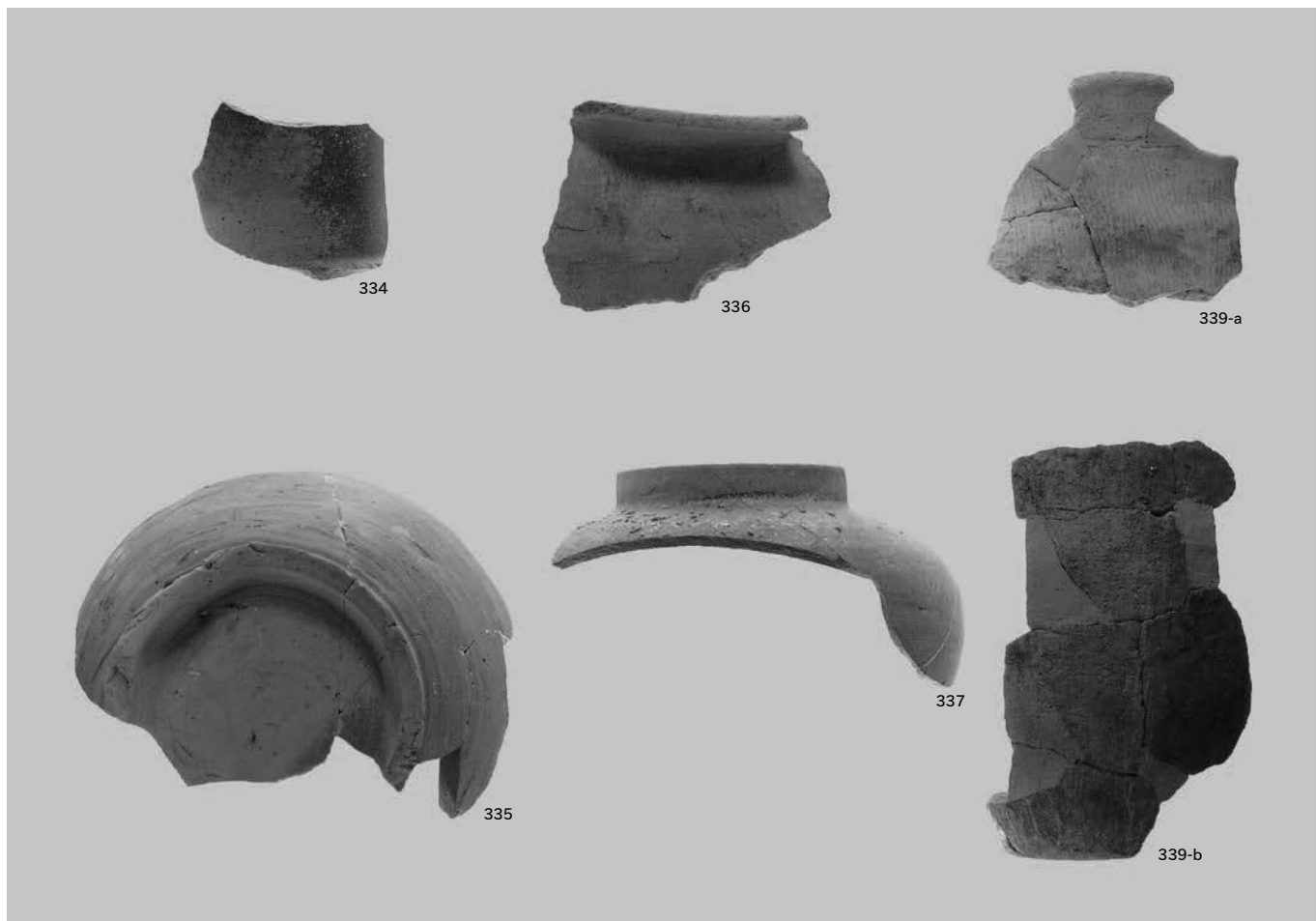
SI386 (284・286~303)



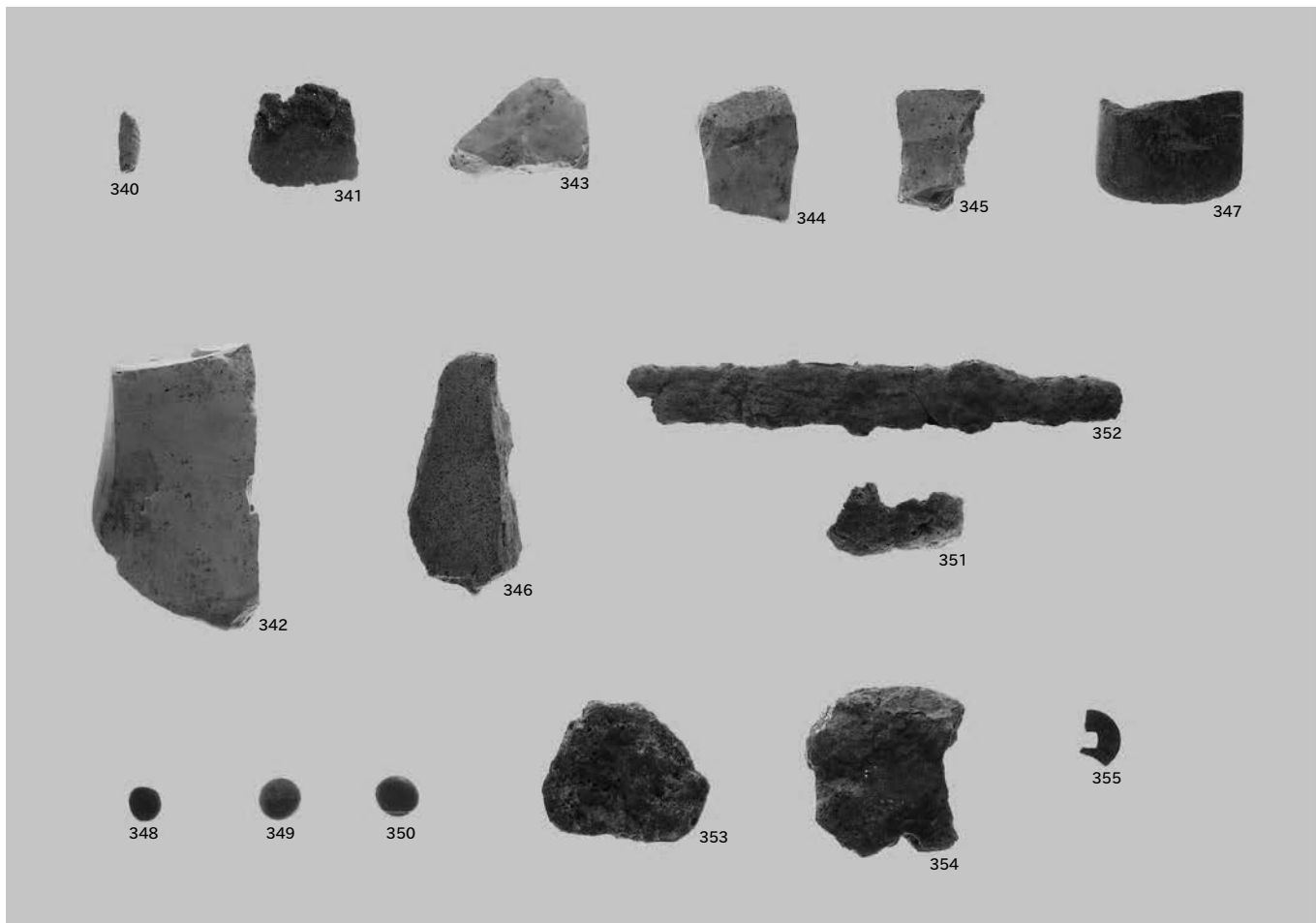
SI386 (304・305)



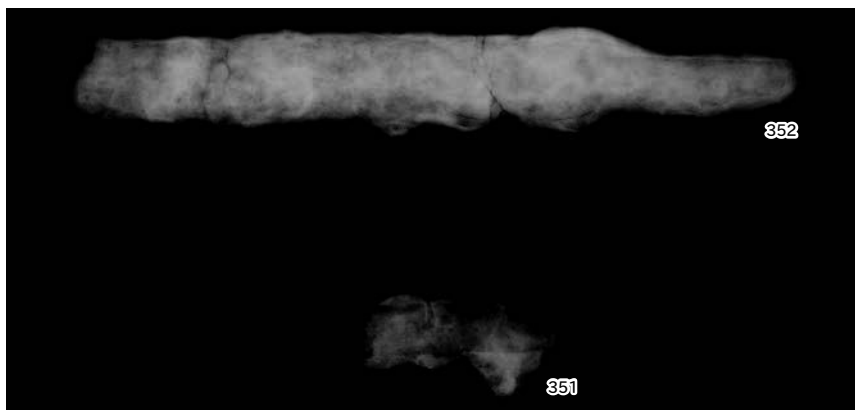
SI386 (306~309・311・315~317)、SD358 (325~328・330~333)



SD490 (334・335)、包含層 (336・337・339-a・b)



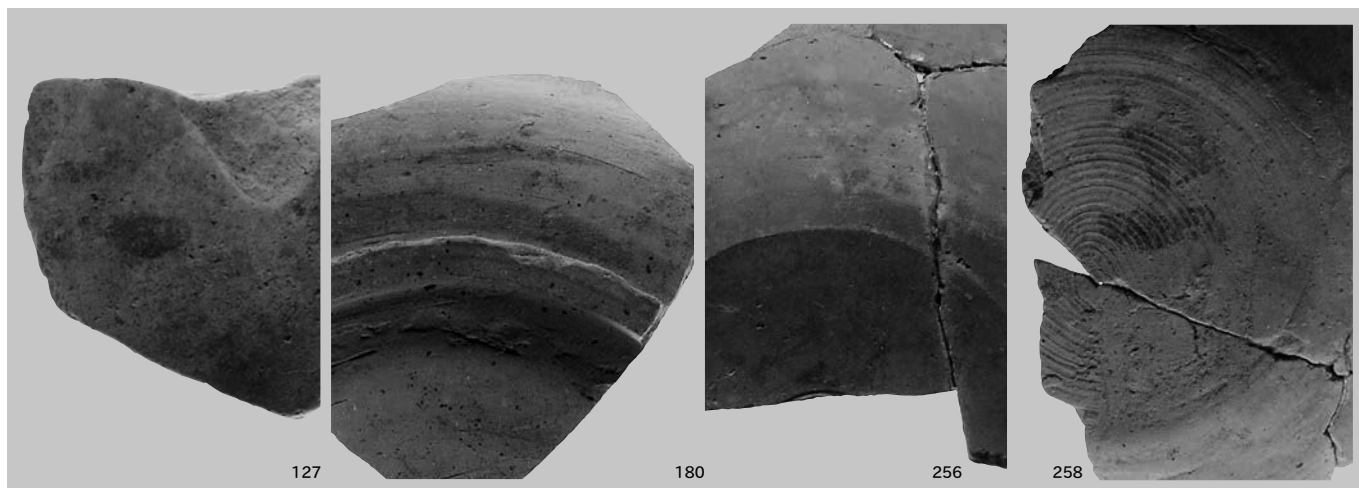
土製品・石製品・鉄製品・鍛冶関連遺物・古銭



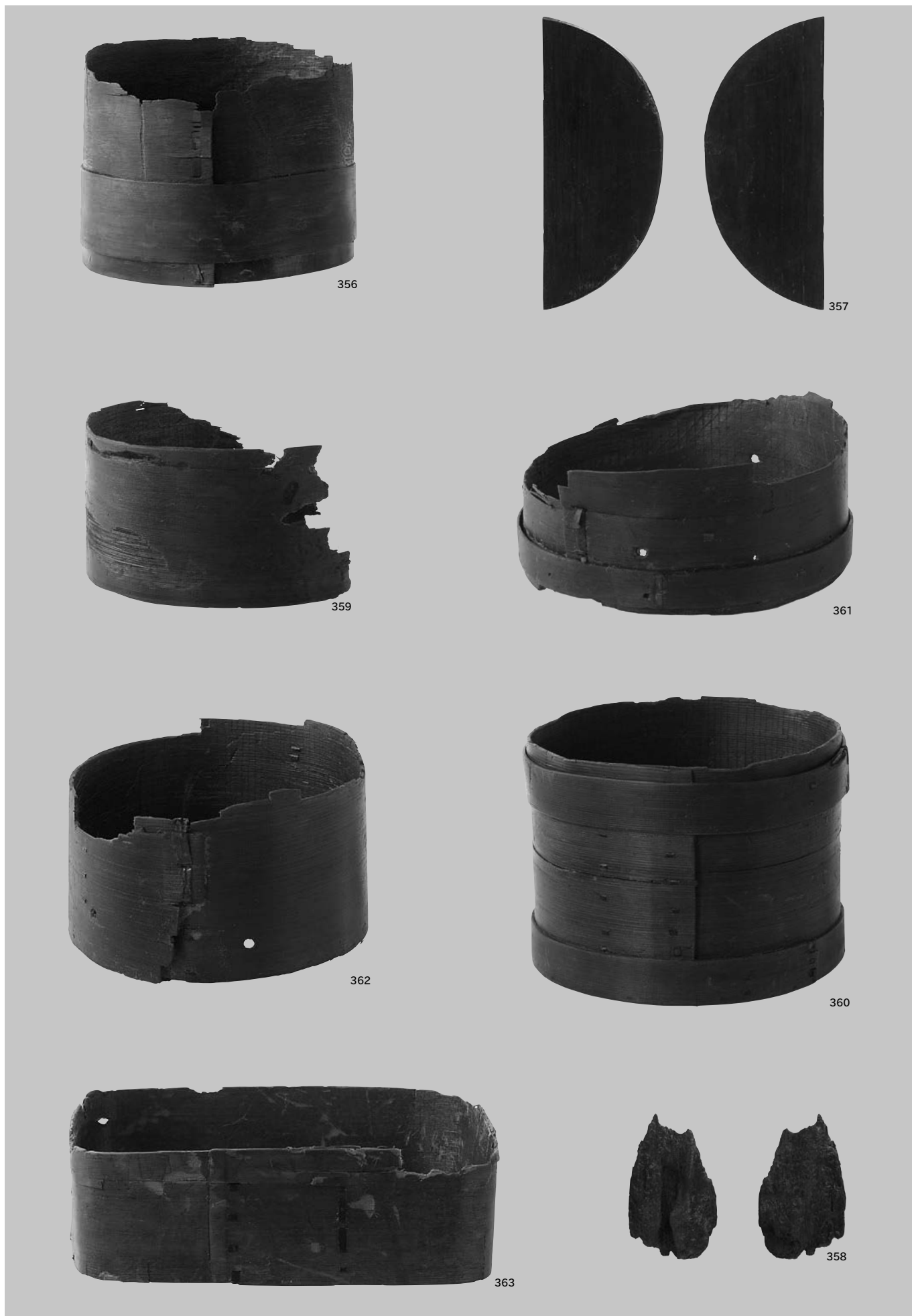
X線写真



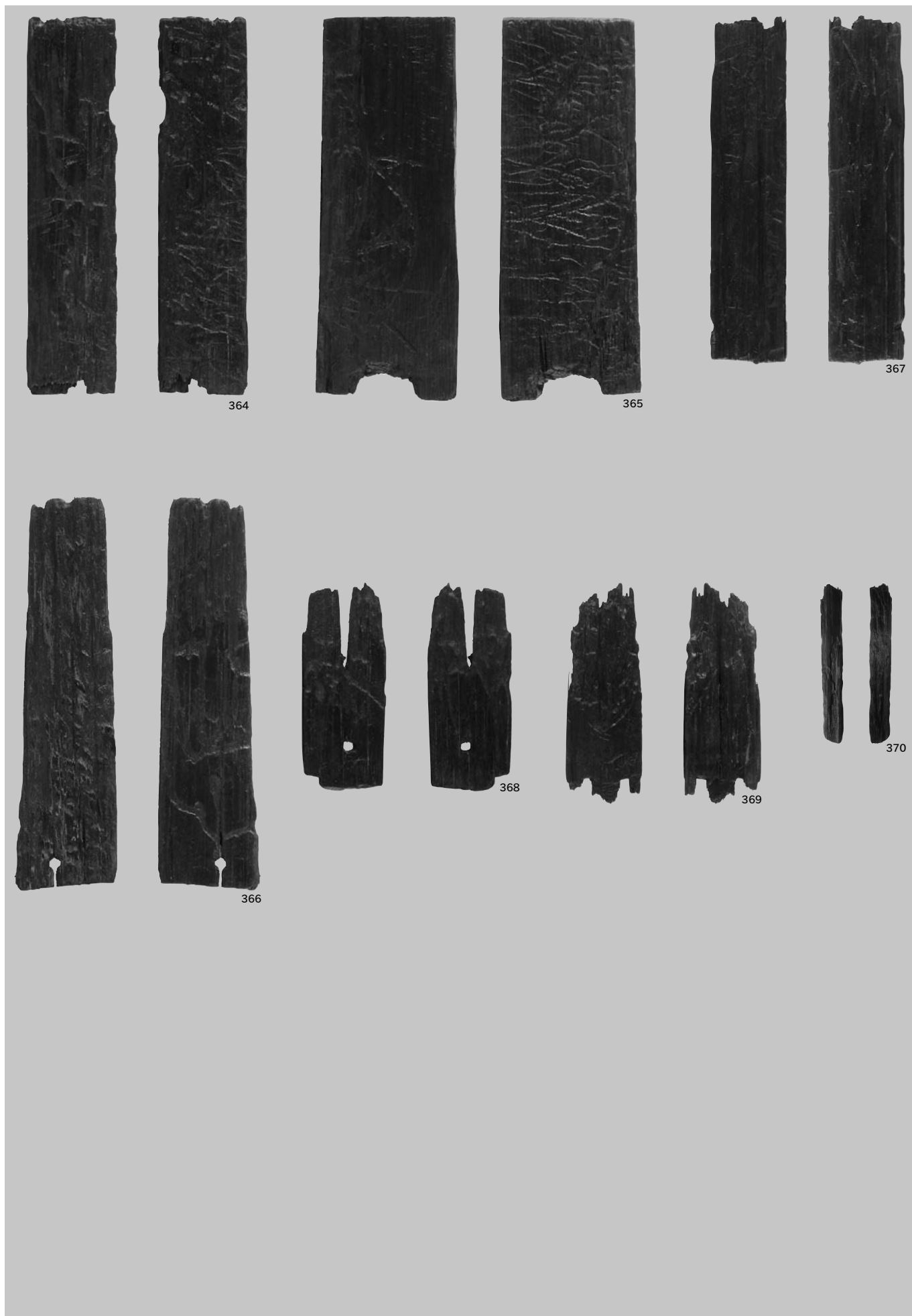
粉痕跡土器



墨書土器拡大 127「=」、180「-」、256「□」、258「上」



木製品1 SE133 (356・357)、Pit135 (358)、SE298 (359~363)



木製品2 SE298 (364~370)

報告書抄録

ふりがな	ひみずいせき だい3じちようさ							
書名	日水遺跡 第3次調査							
副書名	鍋田土地区画整理事業に伴う日水遺跡第3次発掘調査報告書							
巻次								
シリーズ名	新潟市埋蔵文化財発掘調査報告書							
シリーズ番号								
編著者名	今井さやか・相沢 央							
編集機関	新潟市総務局国際文化部歴史文化課埋蔵文化財センター							
所在地	〒950-3101 新潟県新潟市太郎代 2554 番地 TEL 025-255-2006							
発行年月	西暦 2007年 3月 30日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯 ° ' "	東経 ° ' "	調査期間	調査面積 m ²	調査原因
		市町村	遺跡番号					
ひみず 日水遺跡	新潟県新潟市 おほあざのやま 大字茅野山 あざひみずうら 字日水浦 2911 番地ほか	152013	398	37° 51' 36"	139° 06' 25"	20050518 ～ 20050831	2416.3	土地区画整理事業に 伴う本発掘調査
所収遺跡	種別	主な時代		主な遺構		主な遺物		特記事項
日水遺跡	集落遺跡	古代（9世紀後半） 中世（14世紀後半）		井戸・土坑・ 性格不明遺溝・ 溝・竪穴遺構・ 掘立柱建物		須恵器・土師器・黒色土器 石製品・古銭・鉄製品 鍛冶関連遺物・木製品		
要約	<p>日水遺跡は信濃川・阿賀野川・小阿賀野川に囲まれた低地の微高地上に立地し、標高は約 2.0m である。本発掘調査の結果、古代（9世紀後半）の遺構・遺物が検出された。遺構には、井戸・土坑・竪穴遺構・掘立柱建物など集落跡の一部が検出された。古代の土器は土師器・須恵器などの食膳具・貯蔵具が定量出土し、従来の編年案に照らすと 9世紀第3四半期～10世紀初頭に属する。また、田・畑などの遺構は検出されなかったものの、自然科学分析の結果、近隣の稲作が推定された。</p> <p>この結果を含め、今回の調査では稲作を中心とする農耕集落の一端を明らかにしたと評価される。</p>							

日 水 遺 跡 第 3 次 調 査

鍋田土地区画整理事業に伴う日水遺跡第3次発掘調査報告書

2007年 3月 29日印刷
2007年 3月 30日発行

編集・発行 新潟市教育委員会
〒950-8550 新潟県新潟市学校町通一番町 602 番地 2
TEL 025 (228) 1000
新潟市埋蔵文化財センター
〒950-3101 新潟県新潟市太郎代 2554 番地
TEL 025 (255) 2006

印刷・製本 株式会社 第一印刷所
〒950-8724 新潟県新潟市和合町 2 丁目 4 番 18 号
TEL 025 (285) 7161